
八雲町
高齢者保健福祉・介護保険に関する
アンケート調査結果報告書

【介護予防・日常生活圏域ニーズ調査／在宅介護実態調査】

令和3年1月

八雲町

目 次

I. 調査の概要	1
1. アンケート調査の概要	1
2. 本報告書の留意点	1
II. 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査結果	2
1. 回答者について	2
2. 家族や生活状況について	4
3. からだを動かすことについて	10
4. 食べることについて	22
5. 毎日の生活について	32
6. 地域での活動について	50
7. たすけあいについて	53
8. 健康について	61
9. 認知症にかかる相談窓口の把握について	68
10. 介護予防について	70
11. 成年後見制度について	75
12. 介護保険制度及び保健福祉施策について	76
III. 在宅介護実態調査結果	87
1. 回答者について	87
2. 在宅で介護されている方の状況について	89
3. 主な介護者の状況について	111

I. 調査の概要

1. アンケート調査の概要

第7期介護保険事業計画策定にあたって、高齢者の生活状況や支援ニーズ、在宅介護者の状況等を把握するため、国の示す調査手法に基づき、介護予防・日常生活圏域ニーズ調査及び在宅介護実態調査を実施しました。

	介護予防・日常生活圏域ニーズ調査	在宅介護実態調査
調査の目的	要介護状態になる前の高齢者について、要介護状態になるリスクの発生状況、社会参加の状況などを把握し、地域の抱える課題を特定することを目的に実施しました。	要介護認定者の適切な在宅生活の継続と家族等介護者の就労継続の実現に向け、介護サービスの在り方を検討し、計画に反映させることを目的として実施しました。
対象者	65歳以上の一般高齢者及び要支援認定者から無作為抽出	要介護認定者及び介護者の家族（施設入所者は除く）
調査時期	令和2年5月7日(木)～6月17日(水)	
調査方法	郵送による配布・回収	郵送による配布、訪問による回収
配布数	1,500	229
有効回収数	836	152
有効回収率	55.7%	66.4%

2. 本報告書の留意点

本報告書を理解する上で、次の点に留意する必要があります。

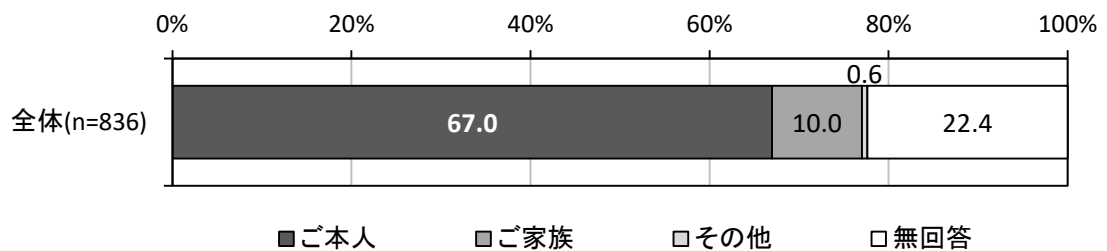
- ・ 比率は百分率（%）で表し、小数点第2位を四捨五入して算出しています。したがって、合計が100%を上下する場合があります。
- ・ 基数となるべき実数は、“n=〇〇〇”として掲載し、各比率は“n=〇〇〇”を100%として算出しています。
- ・ グラフに【複数回答】とある問は、1人の回答者が複数の回答を出してもよい問のため、各回答の合計比率は100%を超える場合があります。
- ・ 問の中には回答を限定する問があり、回答者の数が少ない問が含まれます。
- ・ 文中の「要支援認定者」は、要支援1及び要支援2の認定者です。

II. 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査結果

1. 回答者について

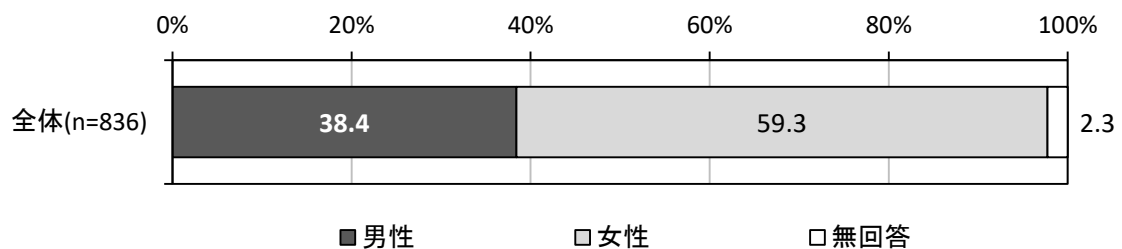
(1) 記入者

アンケートの記入者は、「ご本人」が67.0%、「ご家族」が10.0%となっています。



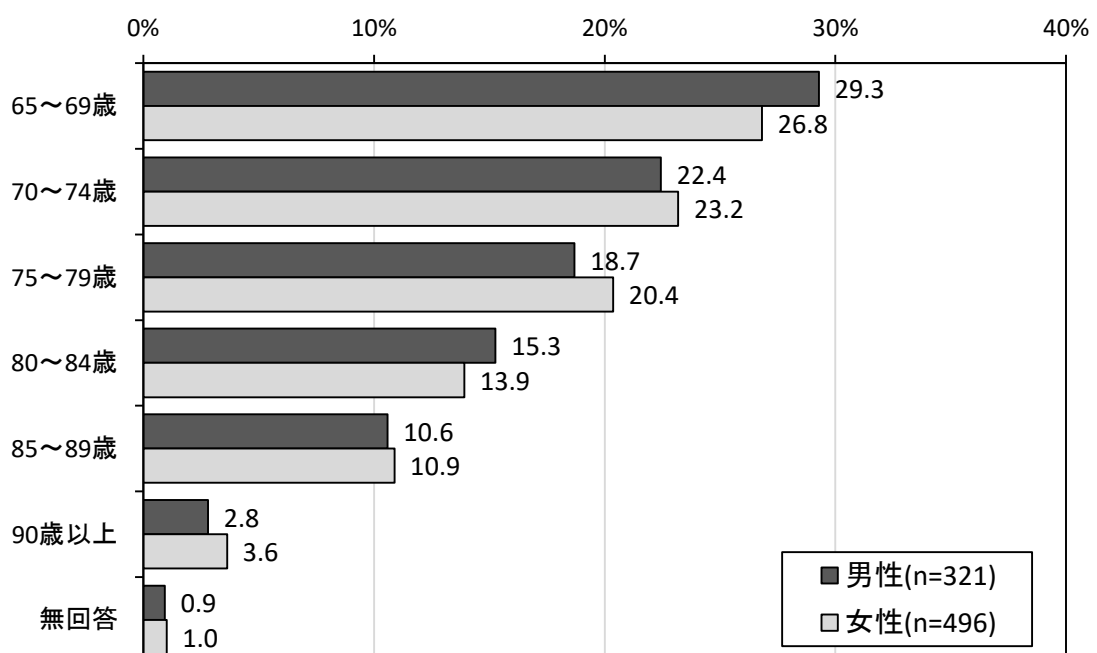
(2) 性別

調査対象者の性別は、男性が38.4%、女性が59.3%となっています。



(3) 年齢

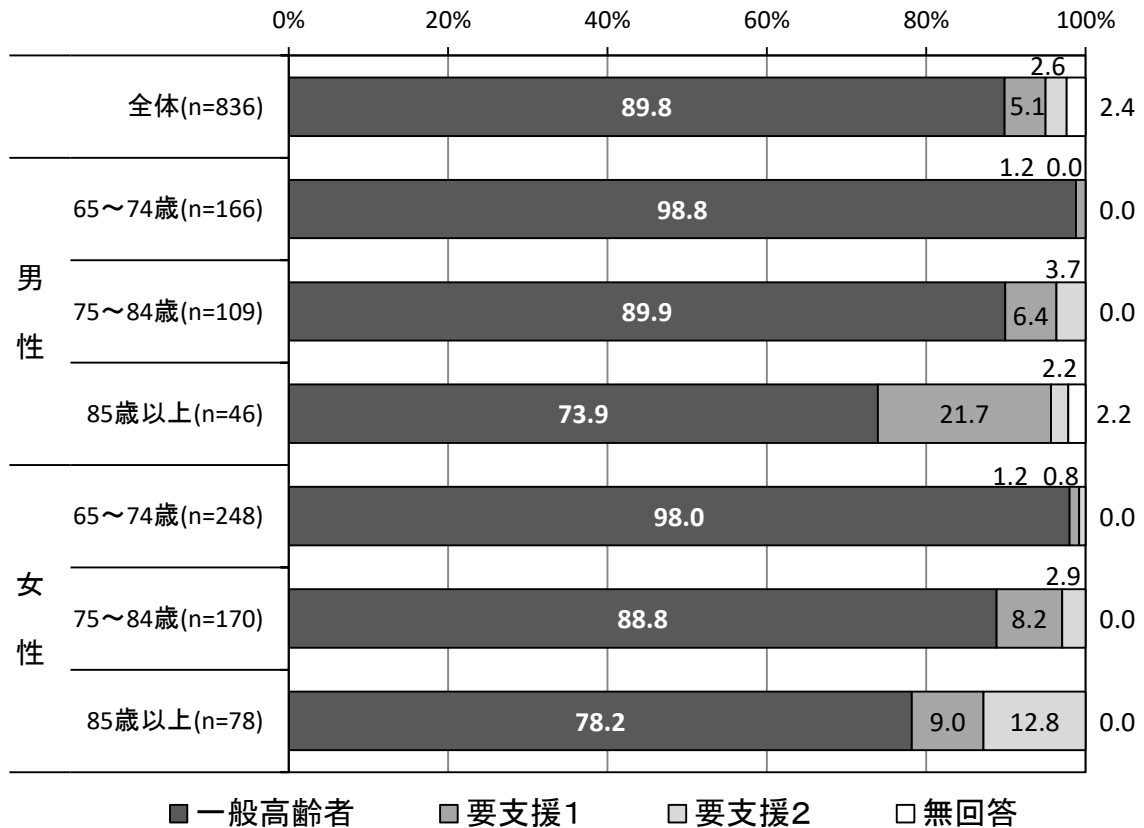
調査対象者の年齢は男女ともに「65～69歳」が最も多く、年齢が高くなるにつれて少なくなっています。



(4) 要支援認定

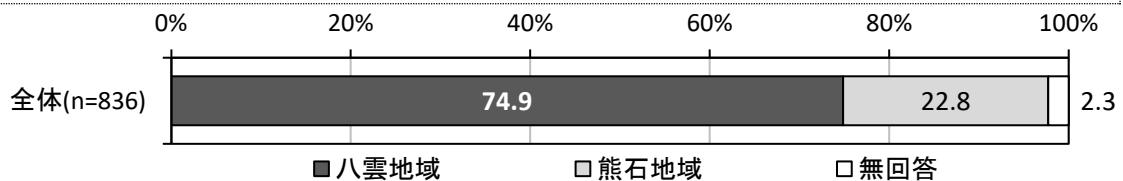
全体では、「一般高齢者」が 89.8%を占めており、要支援認定者は「要支援 1」(5.1%)、「要支援 2」(2.6%)で、合計が 7.7%となっています。

男女年齢階級別で見ると、男女ともに年齢が高くなるにつれて要支援認定者の割合が多くなっており、85歳以上では「要支援 1」及び「要支援 2」の合計が約 20%となっています。



(5) 日常生活圏域

回答者の日常生活圏域は、「八雲地域」が 74.9%、「熊石地域」が 22.8%となっています。



2. 家族や生活状況について

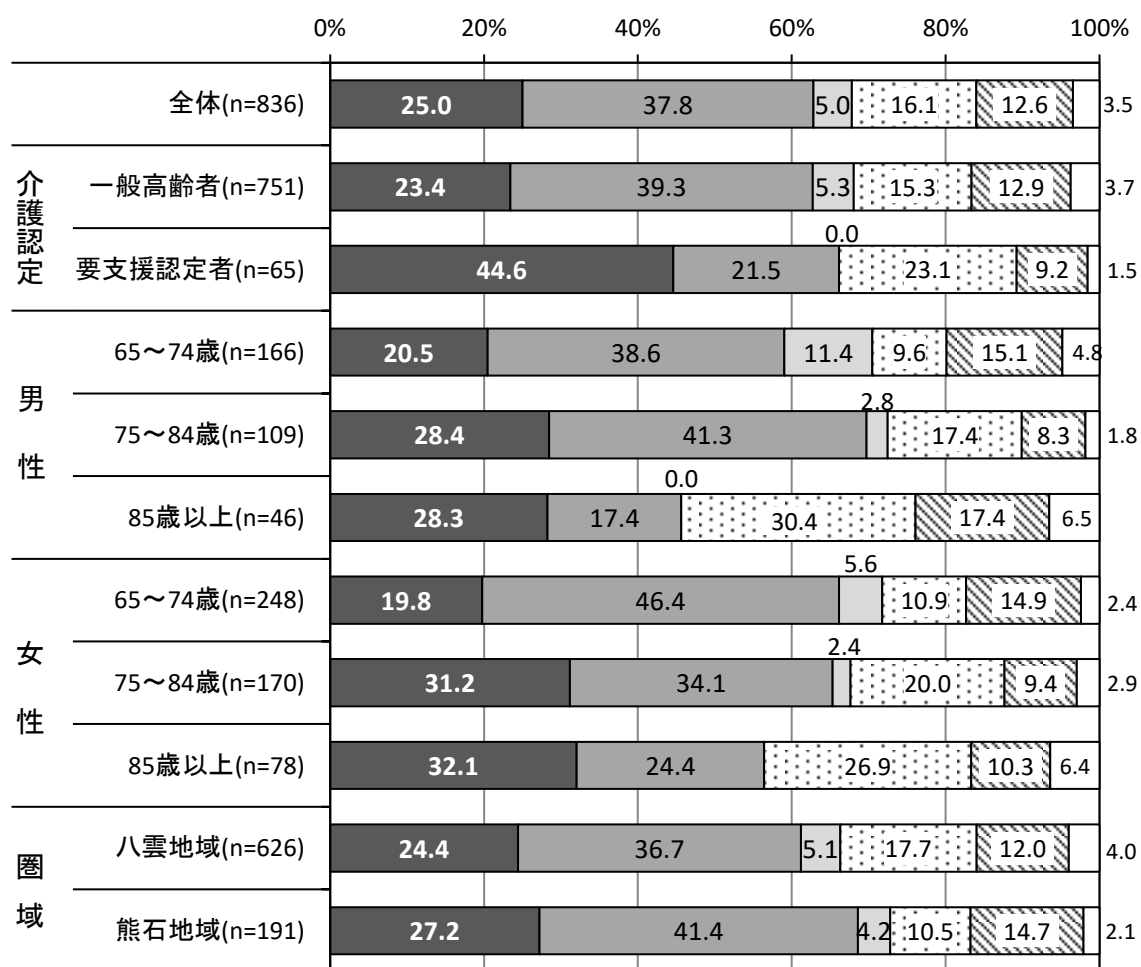
(1) 家族構成

全体では、「夫婦2人暮らし（配偶者 65 歳以上）」が 37.8%で最も多く、次いで「1人暮らし」が 25.0%で続いています。

介護認定別で見ると、要支援認定者は「1人暮らし」が 44.6%で一般高齢者と比べて多くなっています。

男女年齢階級別で見ると、「1人暮らし」は、男女ともに 65～74 歳は約 20%、75 歳以上では約 30%となっています。

圏域別で見ると、熊石地域は八雲地域と比べて「息子・娘との2世帯」が 6.8 ポイント少なくなっています。



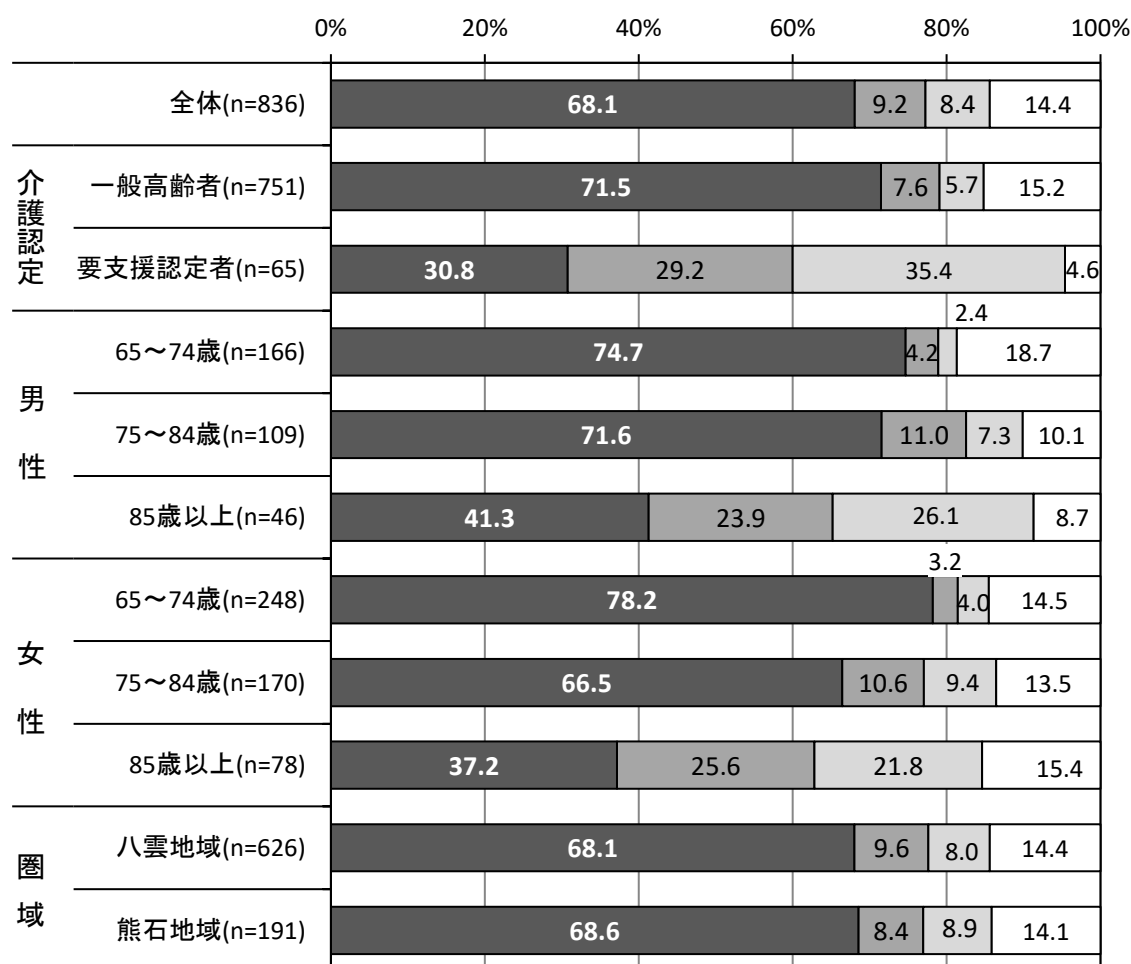
- 1人暮らし
- 夫婦2人暮らし(配偶者64歳以下)
- ▨ その他
- ▨ 夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上)
- ▨ 息子・娘との2世帯
- 無回答

(2) 介護・介助の必要性

全体では、「介護・介助は必要ない」が 68.1%を占めていますが、要支援認定者はその割合が 30.8%と少なく、「現在、何らかの介護を受けている」が 35.4%と多くなっています。

男女年齢階級別で見ると、男女ともに年齢が高くなるにつれて「現在、何らかの介護を受けている」が多くなり、85歳以上では 20.0%を超えている状況です。

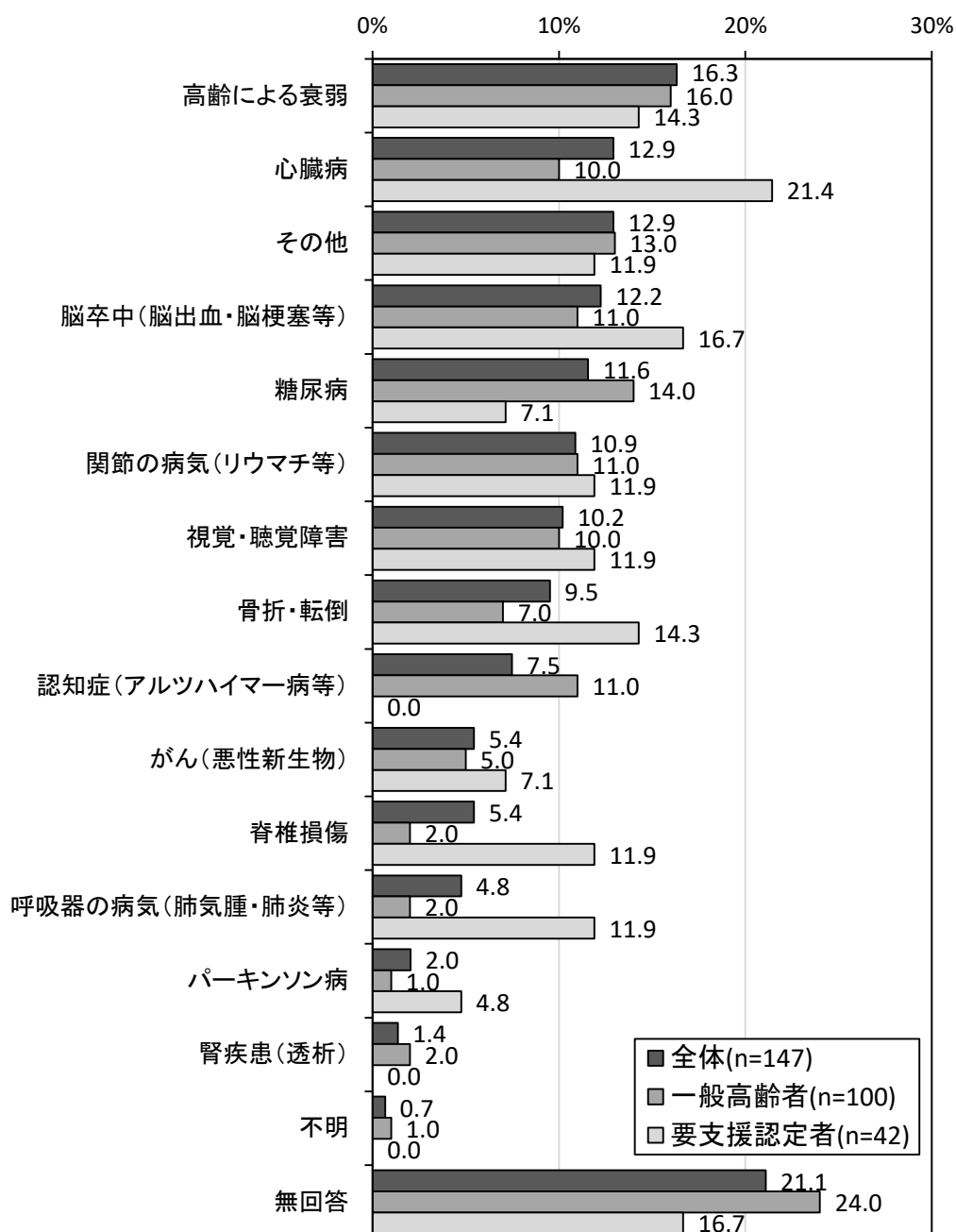
圏域別で見ると、八雲地域と熊石地域の間に大きな差異はみられません。



- 介護・介助は必要ない
- 何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない
- 現在、何らかの介護を受けている
- 無回答

(3) 介護・介助が必要になった主な原因【複数回答】

一般高齢者は、「高齢による衰弱」が16.0%で最も多く、次いで「糖尿病」(14.0%)、「その他」(13.0%)が続いています。一方、要支援認定者は、「心臓病」が21.4%で最も多く、次いで「脳卒中(脳出血・脳梗塞等)」(16.7%)、「骨折・転倒」「高齢による衰弱」(ともに14.3%)が上位回答となっています。

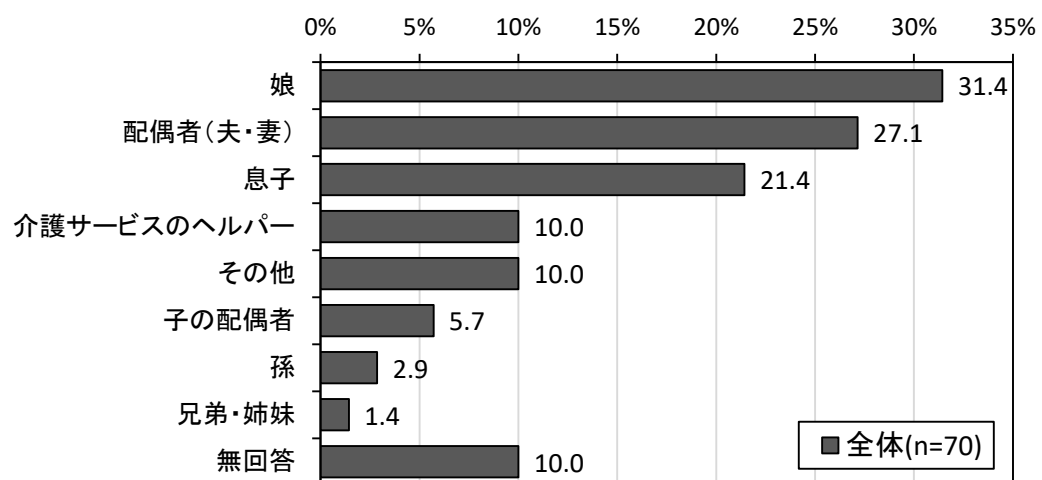


■「その他」の記載内容

- ・統合失調症
- ・変形性膝関節症
- ・クローン病
- ・進行性核上製麻痺
- ・難病重症筋無力症
- ・肩痛、腰痛、膝痛
- ・けがの為
- ・大腸手術
- ・血圧
- ・坐骨神経痛 など

(4) 主な介護・介助者【複数回答】

全体では、「娘」が31.4%で最も多く、次いで「配偶者(夫・妻)」(27.1%)、「息子」(21.4%)が続いています。



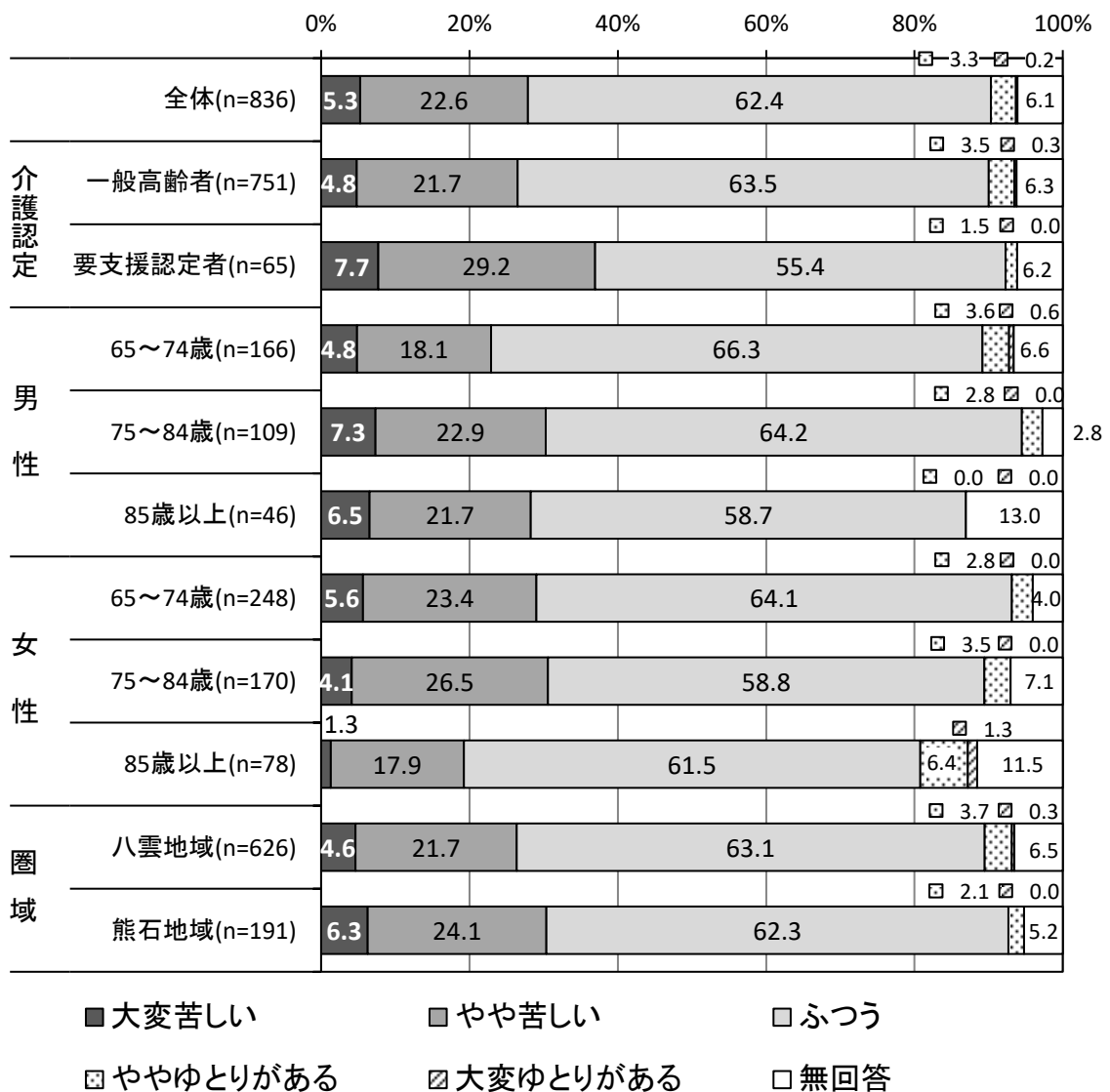
(5) 経済状況

全体では、「ふつう」が62.4%で最も多くなっている一方、「大変苦しい」(5.3%)、「やや苦しい」(22.6%)の合計は27.9%で約3人に1人が経済的に苦しさを感じています。

介護認定別で見ると、一般高齢者と比べて要介護認定者は経済的に苦しい人が10.4ポイント多くなっています。

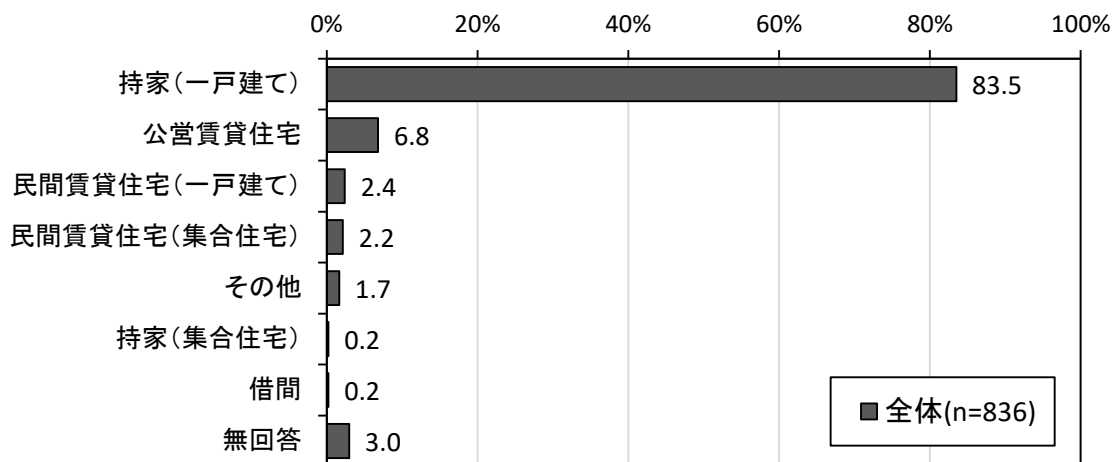
男女年齢階級別で見ると、男性は75歳以上、女性は65歳～84歳が「大変苦しい」、「やや苦しい」の合計が約30%となっています。

圏域別で見ると、熊石地域は「大変苦しい」、「やや苦しい」の合計が八雲地域よりやや多い状況です。



(6) 住宅の形態

「持家（一戸建て）」が全体の83.5%を占めており、次いで「公営賃貸住宅」が6.8%で続いています。

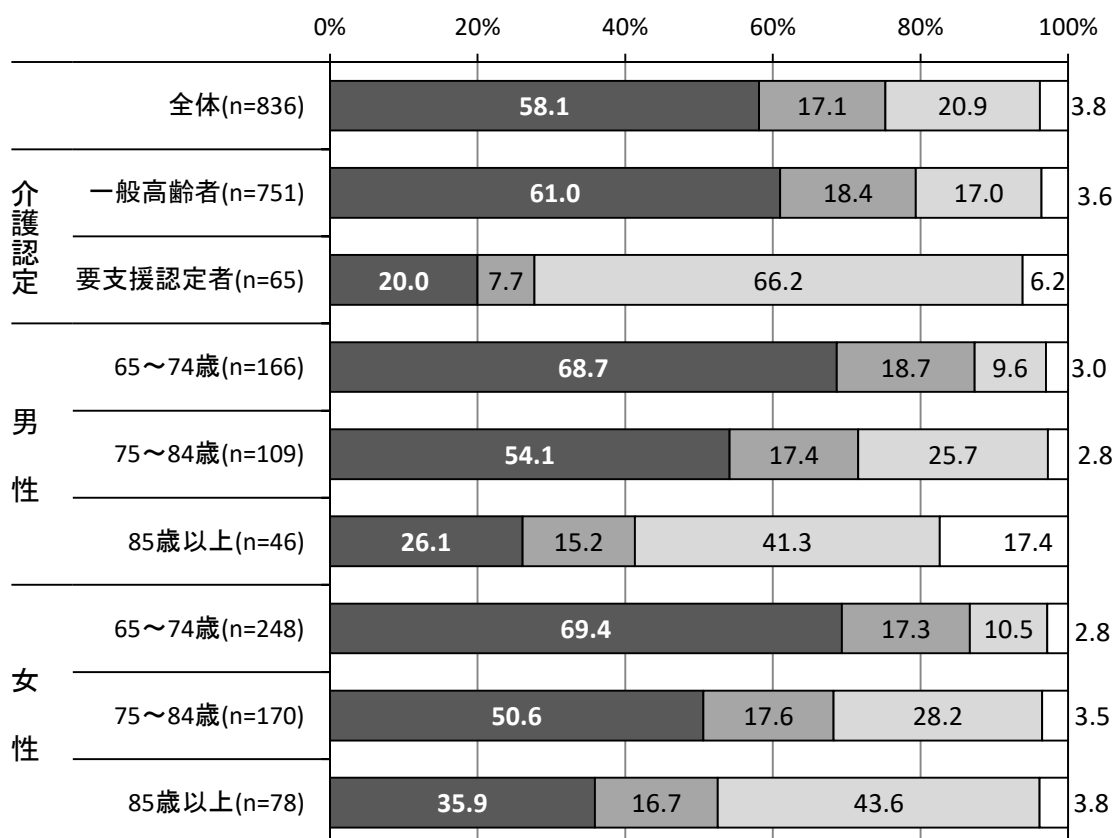


3. からだを動かすことについて

(1) 階段を手すりや壁をつたわずに昇っているか

全体で見ると「できない」は20.9%ですが、要支援認定者は「できない」が66.2%と多い状況です。

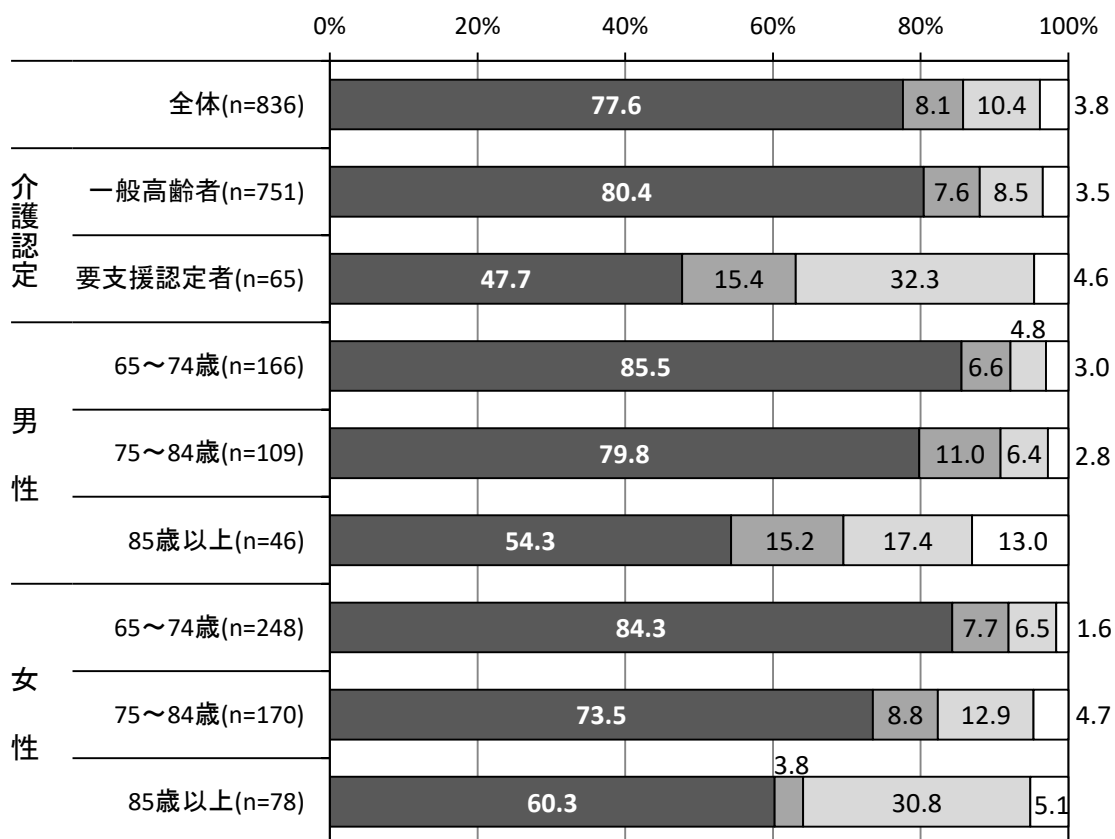
男女ともに年齢が高くなるにつれて「できるし、している」が少なくなり、特に85歳以上の男性は26.1%と少なくなっています。



■ できるし、している ■ できるけどしていない □ できない □ 無回答

(2) 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっているか

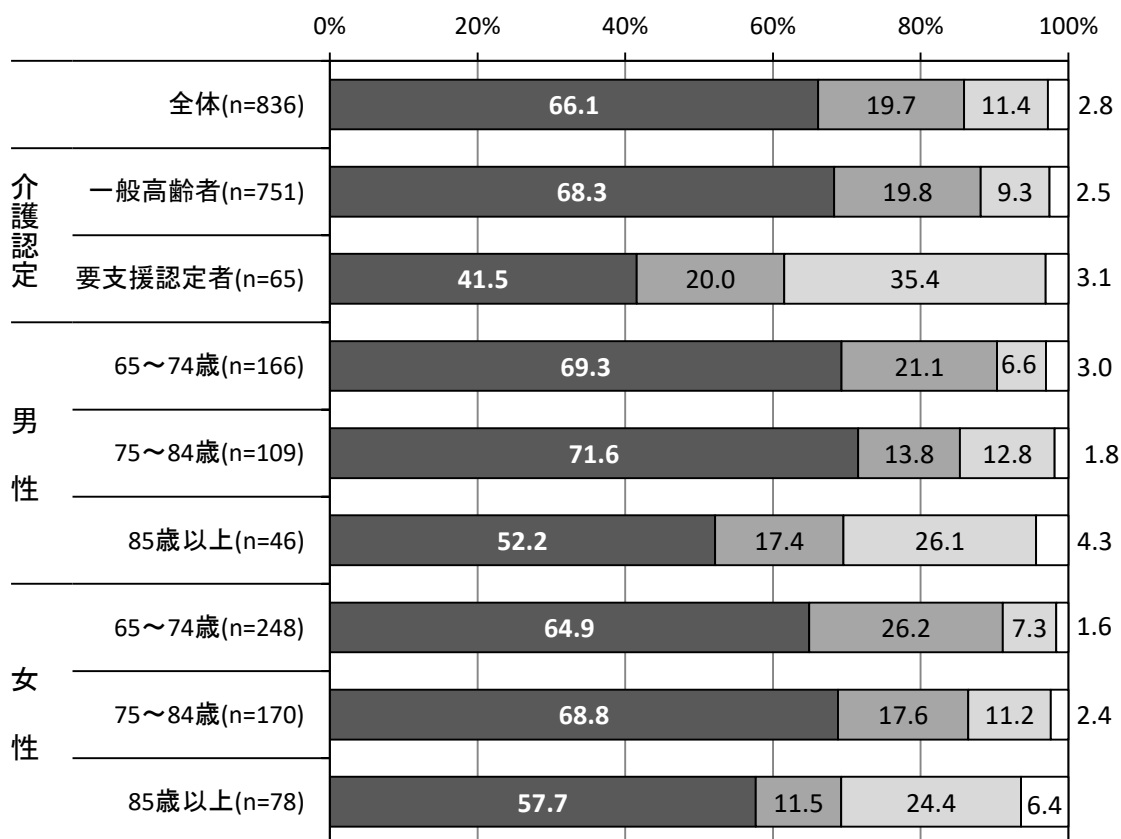
全体でみると、「できるし、している」は77.6%、「できない」は10.4%となっています。
 介護認定別でみると、要支援認定者は「できない」が32.3%と多くなっています。
 男女年齢階級別でみると、85歳以上の女性は「できない」の割合が30.8%と多くなっています。



■ できるし、している ■ できるけどしていない □ できない □ 無回答

(3) 15分位続けて歩いているか

全体で見ると、「できるし、している」は66.1%、「できない」は11.4%となっています。
 介護認定別で見ると、要支援認定者は「できない」が35.4%と多くなっています。
 男女ともに年齢が高くなるにつれて「できない」が多くなり、85歳以上では20%を超えています。



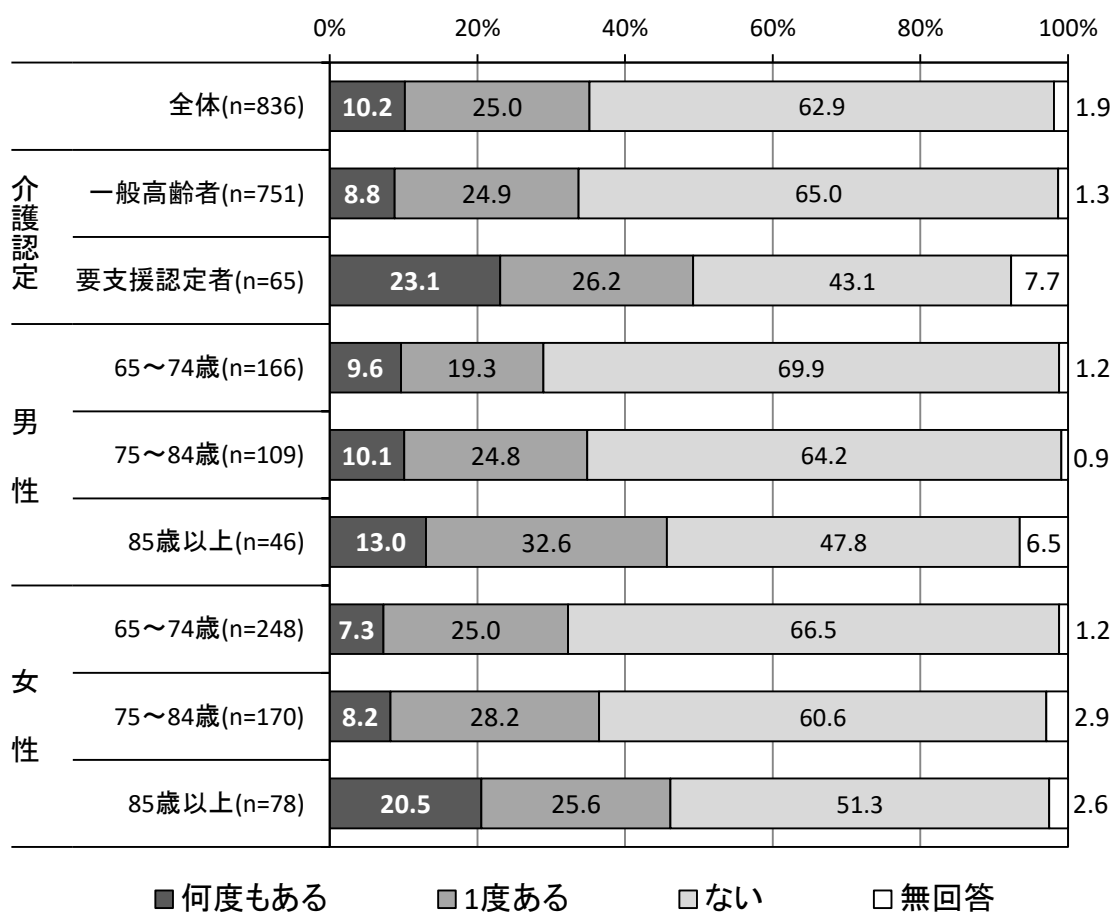
■ できるし、している ■ できるけどしていない □ できない □ 無回答

(4) 過去1年間に転んだ経験があるか

全体で見ると、「何度もある」(10.2%)と「1度ある」(25.0%)の合計は35.2%となっています。

介護認定別で見ると、要支援認定者は「何度もある」と「1度ある」の合計が49.3%で約半数を占めています。

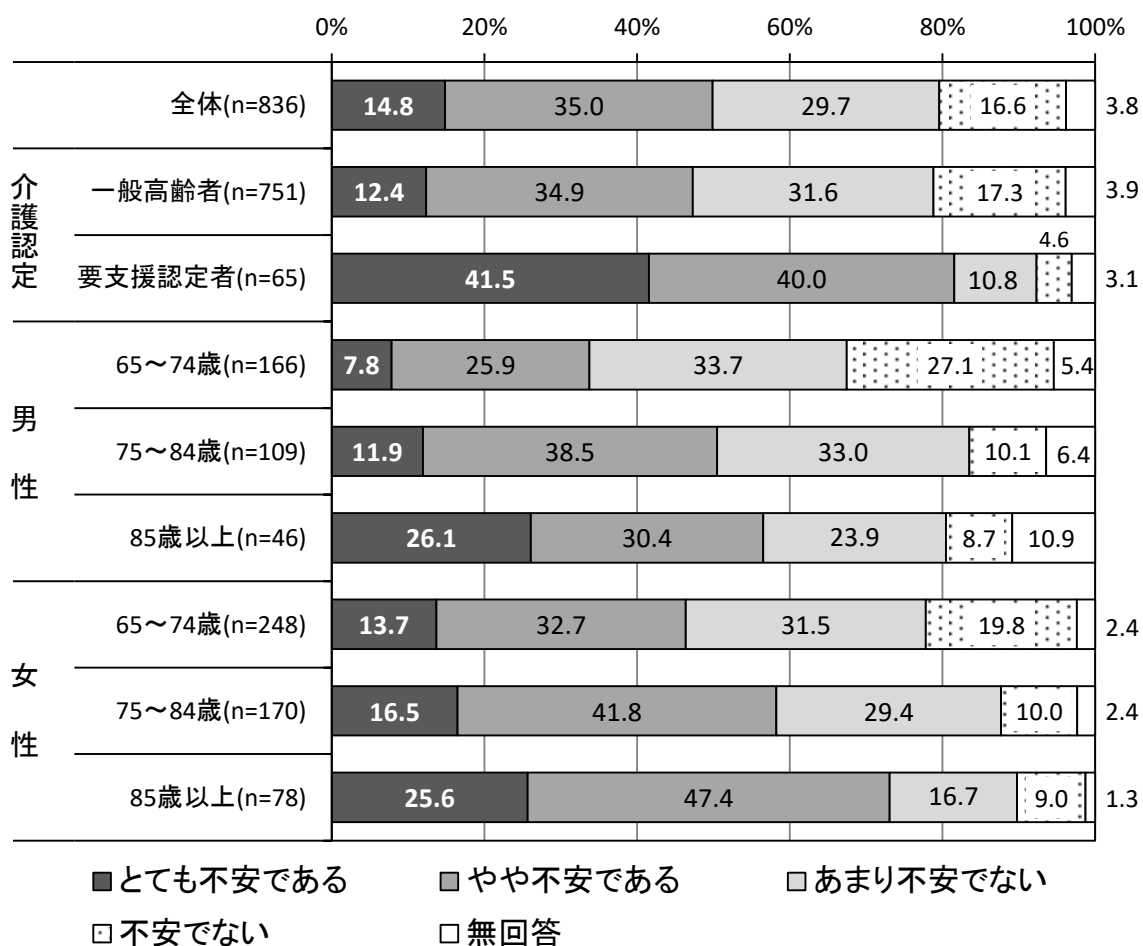
男女年齢階級別で見ると、男女ともに年齢が高くなるにつれて「何度もある」と「1度ある」が多くなり、85歳以上はその合計が約50%となっています。



(5) 転倒に対する不安は大きいか

全体で見ると、「とても不安である」(14.8%)と「やや不安である」(35.0%)の合計は49.8%となっていますが、要支援認定者はその割合が81.5%と非常に多くなっています。

男女年齢階級別で見ると、85歳以上の女性は「とても不安である」、「やや不安である」の合計が73.1%と多くなっています。

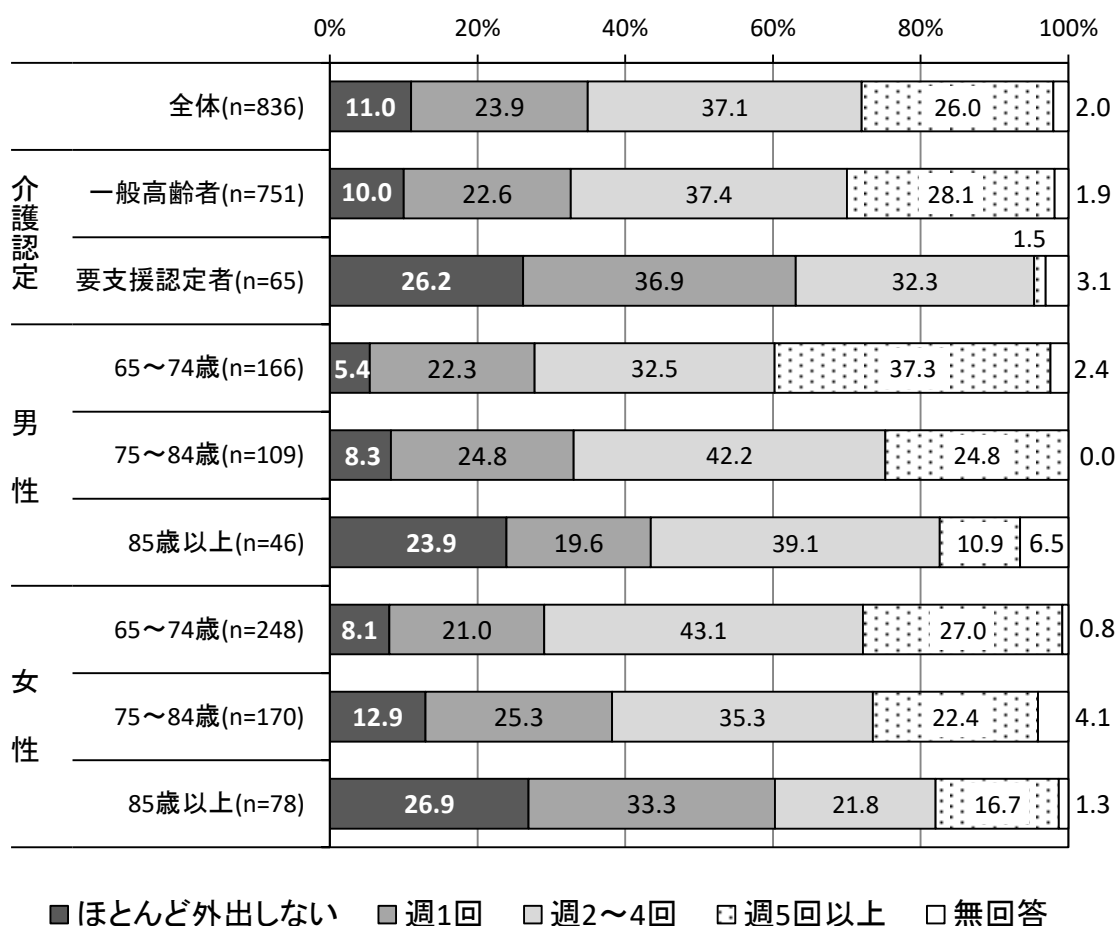


(6) 週に1回以上は外出しているか

全体でみると、「週2～4回」が37.1%で最も多く、次いで「週5回以上」(26.0%)が続いています。

一般高齢者と比べて、要支援認定者は「ほとんど外出しない」が26.2%と多く、外出の頻度は少ない状況です。

男女年齢階級別でみると、男女ともに年齢が高くなるにつれて「ほとんど外出しない」が多くなり、85歳以上では20%を超えています。

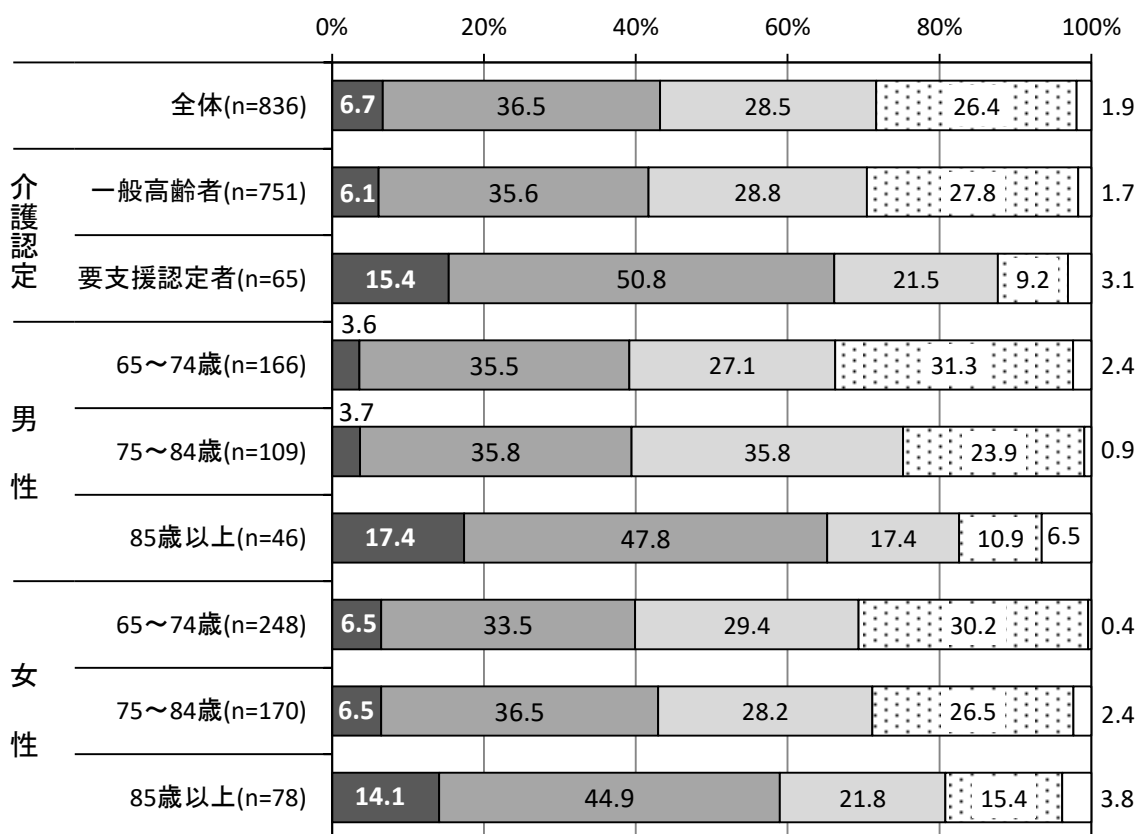


(7) 昨年と比べて外出頻度が減っているか

全体で見ると、「とても減っている」(6.7%)と「減っている」(36.5%)は合計で43.2%となっています。

要支援認定者は外出頻度の減少が顕著になっており、「とても減っている」(15.4%)と「減っている」(50.8%)の合計は66.2%と半数を超えています。

男女年齢階級別で見ると、男女ともに年齢が高くなるにつれて外出頻度が減っており、特に85歳以上の男性は「とても減っている」と「減っている」の合計が65.2%と非常に多くなっています。



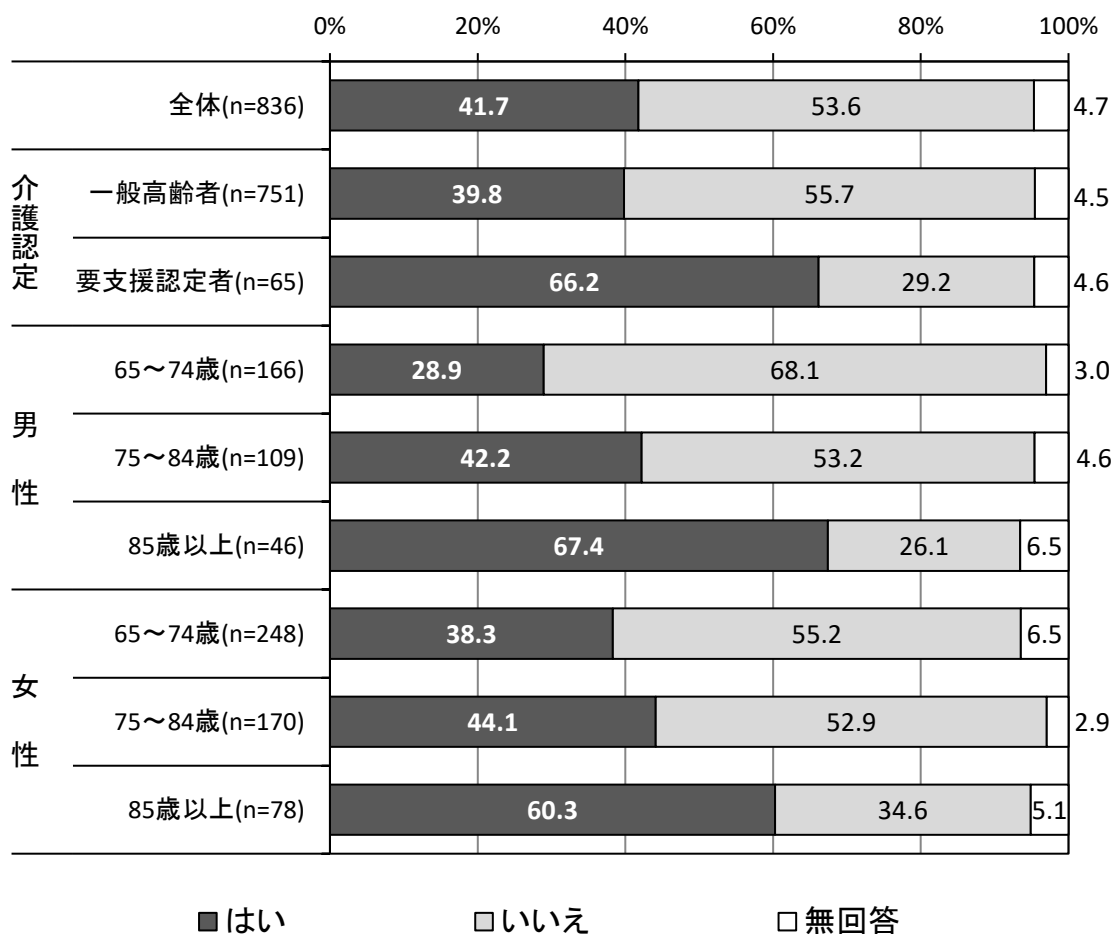
■とても減っている ■減っている □あまり減っていない □減っていない □無回答

(8) 外出を控えているか

全体では、外出を控えている方は41.7%、控えていない方は53.6%となっています。

介護認定別で見ると、一般高齢者と比べて要支援認定者は外出を控えている方が66.2%で多くなっています。

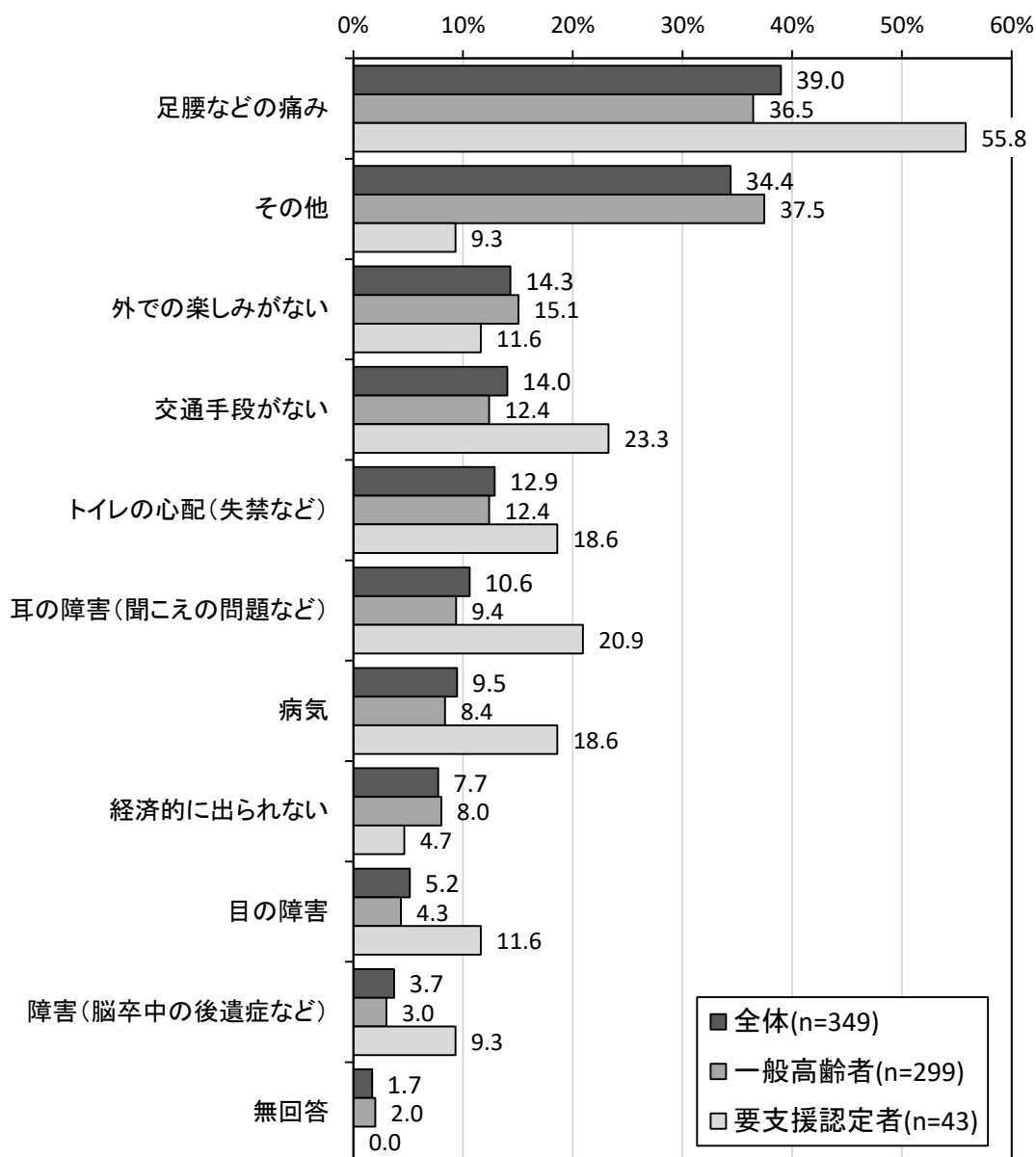
男女年齢階級別で見ると、男女ともに年齢が高くなるにつれて外出を控えている方が多くなり、85歳以上では60%を超えています。



(9) 外出を控えている理由【複数回答】

全体では、「足腰などの痛み」が39.0%で最も多く、次いで「その他」(34.4%)、「外での楽しみがない」(14.3%)が続いています。

介護認定別で見ると、どちらも「足腰などの痛み」が最も多くなっていますが、要支援認定者はその割合が55.8%で非常に多くなっています。



■「その他」の記載内容

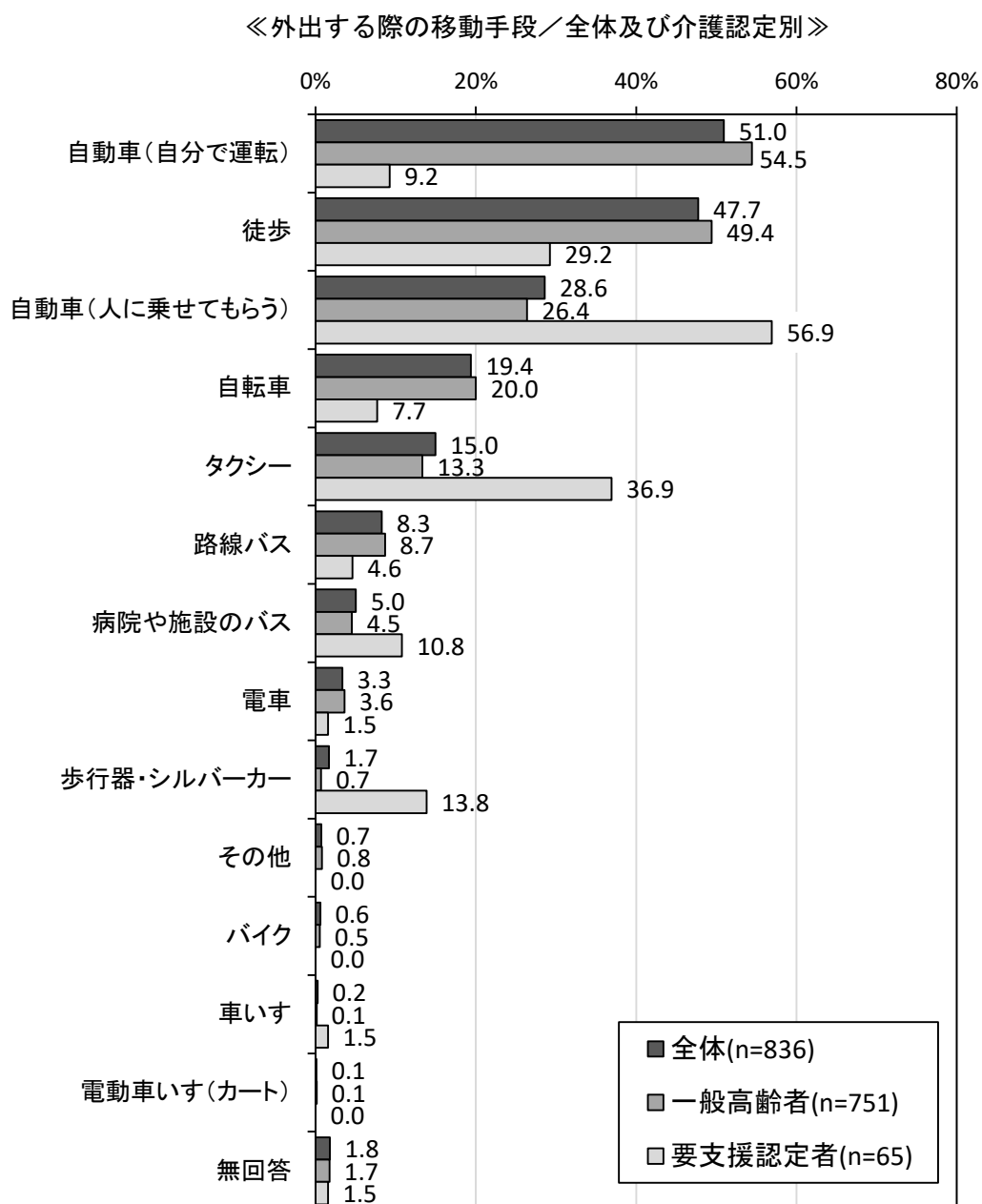
- ・新型コロナウイルス感染症対策のため
- ・母の介護
- ・白血病治療中の為制限
- ・自営業
- ・転倒したら危ない
- ・人の付き合いが苦手になっている
- ・50m位で歩行できない など

(10) 外出する際の移動手段【複数回答】

①全体及び介護認定別

全体では、「自動車（自分で運転）」が51.0%で最も多く、次いで「徒歩」（47.7%）、「自動車（人に乗せてもらう）」（28.6%）が続いています。

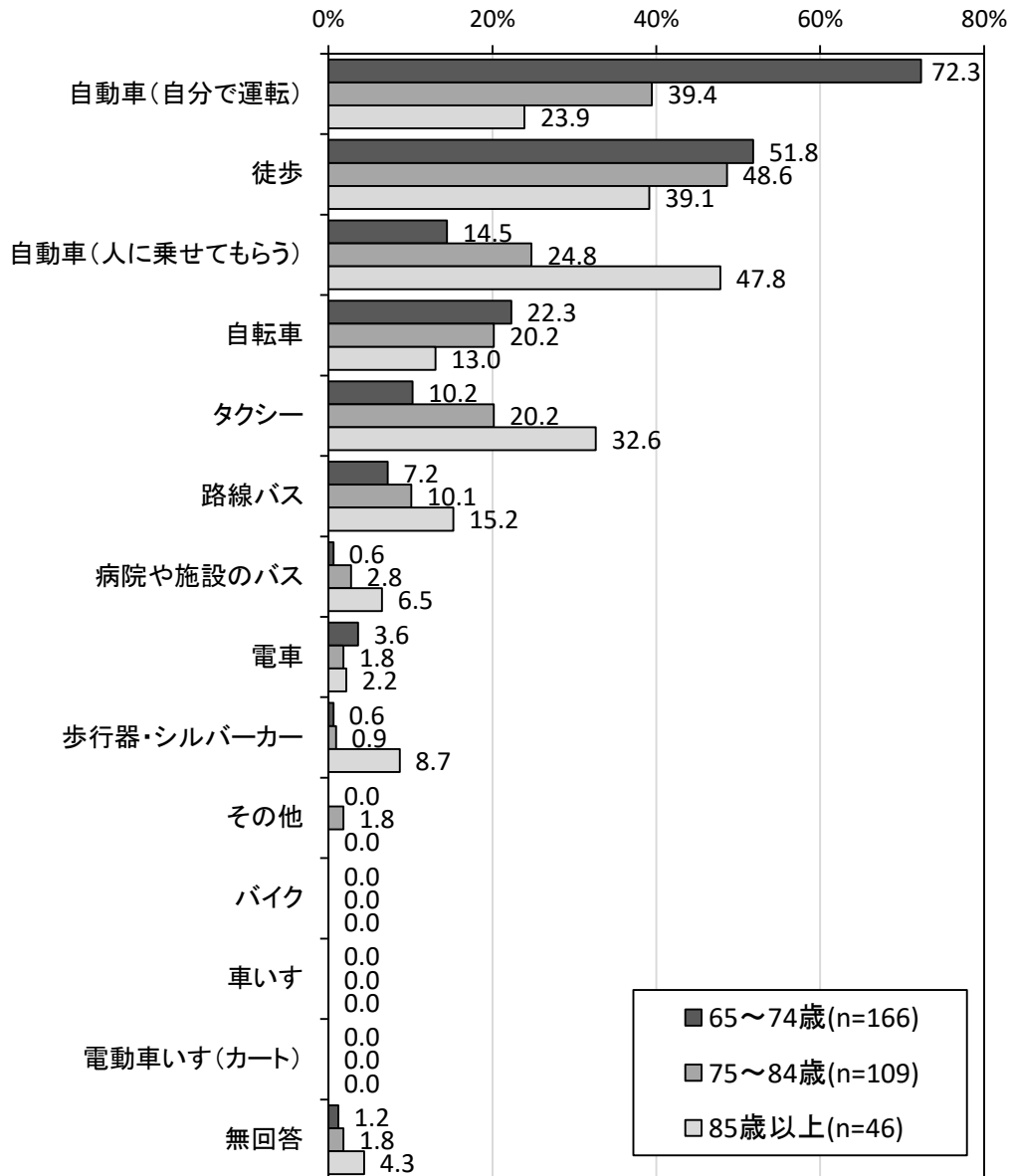
介護認定別でみると、要支援認定者は「自動車（人に乗せてもらう）」（56.9%）及び「タクシー」（36.9%）が多く、「自動車（自分で運転）」は9.2%と非常に少なくなっています。



②男性年齢階級別

65～74歳の男性は「自動車（自分で運転）」が72.3%を占めていますが、年齢が高くなるにつれて少なくなり、85歳以上になると「自動車（人に乗せてもらう）」(47.8%)、「徒歩」(39.1%)、「タクシー」(32.6%)が多くなっています。

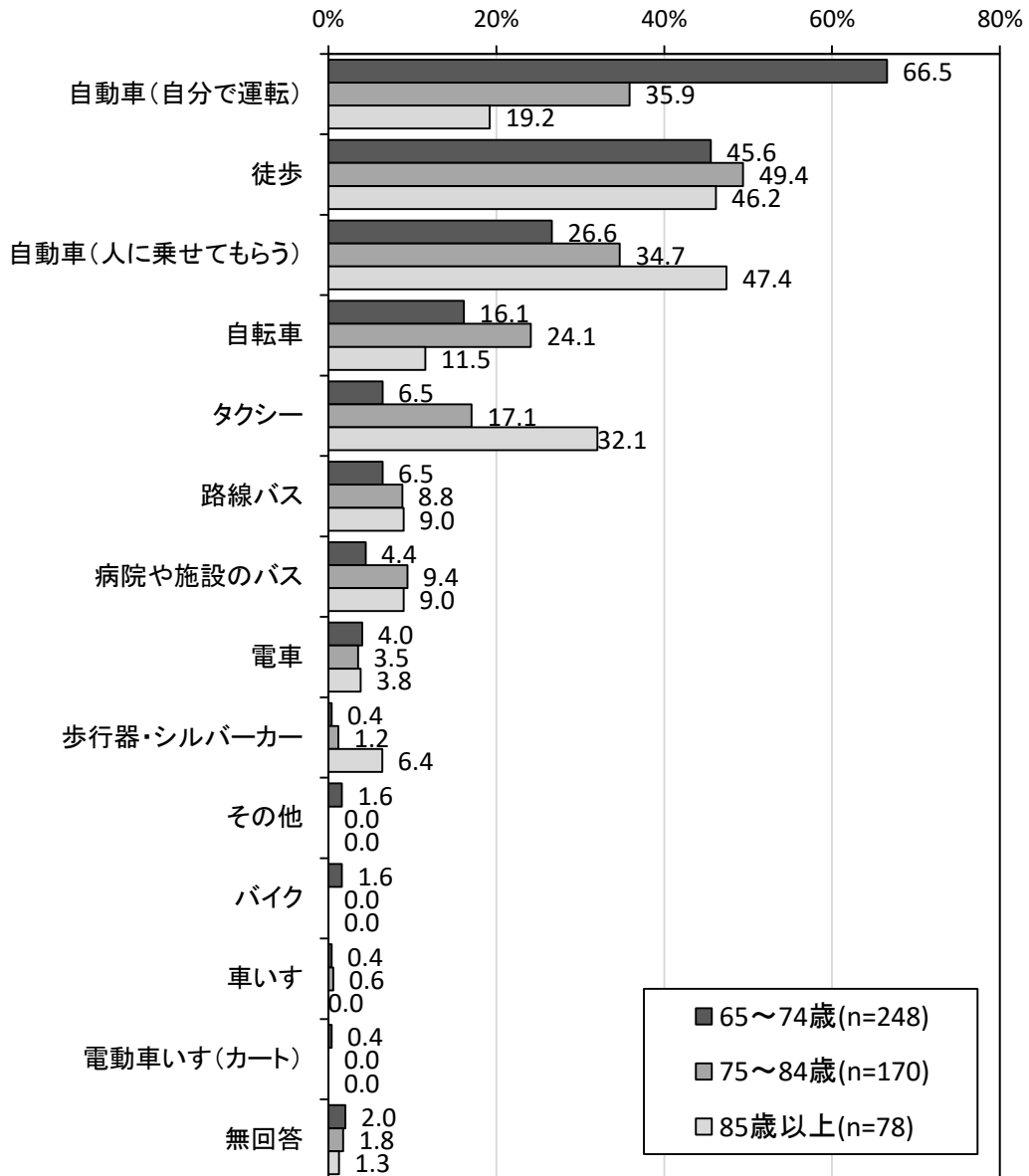
《外出する際の移動手段／男性／年齢階級別》



③女性年齢階級別

65～74歳の女性は「自動車（自分で運転）」が66.5%で最も多くなっていますが、年齢が高くなるにつれて「自動車（自分で運転）」が少なくなり、「自動車（人に乗せてもらう）」及び「タクシー」が多くなっています。

《外出する際の移動手段／女性／年齢階級別》



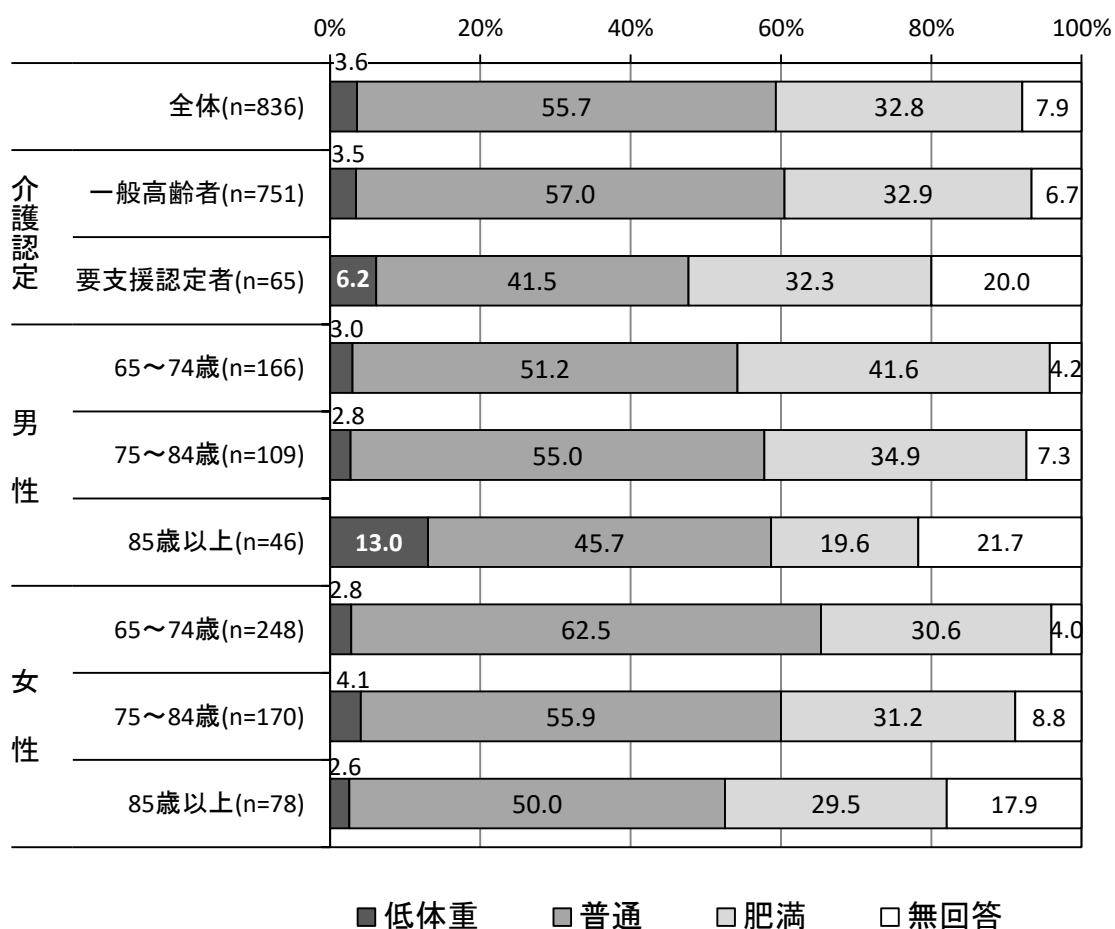
4. 食べることについて

(1) BMI

身長と体重から、肥満度の指標の1つであるBMIを算出しました。BMIとは、体重(kg)を身長(m)の2乗で割った値で、18.5未満が「低体重」、25.0以上が「肥満」とされます。

「低体重」に該当する人をみると、男性は85歳以上で13.0%と多くなっていますが、女性はどの年齢においても5%未満となっています。

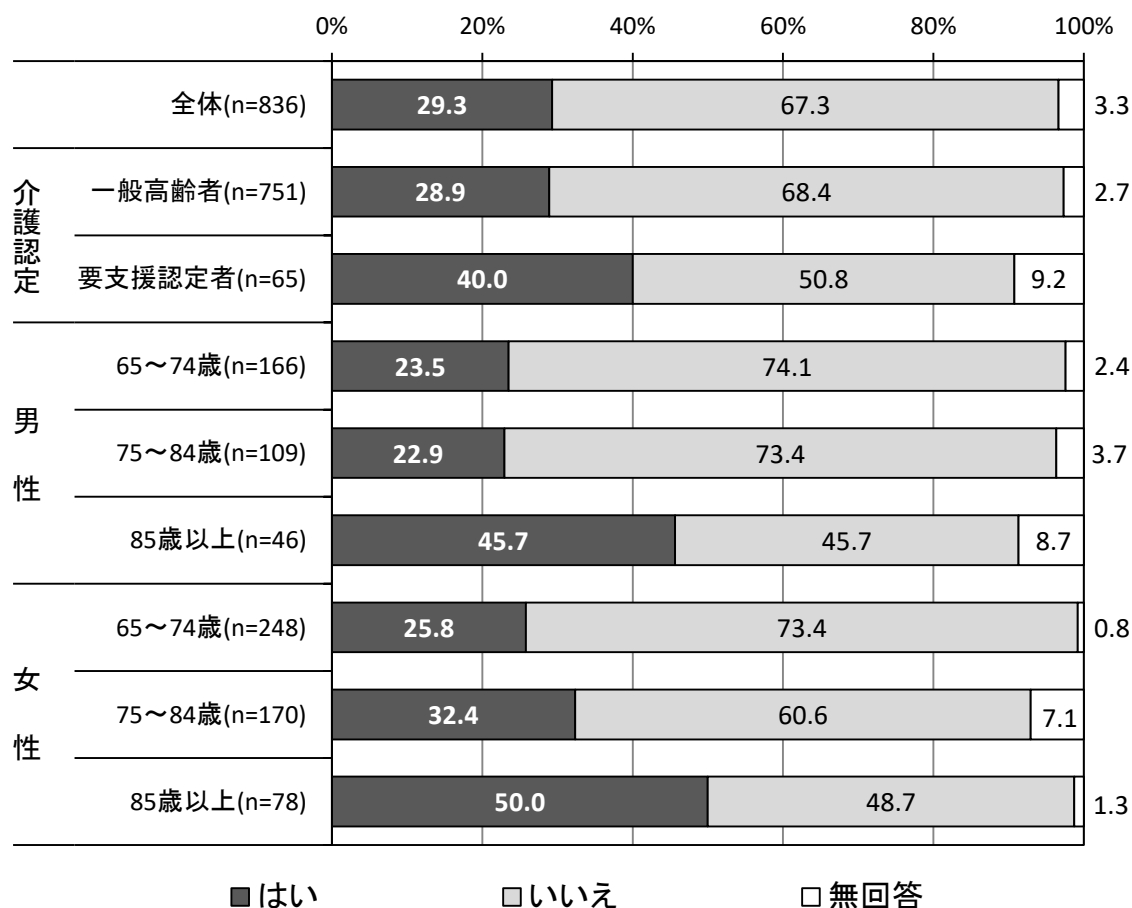
「肥満」に該当する人をみると、男性は65～74歳が41.6%で最も多く、女性はどの年齢階級においても約30%で大きな差異はみられません。



(2) 半年前と比べ、固いものが食べにくくなったか

全体で見ると、半年前に比べて固いものが食べにくくなったと答えた人は29.3%ですが、要支援認定者はその割合が40.0%と多くなっています。

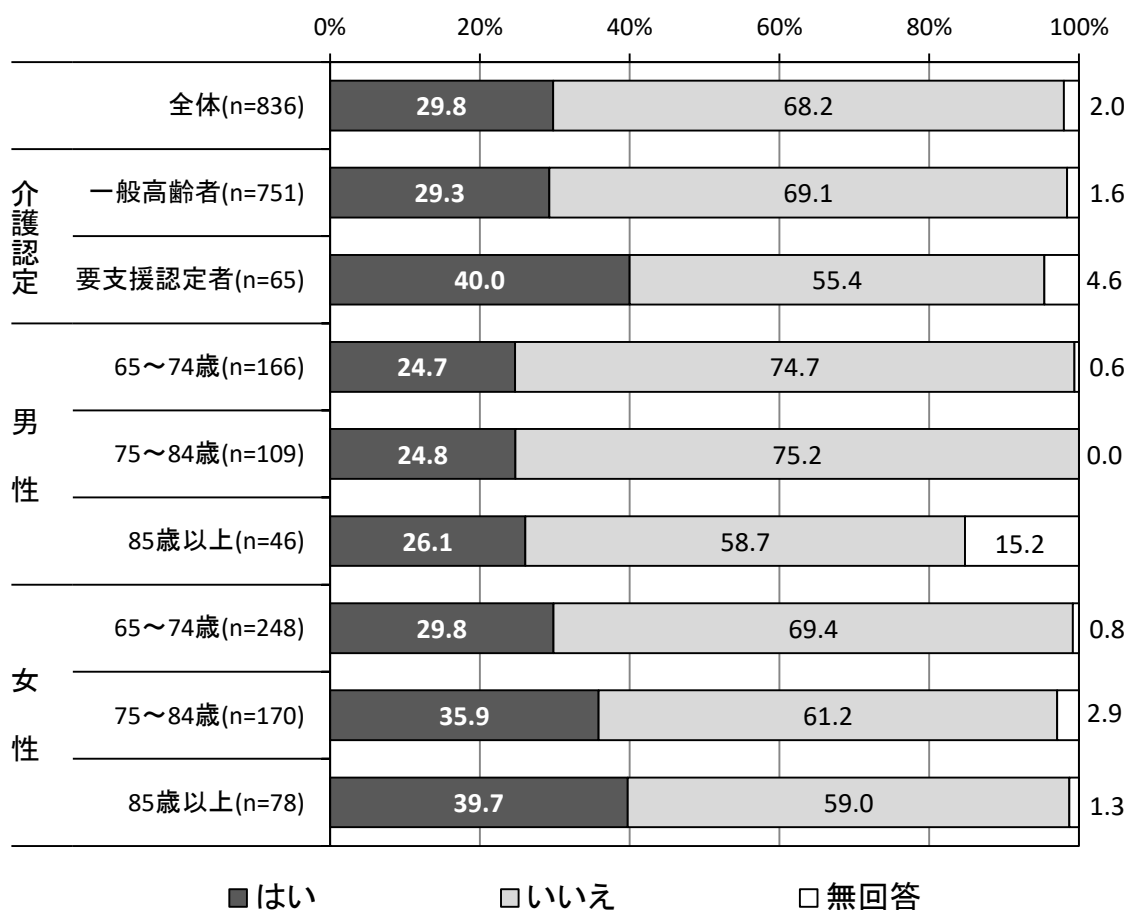
男女年齢階級別で見ると、男女ともに85歳以上は半年前に比べて固いものが食べにくくなったと答えた人が多くなっています。



(3) お茶や汁物等でむせるか

全体で見ると、お茶や汁物等でむせる人は 29.8%ですが、要支援認定者はその割合が 40.0%と多くなっています。

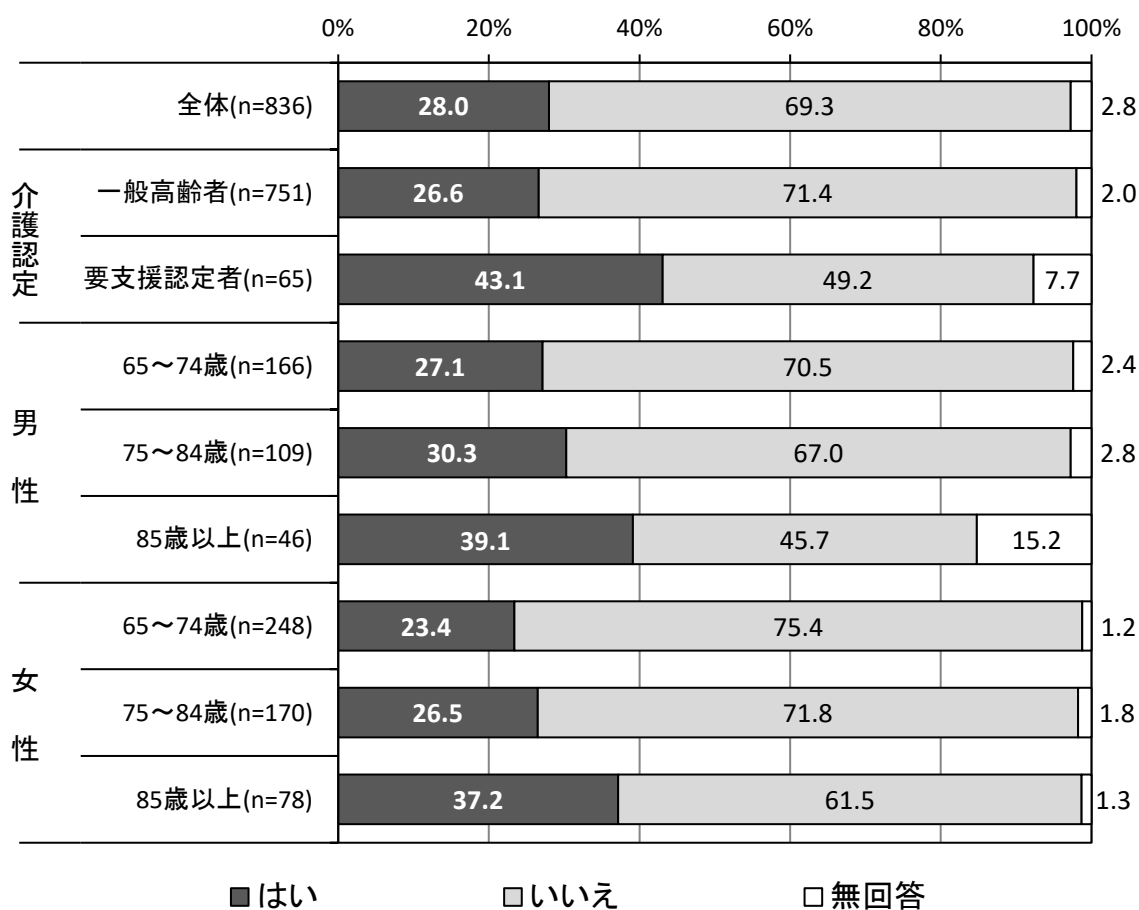
男女年齢階級別で見ると、男性はどの年齢階級もお茶や汁物等でむせる人の割合に大きな差異はみられませんが、女性は年齢が高くなるにつれてその割合は多くなり、85歳以上では 39.7%となっています。



(4) 口の渇きが気になるか

全体で見ると、口の渇きが気になる人は28.0%となっていますが、要支援認定は43.1%と多くなっています。

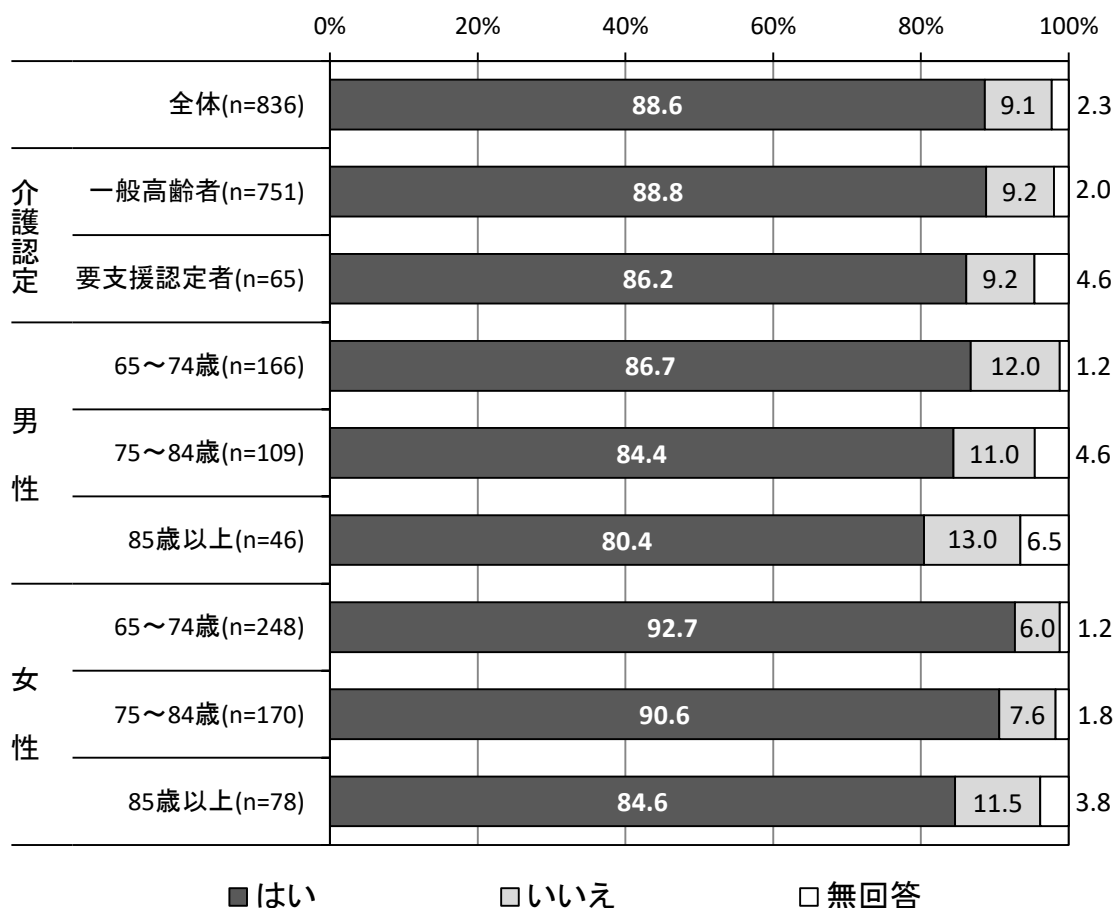
男女年齢階級別で見ると、男女ともに年齢が高くなるにつれて口の渇きが気になる人が多くなり、85歳以上では約40%となっています。



(5) 歯磨きを毎日しているか

全体で見ると、歯磨きを毎日している人は88.6%を占めており、介護認定別で見ても一般高齢者と要支援認定者の間に大きな差異はみられません。

男女年齢階級別で見ると、男女ともに年齢が高くなるにつれて歯磨きを毎日している人が少なくなっています。

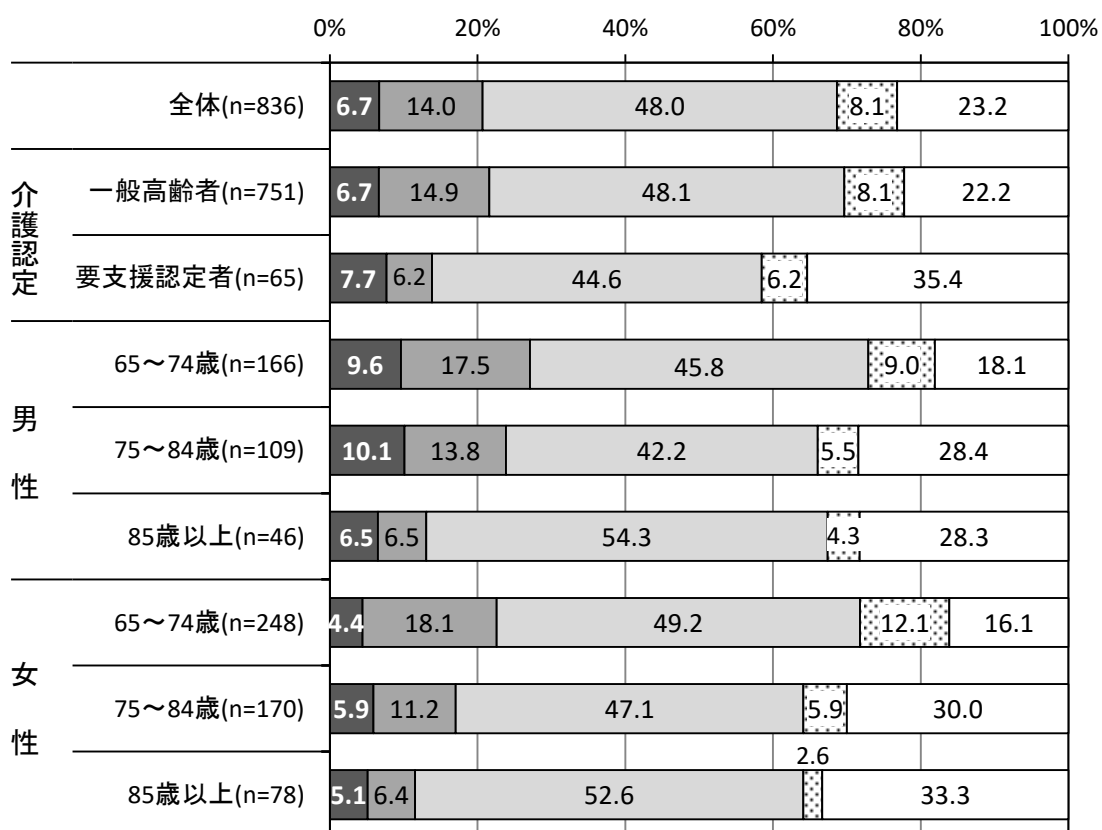


(6) 歯の本数と入れ歯の利用状況

全体で見ると、「自分の歯は 19 本以下、かつ入れ歯を利用」が 48.0%で最も多く、「自分の歯は 20 本以上、かつ入れ歯を利用」(6.7%)を合計すると、入れ歯を利用している人は 54.7%となっています。

介護認定別で見ると、要支援認定者は「自分の歯は 20 本以上」の人が少なくなっています。

男女年齢階級別で見ると、男女ともに年齢が高くなるにつれて「自分の歯は 20 本以上」の割合が少なくなっています。また、「入れ歯を利用」している人はどの年齢階級においても半数以上となっています。

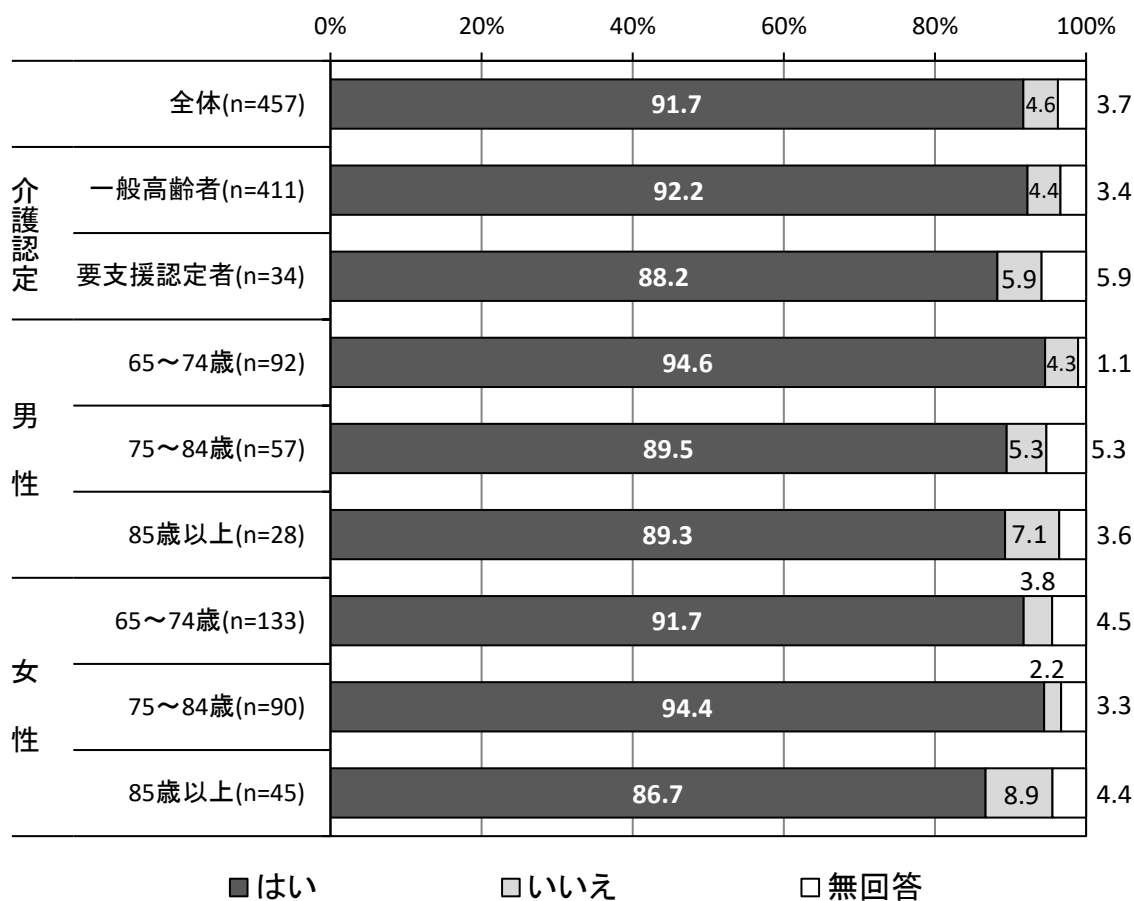


- 自分の歯は20本以上、かつ入れ歯を利用
- 自分の歯は20本以上、入れ歯の利用なし
- 自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用
- ▣ 自分の歯は19本以下、入れ歯の利用なし
- 無回答

(7) 毎日入れ歯を手入れしているか

全体で見ると、毎日入れ歯を手入れしている人は91.7%を占めており、介護認定別でも一般高齢者と要支援認定者の間に大きな差異はみられません。

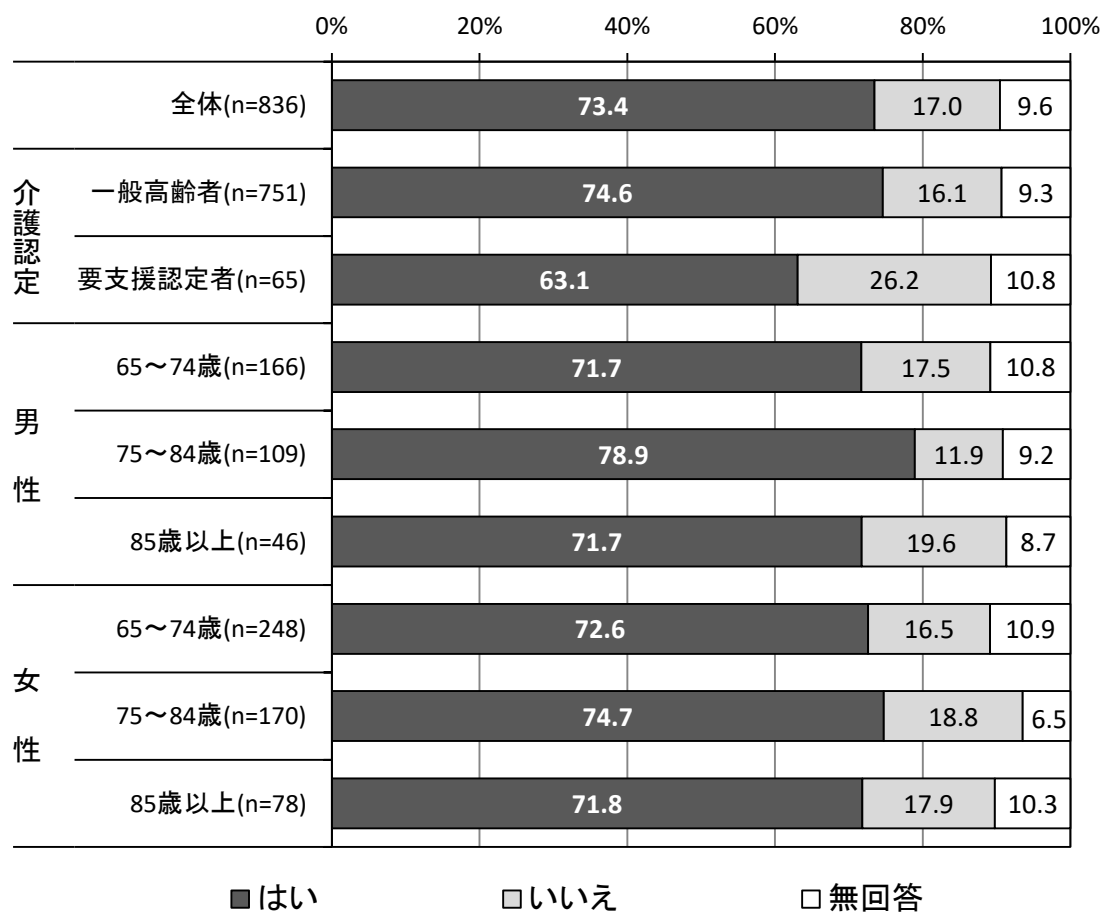
男女年齢階級別で見ると、85歳以上の女性は毎日入れ歯を手入れしている人の割合がやや少なくなっています。



(8) 噛み合わせは良いか

全体で見ると、歯の噛み合わせが良い人は 73.4%を占めていますが、要支援認定者は 63.1%と少なくなっています。

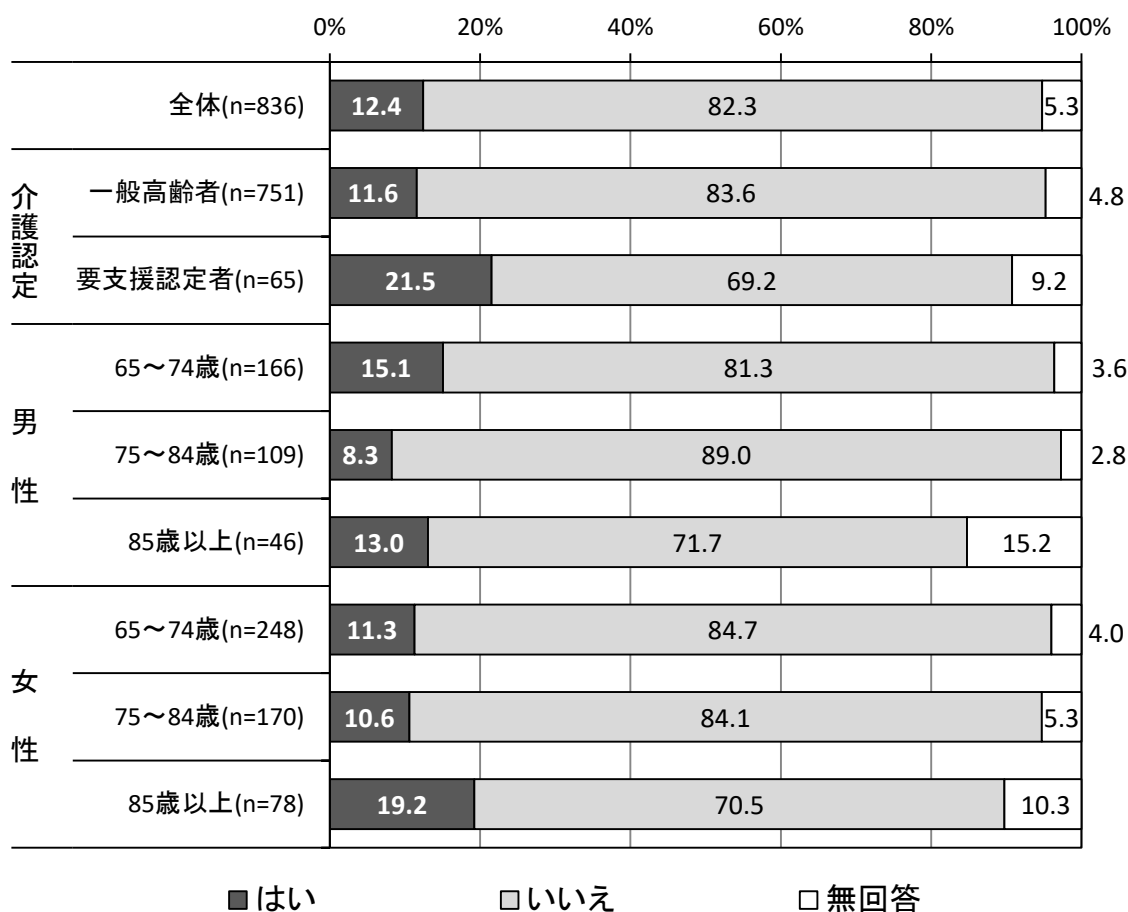
男女年齢階級別でも、男女ともには歯の噛み合わせが良い人が 70%以上を占めています。



(9) 6か月間で2～3kg以上体重減少したか

全体で見ると、6か月間で2～3kg以上体重減少した人は12.4%ですが、要支援認定者は21.5%とやや多くなっています。

男女年齢階級別で見ると、6か月間で2～3kg以上体重減少した人は、男性は65～74歳で15.1%、女性は85歳以上で19.2%と多くなっています。

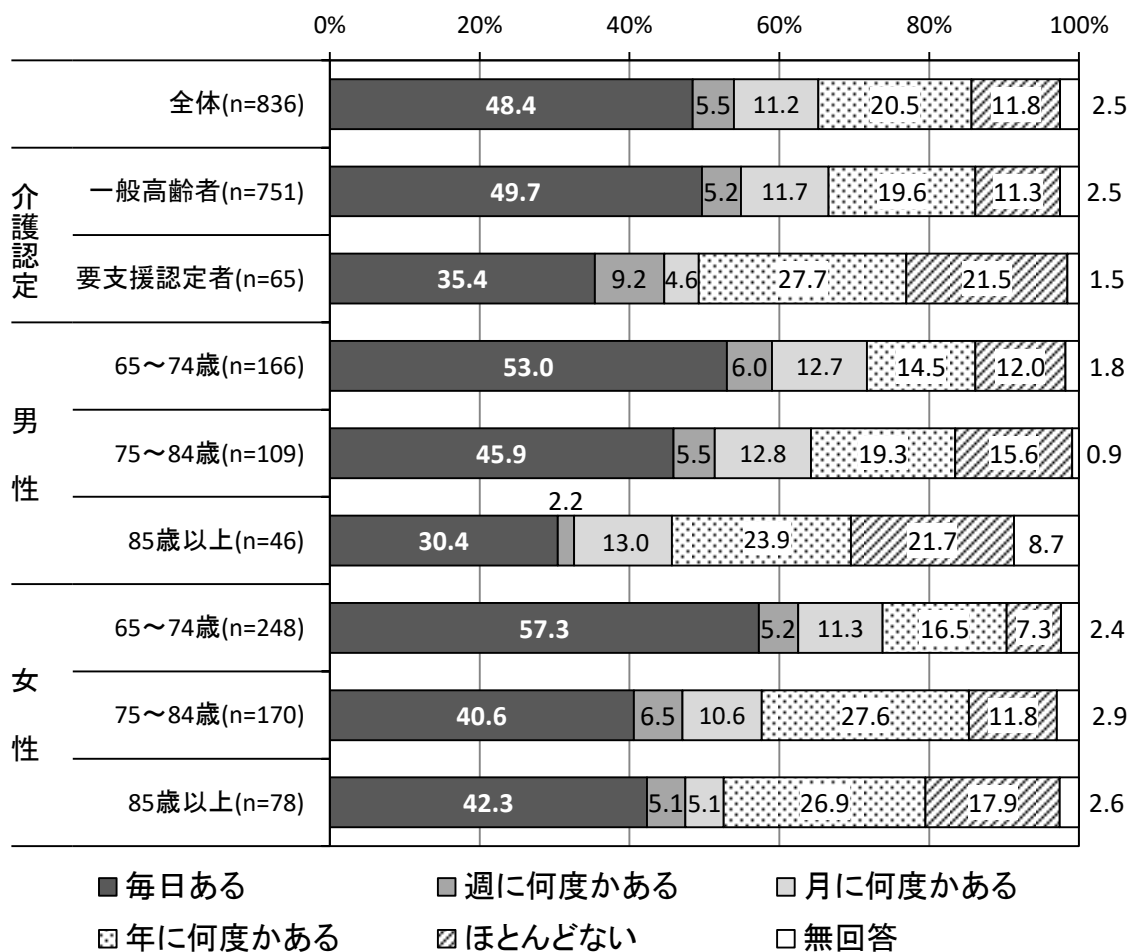


(10) 誰かと食事をする機会はあるか

全体でみると、誰かと食事をとる機会が「毎日ある」は48.4%となっている一方、誰かと食事をする機会が少ないと考えられる「年に何度かある」(20.5%)と「ほとんどない」(11.8%)の合計は32.3%となっています。

介護認定別でみると、要支援認定者は「毎日ある」が35.4%と少なく、「年に何度かある」「ほとんどない」の合計は49.2%と約半数の状況です。

男女年齢階級別でみると、男性は85歳以上で誰かと食事をとる機会が「毎日ある」人が30.4%と非常に少なくなっています。

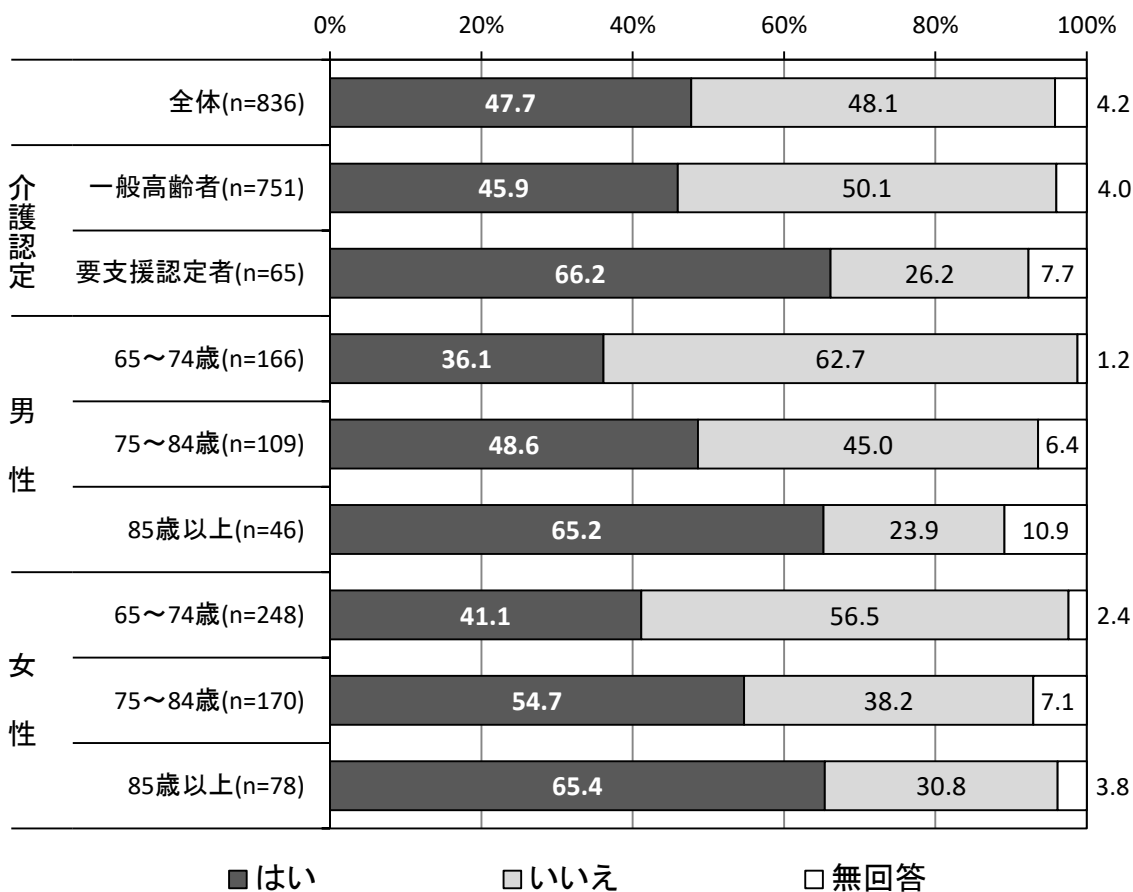


5. 毎日の生活について

(1) 物忘れが多いと感じるか

全体で見ると、物忘れが多いと感じている人は47.7%ですが、要支援認定者は66.2%と多くなっています。

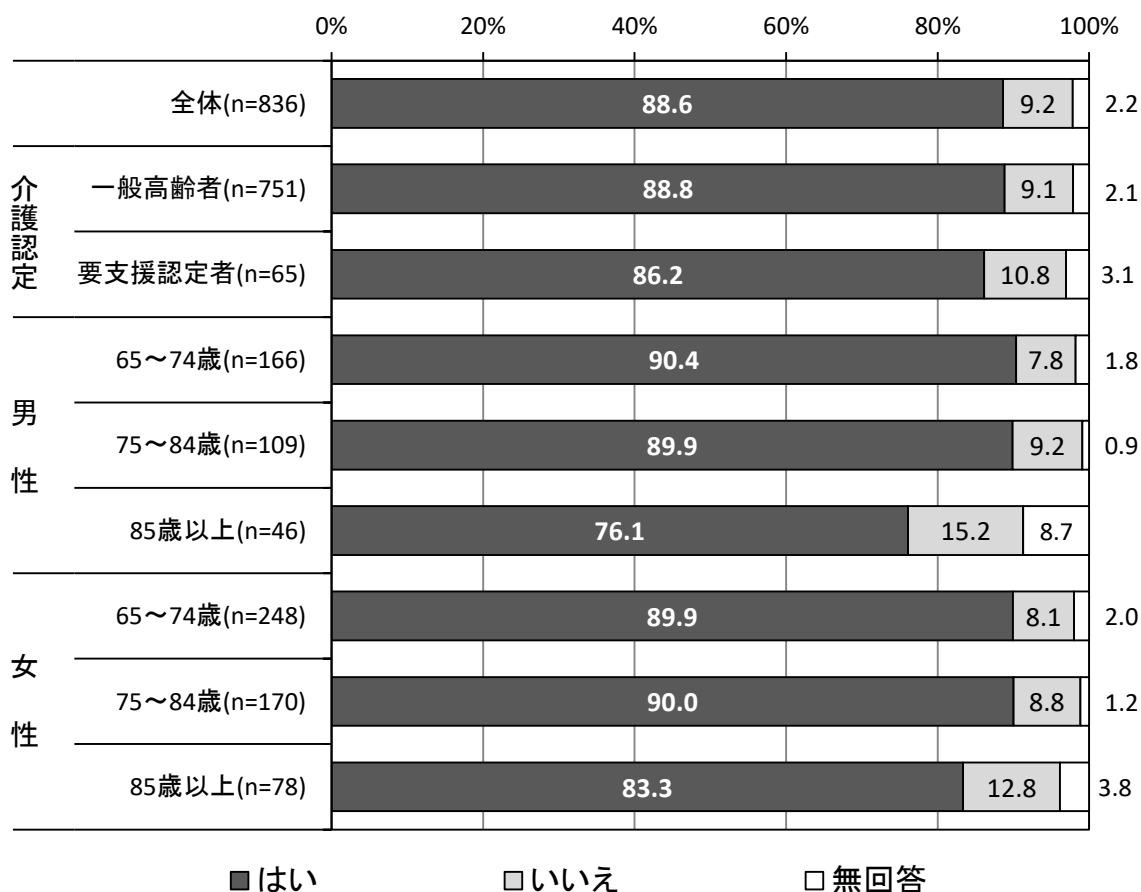
男女年齢階級別で見ると、男女ともに年齢が高くなるにつれて物忘れが多いと感じている人が増えており、85歳以上は60%を超えています。



(2) 自分で電話番号を調べて電話をかけているか

全体で見ると、自分で電話番号を調べて電話をかけている人は88.6%となっており、介護認定別で見ても、大きな差異はみられません。

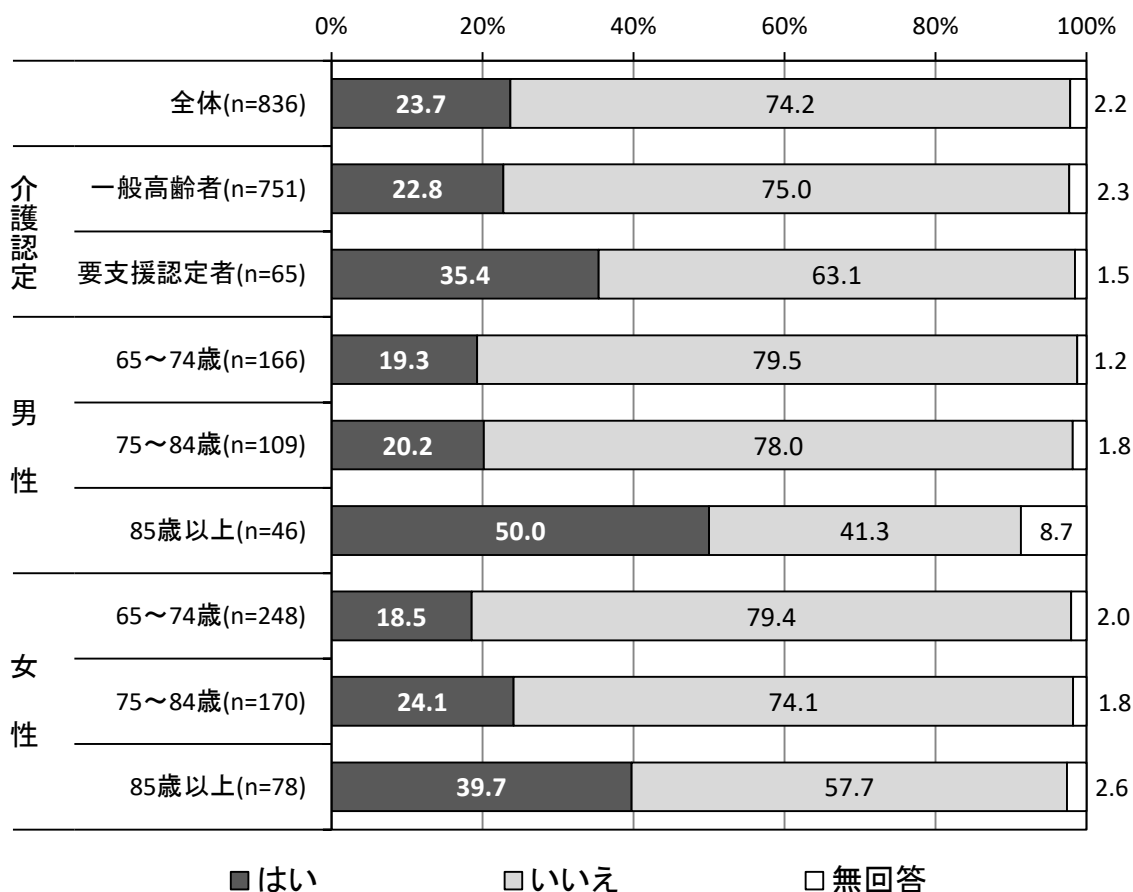
男女年齢階級別で見ると、男女ともに85歳以上は自分で電話番号を調べて電話をかけている人が少ない状況です。



(3) 今日が何月何日かわからないときがあるか

全体で見ると、今日が何月何日かわからないときがある人は23.7%ですが、要支援認定者はその割合が35.4%とやや多くなっています。

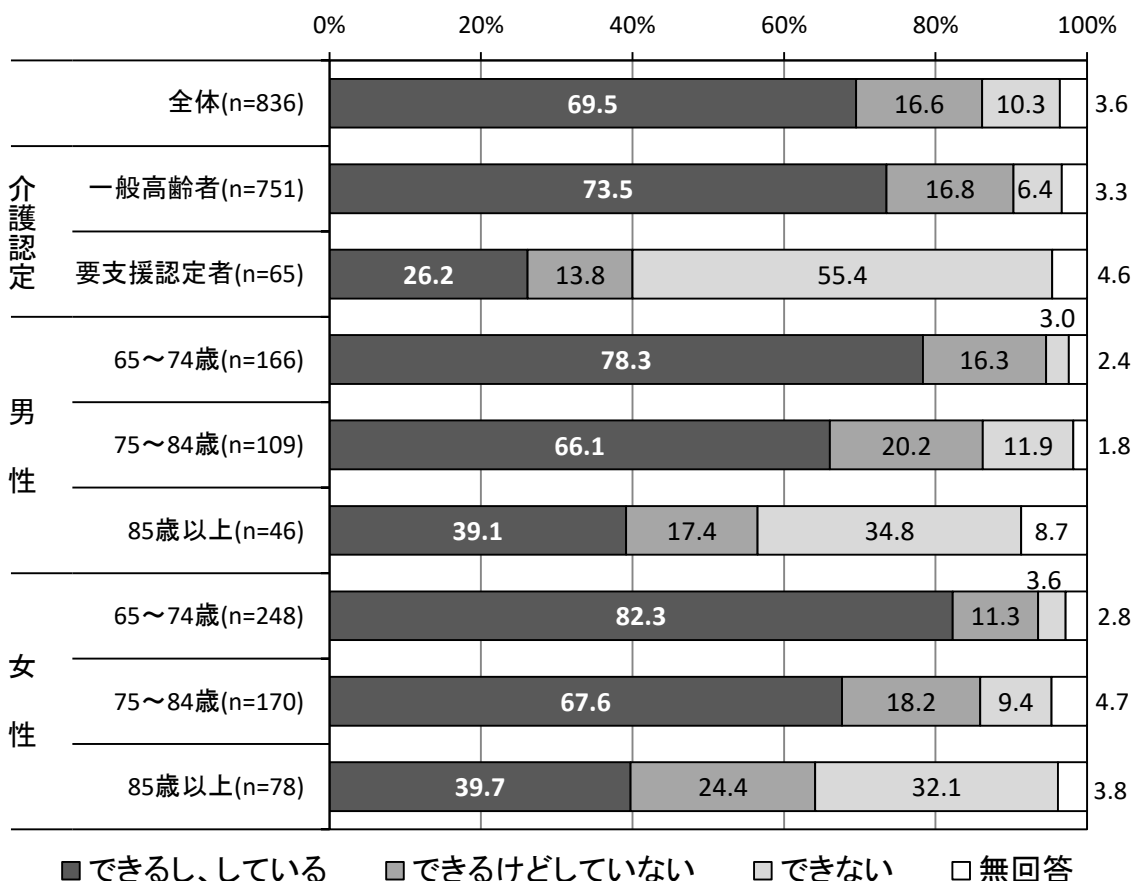
男女年齢階級別で見ると、85歳以上の男性は今日が何月何日かわからないときがある人が50.0%と多くなっています。



(4) バスや電車で1人で外出しているか

全体で見ると、「できるし、している」が 69.5%を占めていますが、要支援認定者はその割合が 26.2%と少なくなっています。

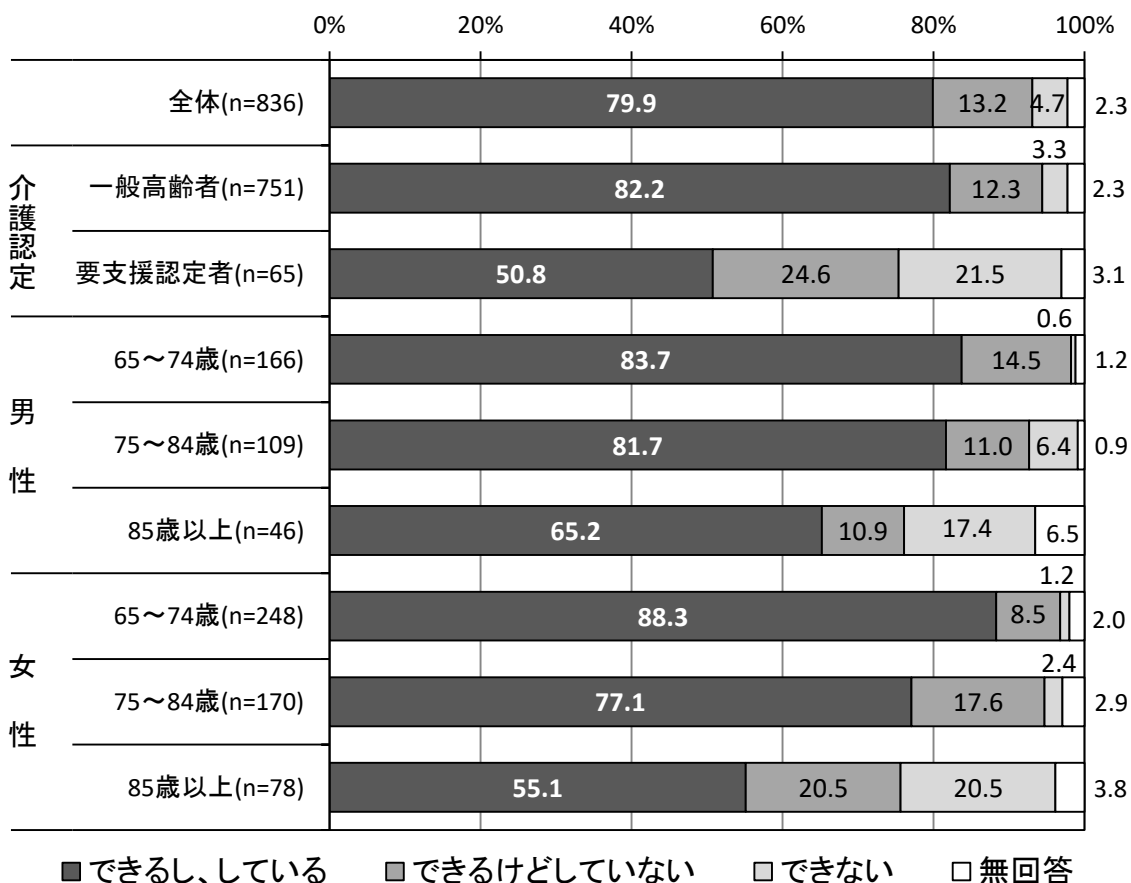
男女年齢階級別で見ると、男女ともに年齢が高くなるにつれて「できるし、している」が少なくなり、「できない」が多くなっています。



(5) 自分で食品・日用品の買い物をしているか

全体で見ると、「できるし、している」が 79.9%を占めていますが、要支援認定者はその割合が 50.8%と少なくなっています。

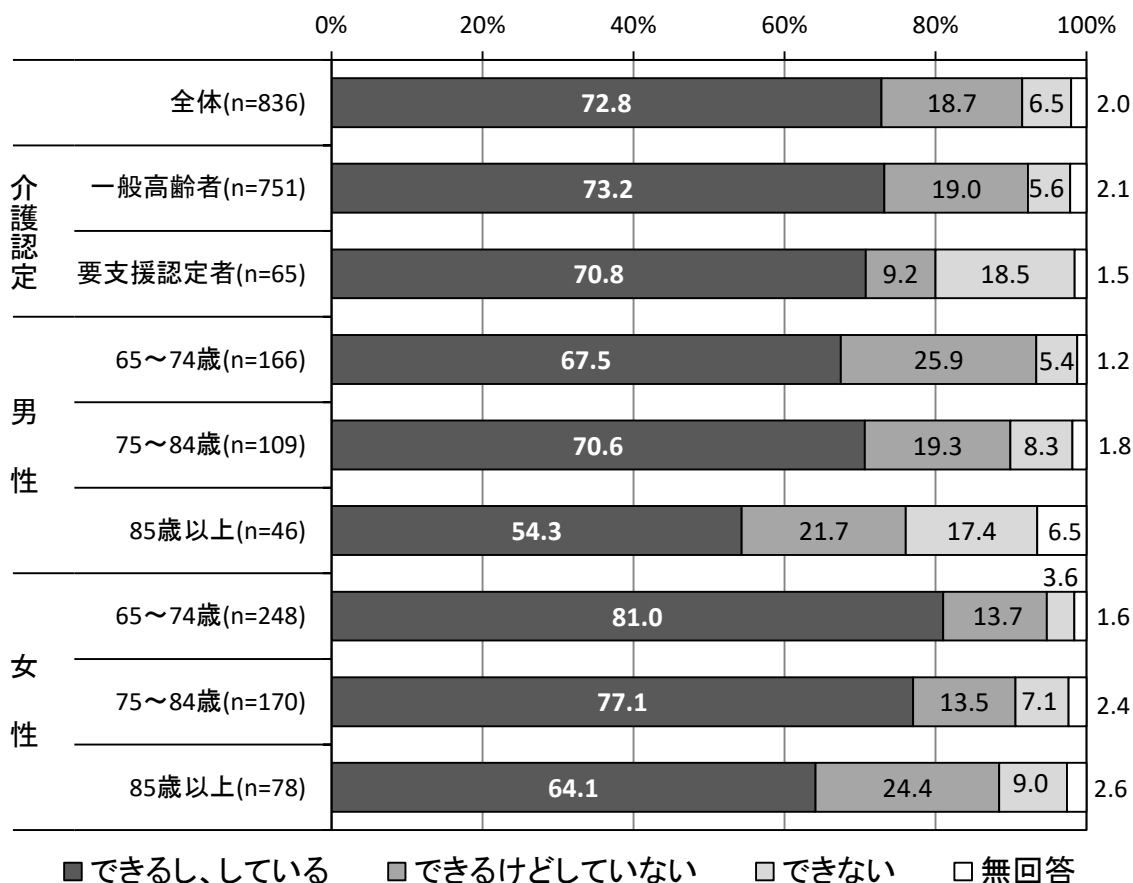
男女年齢階級別で見ると、男女ともに年齢が高くなるにつれて「できるし、している」が少なくなっています。



(6) 自分で食事の用意をしているか

全体で見ると、「できるし、している」が72.8%を占め、「できない」は6.5%となっていますが、要支援認定者は「できない」が18.5%と多くなっています。

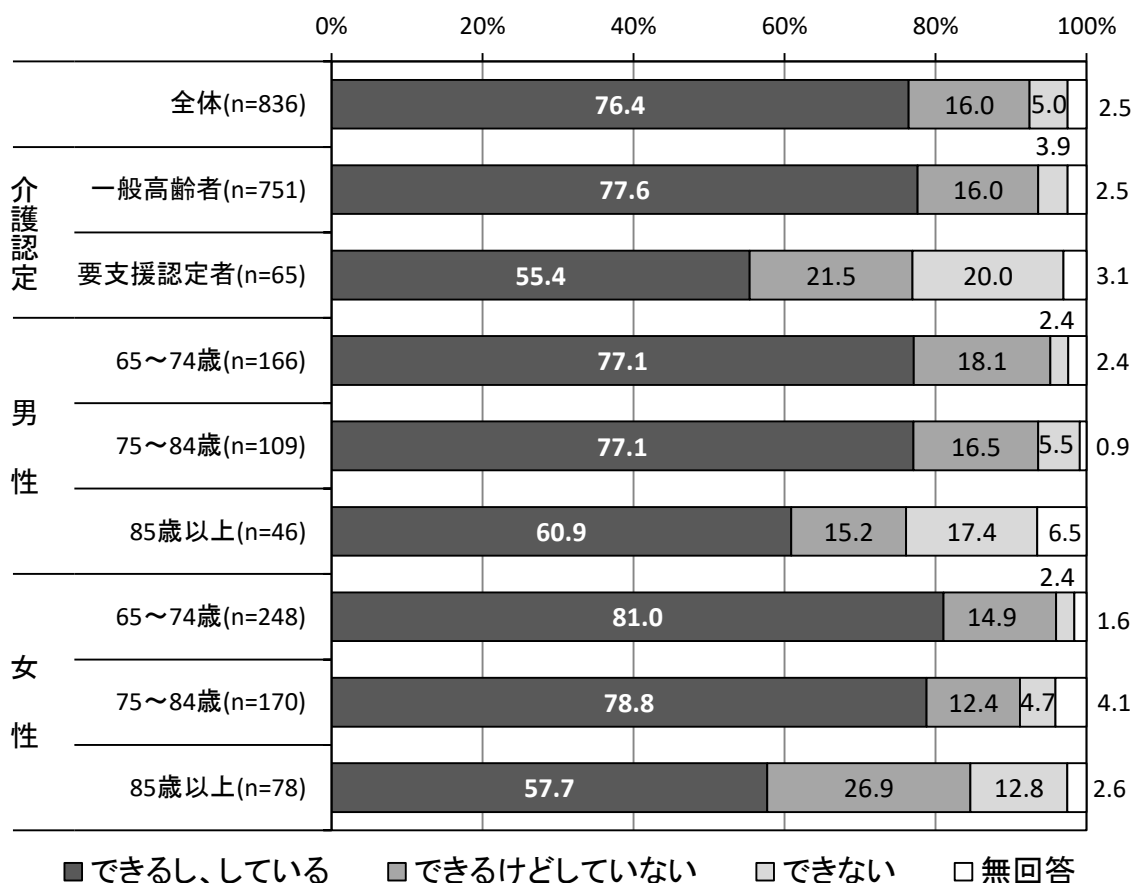
男女年齢階級別で見ると、男女ともに85歳以上は「できるし、している」の割合が少なく、特に男性は「できない」が17.4%と多くなっています。



(7) 自分で請求書の支払いをしているか

全体で見ると、「できるし、している」が76.4%を占めていますが、要支援認定者は「その割合が55.4%と少なくなっています。

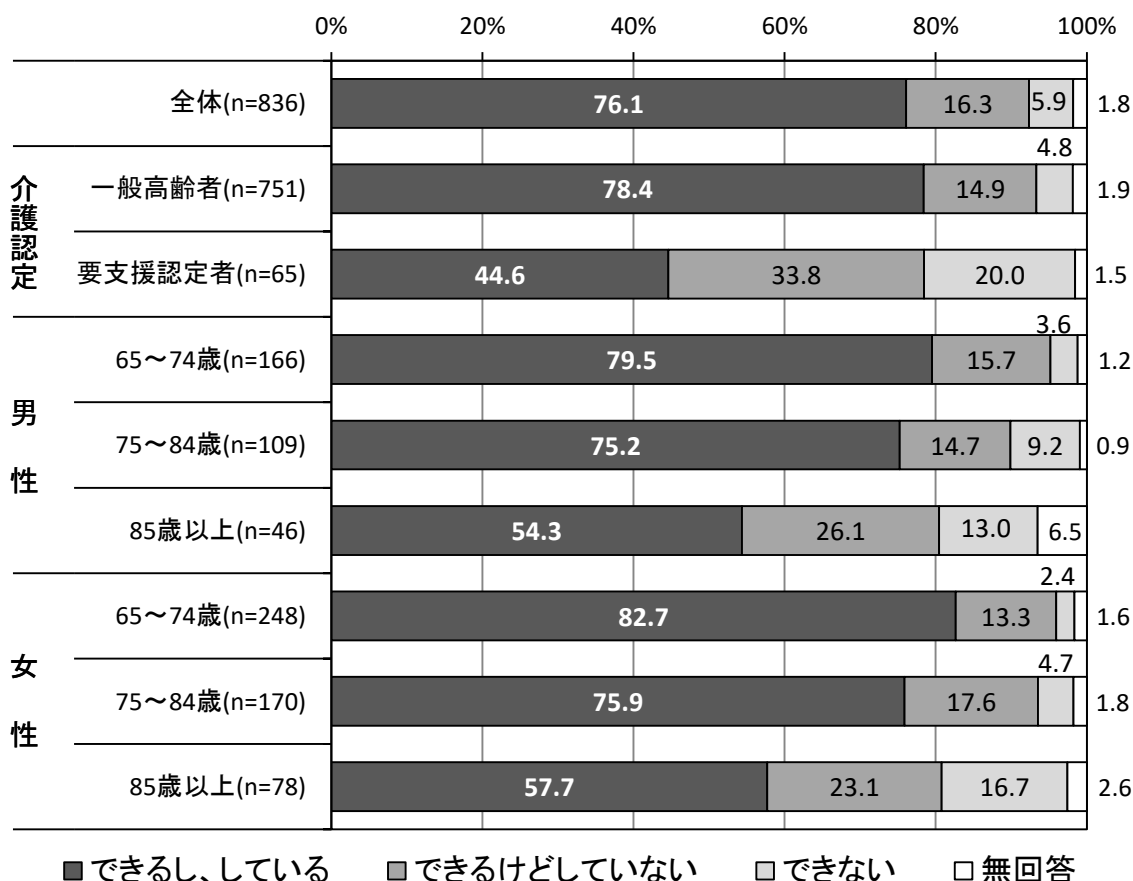
男女年齢階級別で見ると、男女ともに85歳以上で「できない」が多くなっています。



(8) 自分で預貯金の出し入れをしているか

全体で見ると、「できるし、している」が 76.1%を占めていますが、要支援認定者はその割合が 44.6%と少なくなっています。

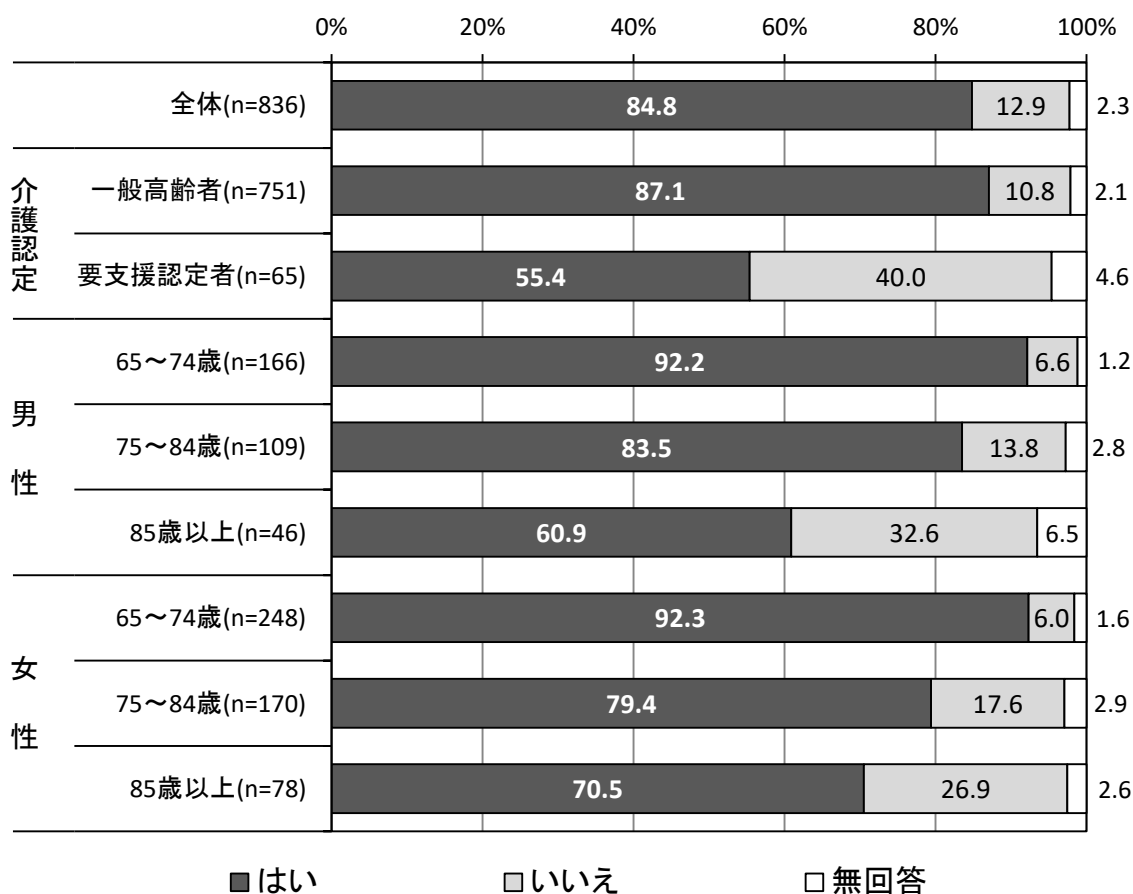
男女年齢階級別で見ると、男女ともに年齢が高くなるにつれ「できるし、している」が少なく、「できない」が多くなっています。



(9) 年金などの書類が書けるか

全体でみると、年金などの書類が書ける人が84.8%を占めていますが、要支援認定者はその割合が55.4%と少なくなっています。

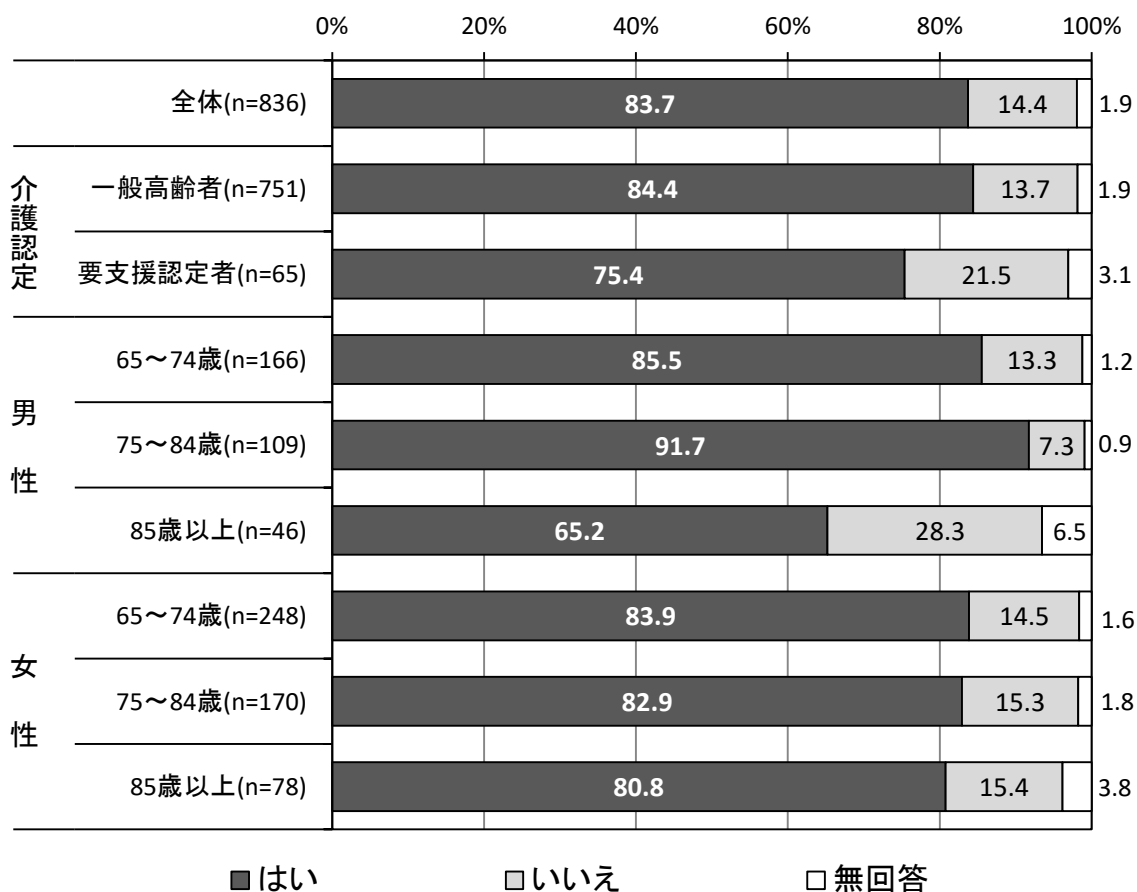
男女年齢階級別でみると、男女ともに年齢が高くなるにつれて年金などの書類が書ける人の割合が少なくなっています。



(10) 新聞を読んでいるか

全体で見ると、新聞を読んでいる人が83.7%を占めていますが、要支援認定者はその割合が75.4%とやや少なくなっています。

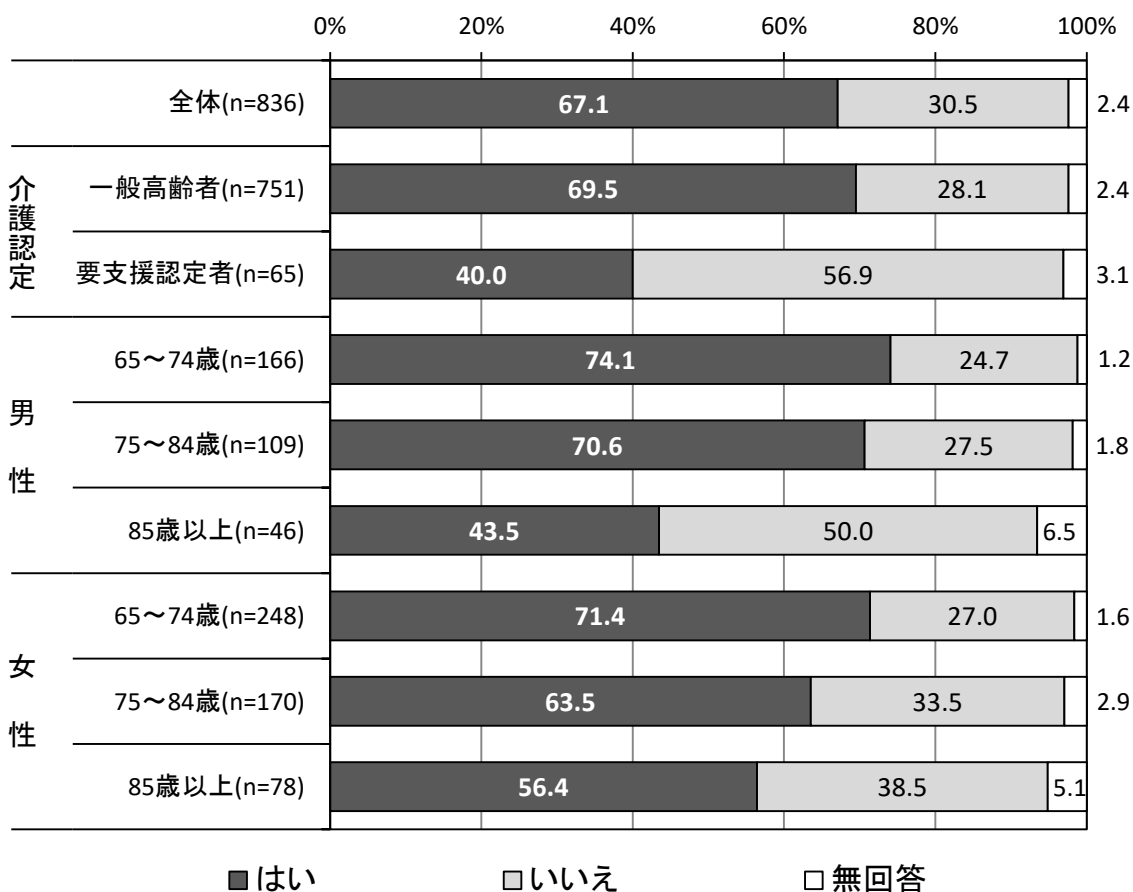
男女年齢階級別で見ると、男性は85歳以上になると新聞を読んでいる人に割合が65.2%と少なくなっていますが、女性は年齢にかかわらず80%以上が新聞を読んでいる状況です。



(11) 本や雑誌を読んでいるか

全体で見ると、本や雑誌を読んでいる人が 67.1% となっていますが、要支援認定者はその割合が 40.0% と少なくなっています。

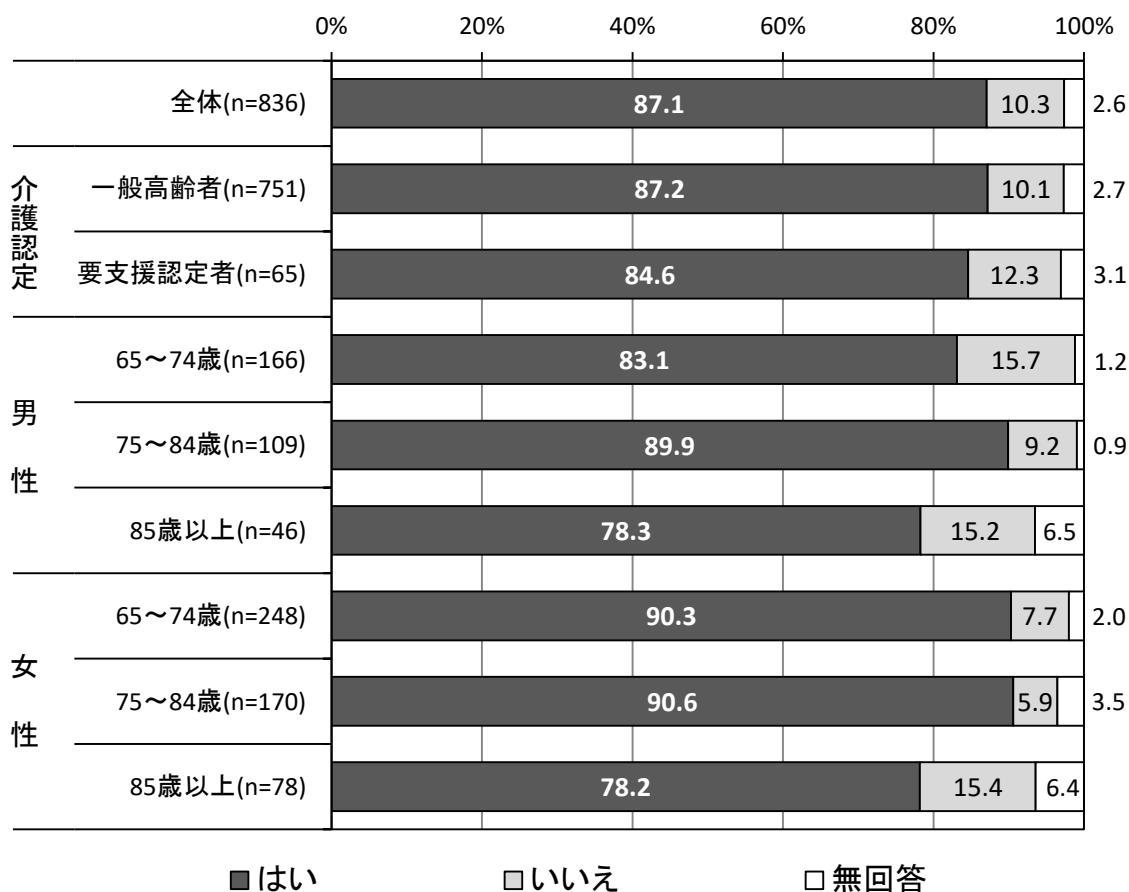
男女年齢階級別で見ると、男女ともに年齢が高くなるにつれ本や雑誌を読んでいる人が少なくなり、特に男性は 85 歳未満と 85 歳以上でその割合に差異がある状況です。



(12) 健康についての記事や番組に関心があるか

全体で見ると、健康についての記事や番組に関心がある人が87.1%を占めており、介護認定別にみても大きな差異はみられません。

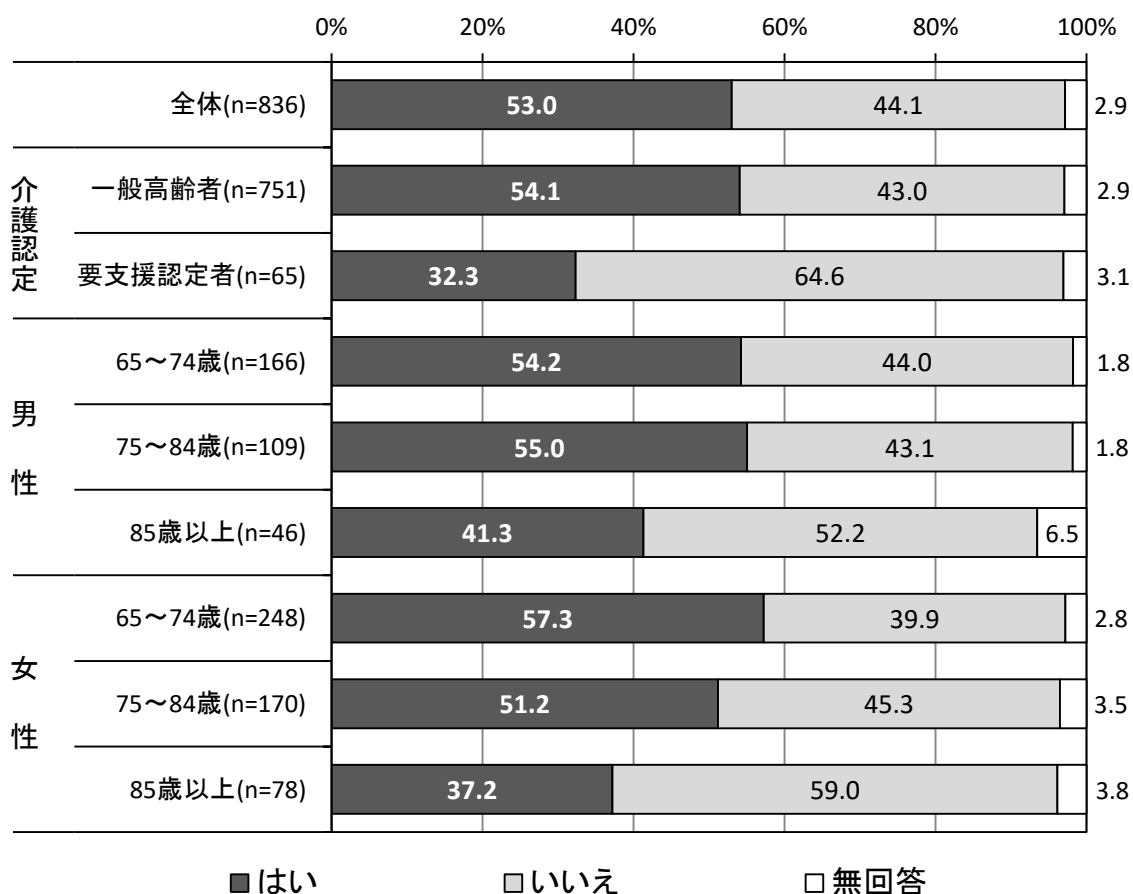
男女年齢階級別で見ると、男女ともに85歳以上で健康についての記事や番組に関心がある人が少なくなっています。



(13) 友人の家を訪ねているか

全体で見ると、友人の家を訪ねている人が53.0%となっていますが、要支援認定者はその割合が32.3%と少なくなっています。

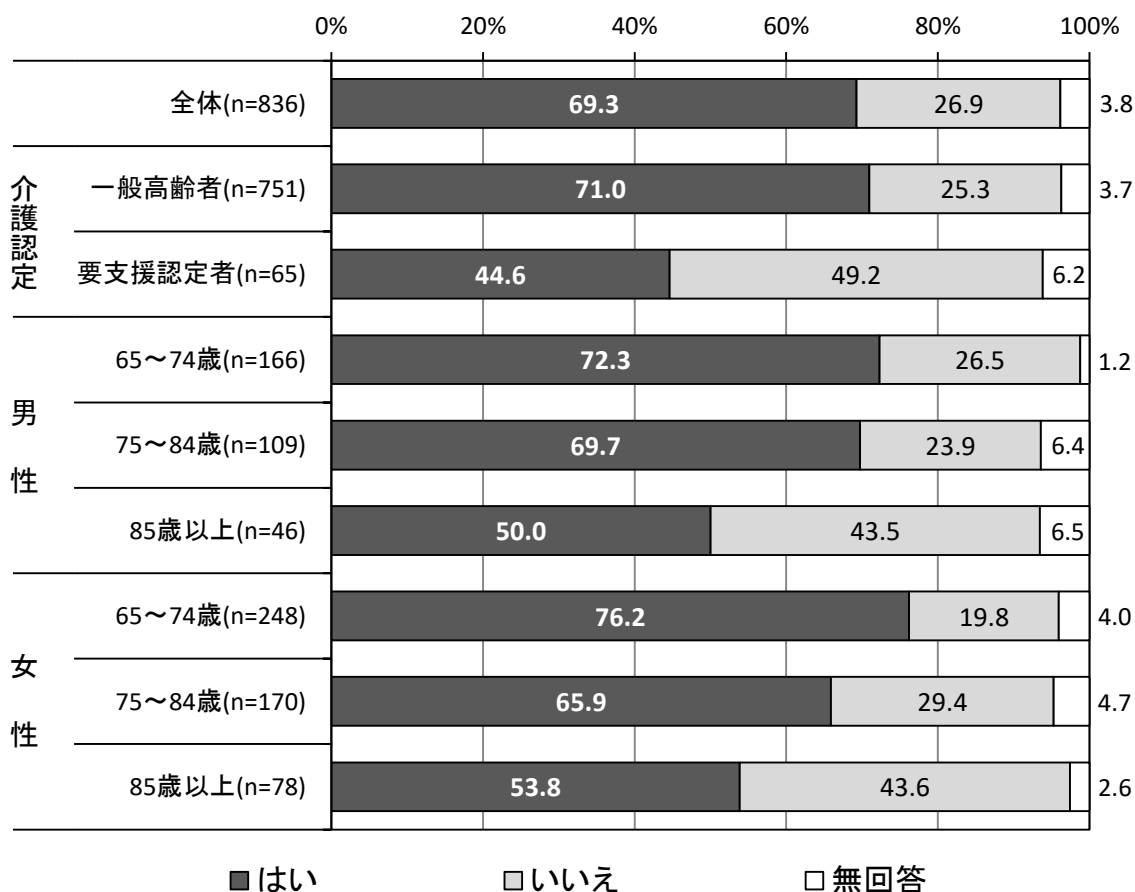
男女年齢階級別で見ると、男性は85歳以上で友人の家を訪ねている人が少なくなり、女性は年齢が高くなるにつれて徐々に少なくなっています。



(14) 家族や友人の相談にのっているか

全体で見ると、家族や友人の相談にのっている人が 69.3% となっていますが、要支援認定者はその割合が 44.6% と少なくなっています。

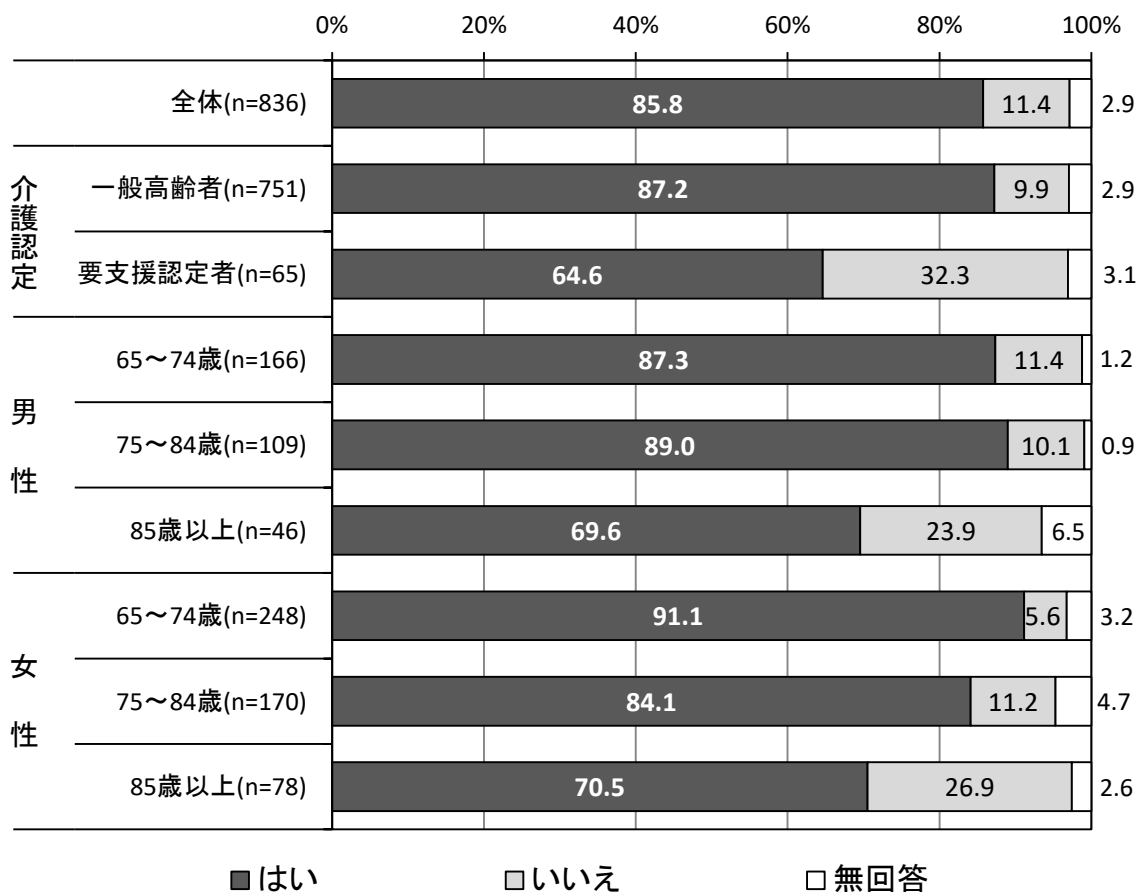
男女年齢階級別で見ると、男性は 85 歳以上で家族や友人の相談にのっている人が少なくなり、女性は年齢が高くなるにつれて徐々に少なくなっています。



(15) 病人を見舞うことができるか

全体で見ると、病人を見舞うことができる人が85.8%を占めていますが、要支援認定者はその割合が64.6%と少なくなっています。

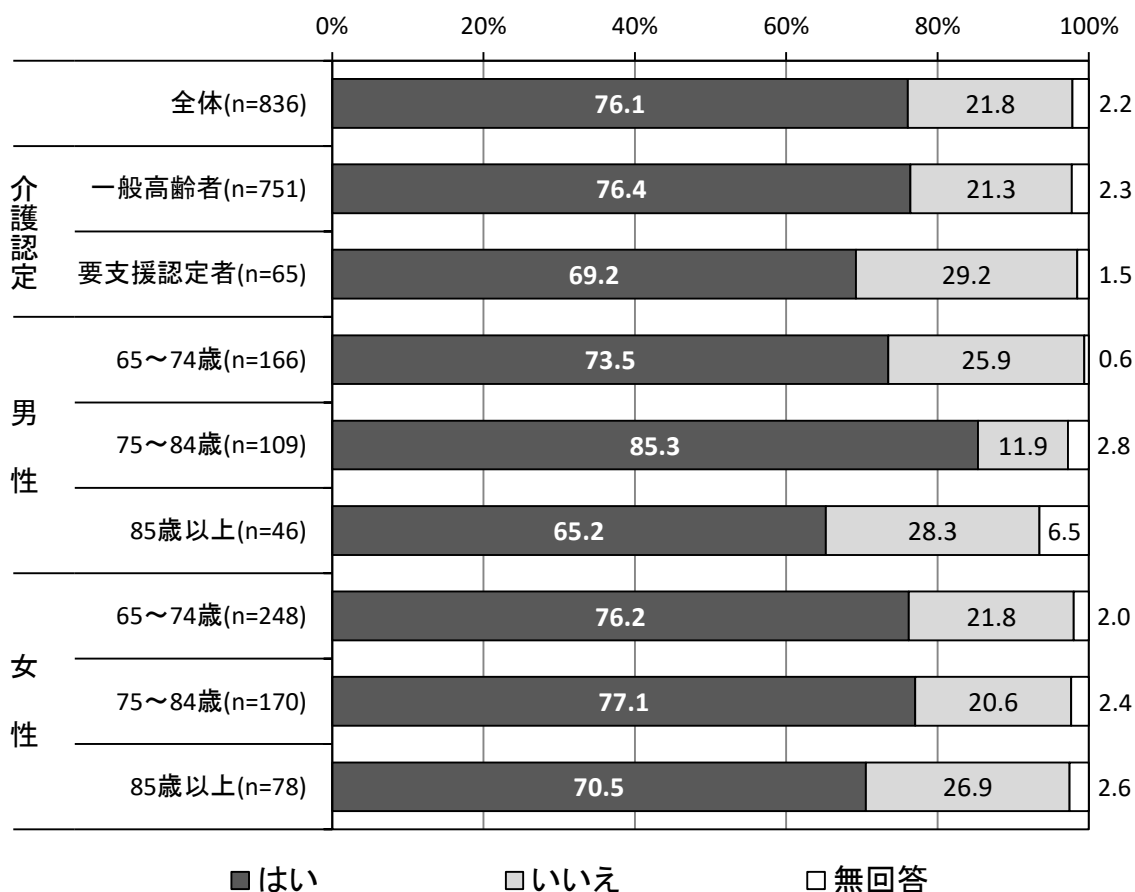
男女年齢階級別で見ると、男女ともに病人を見舞うことができる人の割合が85歳以上で少なくなっています。



(16) 若い人に自分から話しかけることがあるか

全体でみると、若い人に自分から話しかけることがある人が76.1%を占めていますが、要支援認定者はその割合が69.2%とやや少なくなっています。

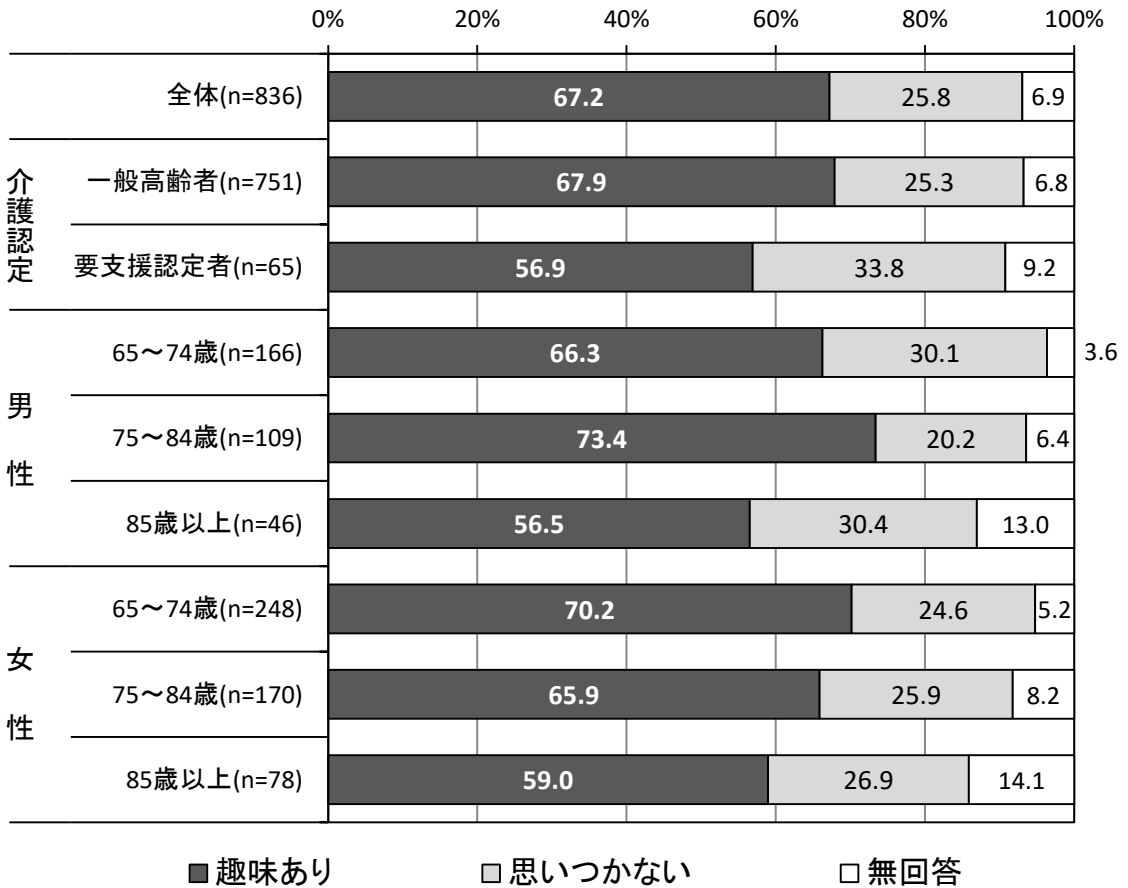
男女年齢階級別でみると、男女ともに85歳以上で若い人に自分から話しかけることがある人が少なくなっています。



(17) 趣味はあるか

全体でみると、「趣味あり」が 67.2%となっており、要支援認定者はその割合が 56.9%と少なくなっています。

男女年齢階級別でみると、男女ともに 85 歳以上で「趣味あり」が最も少なくなっています。



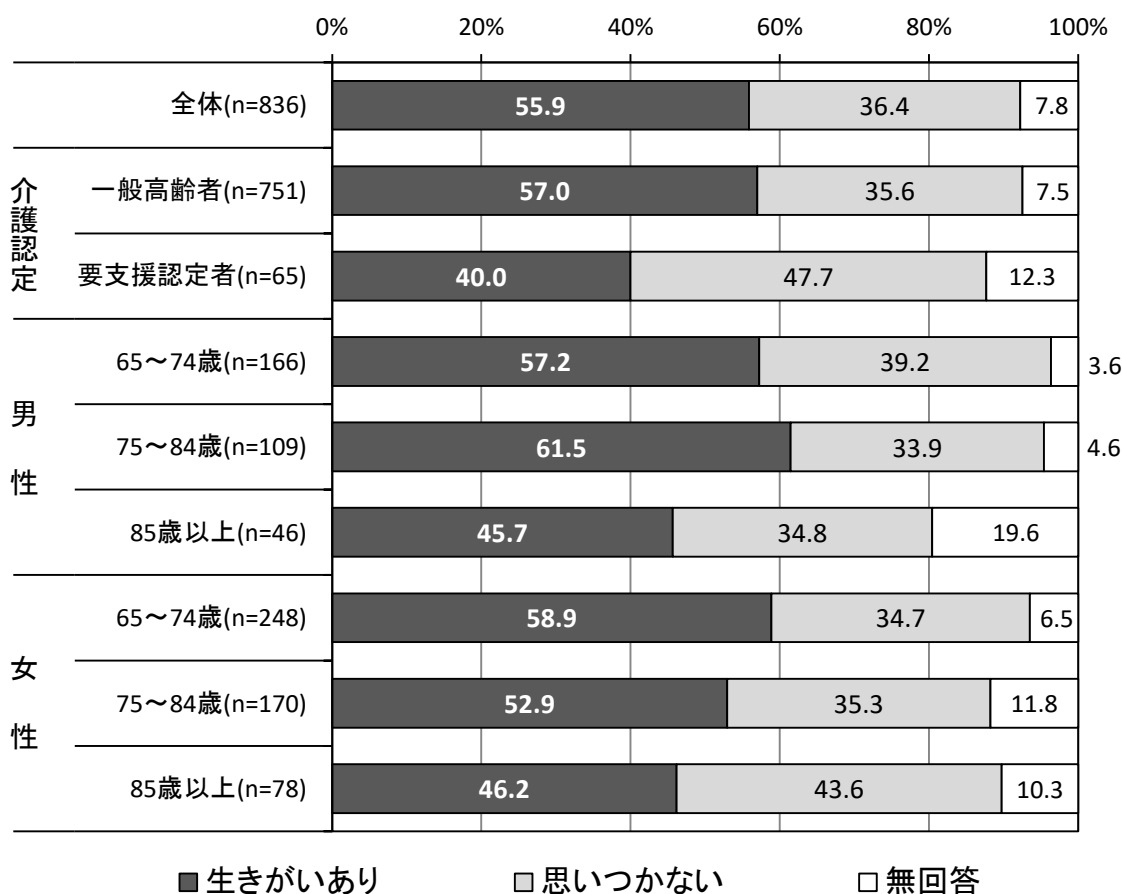
■ 趣味の内容

男性	女性
<ul style="list-style-type: none"> ・ 家庭菜園、ガーデニング、畑 ・ パークゴルフ、ゴルフ ・ 手芸、編み物 ・ 魚釣り ・ 軽い運動、ウォーキング ・ 読書 ・ 音楽鑑賞、映画鑑賞（TV含む） ・ カラオケ ・ ドライブ ・ 麻雀、パチンコ、競馬 ・ 楽器、囲碁 など 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 手芸、編み物、パッチワーク ・ 家庭菜園、ガーデニング、畑 ・ 読書 ・ 花づくり、花の手入れ ・ パークゴルフ ・ ダンス ・ カラオケ ・ 釣り ・ クロスワード、ナンプレ ・ ウォーキング ・ 書道、茶道 など

(18) 生きがいはあるか

全体で見ると、「生きがいあり」が 55.9%となっており、要支援認定者はその割合が 40.0%と少なくなっています。

男女年齢階級別で見ると、男女ともに 85 歳以上で「生きがいあり」が最も少なくなっています。



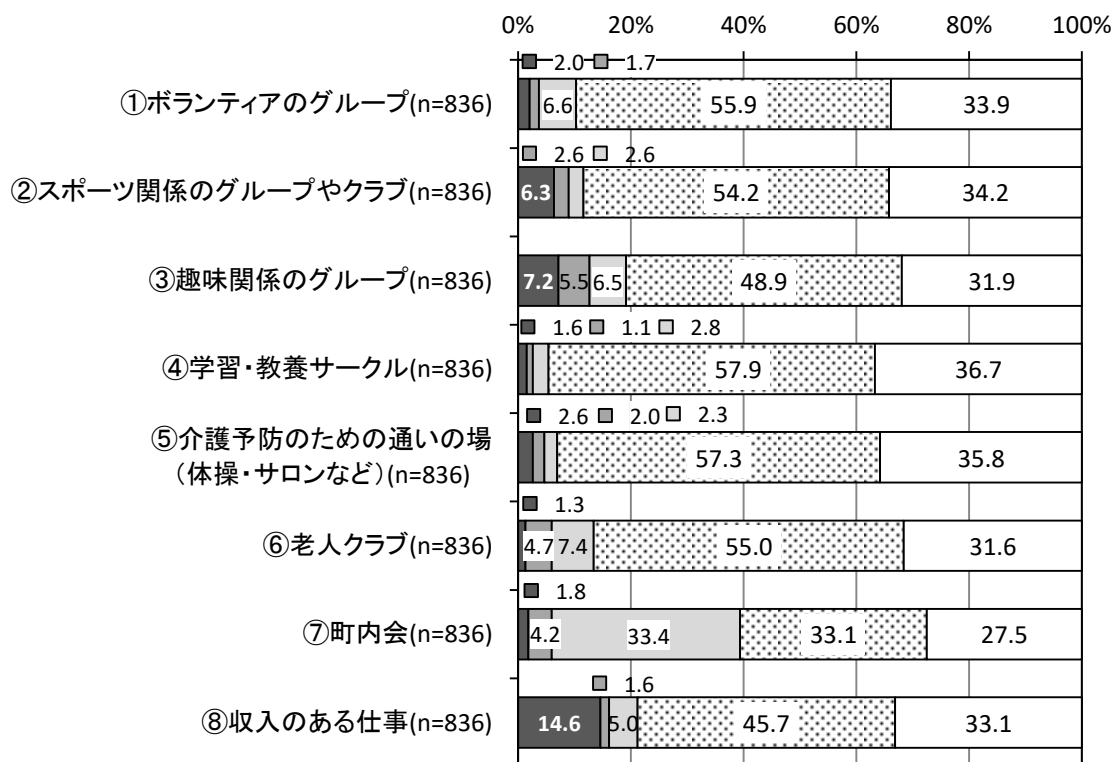
■ 生きがいの内容

男性	女性
<ul style="list-style-type: none"> ・ 孫の成長、孫と遊ぶ ・ 仕事 ・ 趣味 ・ 動物の世話 ・ 家族や友人との交流 ・ 旅行 ・ 健康な生活 など 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子ども、孫の成長、孫と遊ぶ ・ 友人との交流 ・ 旅行 ・ 仕事 ・ 趣味 ・ 動物の世話 ・ 畑仕事、ガーデニング ・ 健康な生活 など

6. 地域での活動について

(1) 地域活動等への参加頻度

地域活動等への参加頻度をみると、⑧収入のある仕事、③趣味関係のグループ、②スポーツ関係のグループやクラブは「週1回以上」の割合が多くなっています。
逆に「参加していない」が多い項目は、④学習・教養サークルとなっています。



■ 週1回以上 ■ 月1~3回 ■ 年に数回 ■ 参加していない □ 無回答

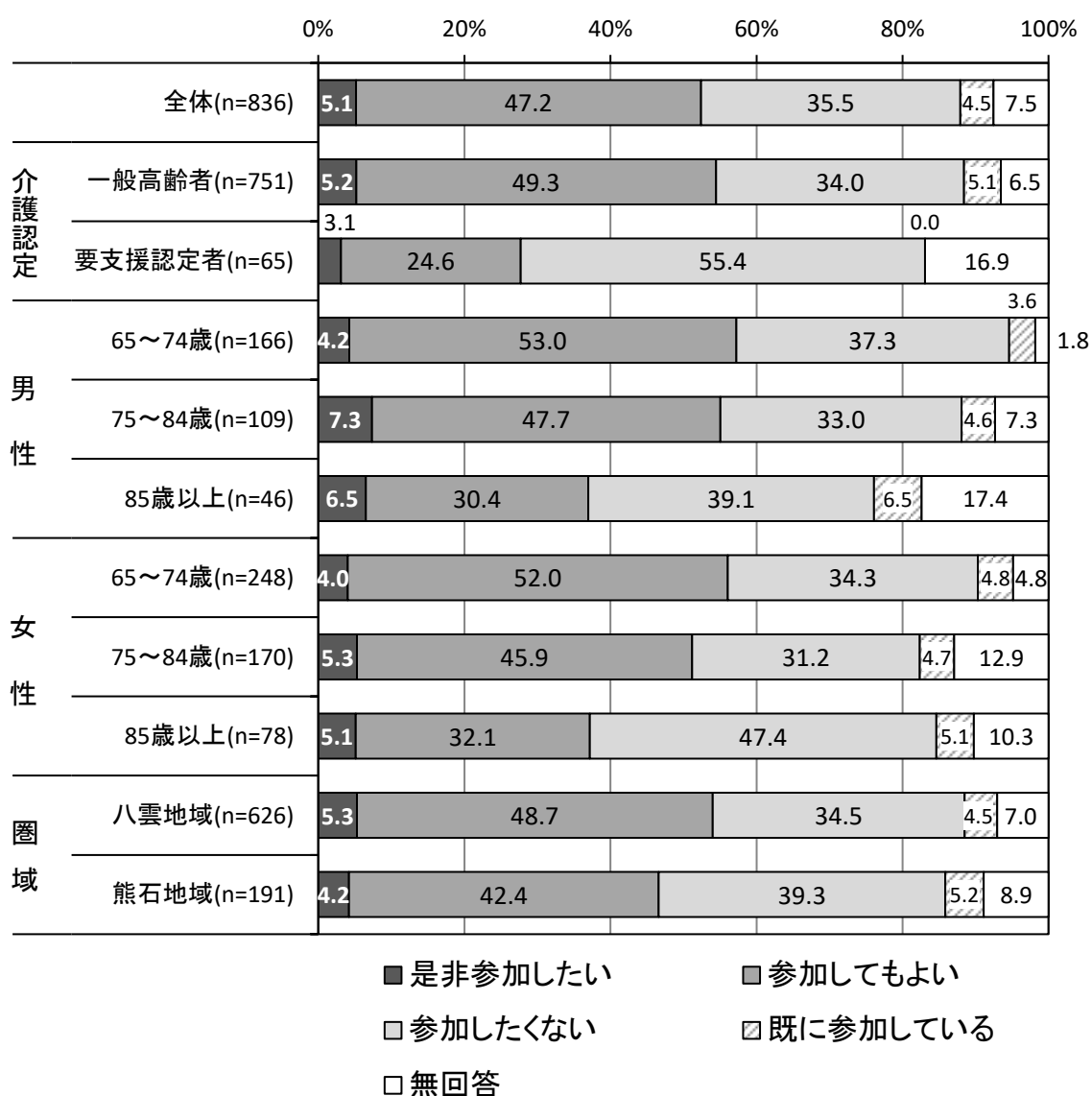
(2) 地域づくり活動への参加者としての参加意向

全体でみると、「是非参加したい」(5.1%)、「参加してもよい」(47.2%)の合計は52.3%で約半数に参加意向がみられます。

介護認定別でみると、一般高齢者は「参加したくない」が34.0%ですが、要支援認定者は55.4%と多くなっています。

男女年齢階級別でみると、男女ともに年齢が高くなるにつれて参加意向のある人の割合が少なくなっています。

圏域別でみると、「是非参加したい」と「参加してもよい」の合計は八雲地域が54.0%、熊石地域が46.6%となっています。



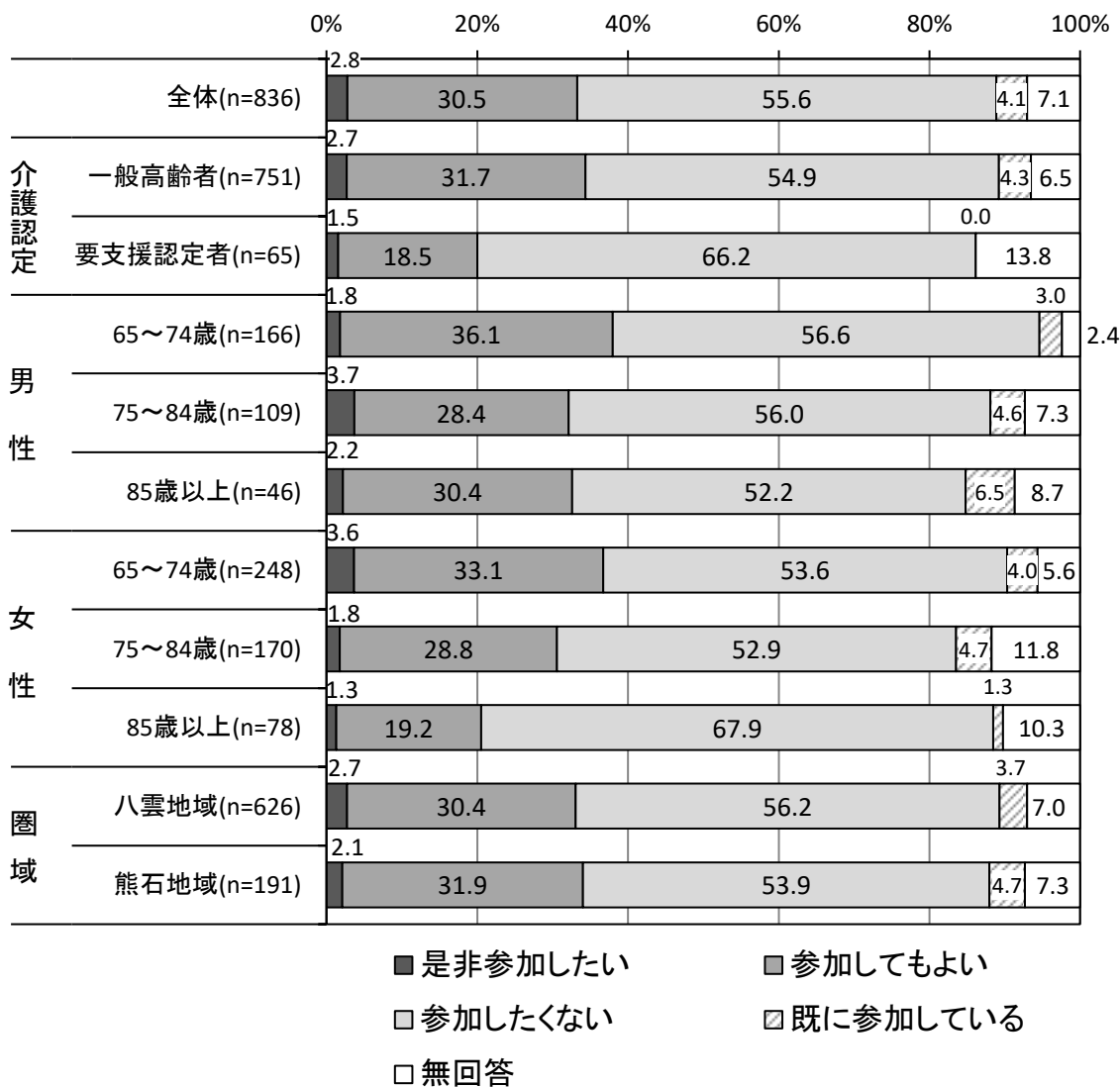
(3) 地域づくり活動への企画・運営としての参加意向

全体で見ると、「是非参加したい」(2.8%)、「参加してもよい」(30.5%)の合計は33.3%となっています。

介護認定別にみると、要支援認定者は「参加したくない」が66.2%を占め、参加意向のある人は20.0%にとどまっています。

男女年齢階級別で見ると、女性は年齢が高くなるにつれて参加意向のある人は少なくなり、85歳以上は20.5%と非常に少なくなっています。

圏域別で見ると、参加意向のある人の割合に大きな差異はみられません。

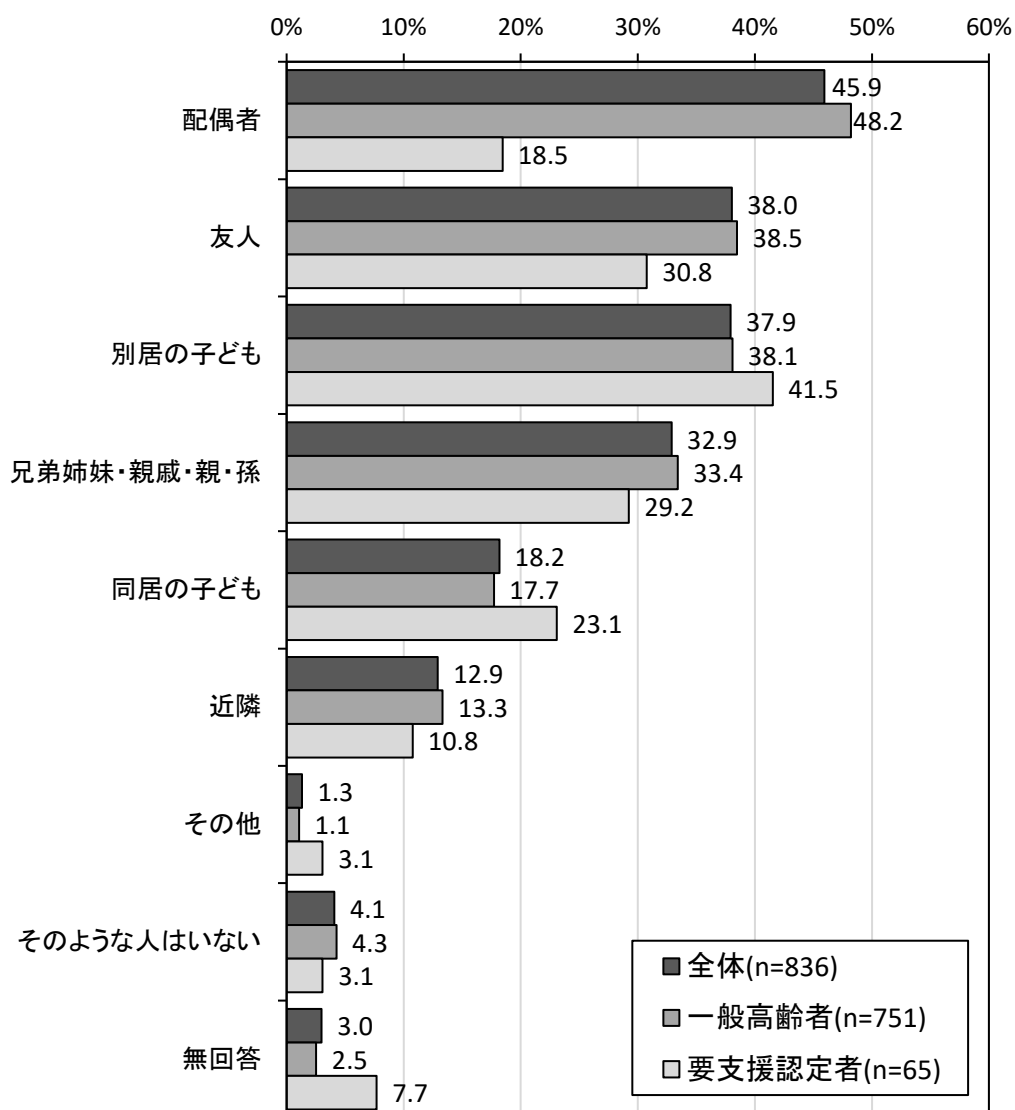


7. たすけあいについて

(1) 心配事や愚痴を聞いてくれる人【複数回答】

全体で見ると、「配偶者」が45.9%で最も多く、次いで「友人」(38.0%)、「別居の子ども」(37.9%)と続いています。

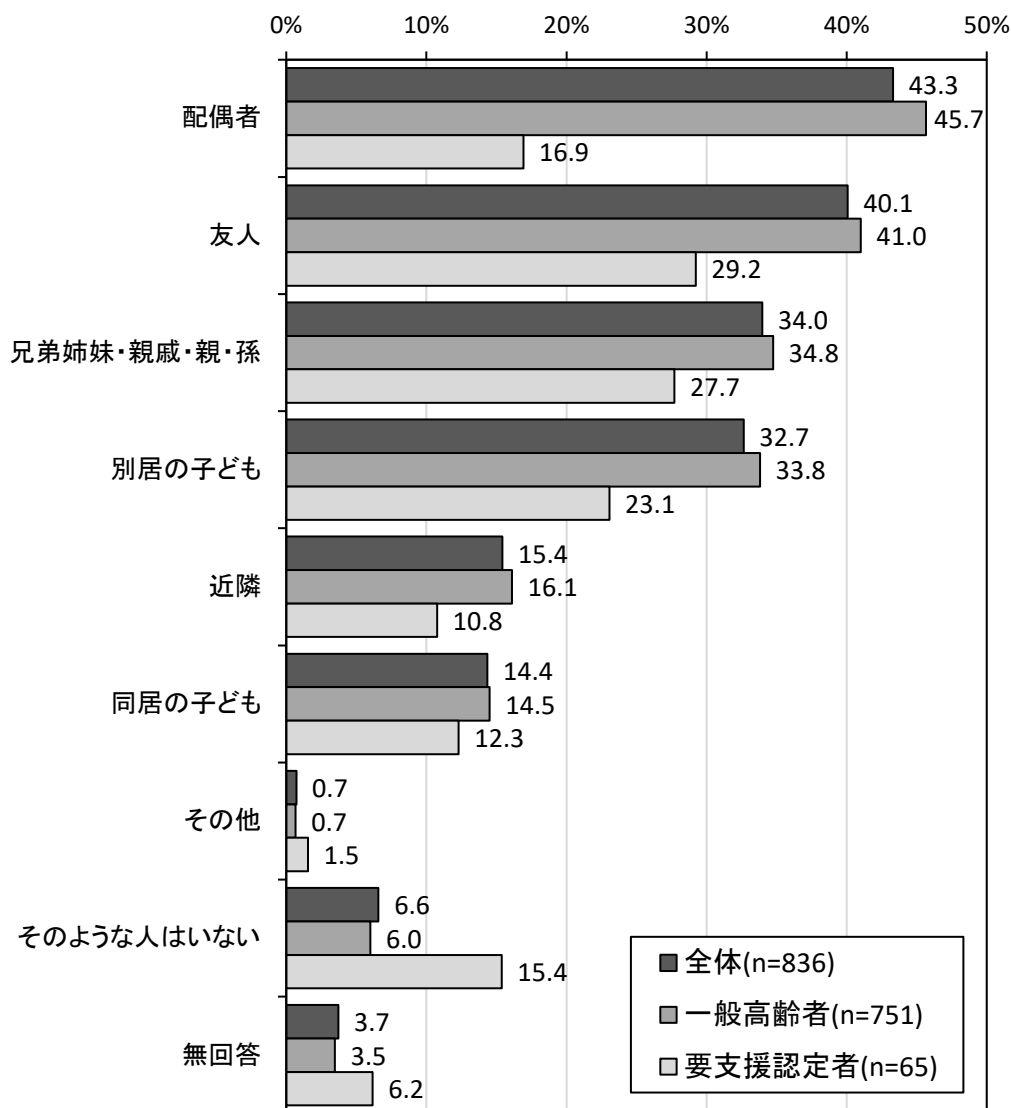
介護認定別で見ると、要支援認定者は「別居の子ども」が41.5%で最も多く、次いで「友人」(30.8%)、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」(29.2%)が続いています。



(2) 心配事や愚痴を聞いてあげる人【複数回答】

全体で見ると、「配偶者」が43.3%で最も多く、次いで「友人」(40.1%)、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」(34.0%)と続いています。

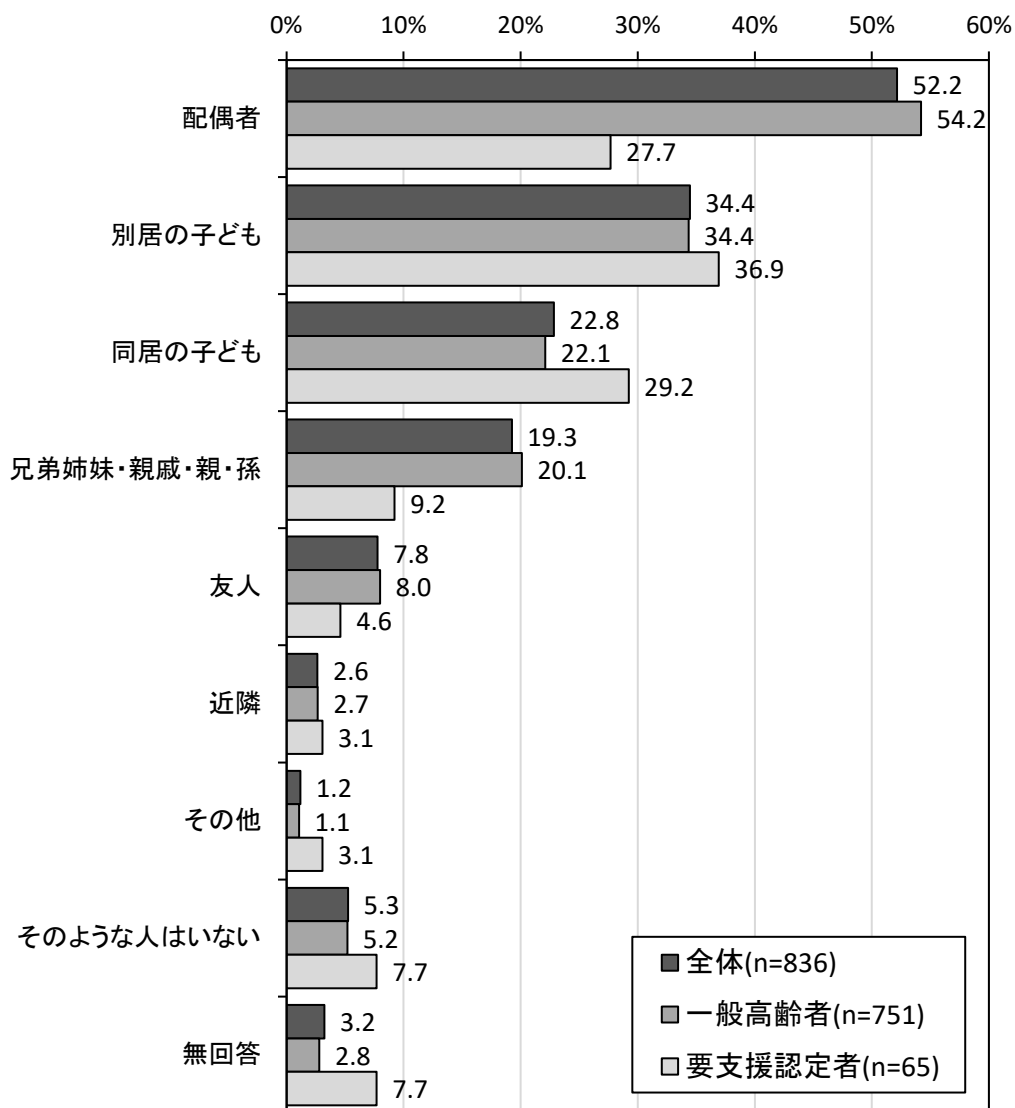
介護認定別で見ると、要支援認定者は「友人」が29.2%で最も多く、次いで「兄弟姉妹・親戚・親・孫」(27.7%)、「別居の子ども」(23.1%)が続いています。



(3) 病気のと看病等をしてくれる人【複数回答】

全体で見ると、「配偶者」が52.2%で最も多く、次いで「別居の子ども」(34.4%)、「同居の子ども」(22.8%)と続いています。

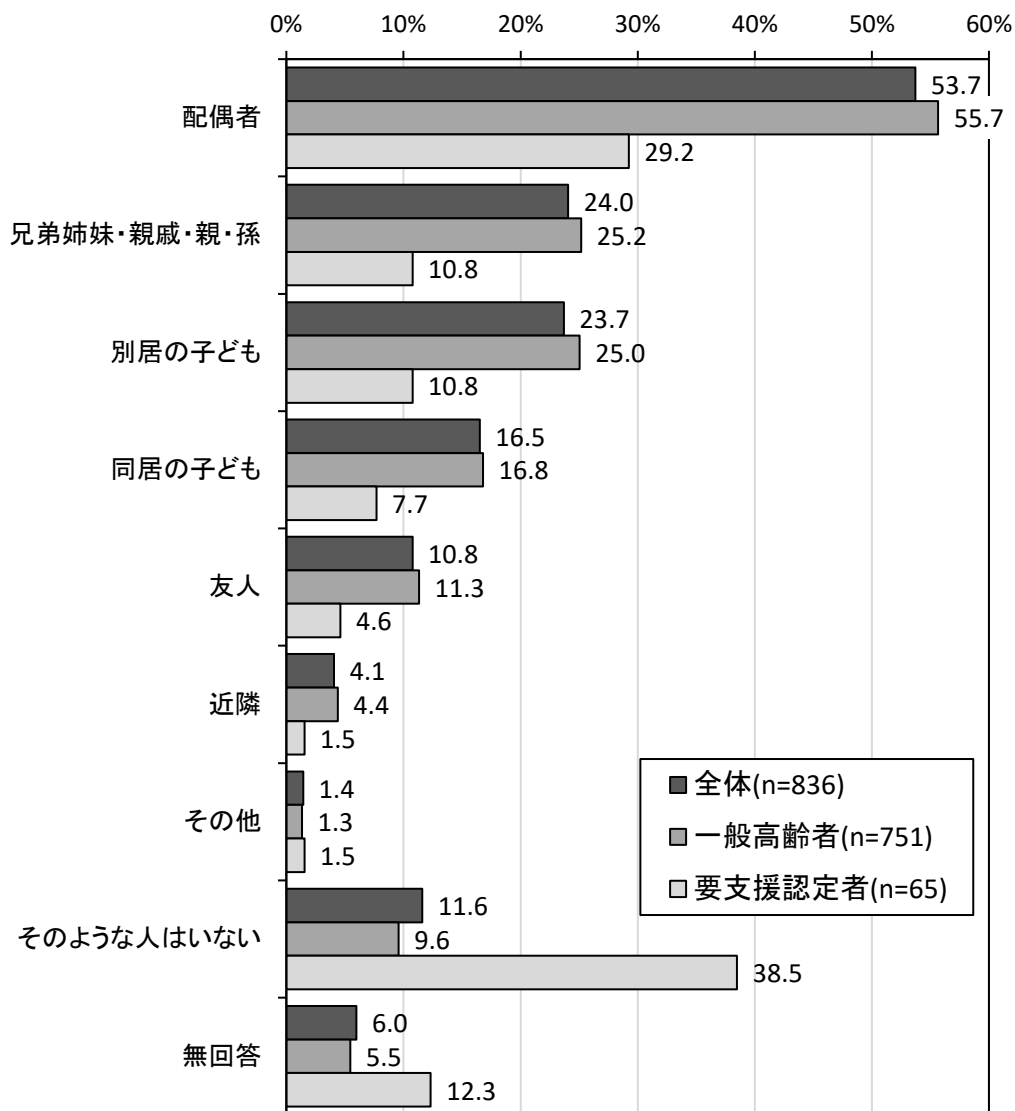
介護認定別で見ると、要支援認定者は「別居の子ども」が36.9%で最も多く、次いで「同居の子ども」(29.2%)、「配偶者」(27.7%)が続いています。



(4) 病気のと看病等をしてあげる人【複数回答】

全体でみると、「配偶者」が53.7%で最も多く、次いで「兄弟姉妹・親戚・親・孫」(24.0%)、「別居の子ども」(23.7%)と続いています。

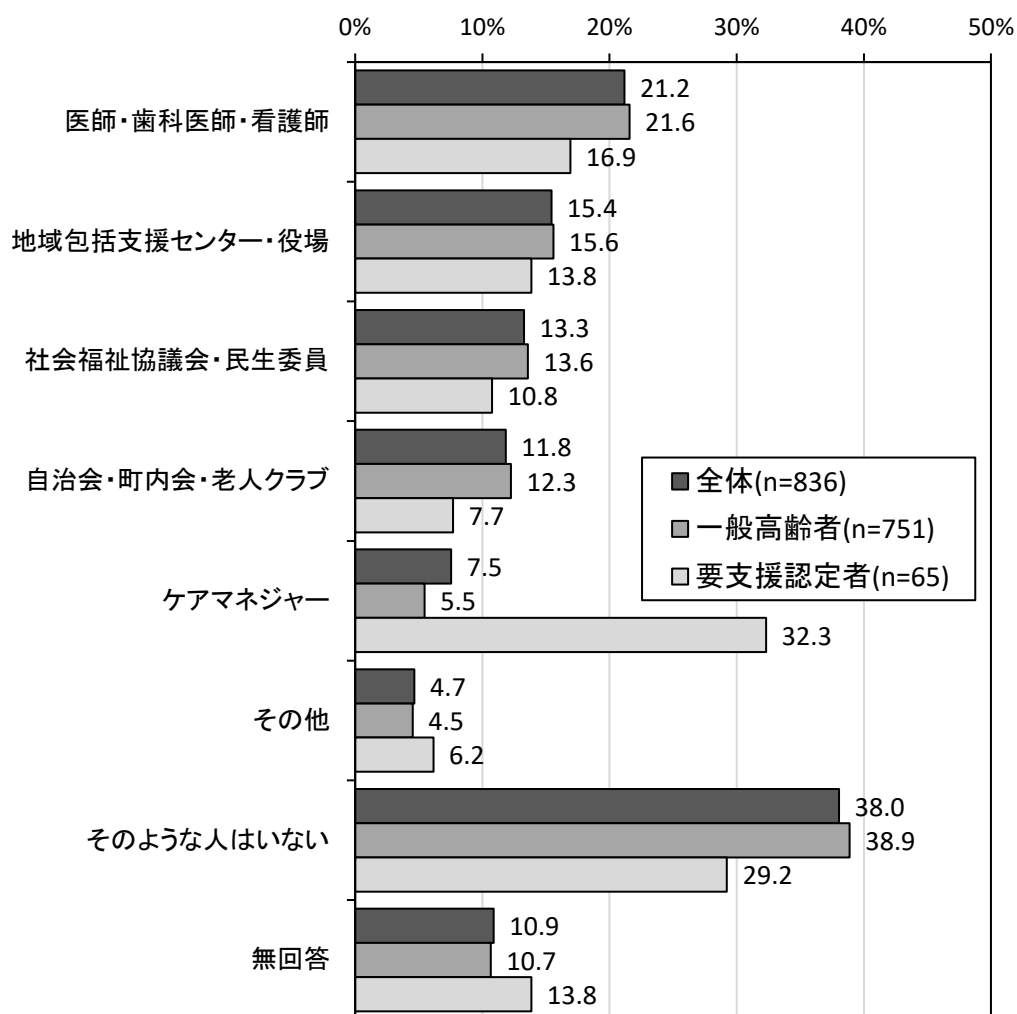
介護認定別でみると、要支援認定者は「そのような人はいない」が38.5%で最も多く、次いで「配偶者」が29.2%で続いています。



(5) 家族や友人・知人以外の相談相手【複数回答】

全体で見ると、「そのような人はいない」が 38.0%で最も多いものの、相談相手としては「医師・歯科医師・看護師」が 21.2%で最も多く、次いで「地域包括支援センター・役場」が 15.4%が続いています。

介護認定別で見ると、要支援認定者は「ケアマネジャー」が 32.3%で最も多く、次いで「そのような人はいない」(29.2%)、「医師・歯科医師・看護師」(16.9%)が続いています。

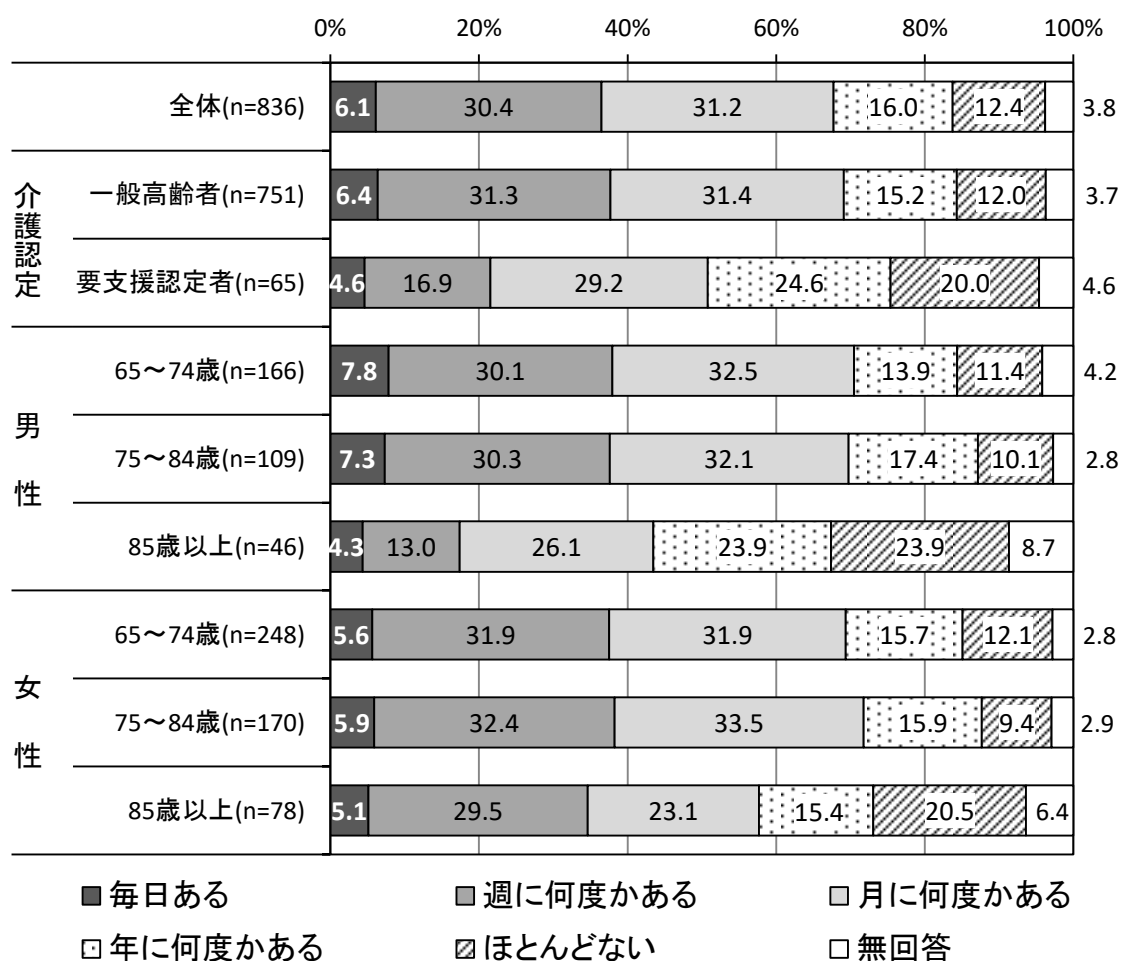


(6) 友人・知人と会う機会

全体で見ると、「月に何度か」以上の頻度で友人・知人と会う機会がある人は 67.7% となっている一方、「ほとんどない」は 12.4% となっています。

介護認定別で見ると、要支援認定者は「ほとんどない」が 20.0% となっています。

男女年齢階級別で見ると、男女ともに 85 歳未満では「月に何度か」以上の頻度で友人・知人と会う機会がある人の割合は約 70% を占めています。また、「ほとんどない」は男女ともに 85 歳以上が最も多くなっています。

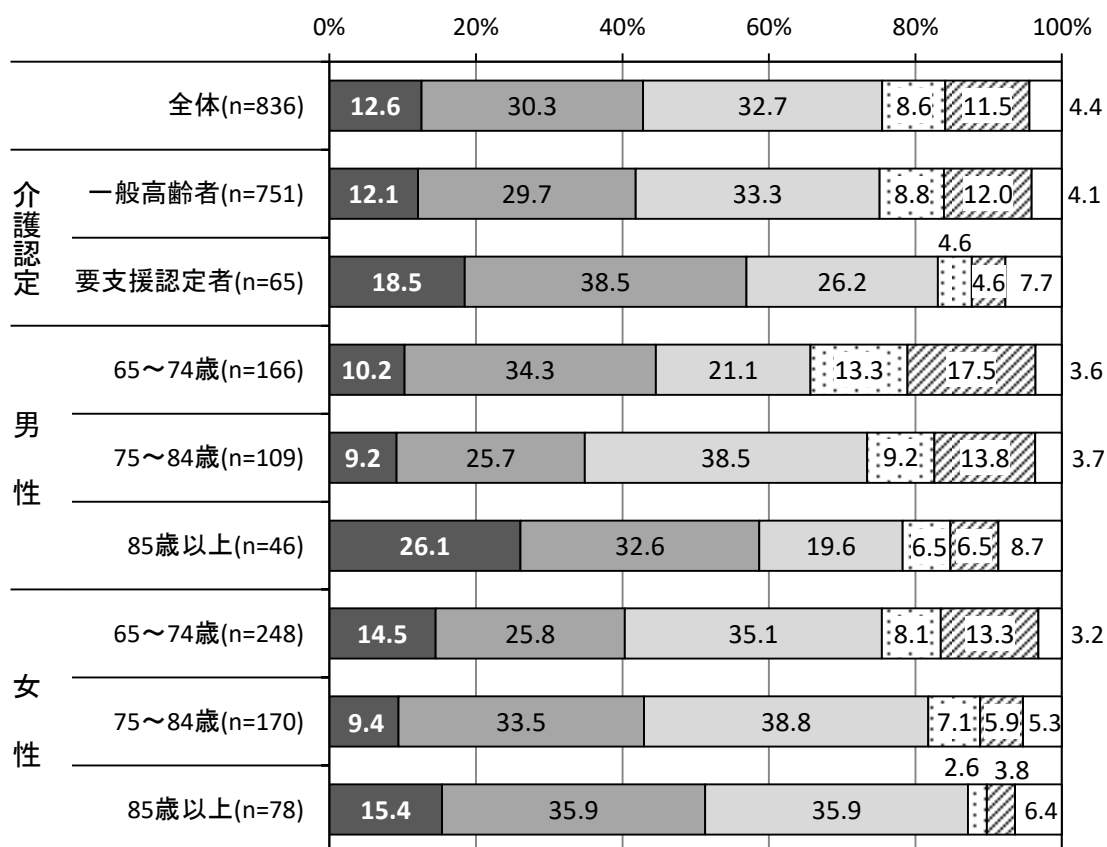


(7) この1か月で会った友人・知人の人数

全体で見ると、「3～5人」が32.7%で最も多く、次いで「1～2人」(30.3%)、「10人以上」(11.5%)と続いています。

介護認定別で見ると、要支援認定者は「0人(いない)」、「1～2人」の割合が一般高齢者よりも多くなっており、この1か月で会った友人・知人の人数は一般高齢者よりも少ない状況です。

男女年齢階級別で見ると、女性よりも男性の方が「0人(いない)」の割合が多い傾向がみられ、特に男性の85歳以上は「0人(いない)」が26.1%と多くなっています。

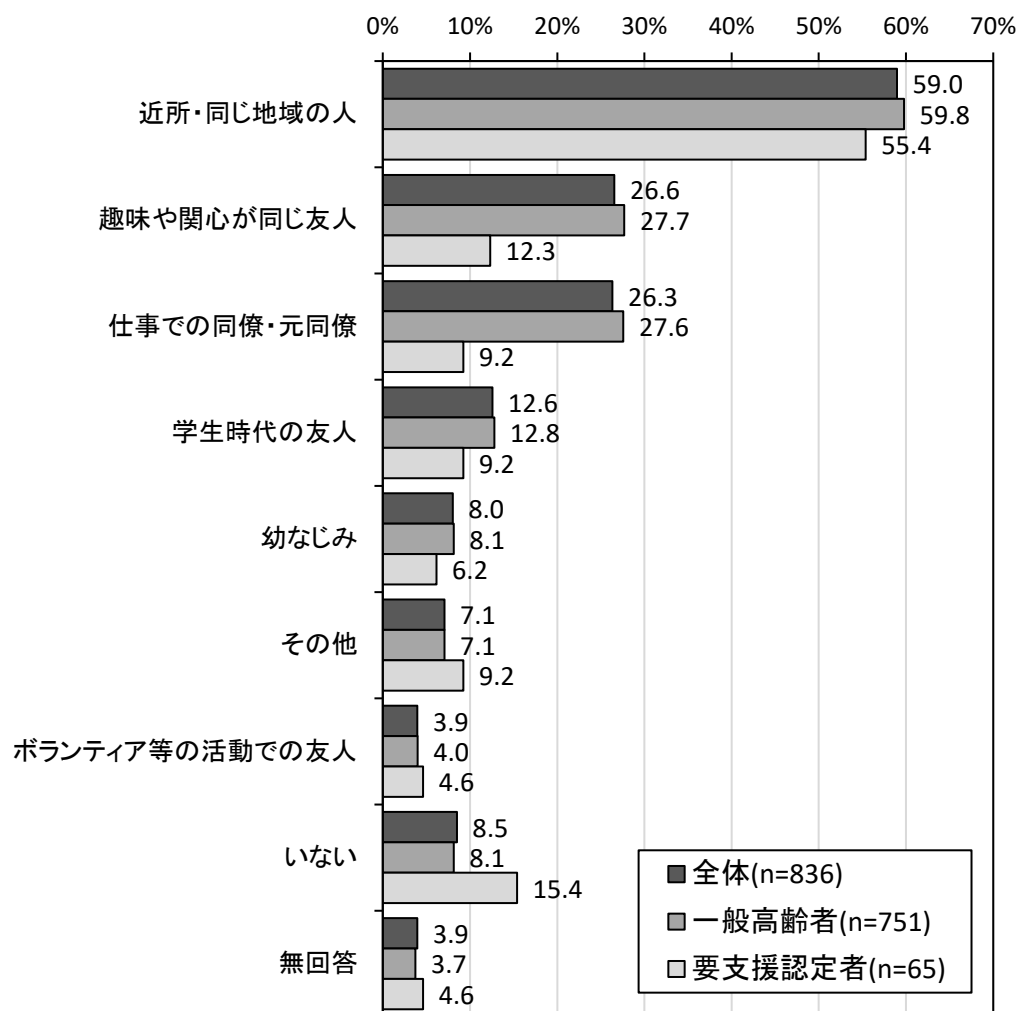


■0人(いない) ■1～2人 □3～5人 □6～9人 ▨10人以上 □無回答

(8) よく会う友人・知人との関係【複数回答】

全体で見ると、「近所・同じ地域の人」が 59.0%で最も多く、次いで「趣味や関心が同じ友人」(26.6%)、「仕事での同僚・元同僚」(26.3%)が続いています。

介護認定別で見ると、要支援認定者は「いない」が一般高齢者よりも多く、趣味や関心が同じ友人、「仕事での同僚・元同僚」は一般高齢者よりも大幅に少なくなっています。



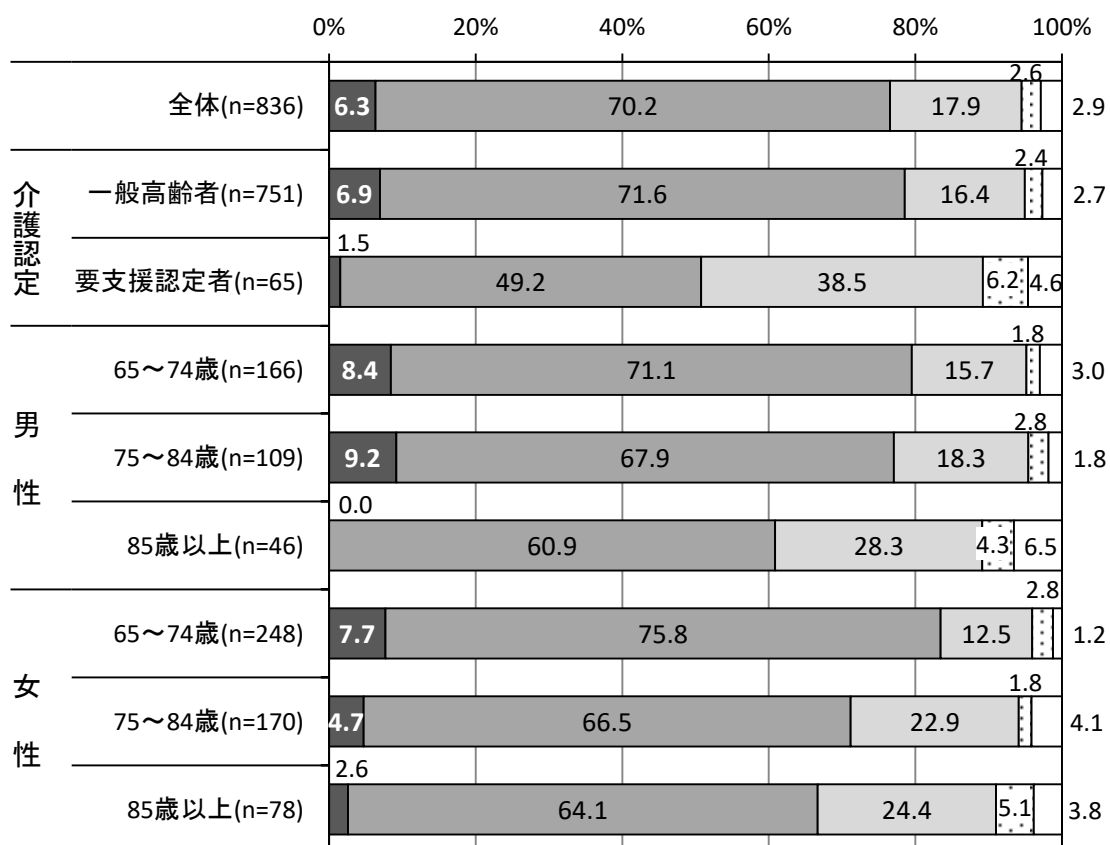
8. 健康について

(1) 現在の健康状態

全体で見ると、「とてもよい」(6.3%)、「まあよい」(70.2%)の合計76.5%が健康状態がよいと回答しています。

介護認定別で見ると、要支援認定者は「とてもよい」と「まあよい」の合計は50.7%で一般高齢者よりも27.8ポイント少なくなっています。

男女年齢階級別に「とてもよい」、「まあよい」の合計をみると、男女ともに年齢が高くなるにつれてその割合が少なくなっています。

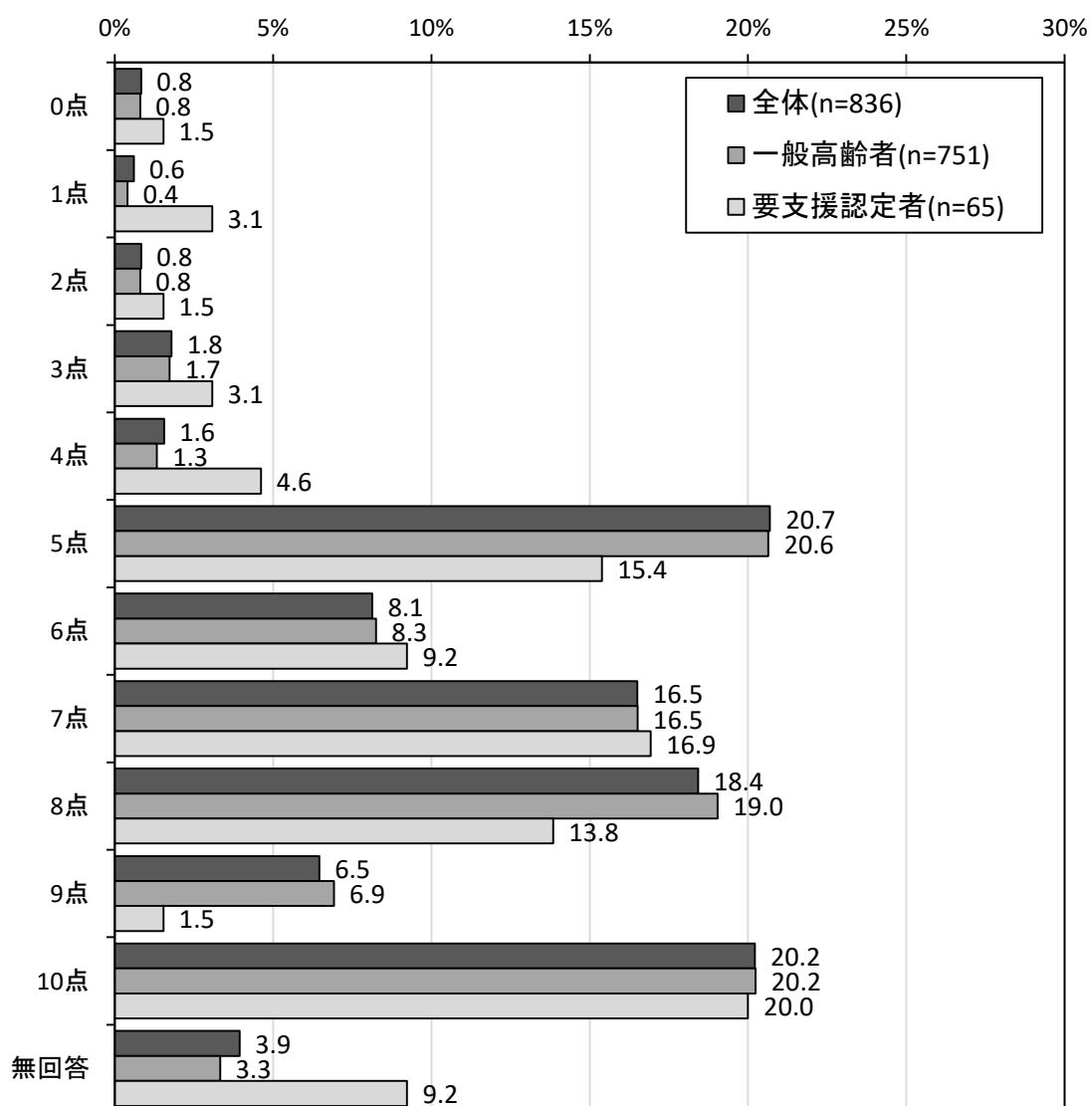


■とてもよい ■まあよい □あまりよくない □よくない □無回答

(2) 現在の幸福度

全体で見ると、現在の幸福度は、「5点」(20.7%)、「8点」(18.4%)、「10点」(20.2%)が上位回答となっており、平均では7.2点となっています。

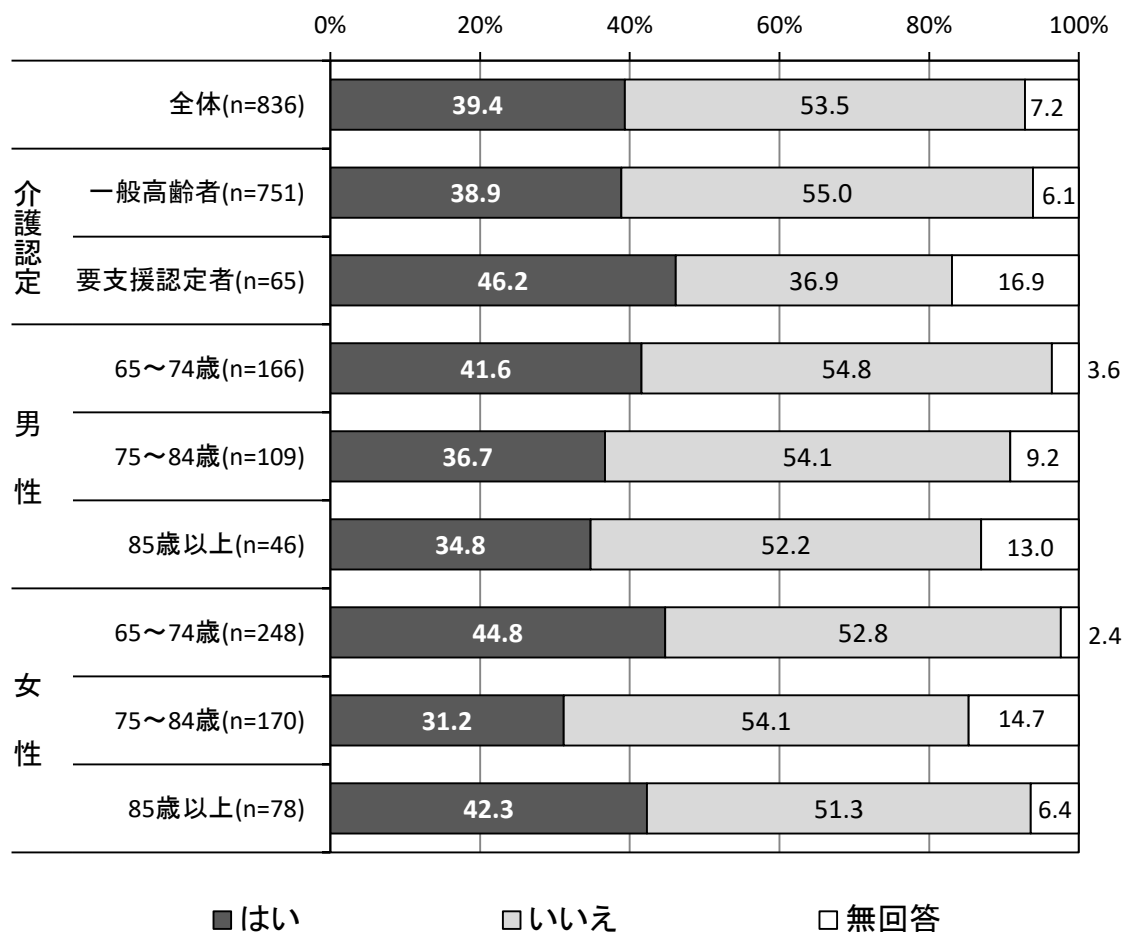
介護認定別で見ると、要支援認定者は「10点」が20.0%で最も多く、次いで「7点」(16.9%)、「5点」(15.4%)が続いています。平均点は一般高齢者の7.2点に対し、要支援認定者は6.7点と低くなっています。



(3) この1か月、気分が沈んだりゆううつな気持ちになったか

全体で見ると、この1か月間で気分が沈んだりゆううつな気持ちになった人は39.4%で、要支援認定者はその割合が46.2%と多くなっています。

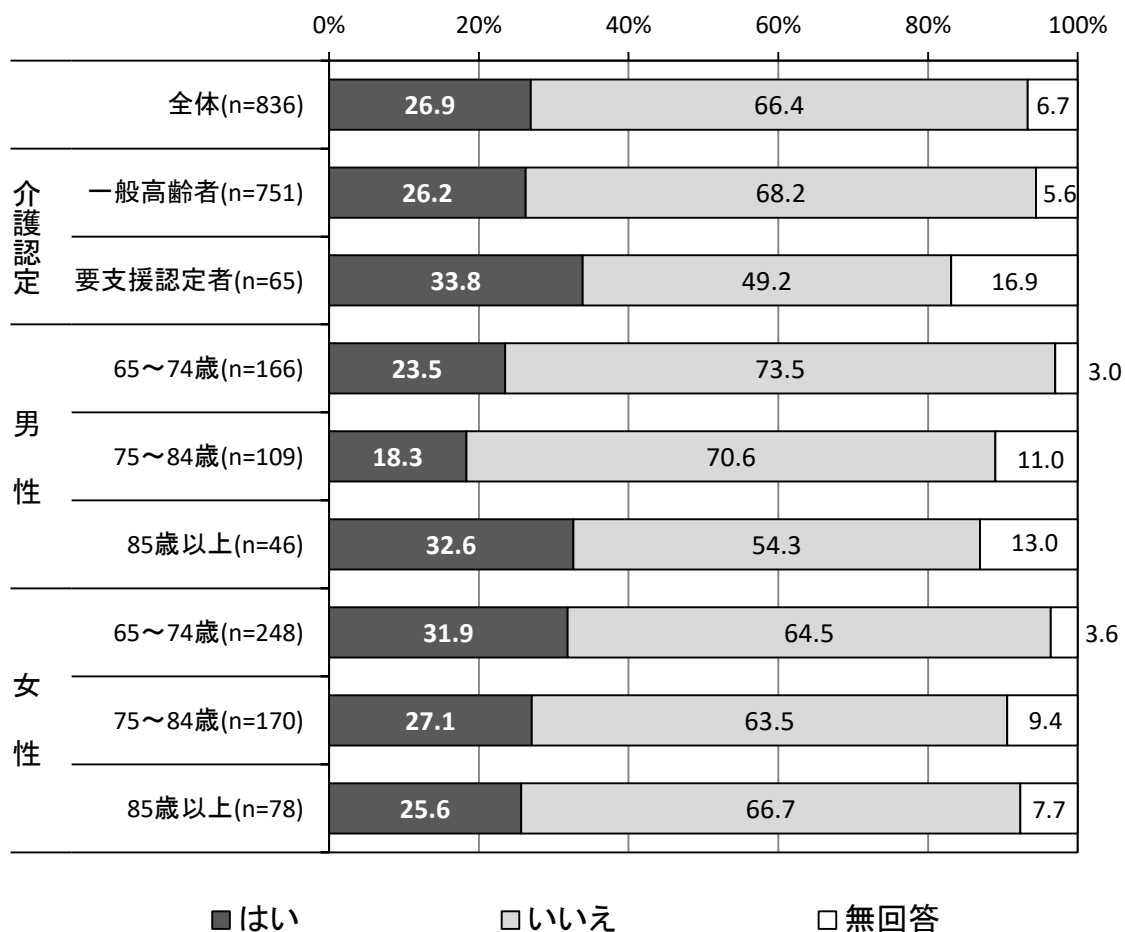
男女年齢階級別で見ると、この1か月間で気分が沈んだりゆううつな気持ちになった人は男女ともに65～74歳が多い状況です。



(4) この1か月、物事に興味がわかない・心から楽しめない感じがあるか

全体でみると、この1か月間で物事に興味がわかない・心から楽しめない感じがある人は26.9%で、要支援認定者はその割合が33.8%とやや多くなっています。

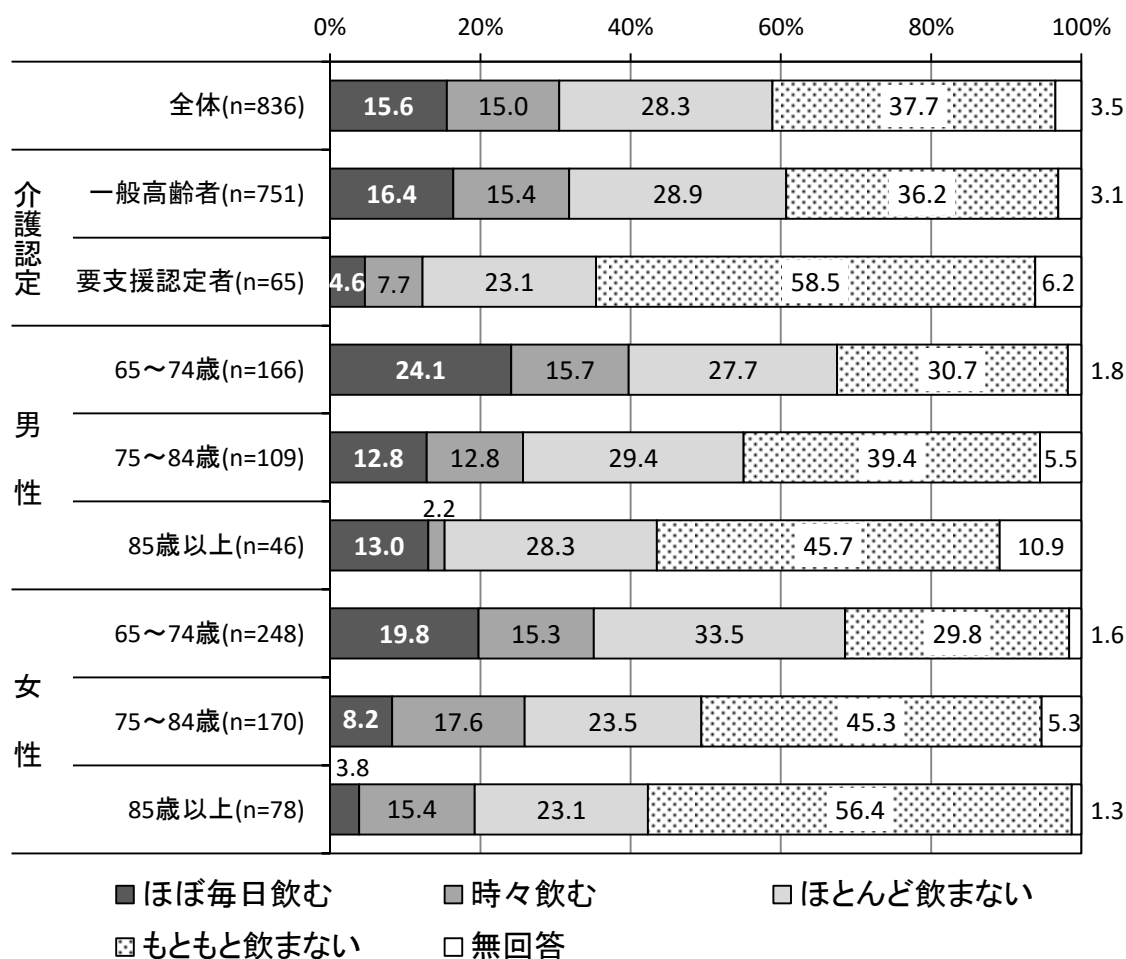
男女年齢階級別でみると、この1か月間で物事に興味がわかない・心から楽しめない感じがある人は、男性が85歳以上、女性は65～74歳で多い状況です。



(5) 飲酒の頻度

全体で見ると、「ほぼ毎日飲む」(15.6%)、「時々飲む」(15.0%)の合計は30.6%となっており、要支援認定者はその割合が12.3%と少なくなっています。

男女年齢階級別で見ると、男女ともに「ほぼ毎日飲む」と「時々飲む」の合計は年齢が高くなるにつれて少なくなっていますが、85歳以上の男性は13.0%が「ほぼ毎日飲む」と回答しています。

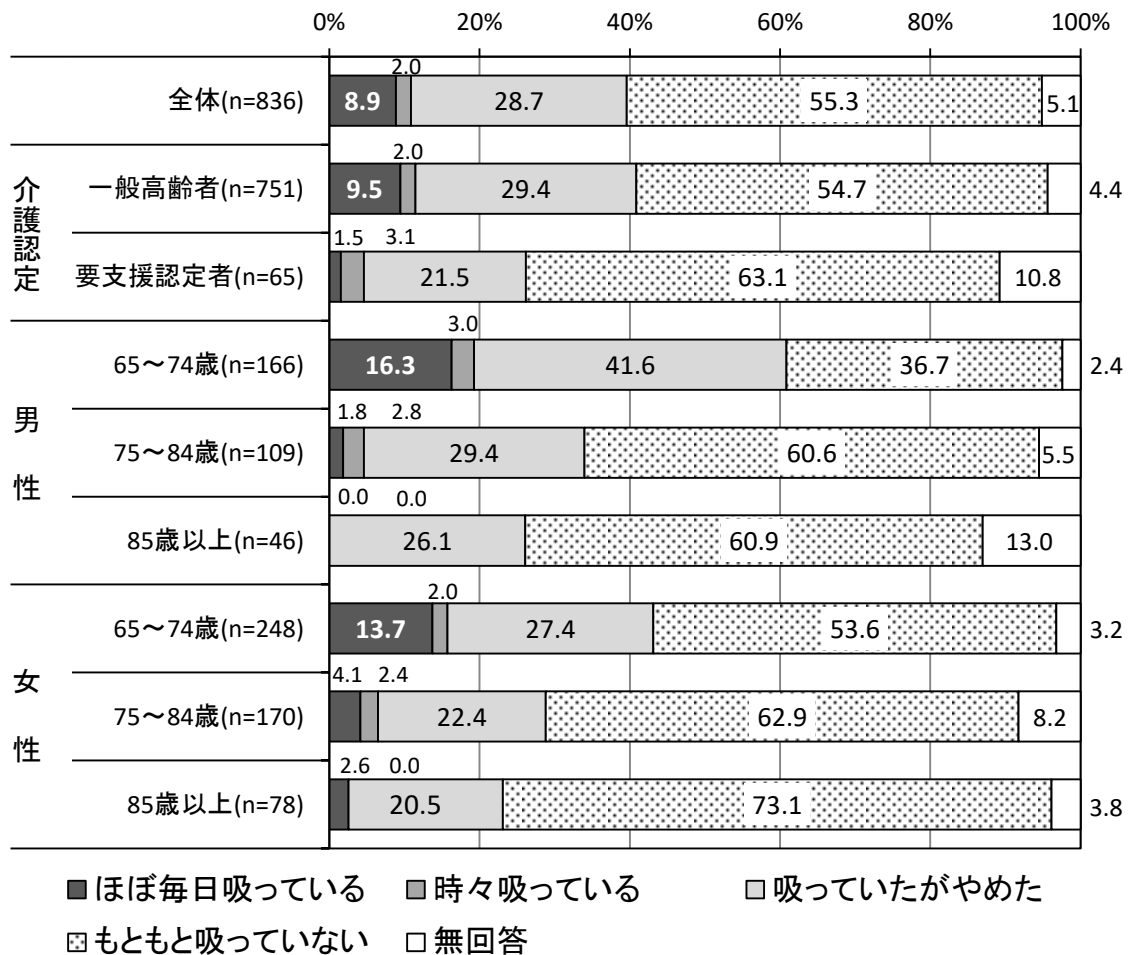


(6) 喫煙の頻度

全体で見ると、「ほぼ毎日吸っている」(8.9%)、「時々吸っている」(2.0%)の合計は10.9%となっています。

介護認定別で見ると、要支援認定者は「ほぼ毎日吸っている」(1.5%)と「時々吸っている」(3.1%)の合計が4.6%と少ない状況です。

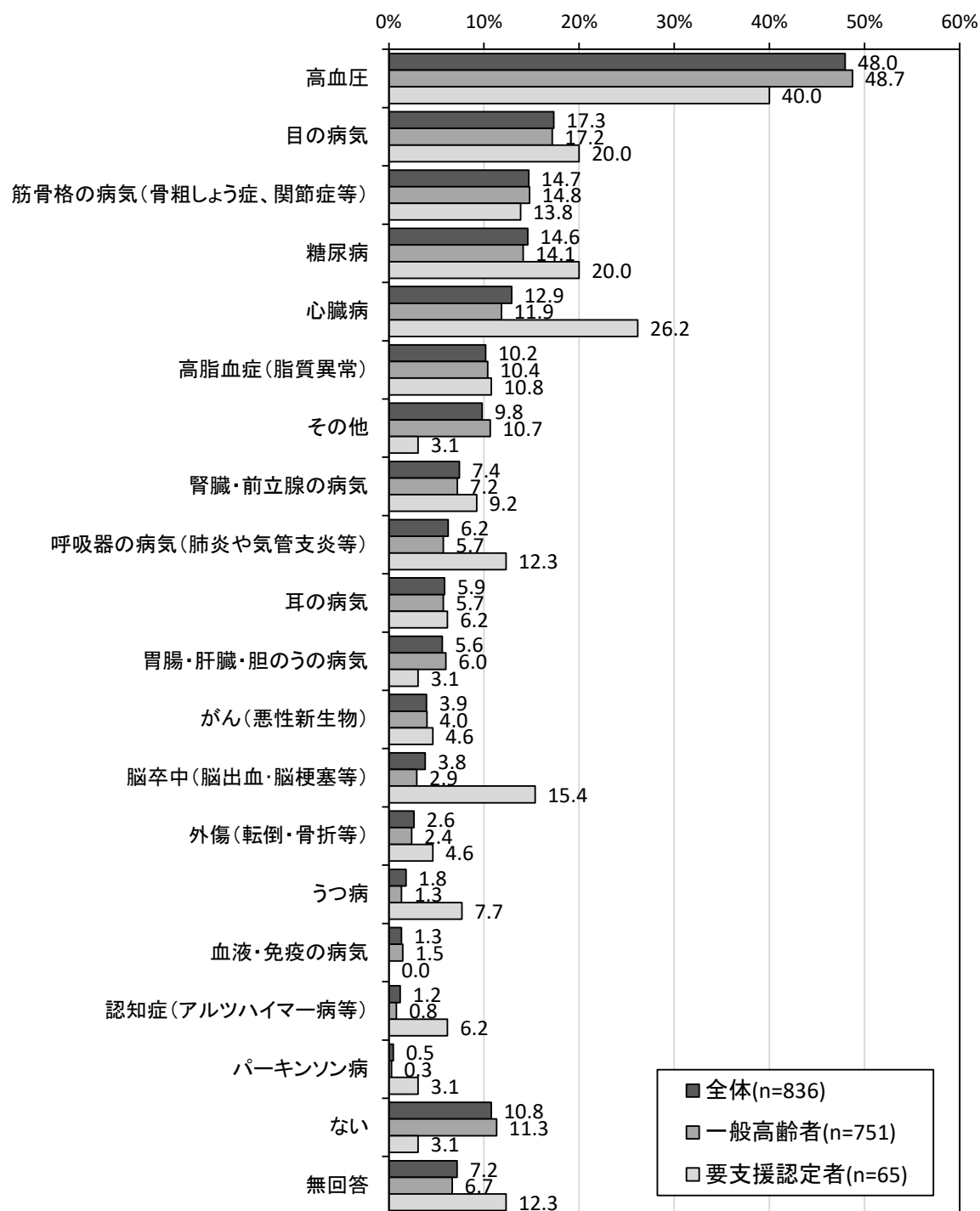
男女年齢階級別で見ると、男女ともに65~74歳は10%以上が「ほぼ毎日吸っている」と回答していますが、75歳以上でその割合は少なくなっています。



(7) 治療中・後遺症のある病気【複数回答】

全体で見ると、「高血圧」が48.0%で最も多くなっており、次いで「目の病気」(17.3%)、「筋骨格の病気(骨粗しょう症、関節症等)」(14.7%)が続いています。

介護認定別で見ても「高血圧」が最も多くなっていますが、要支援認定者は「心臓病」(26.2%)、「糖尿病」(20.0%)、「脳卒中(脳出血・脳梗塞等)」(15.4%)も多くなっています。



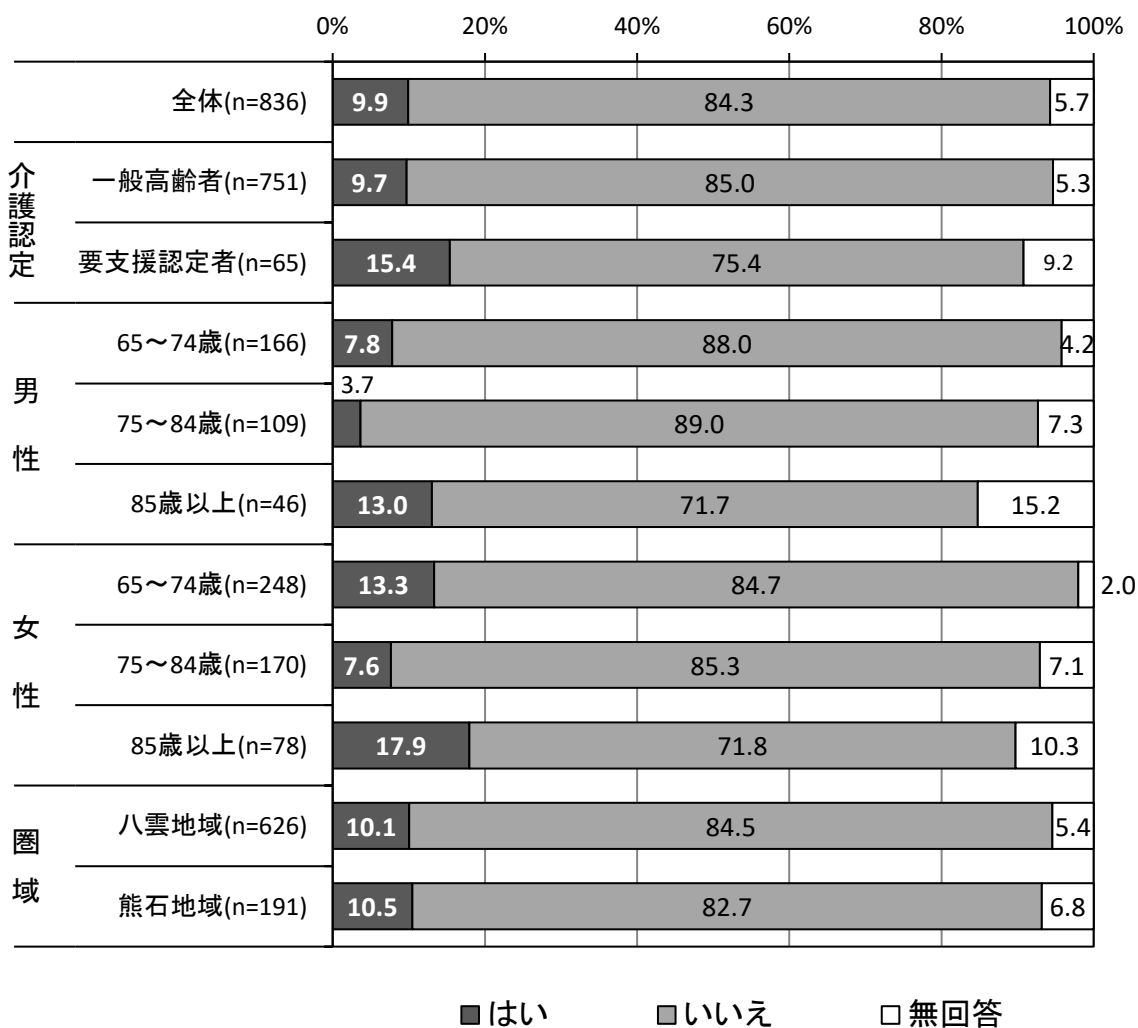
9. 認知症にかかる相談窓口の把握について

(1) 認知症の症状がある（家族に症状のある人）がいるかどうか

全体で見ると、認知症の症状がある（家族に症状のある人）がいる人は 9.9%で、要支援認定者はその割合が 15.4%とやや多くなっています。

男女年齢階級別にみると、男女ともに 85 歳以上で認知症の症状がある（家族に症状のある人）がいる人の割合が多くなっています。

圏域別でも八雲地域と熊石地域の間に大きな差異はみられない状況です。

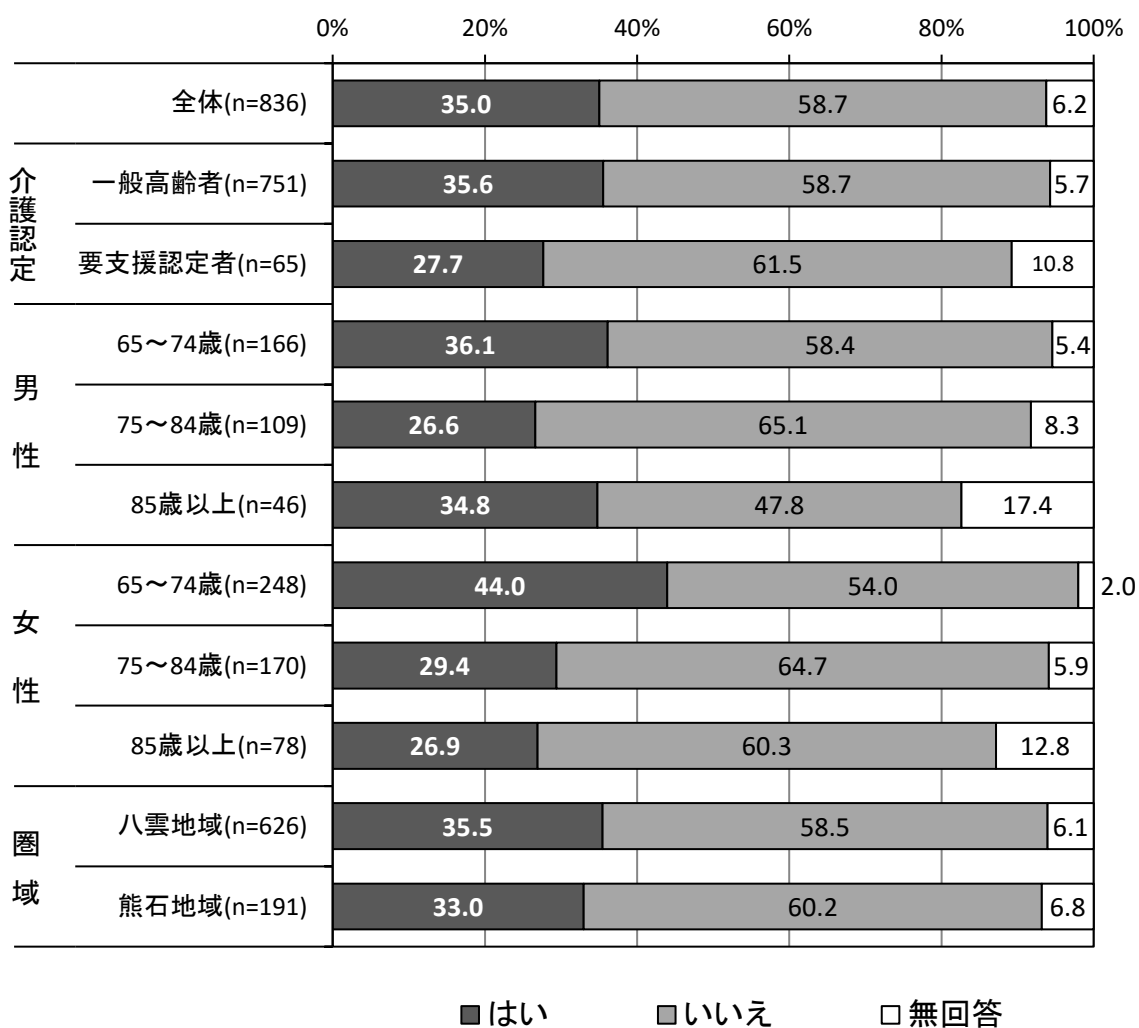


(2) 認知症相談窓口の認知度

全体で見ると、認知症相談窓口を知っている人は35.0%で、要支援認定者は27.7%とやや少なくなっています。

男女年齢階級別にみると、男性は75～84歳、女性は75歳以上で認知症相談窓口の認知度が30%を下回っています。

圏域別で見ても八雲地域と熊石地域の間に大きな差異はみられない状況です。



10. 介護予防について

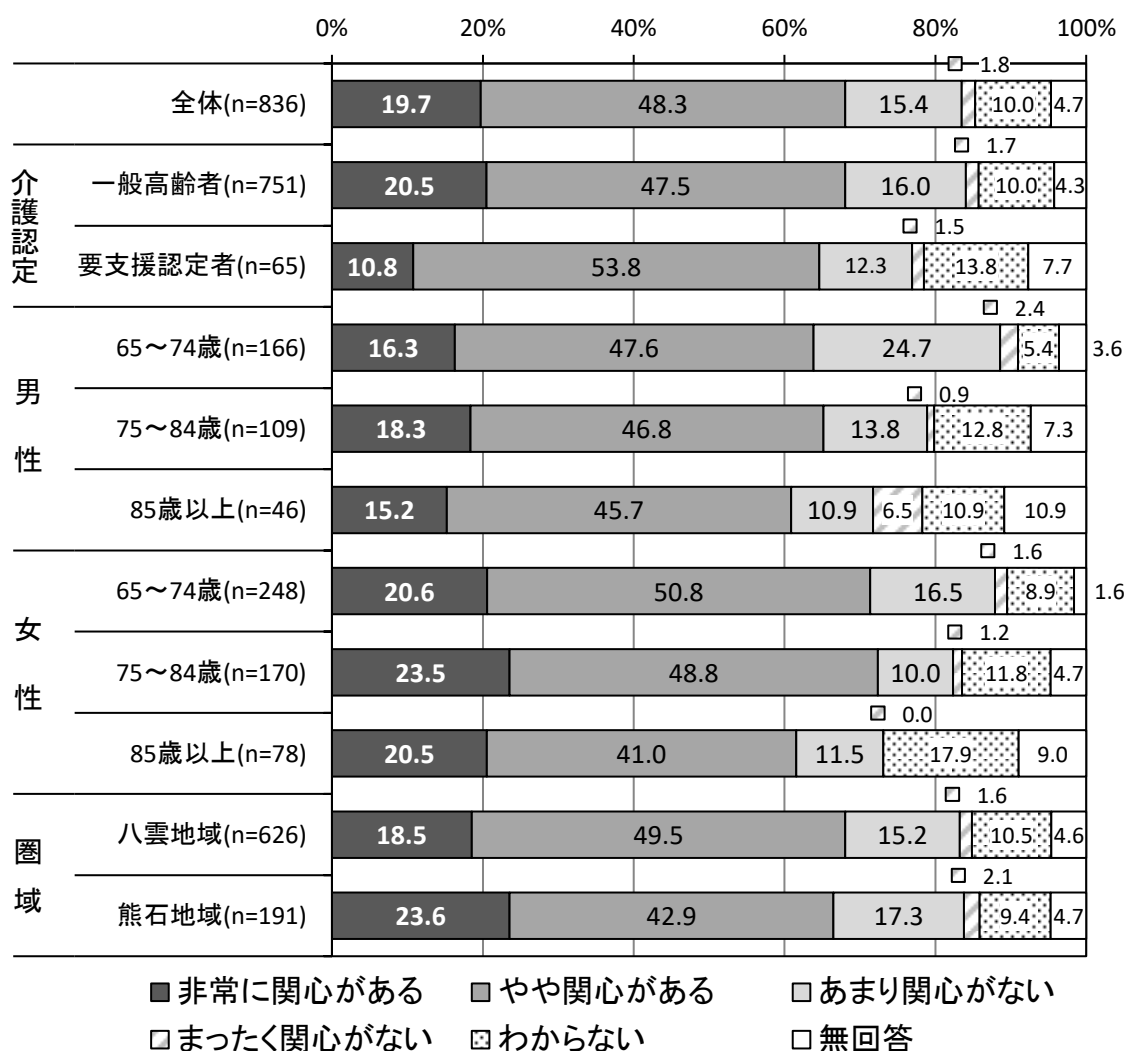
(1) 介護予防への関心度

全体でみると、「非常に関心がある」(19.7%)、「やや関心がある」(48.3%)の合計68.0%が介護予防に関心がある状況です。

介護認定別でみると、要支援認定者は「非常に関心がある」が10.8%で一般高齢者と比べて9.7ポイント少なくなっています。

男女年齢階級別でみると、女性は85歳以上で「非常に関心がある」と「やや関心がある」の合計が少なく、「わからない」の割合が多くなっています。

圏域別でみると、八雲地域よりも熊石地域の方が「非常に関心がある」の割合が5.1ポイント多いものの、「非常に関心がある」と「やや関心がある」の合計でみると差異はほとんどない状況です。



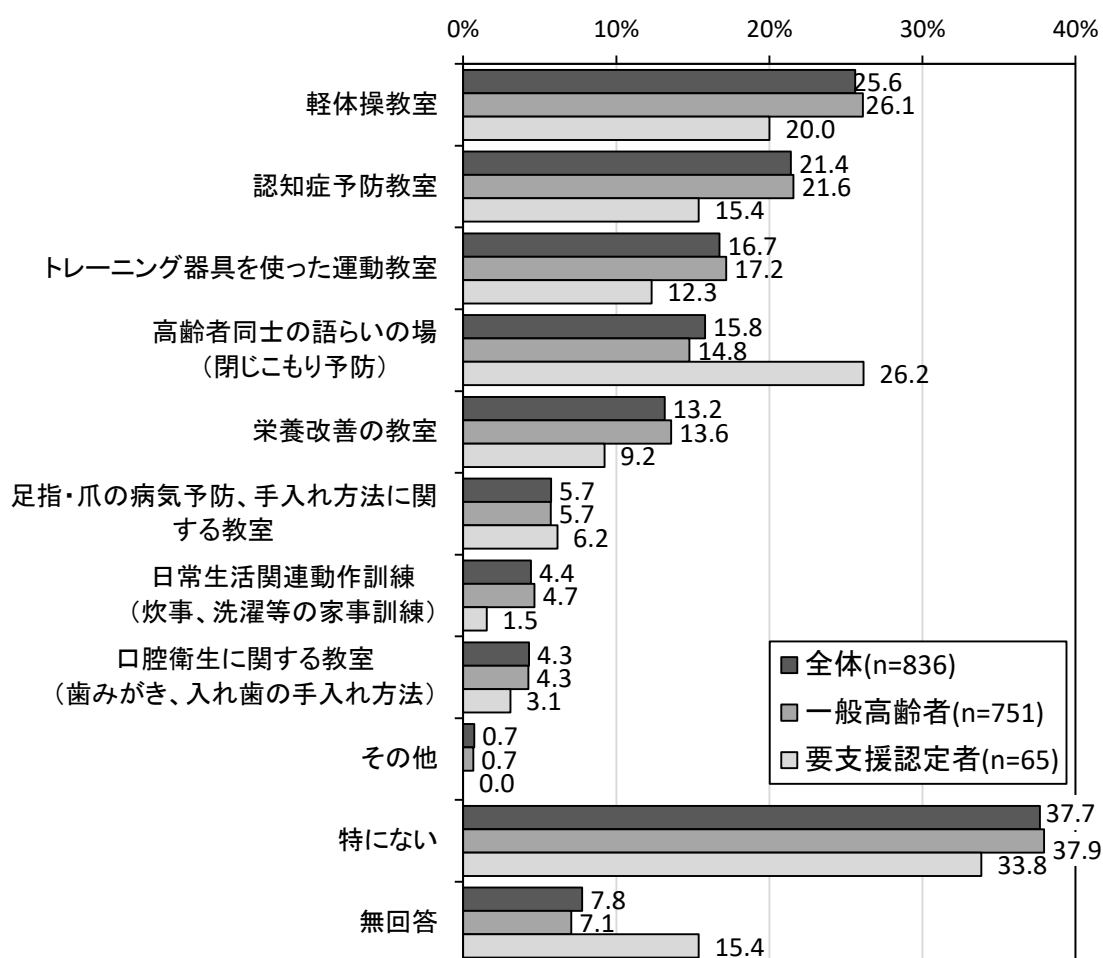
(2) 介護予防で参加したい講座【複数回答】

①全体及び介護認定別

全体でみると、「特にない」が37.7%で最も多いものの、参加したい講座の中では、「軽体操教室」(25.6%)、「認知症予防教室」(21.4%)、「トレーニング器具を使った運動教室」(16.7%)が上位回答となっています。

介護認定別でみると、要支援認定者は「高齢者同士の語らいの場（閉じこもり予防）」が26.2%で一般高齢者よりも11.4ポイント多くなっています。

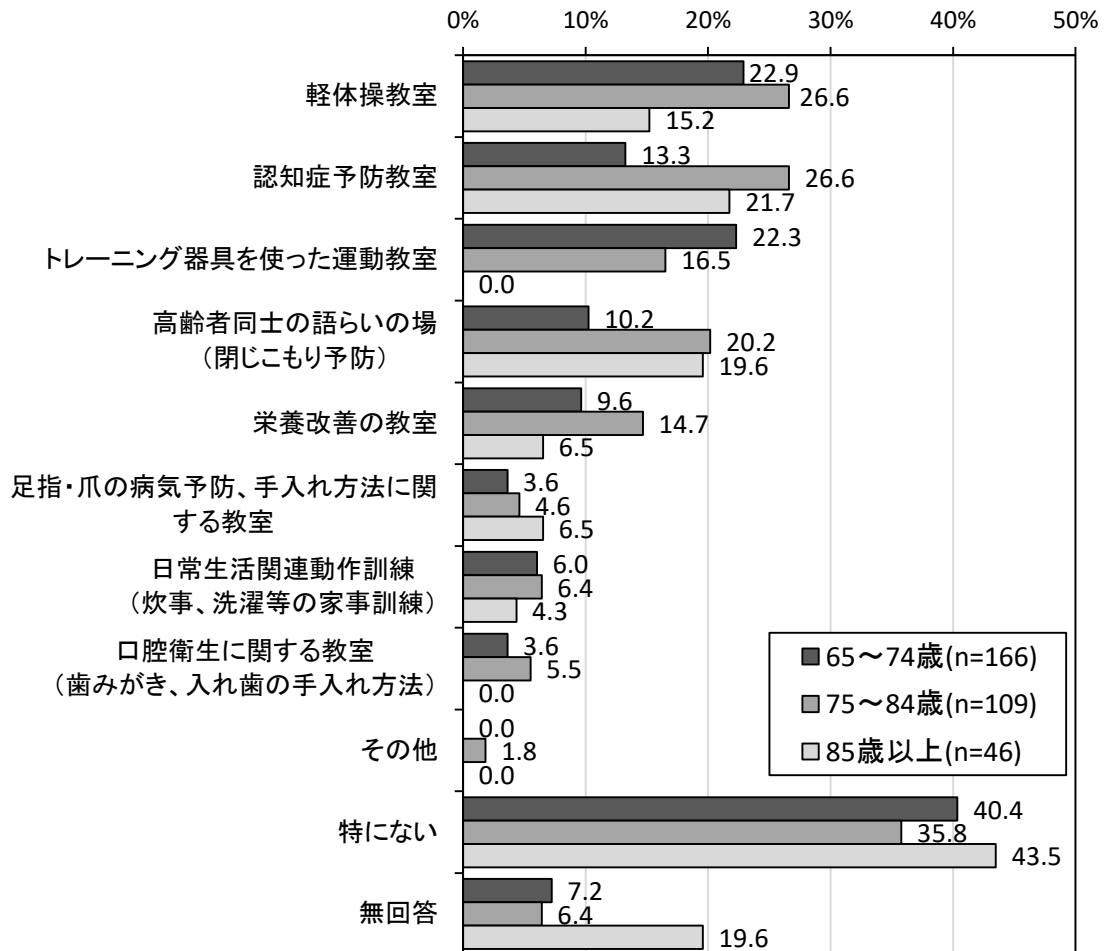
《介護予防で参加したい講座／全体及び介護認定別》



②男性年齢階級別

男性の年齢階級別でも「特にない」が最も多くなっていますが、参加したい講座の中では、65～74歳は「軽体操教室」(22.9%)、75歳～84歳は「軽体操教室」「認知症予防教室」(ともに26.6%)、85歳以上は「認知症予防教室」(21.7%)がそれぞれ最も多くなっています。

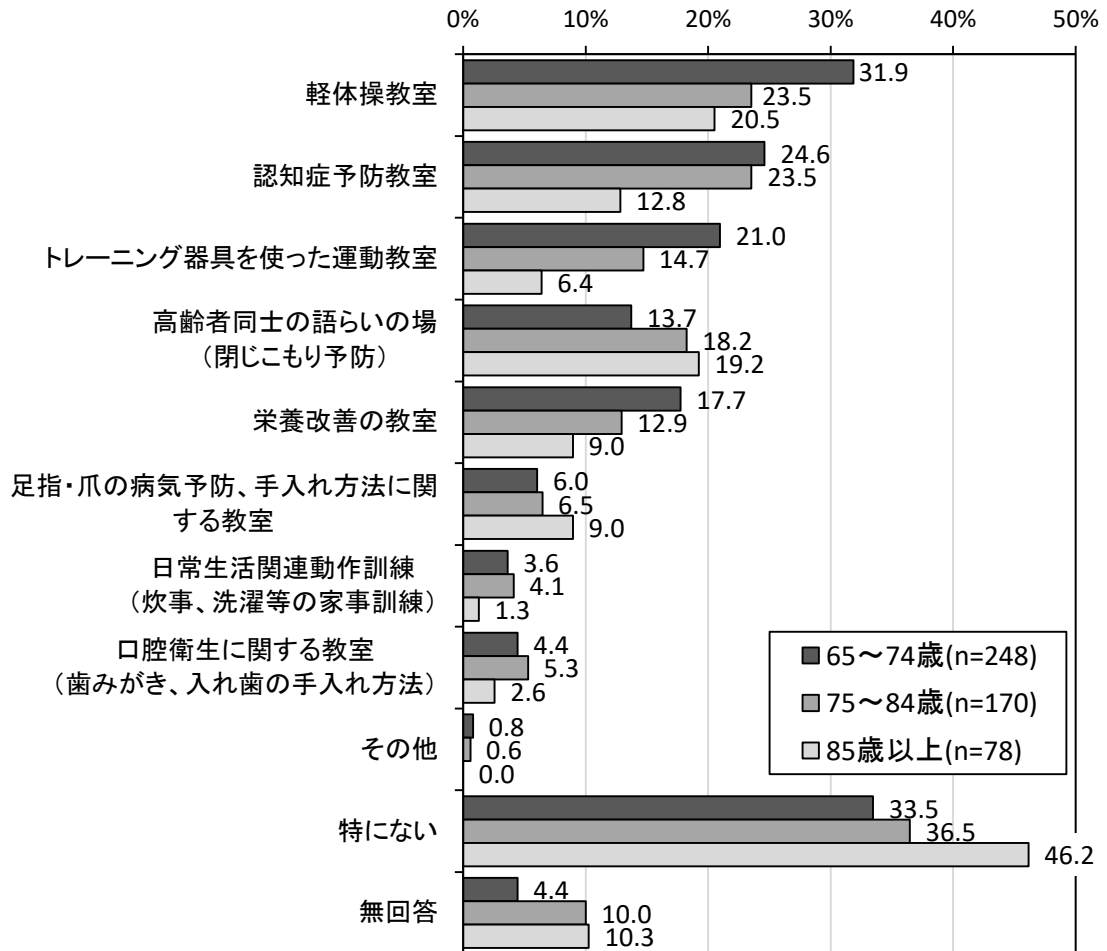
《介護予防で参加したい講座／男性／年齢階級別》



③女性年齢階級別

女性の年齢階級別でも「特にない」が最も多くなっていますが、65～74歳は「軽体操教室」(31.9%)、75歳～84歳は「軽体操教室」「認知症予防教室」(ともに23.5%)、85歳以上は「軽体操教室」(20.5%)がそれぞれ最も多くなっています。

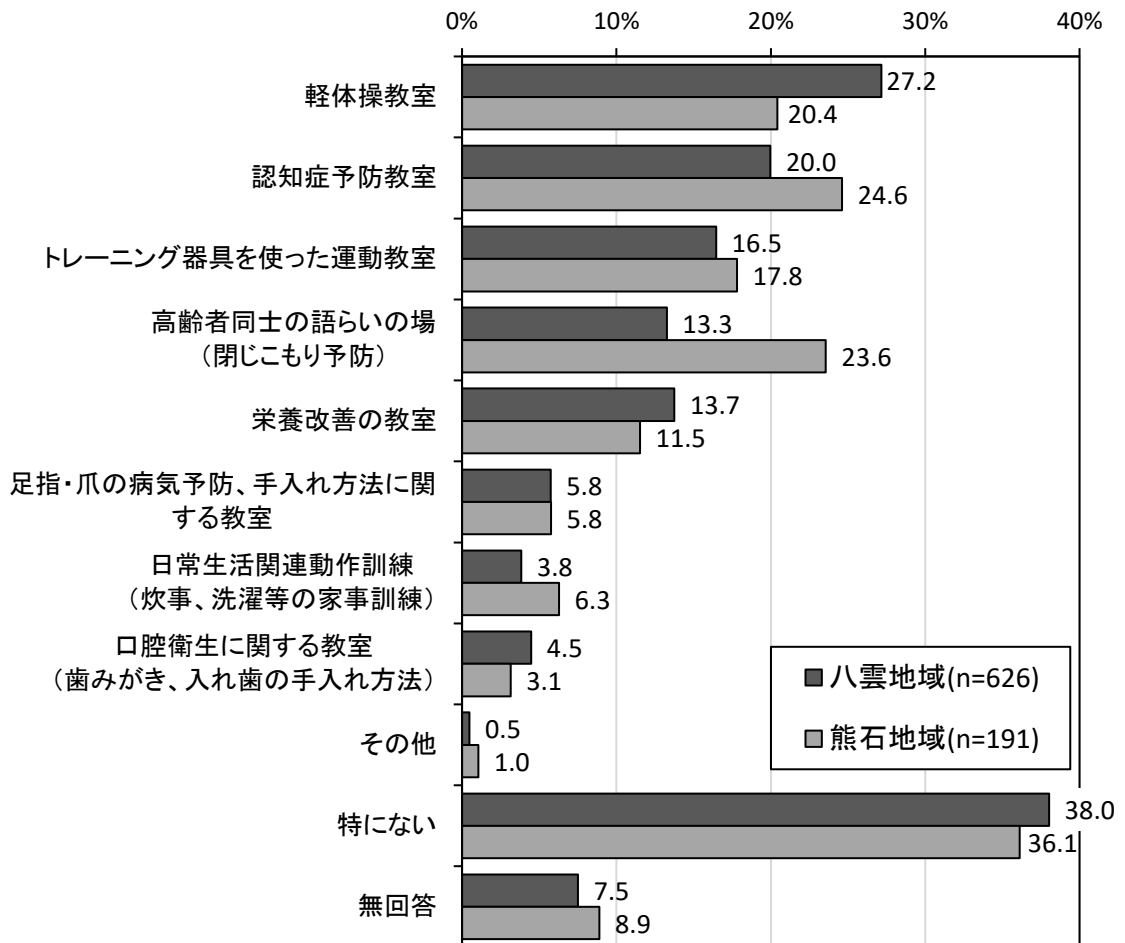
《介護予防で参加したい講座／女性／年齢階級別》



④圏域別

圏域でみても「特にない」が最も多くなっていますが、参加したい講座の中では、八雲地域は「軽体操教室」(27.2%)、「認知症予防教室」(20.0%)、熊石地域は「認知症予防教室」(24.6%)、「高齢者同士の語らいの場(閉じこもり予防)」(23.6%)がそれぞれ上位回答となっています。

《介護予防で参加したい講座／圏域別》



11. 成年後見制度について

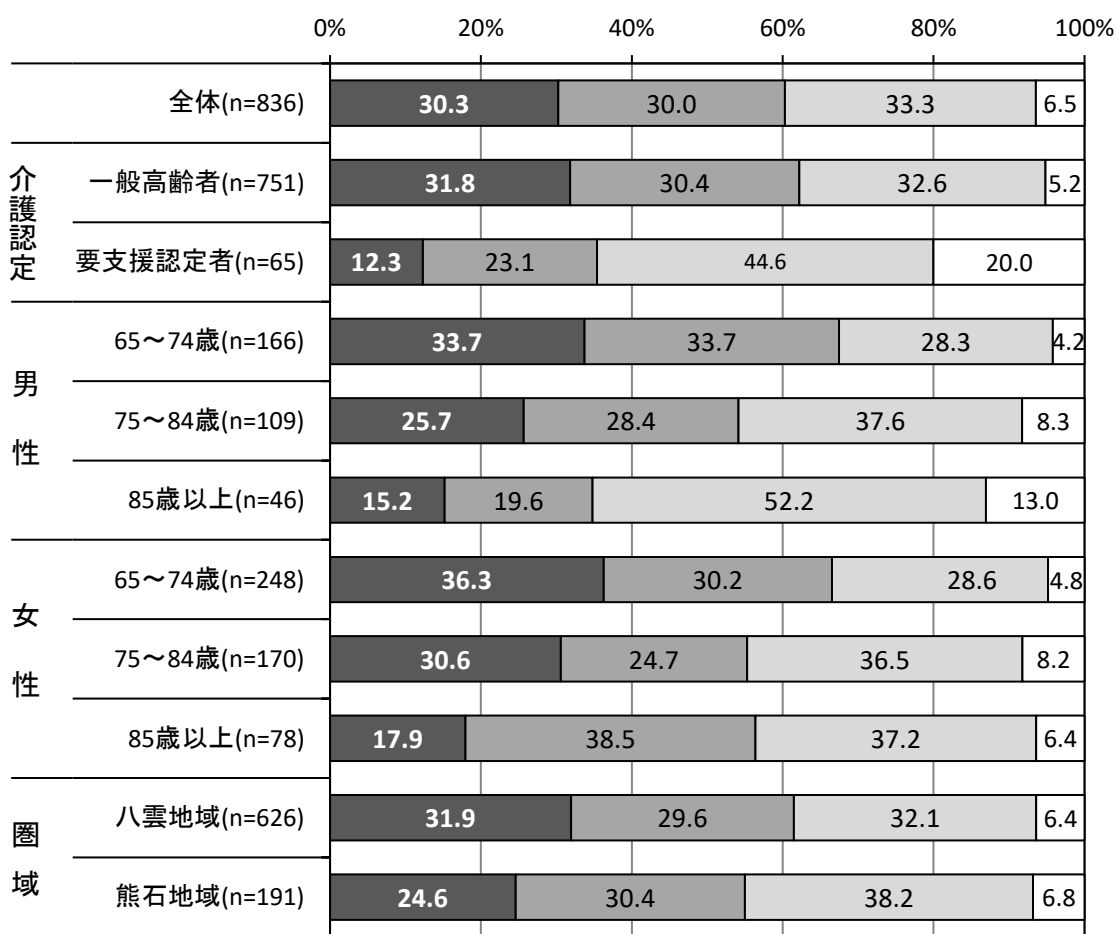
(1) 「成年後見制度」の認知度

全体で見ると、「知っている」(30.3%)、「名前は聞いたことがある」(30.0%)の合計は60.3%で「知らない」は33.3%にとどまっています。

介護認定別で見ると、要支援認定者は「知らない」が44.6%で最も多く、一般高齢者と比べて認知度が低い状況です。

男女年齢階級別で見ると、男女ともに年齢が高くなるにつれて「知っている」の割合は少なくなり、85歳以上では20%未満となっています。

圏域別にみると、熊石地域と比べて八雲地域の方がやや認知度は高くなっています。



■ 知っている ■ 名前は聞いたことがある □ 知らない □ 無回答

12. 介護保険制度及び保健福祉施策について

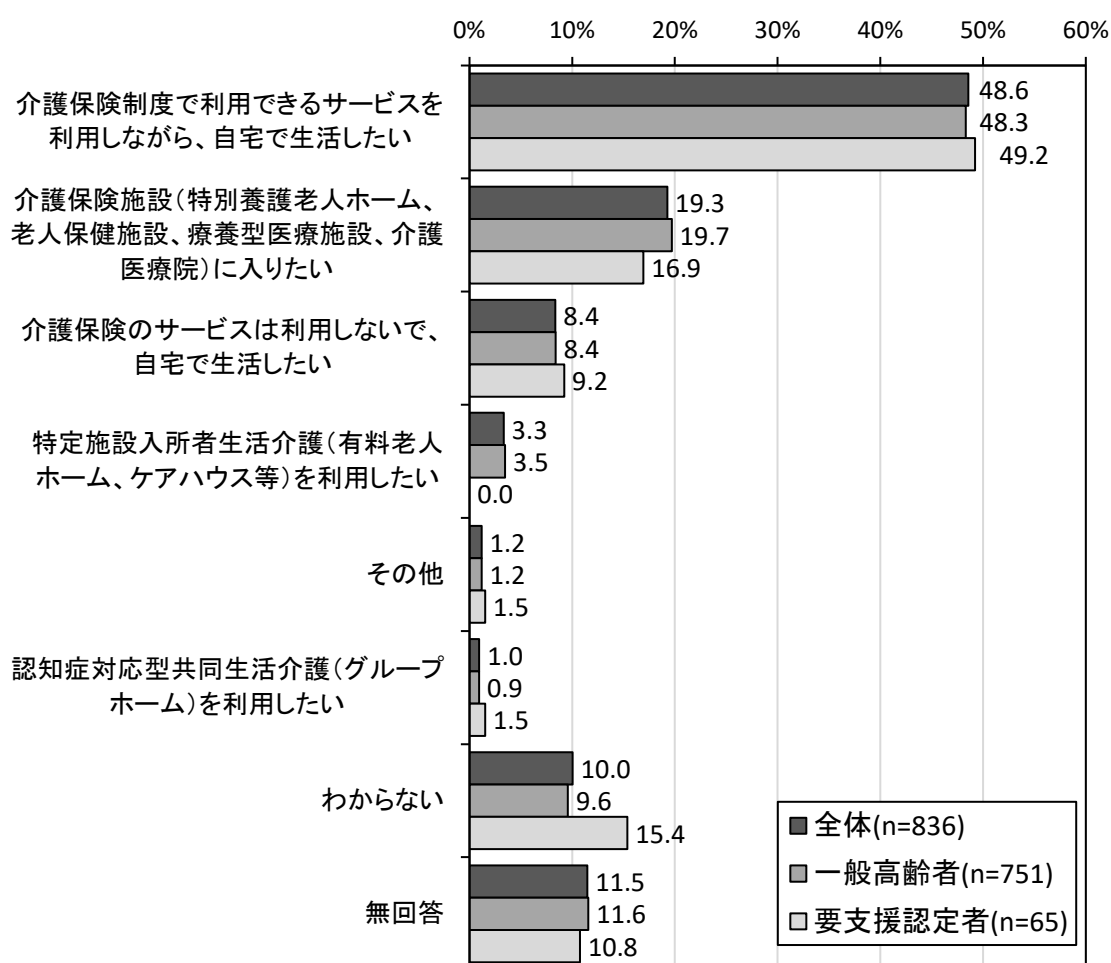
(1) 介護が必要な状態になった場合に望む介護

①全体及び介護認定別

全体で見ると、「介護保険制度で利用できるサービスを利用しながら、自宅で生活したい」が48.6%で最も多く、次いで「介護保険施設（特別養護老人ホーム、老人保健施設、療養型医療施設、介護医療院）に入りたい」が19.3%が続いています。

介護認定別で見ても、全体と同様の傾向となっており、一般高齢者と要支援認定者の間に大きな差異はみられません。

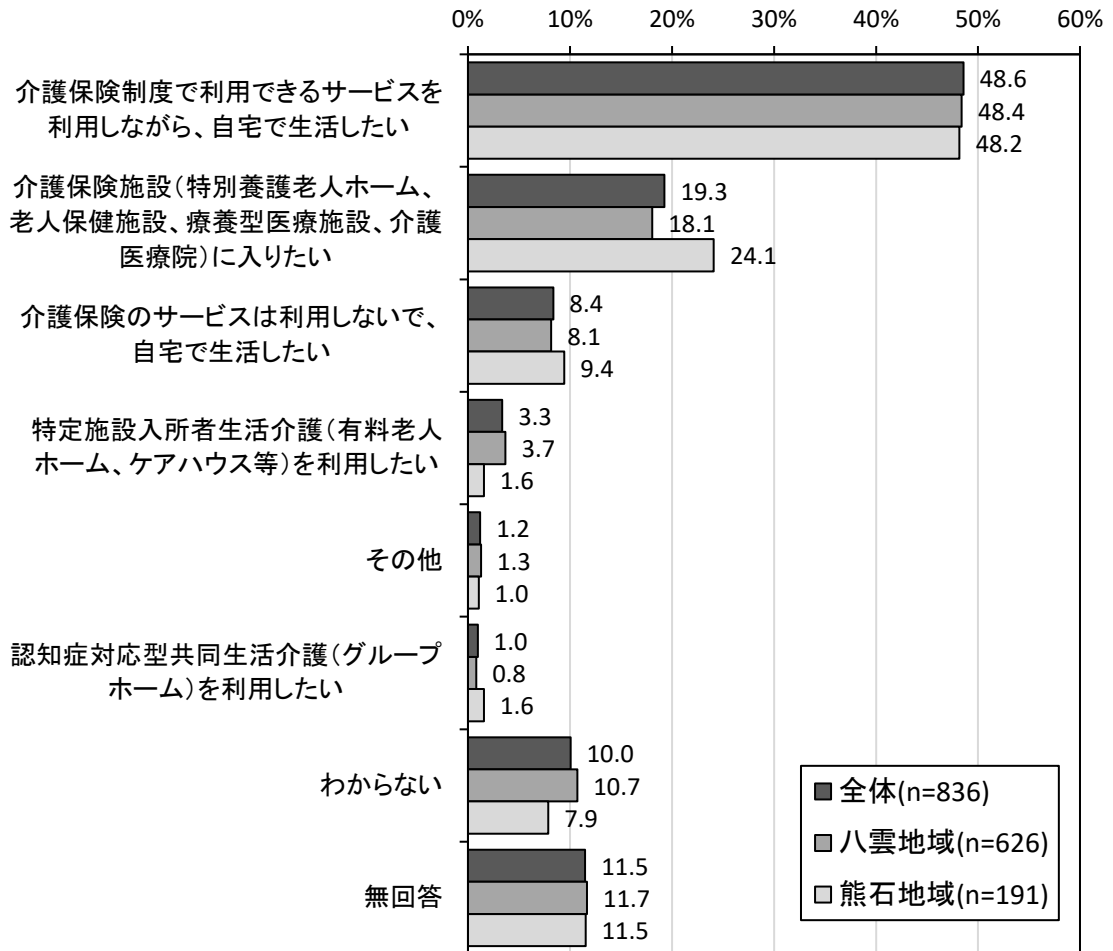
《介護が必要な状態になった場合に望む介護／全体及び介護認定別》



②圏域別

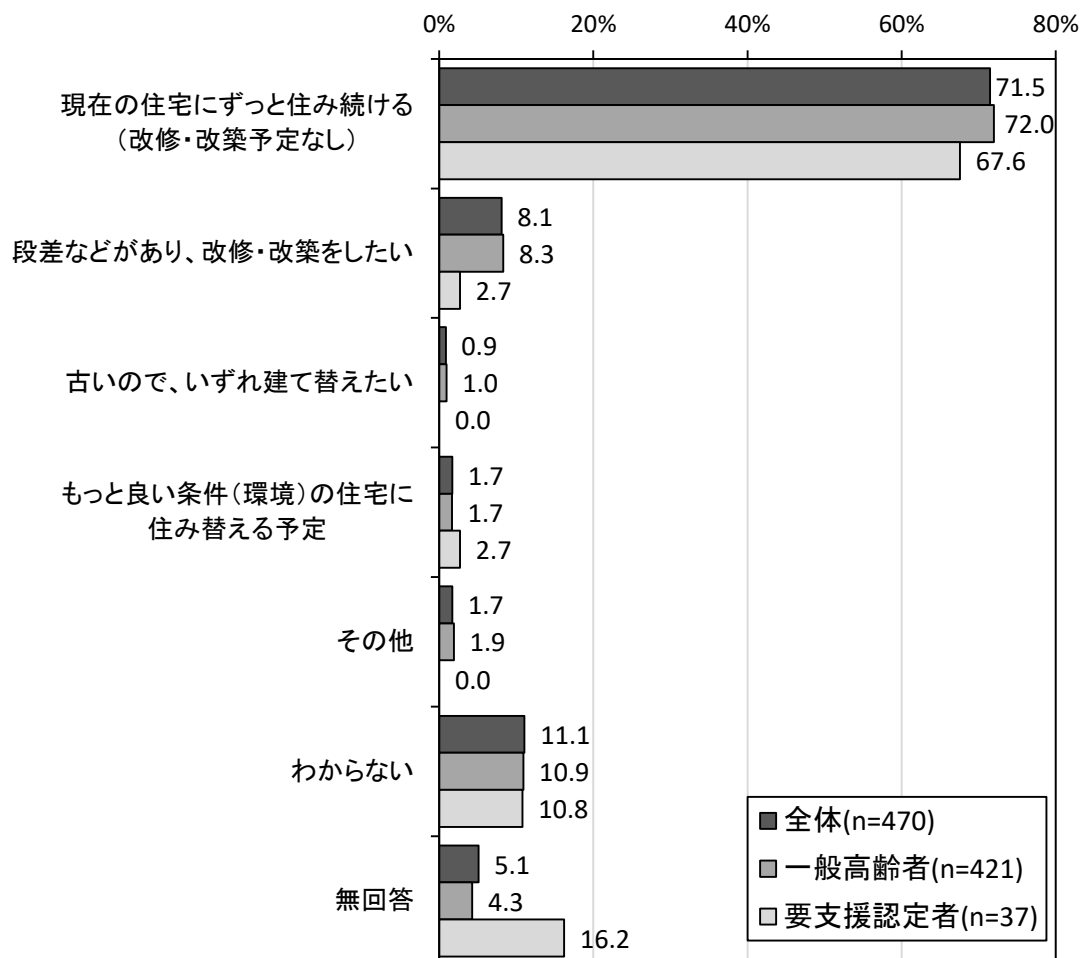
圏域別でも、「介護保険制度で利用できるサービスを利用しながら、自宅で生活したい」が最も多くなっていますが、熊石地域は「介護保険施設（特別養護老人ホーム、老人保健施設、療養型医療施設）に入りたい」（24.1%）が八雲地域と比べて多くなっています。

《介護が必要な状態になった場合に望む介護／圏域別》



(2) 在宅介護を希望する人の住まいの予定

全体で見ると、介護が必要になったときに自宅での生活を希望している人の住まいの予定は、「現在の住宅にずっと住み続ける（改修・改築予定なし）」が71.5%を占めています。介護認定別でも全体とほぼ同様の傾向となっています。



(3) 今後の介護保険料についての考え

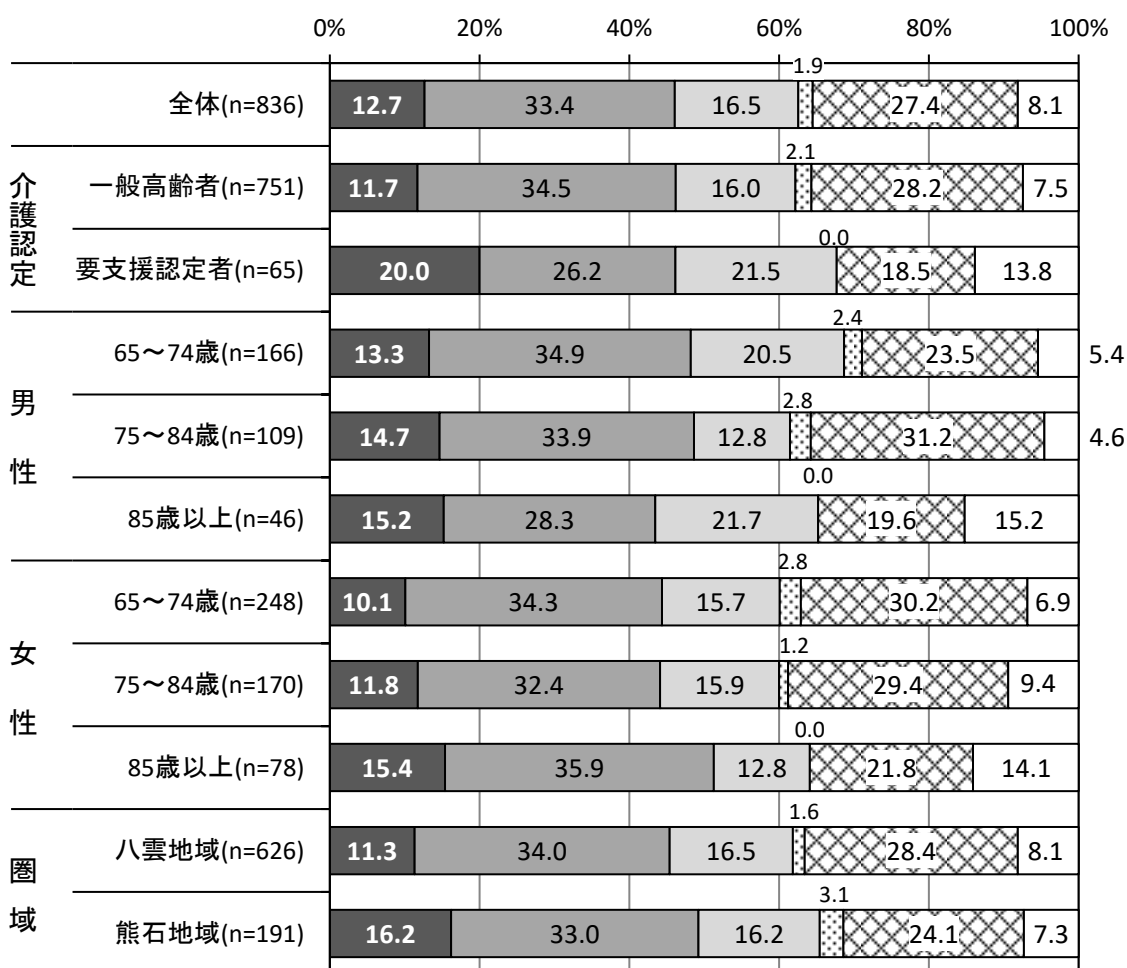
全体で見ると、「介護サービスの質と量は、現状の程度で良い」が 33.4%で最も多く、次いで「わからない」が 27.4%で続いています。

介護認定別で見ると、要支援認定者は一般高齢者と比べて「保険料が高くなっても、介護サービスの質と量を充実してほしい」が 8.3 ポイント、「介護サービスの量は少なくなってもいいから、保険料が安い方がよい」が 5.5 ポイント多くなっています。

男女年齢階級別で見ると、85 歳以上の男性は「介護サービスの質と量は、現状の程度で良い」が 28.3%と他の年齢階級と比べて少なくなっています。

また 85 歳以上の女性は「保険料が高くなっても、介護サービスの質と量を充実してほしい」が 15.4%で他の年齢階級よりも多くなっています。

圏域別で見ると、熊石地域は「保険料が高くなっても、介護サービスの質と量を充実してほしい」が 16.2%で八雲地域よりも 4.9 ポイント多くなっています。



- 保険料が高くなっても、介護サービスの質と量を充実してほしい
- 介護サービスの質と量は、現状の程度でよい
- 介護サービスの量は少なくなってもいいから、保険料が安い方がよい
- その他
- わからない
- 無回答

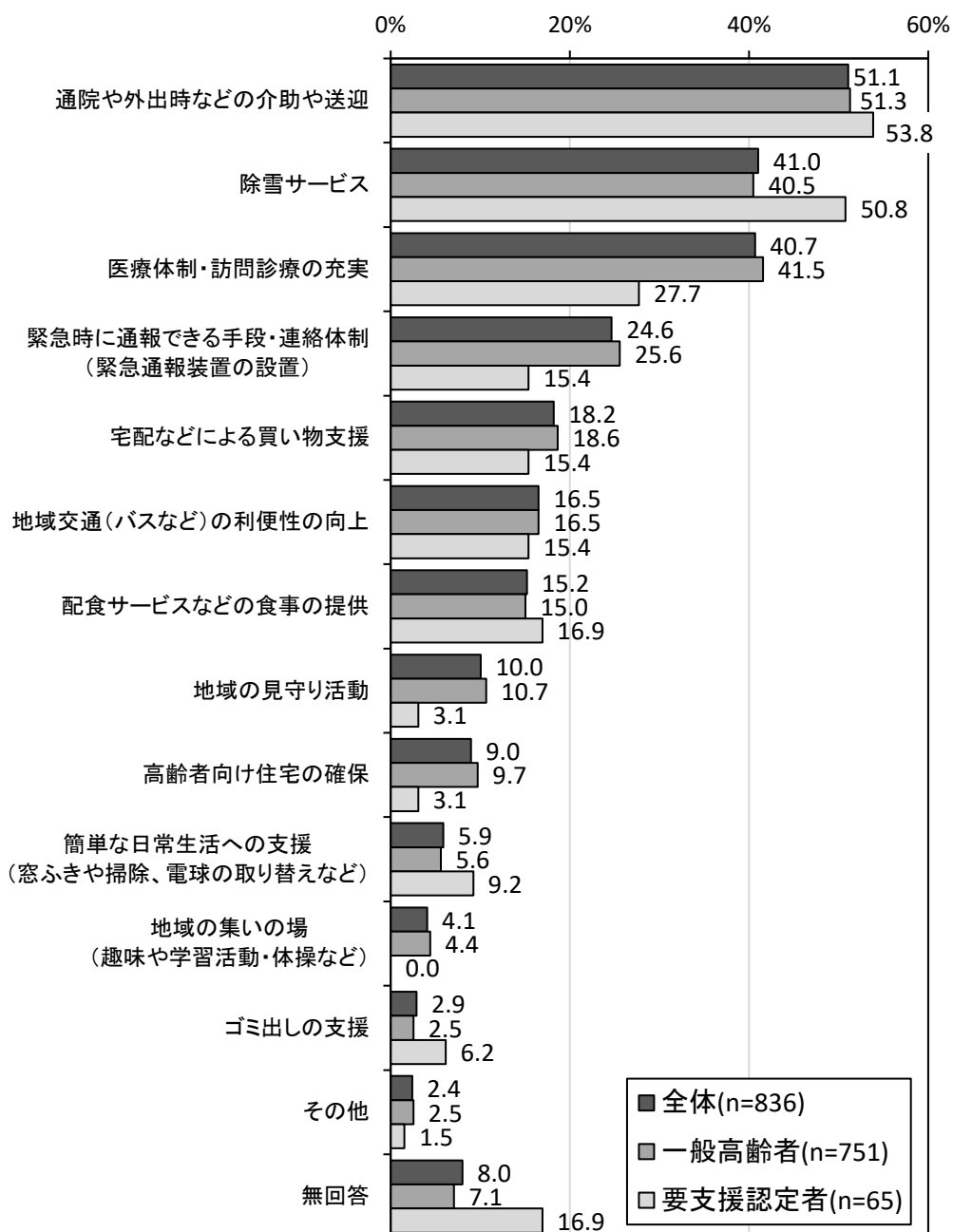
(4) 地域や自宅での生活を続けていくために必要な支援・サービス【複数回答】

①全体及び介護認定別

全体で見ると、「通院や外出時などの介助や送迎」が 51.1%で最も多く、次いで「除雪サービス」(41.0%)、「医療体制・訪問診療の充実」(40.7%)と続いています。

介護認定別でも全体とほぼ同様の傾向となっていますが、要支援認定者は「除雪サービス」が 50.8%で、一般高齢者と比べて 10.3 ポイント多くなっています。

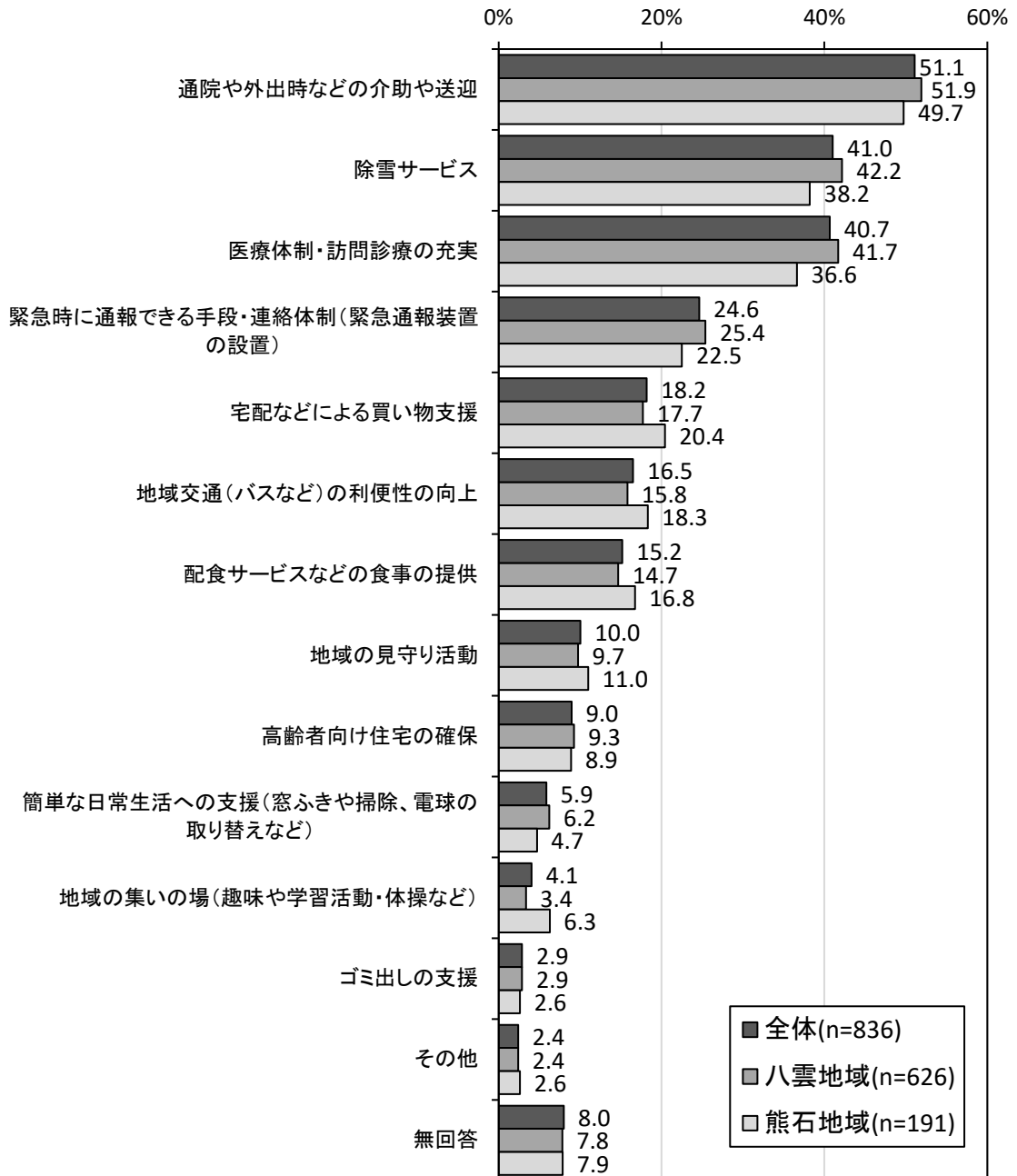
《地域での生活を続けていくために必要な支援／全体及び介護認定別》



②圏域別

圏域別でみると、いずれの地域も「通院や外出時などの介助や送迎」「除雪サービス」「医療体制・訪問診療の充実」が上位回答となっており、またその割合は八雲地域の方がやや多い状況です。

《地域での生活を続けていくために必要な支援／圏域別》



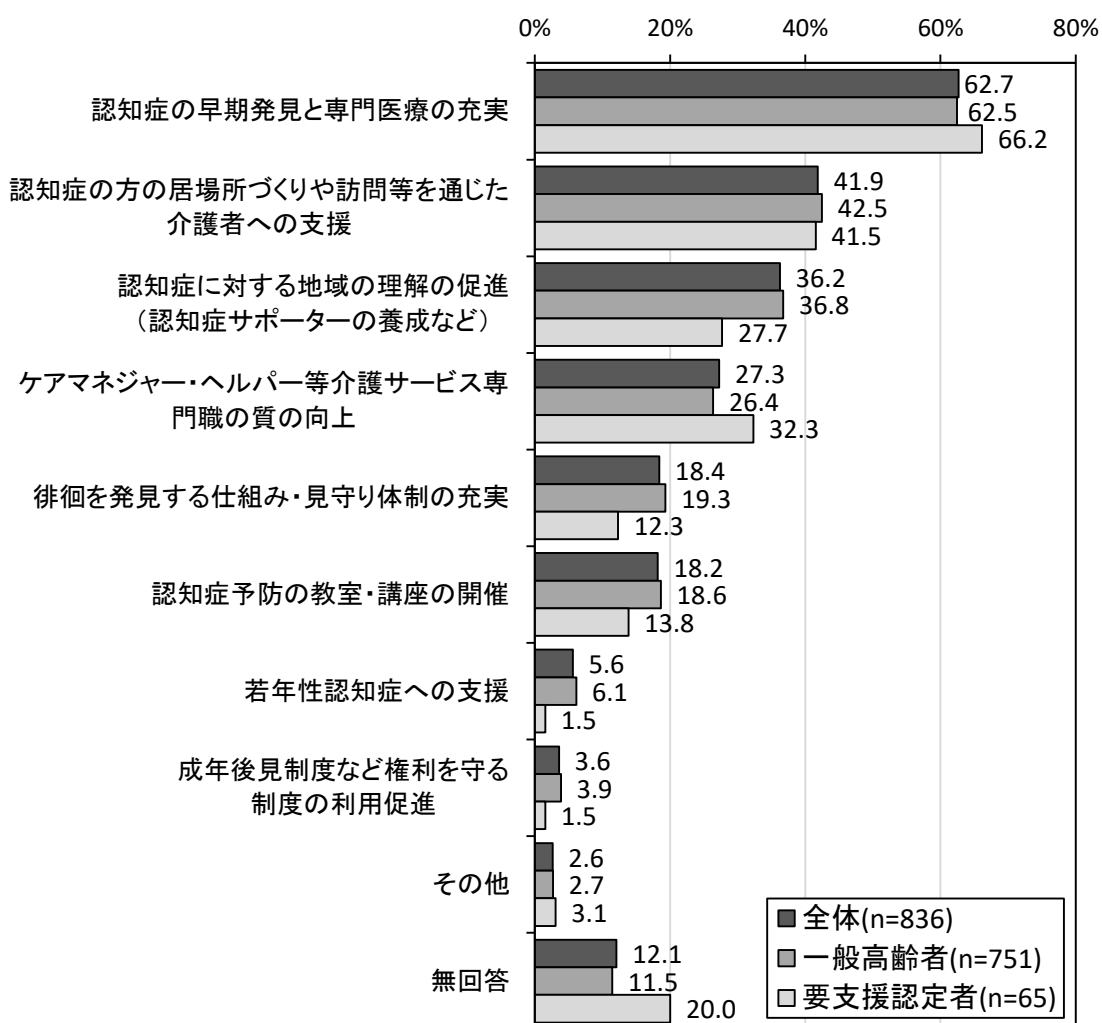
(5) 認知症対策を進める上で重点を置くべきこと【複数回答】

①全体及び介護認定別

全体で見ると、「認知症の早期発見と専門医療の充実」62.7%で最も多く、次いで「認知症の方の居場所づくりや訪問等を通じた介護者への支援」(41.9%)、「認知症に対する地域の理解の促進(認知症サポーターの養成など)」(36.2%)と続いています。

介護認定別で見ても、全体とほぼ同様の傾向となっていますが、要支援認定者は「ケアマネジャー・ヘルパー等介護サービス専門職の質の向上」(32.3%)が一般高齢者よりも5.9ポイント多くなっています。

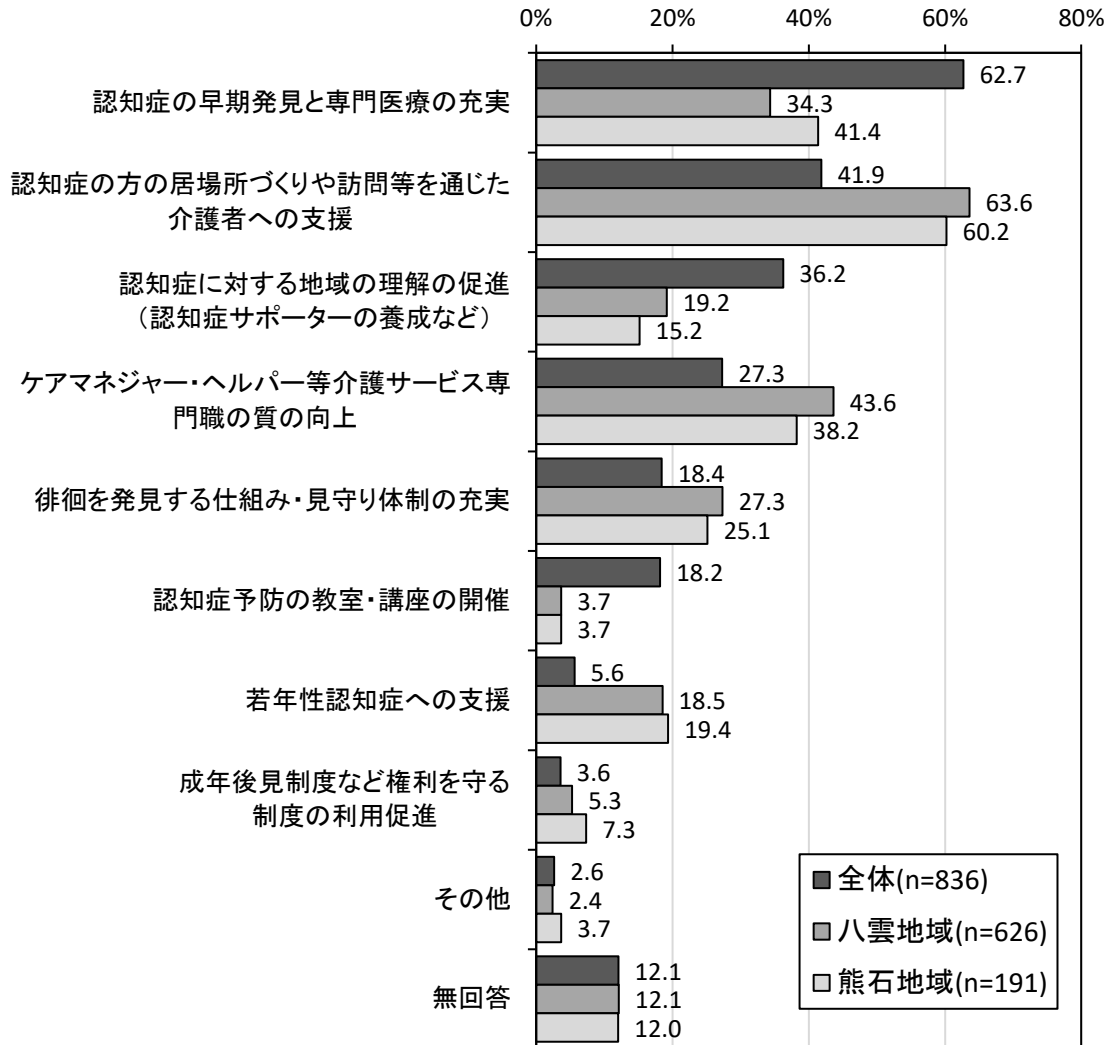
《認知症対策を進める上で重点を置くべきこと／全体及び介護認定別》



②圏域別

圏域別でも全体と同様の傾向となっていますが、熊石地域は「認知症に対する地域の理解の促進（認知症サポーターの養成など）」（41.4%）が八雲地域と比べて7.1ポイント多くなっています。

《認知症対策を進める上で重点を置くべきこと／圏域別》

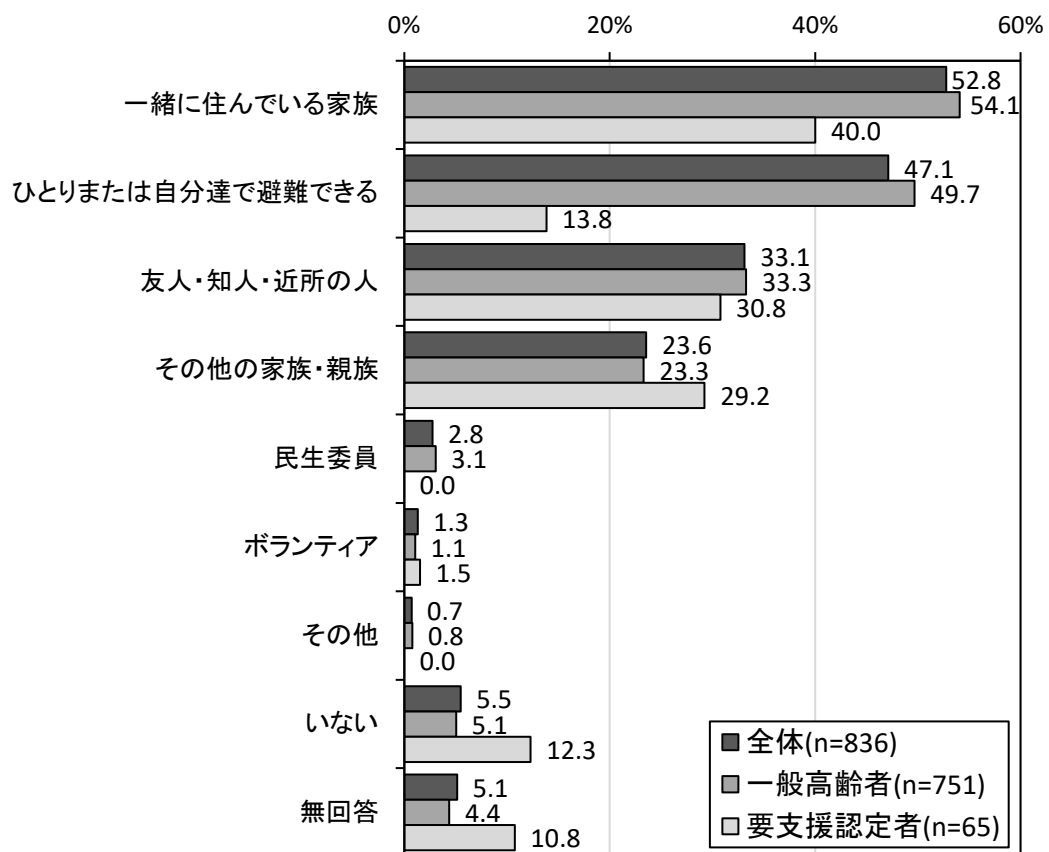


(6) 災害発生時、避難する際に頼れる人がいるかどうか

①全体及び介護認定別

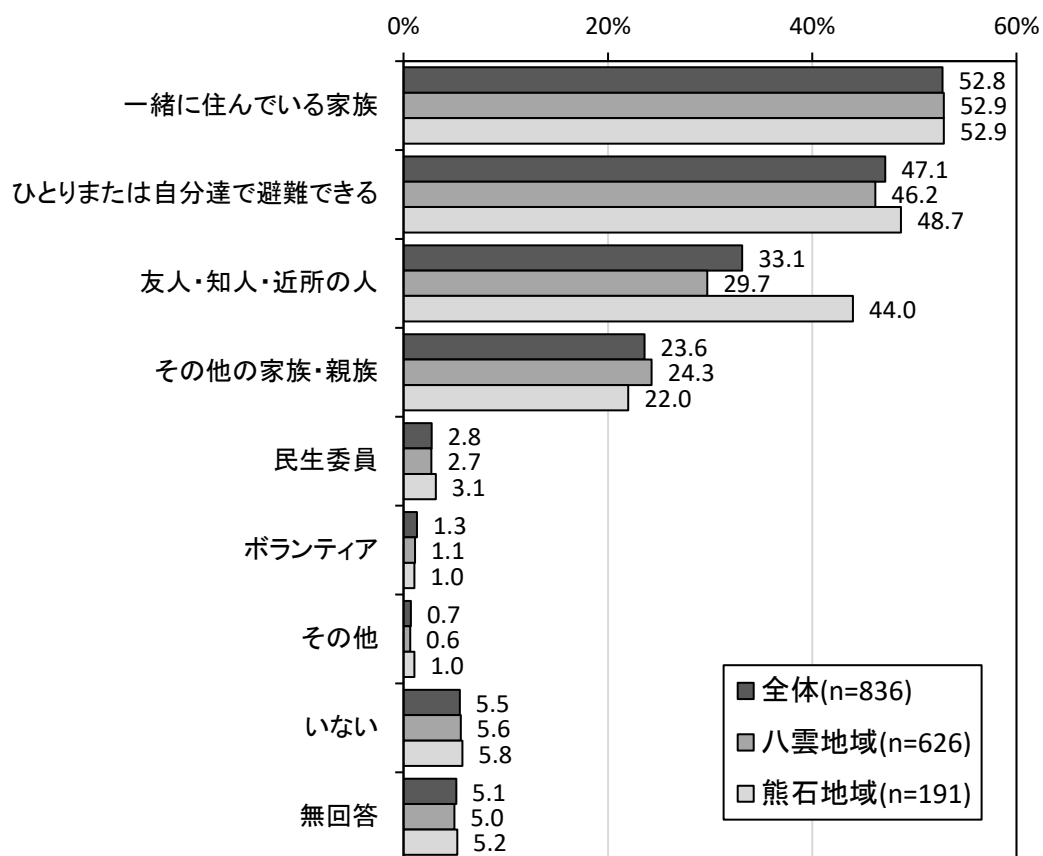
全体で見ると、「一緒に住んでいる家族」が 52.8%で最も多く、次いで「ひとりまたは自分達で避難できる」(47.1%)、「友人・知人・近所の人」(33.1%)と続いています。

介護認定別で見ると、要支援認定者は「ひとりまたは自分達で避難できる」が 13.8%で一般高齢者比べて 35.9 ポイント少なくなっています。



②圏域別

圏域別でも全体と同様の傾向となっていますが、熊石地域は「友人・知人・近所の人」が八雲地域よりも14.3ポイント高くなっています。

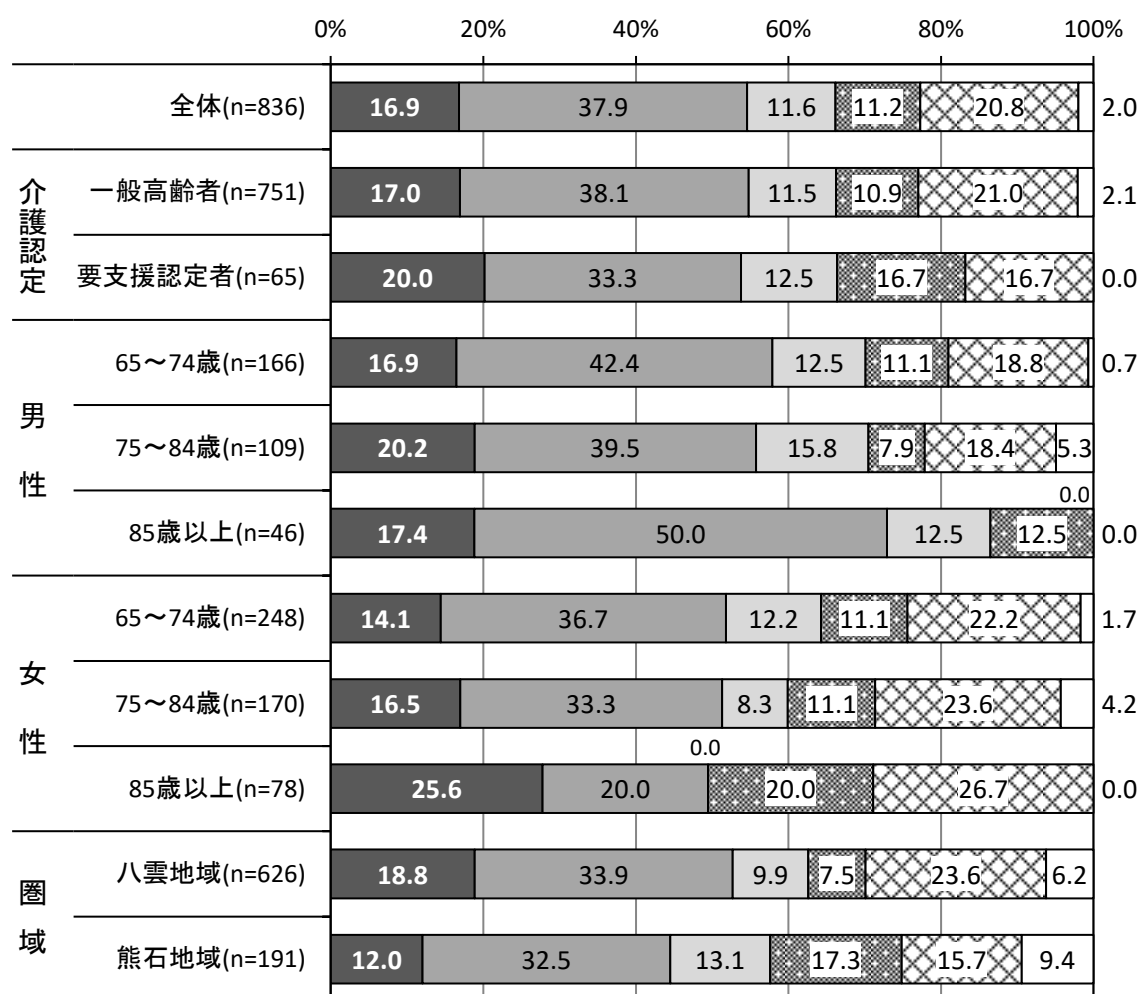


(7) 高齢者にとっての町の暮らしやすさ

全体でみると、「暮らしやすいと思う」(16.9%)、「どちらかといえばそう思う」(37.9%)は合計54.8%で、暮らしやすいと回答している人が半数以上となっています。

男女年齢階級別に「暮らしやすいと思う」及び「どちらかといえばそう思う」の合計をみると、85歳以上の男性は67.4%と最も多くなっています。また、女性は「暮らしやすいと思う」の割合が25.6%で他の年齢階級と比べて多くなっています。

圏域別に「暮らしやすいと思う」及び「どちらかといえばそう思う」の合計をみると、八雲地域は52.7%で熊石地域よりも8.2ポイント多くなっています。



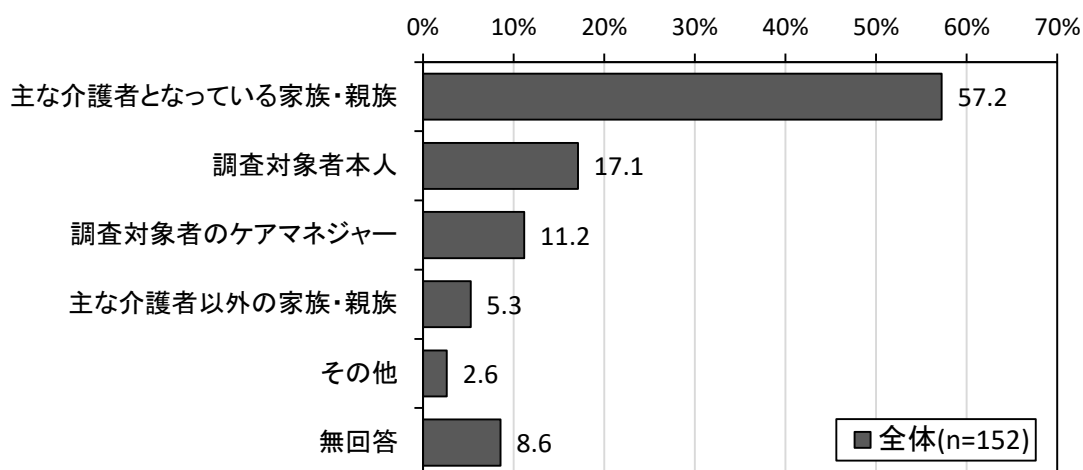
- 暮らしやすいと思う
- どちらかといえばそう思う
- 暮らしやすいとは思わない
- 無回答
- わからない

Ⅲ. 在宅介護実態調査結果

1. 回答者について

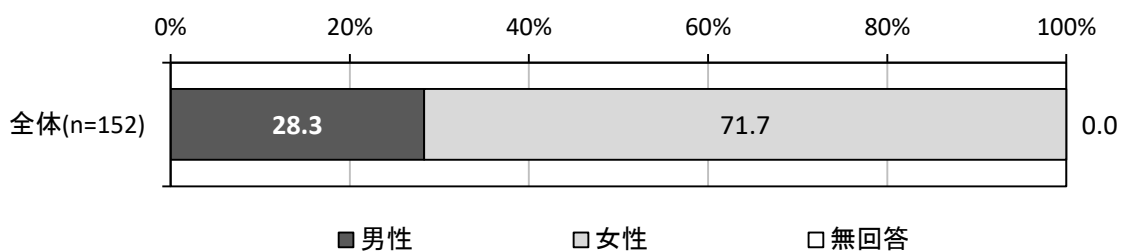
(1) 記入者【複数回答】

アンケートの記入者は「主な介護者となっている家族・親族」が57.2%で最も多く、次いで「調査対象者本人」(17.1%)、「調査対象者のケアマネジャー」(11.2%)が続いています。



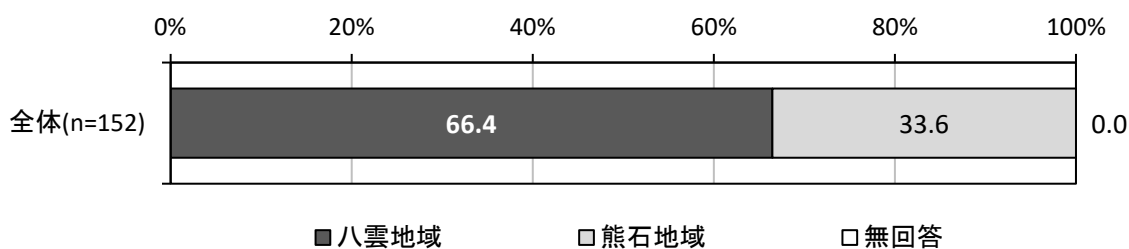
(2) 性別

調査対象者の性別は、男性が28.3%、女性が71.7%となっています。



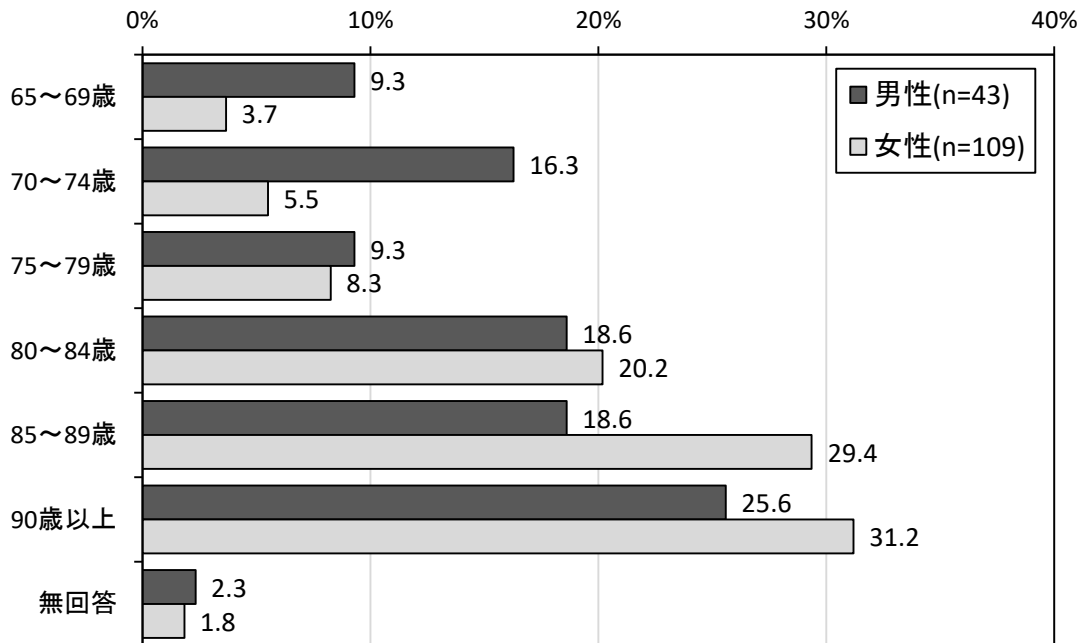
(3) 日常生活圏域

調査対象者の日常生活圏域は、八雲地域が66.4%、熊石地域が33.6%となっています。



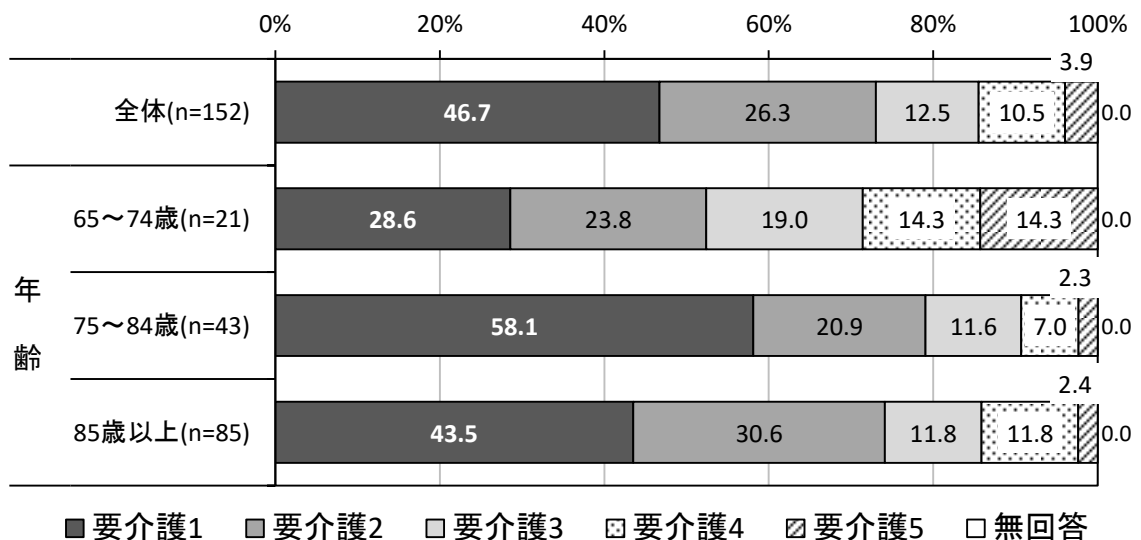
(4) 年齢

調査対象者は男女ともに「90歳以上」が最も多く、男性は25.6%、女性は31.2%となっています。



(5) 要介護度

全体で見ると、「要介護1」が46.7%で最も多く、次いで「要介護2」(26.3%)、「要介護3」(12.5%)が続いています。
 年齢階級別で見ると、65~74歳は「要介護3」から「要介護5」が全体の約半数を占めており、他の年齢階級と比べて高くなっています。



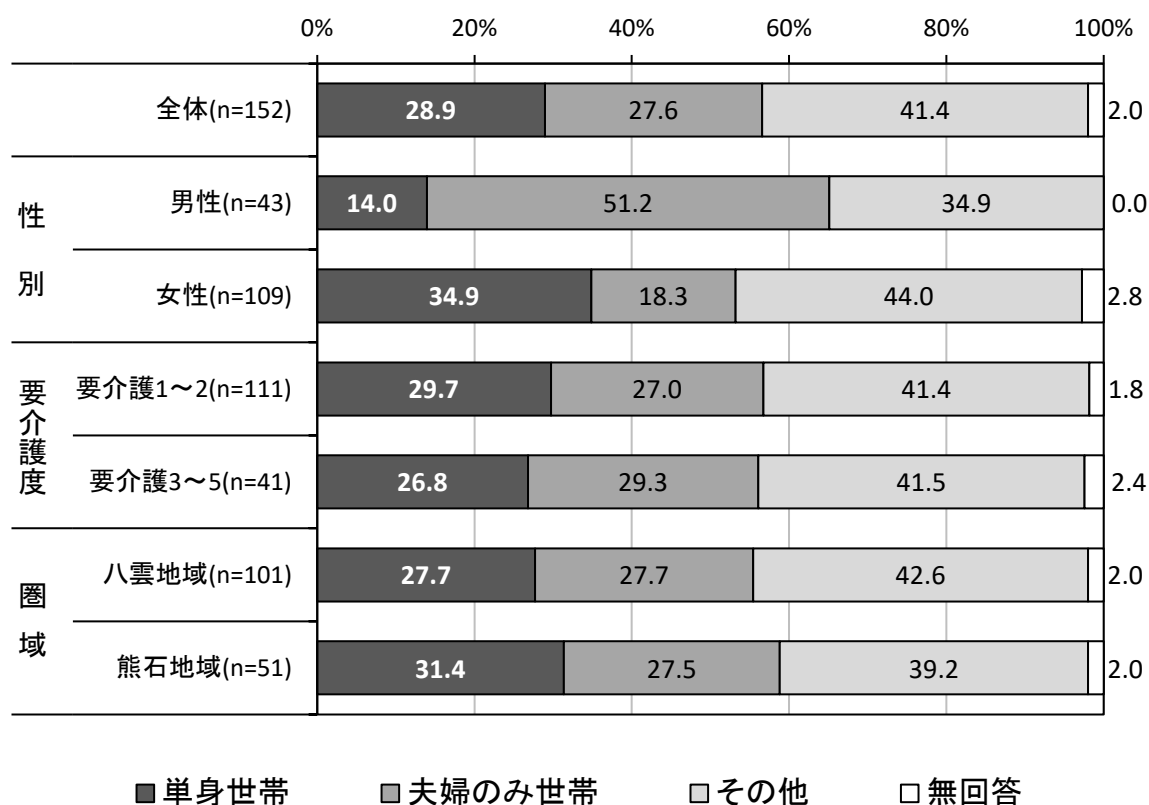
2. 在宅で介護されている方の状況について

(1) 世帯類型

全体で見ると、「その他」が 41.4%で最も多くなっており、家族が同居で介護を行っている2世代世帯が多いと考えられます。次いで、「単身世帯」(28.9%)、「夫婦のみ世帯」(27.6%)の順で続いています。

男女別で見ると、女性は男性よりも「単身世帯」が多く、男性と比べて 20.9 ポイント高くなっています。

要介護度別、圏域別では、それぞれに大きな差異はみられない状況です。

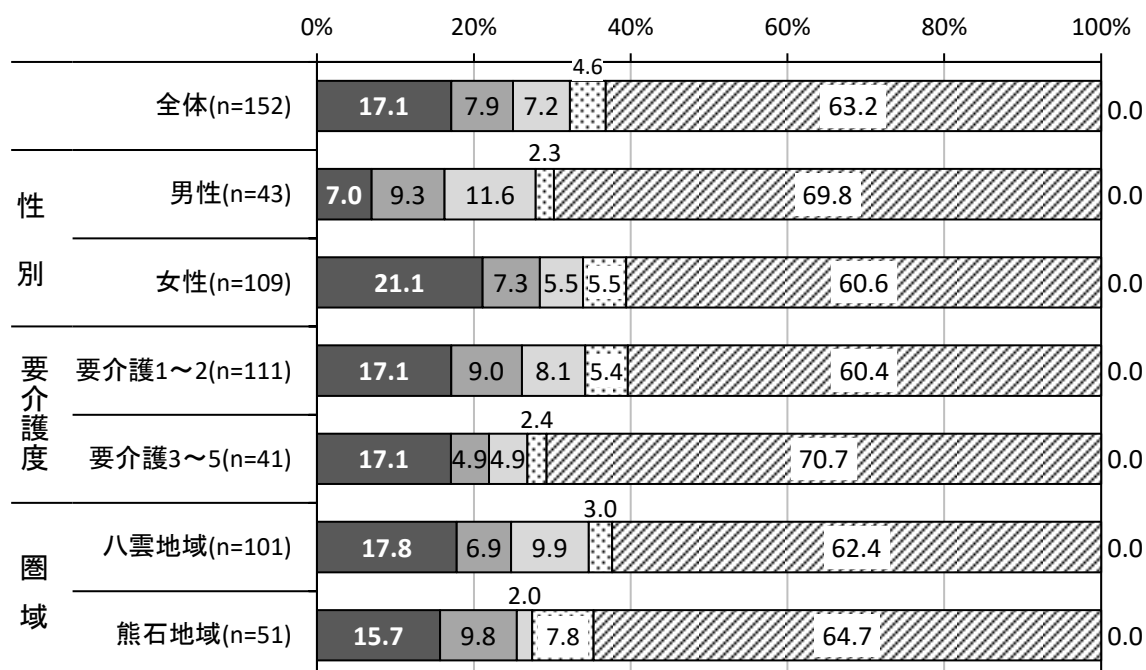


(2) 家族等による介護の頻度

全体で見ると、「ほぼ毎日ある」が63.2%で最も多く、次いで「ない」(17.1%)、「家族・親族の介護はあるが、週に1日よりも少ない」(7.9%)が続いています。

男女別で見ると、女性は男性よりも「ない」の割合が14.1ポイント高くなっています。

要介護度別に「ほぼ毎日ある」の割合をみると、要介護1～2よりも要介護3～5の方が多く、圏域別では八雲地域と熊石地域で「ほぼ毎日ある」がほぼ同じ割合となっています。



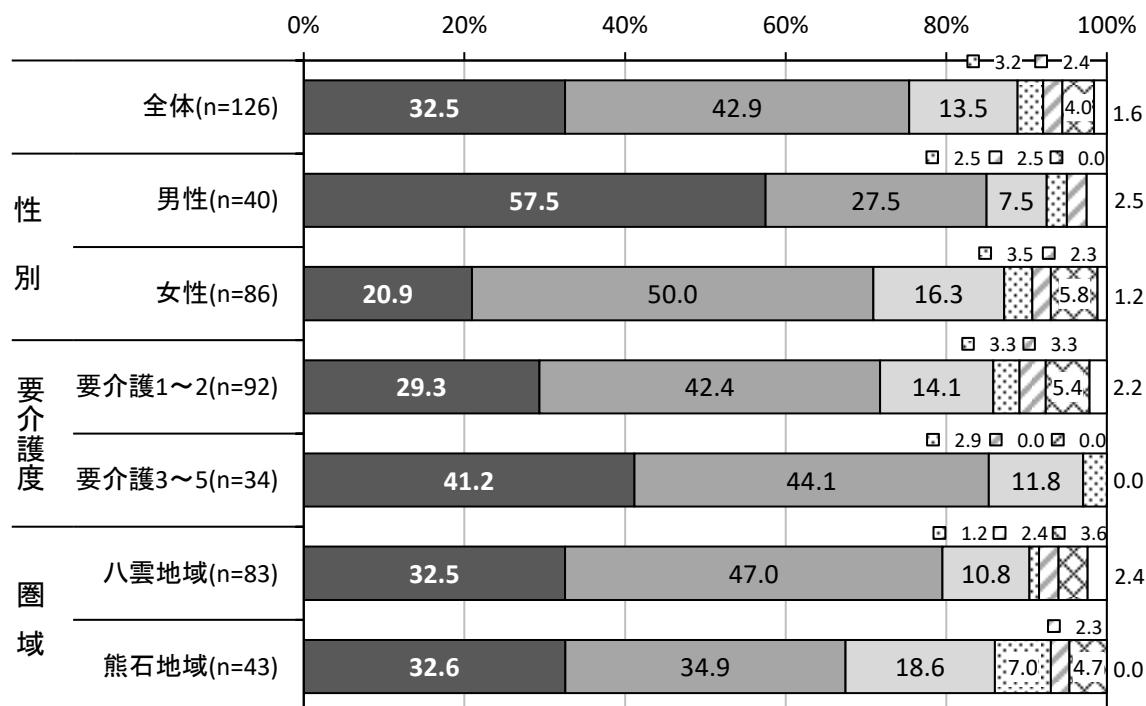
- ない
- 家族・親族の介護はあるが、週に1日よりも少ない
- 週に1～2日ある
- ▣ 週に3～4日ある
- ▤ ほぼ毎日ある
- 無回答

(3) 主な介護者の本人との関係

全体で見ると、「子」が42.9%で最も多く、次いで「配偶者」が32.5%が続いています。
男女別で見ると、男性は「配偶者」(57.5%)、女性は「子」(50.0%)がそれぞれ最も多くなっています。

要介護度別で見ると、要介護3～5は要介護1～2と比べて「配偶者」の割合が多くなっています。

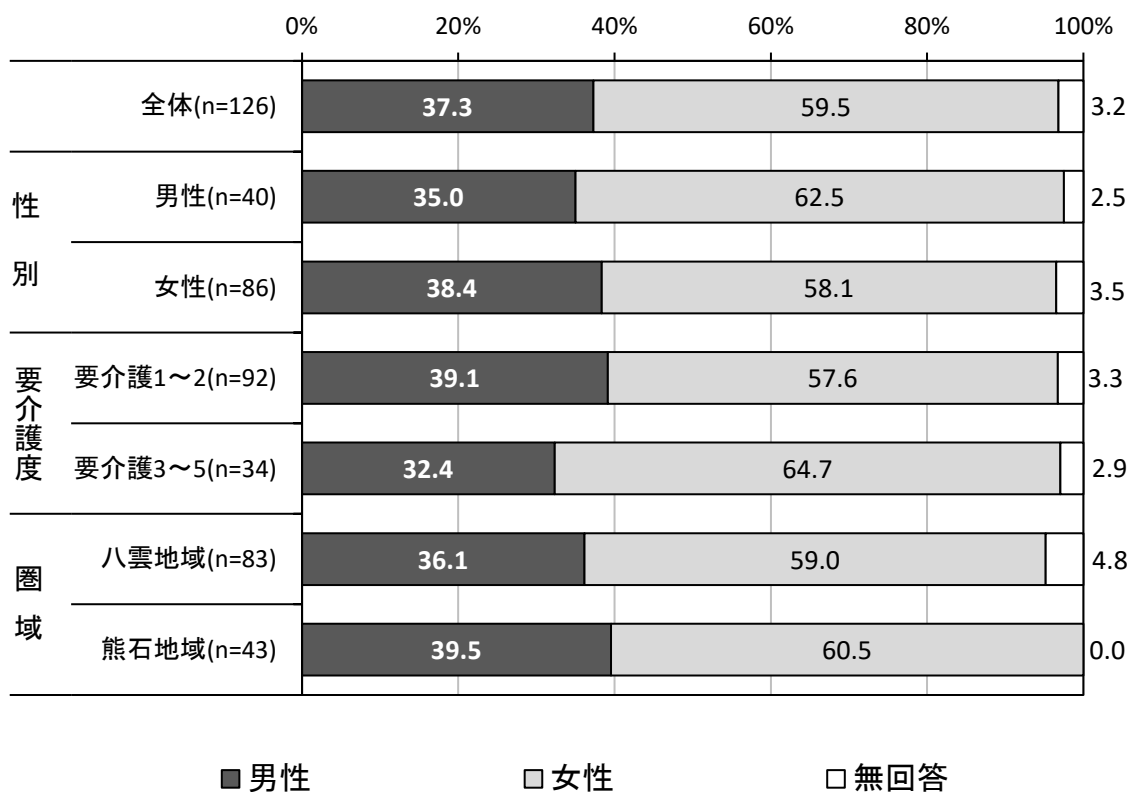
圏域別にみると、熊石地域よりも八雲地域の方が「子」の割合が多くなっています。



■ 配偶者 ■ 子 □ 子の配偶者 □ 孫 □ 兄弟・姉妹 □ その他 □ 無回答

(4) 主な介護者の性別

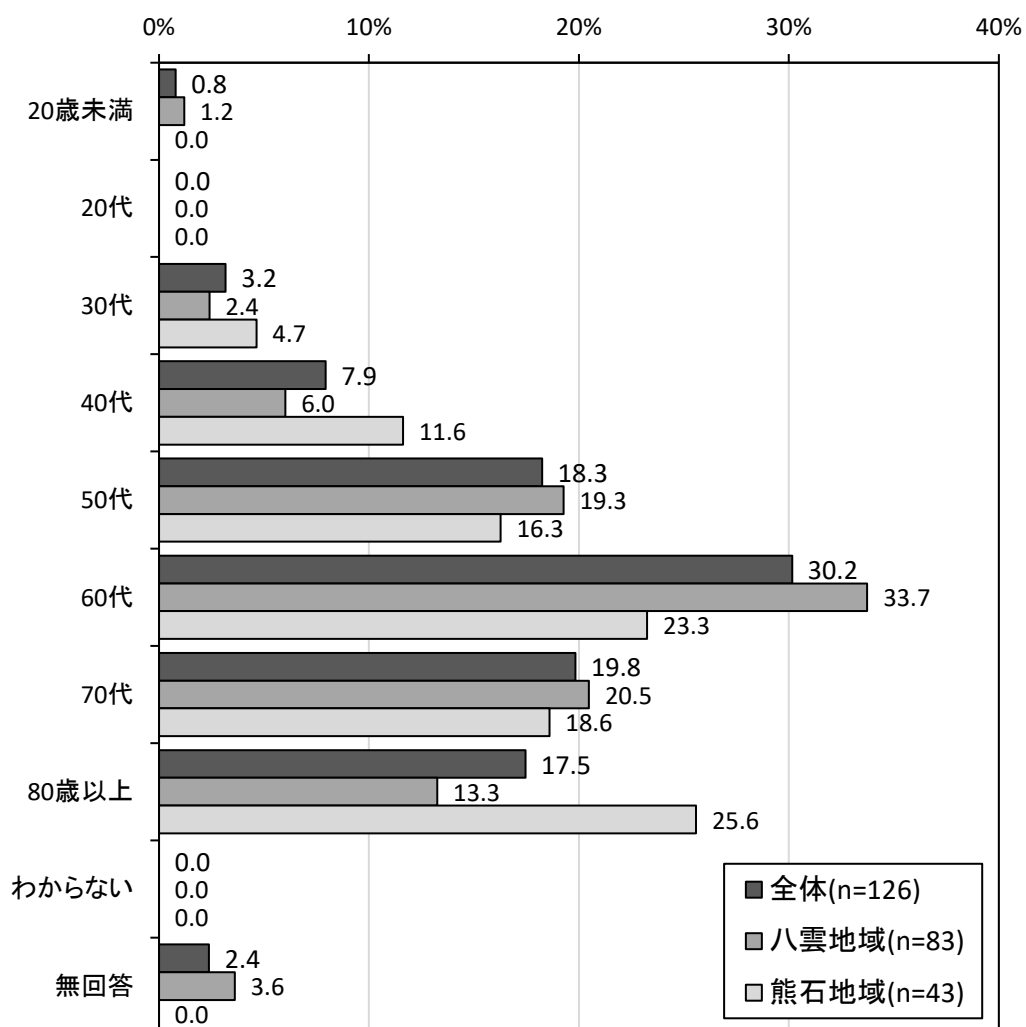
全体で見ると、「男性」の37.3%に対し「女性」が59.5%で多くなっています。
男女別、要介護度別、圏域別でも、主な介護者は女性の方が多くいます。



(5) 主な介護者の年齢

全体では、「60代」が30.2%で最も多く、次いで「70代」(19.8%)、「80歳以上」(17.5%)が続いており、主な介護者の年齢は高い状況にあります。

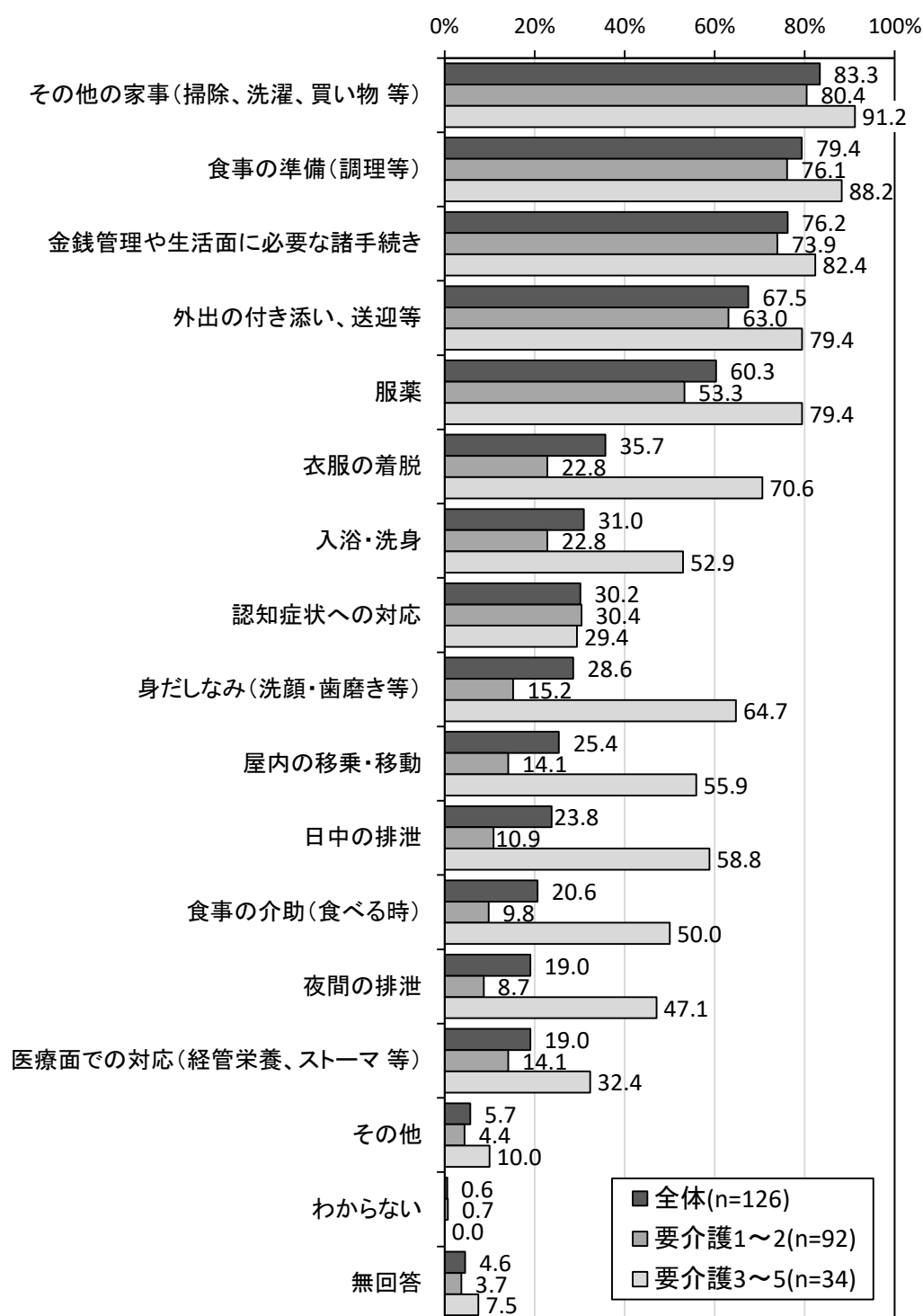
圏域別で見ると、熊石地域は「80歳以上」が25.6%で最も多く、八雲地域よりも介護者の高齢化が進んでいると考えられます。



(6) 主な介護者が行っている介護【複数回答】

全体で見ると、「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」が83.3%で最も多く、次いで「食事の準備（調理等）」（79.4%）、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」（76.2%）が続いています。

要介護度別でも上位回答の傾向は全体とほぼ同様となっていますが、要介護3～5はどの項目においても要介護1～2よりも回答の割合が多くなっています。



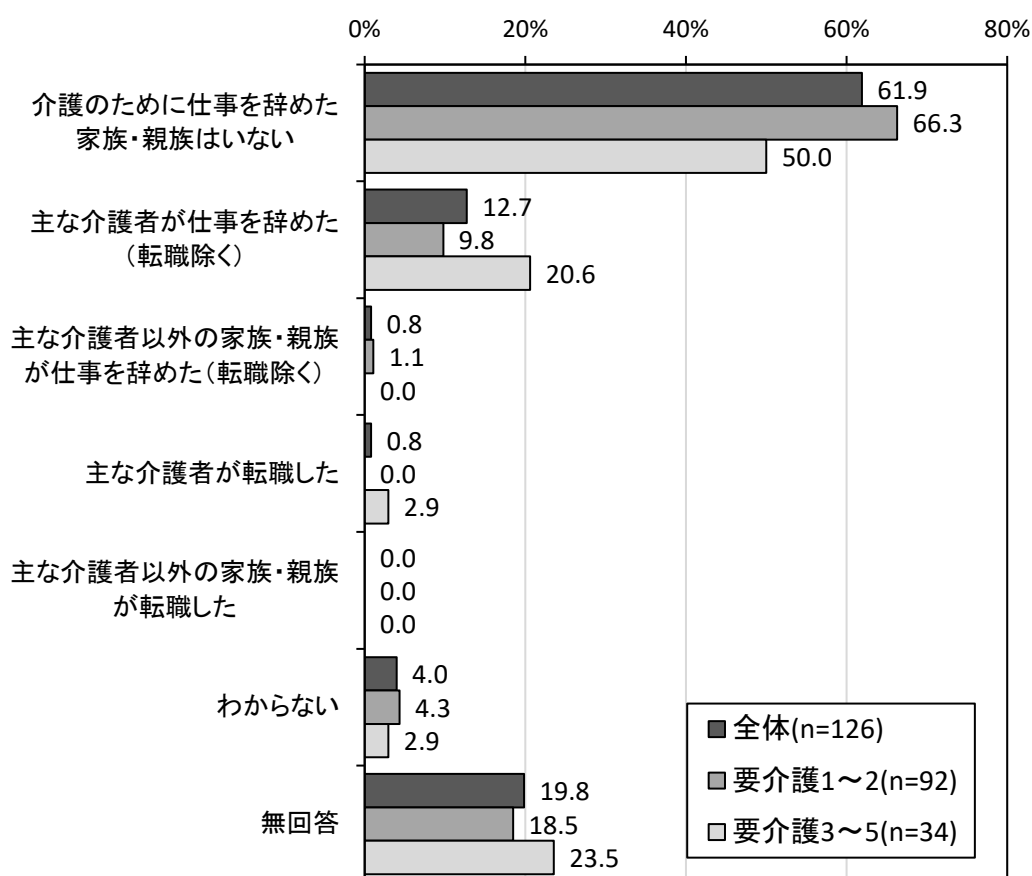
(7) 介護のための離職の有無【複数回答】

①全体及び要介護度別

全体で見ると、「介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」が61.9%で最も多く、「主な介護者が仕事を辞めた（転職除く）」（12.7%）及び「主な介護者以外の家族・親族が仕事を辞めた（転職除く）」（0.8%）の合計は13.5%となっています。

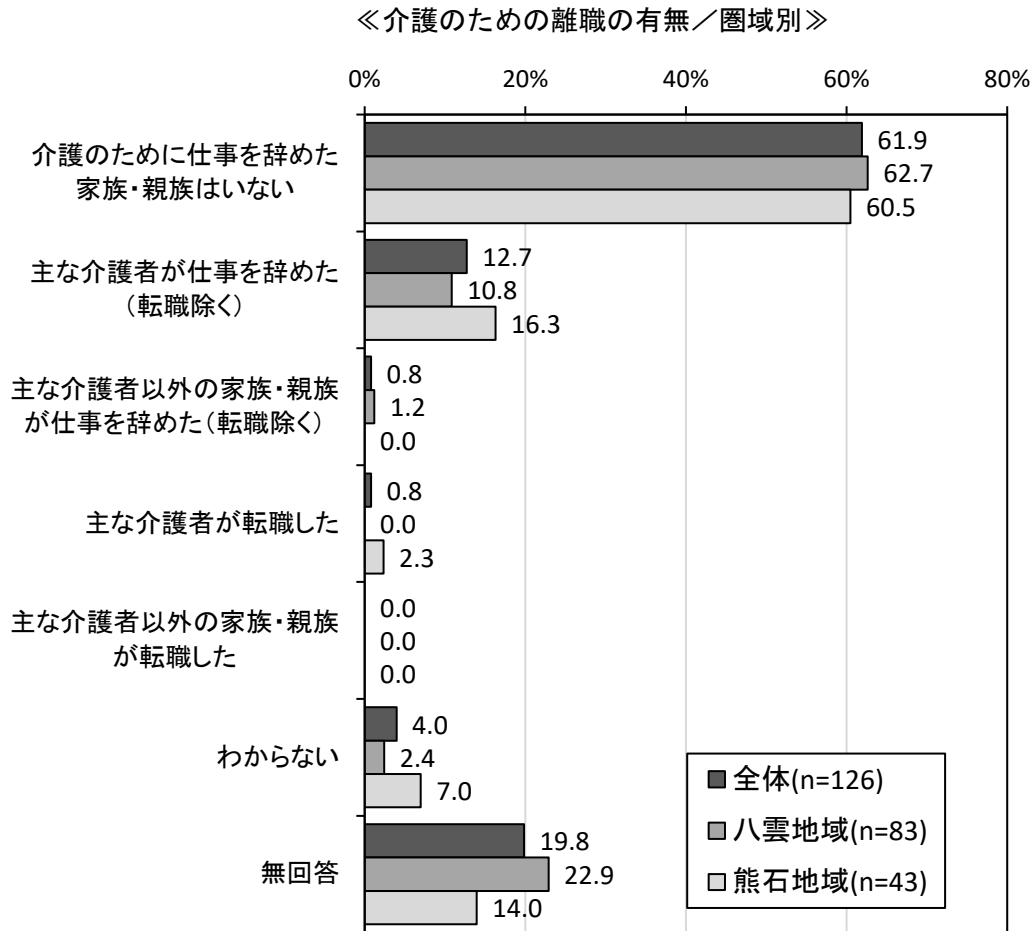
要介護度別で見ても全体と傾向は大きく変わりませんが、主な介護者が仕事を辞めた人の割合は、要介護1～2よりも要介護3～5の方が多くなっています。

《介護のための離職の有無／全体及び要介護度別》



②圏域別

圏域別でも全体と傾向は大きく変わりませんが、「主な介護者が仕事を辞めた（転職除く）」は、八雲地域よりも熊石地域の方が多くなっています。



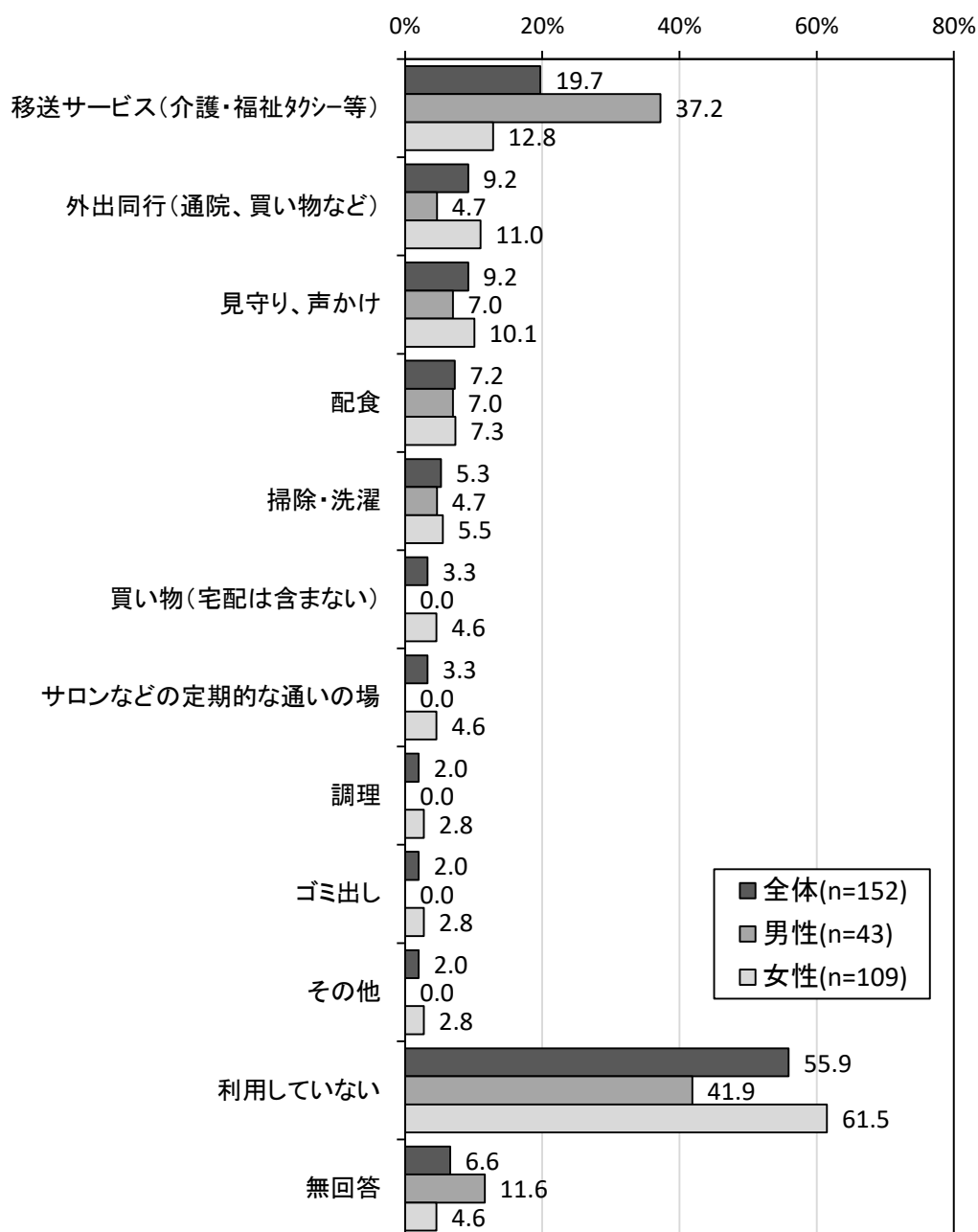
(8) 介護保険外の支援・サービスの利用状況【複数回答】

①全体及び男女別

全体で見ると、「利用していない」が 55.9%で最も多くなっていますが、利用しているサービスの中では、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」（19.7%）、「外出同行（通院、買い物など）」「見守り、声かけ」（ともに9.2%）が上位回答となっています。

男女別で見ても全体と傾向は大きく変わりませんが、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」は女性よりも男性の方が多くなっています。

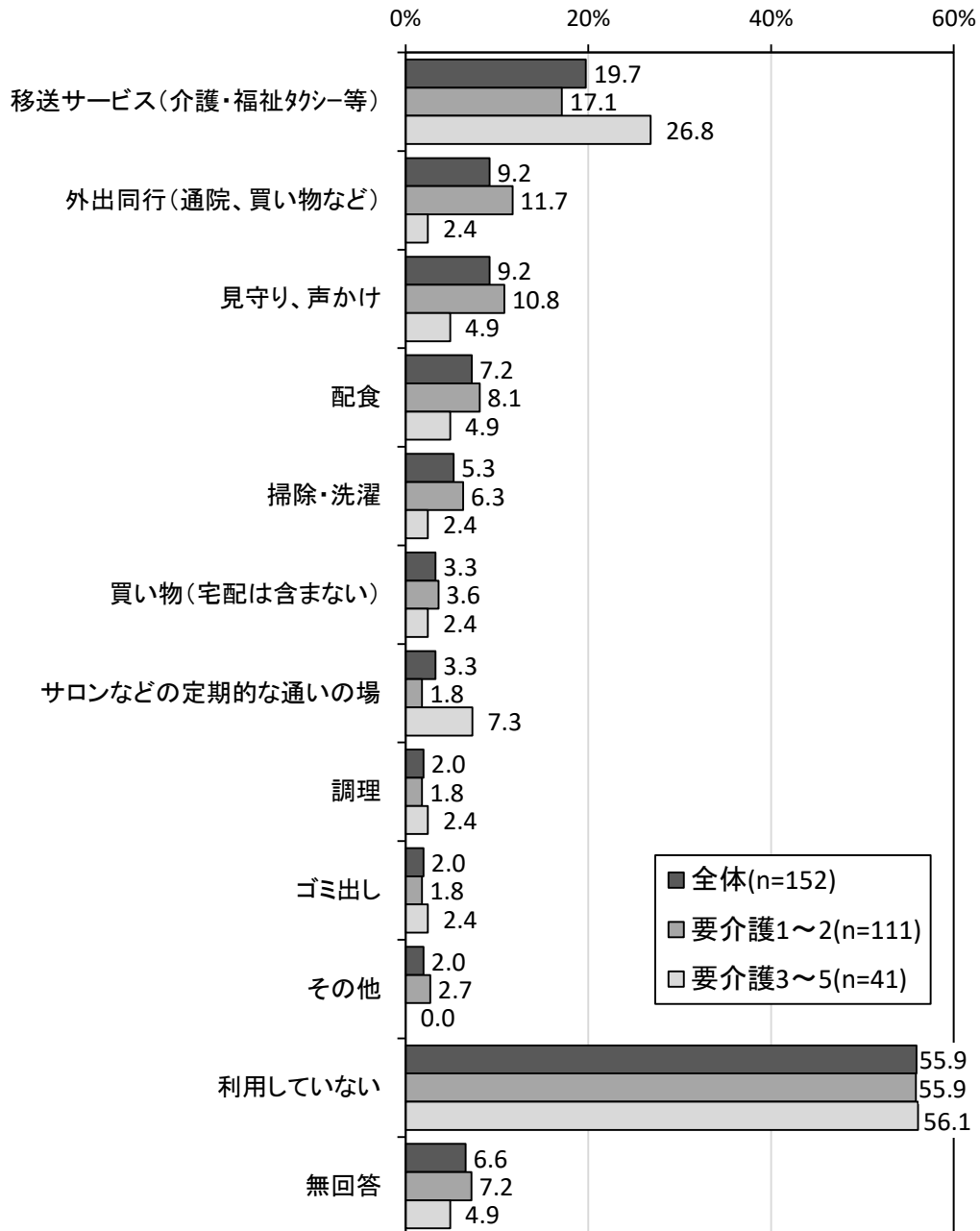
《介護保険外の支援・サービスの利用状況／全体及び男女別》



②要介護度別

要介護度別でも全体と傾向は大きく変わりませんが、要介護3～5は「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が、要介護1～2と比べて多く利用されています。

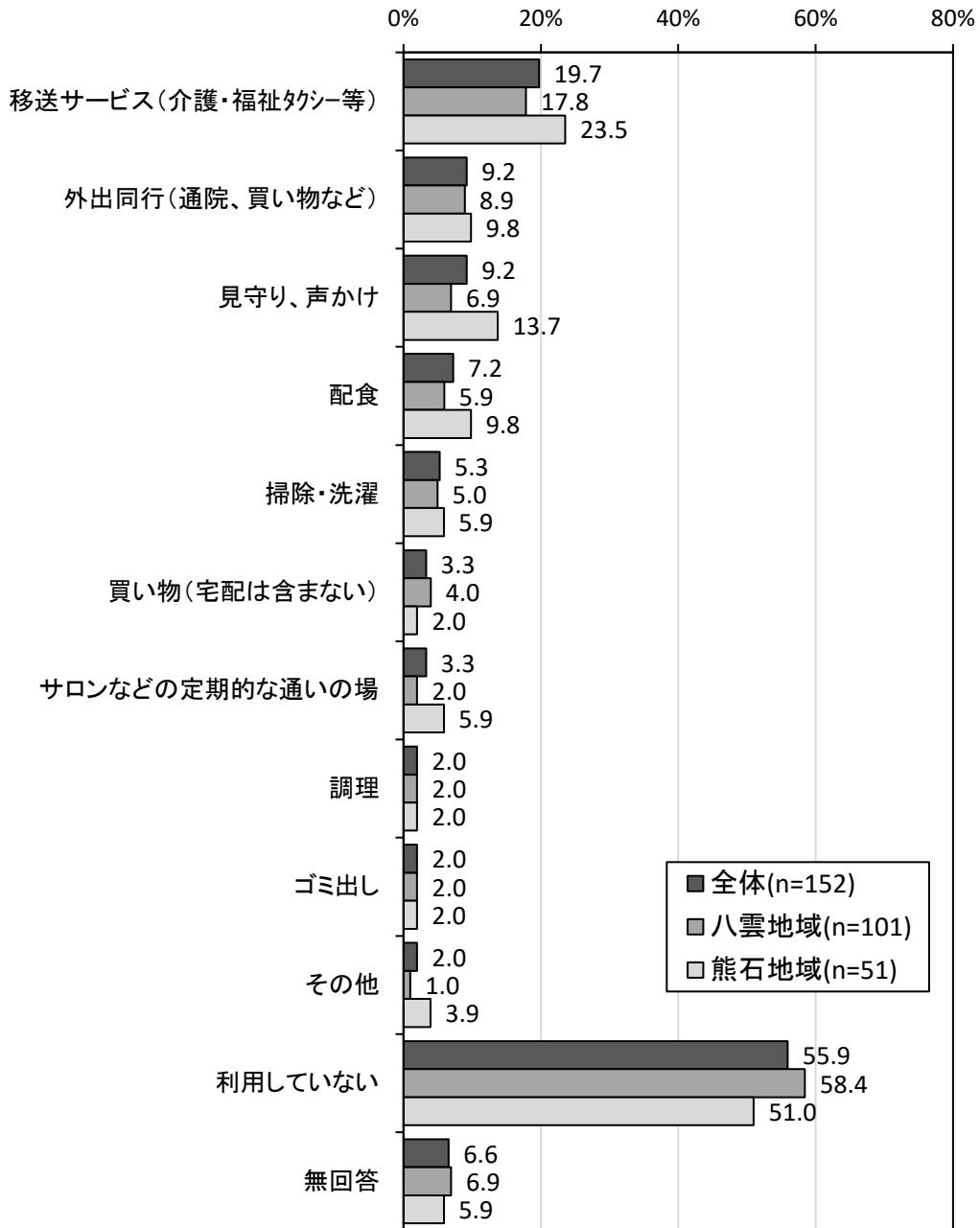
《介護保険外の支援・サービスの利用状況／要介護度別》



③圏域別

圏域別でも全体と傾向は大きく変わりませんが、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」「見守り・声かけ」などのサービスは八雲地域よりも熊石地域の方が多く利用されています。

《介護保険外の支援・サービスの利用状況／圏域別》



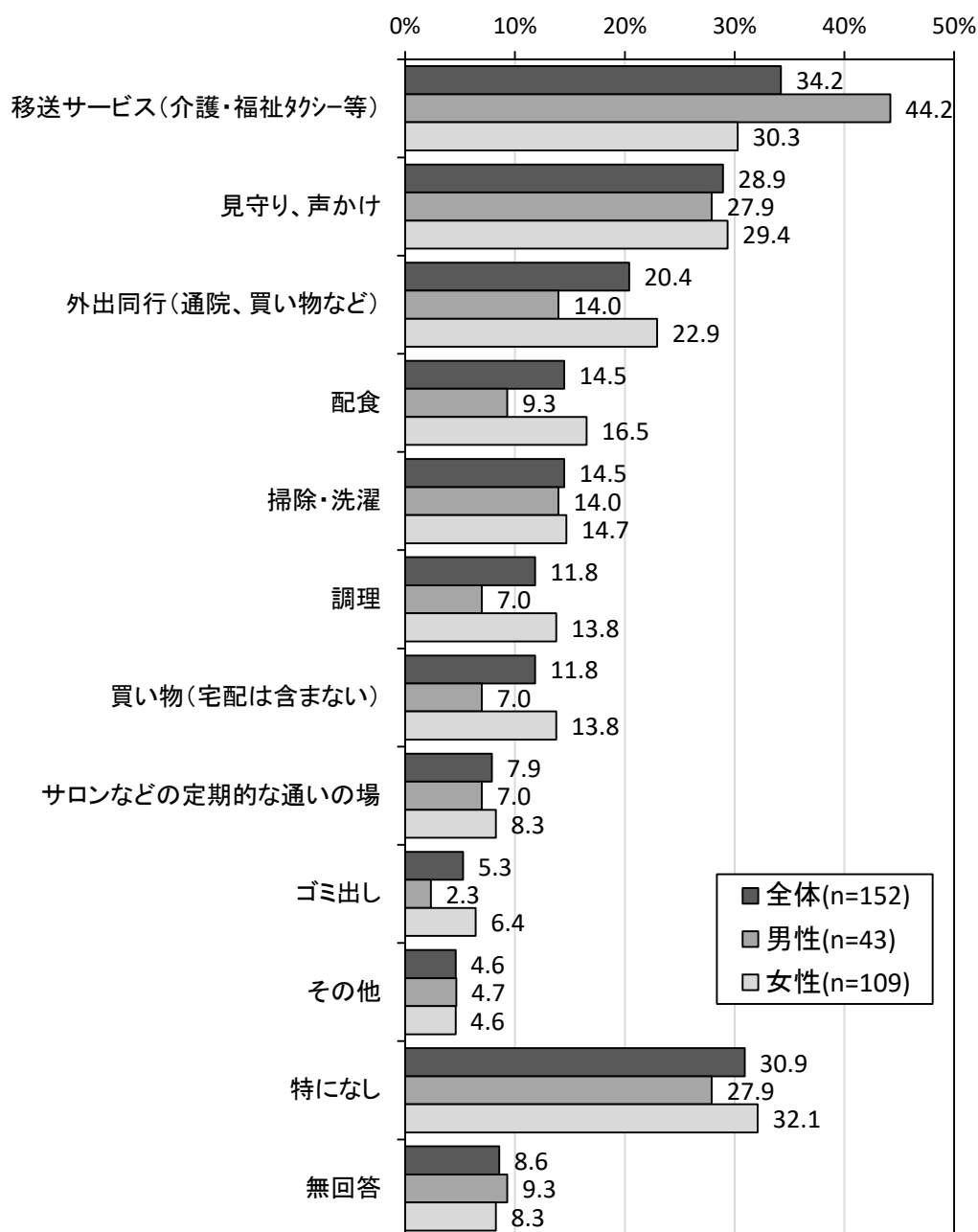
(9) 在宅生活の継続のために充実が必要な支援・サービス【複数回答】

①全体及び男女別

全体で見ると、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」（34.2%）、「見守り、声かけ」（28.9%）、「外出動向（通院、買い物など）」（20.4%）が上位回答となっています。

男女別で見ても全体と傾向は大きく変わりませんが、女性よりも男性の方が「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が多く、「外出同行（通院、買い物など）」「配食」「調理」「買い物（宅配は含まない）」などは女性の方が多くなっています。

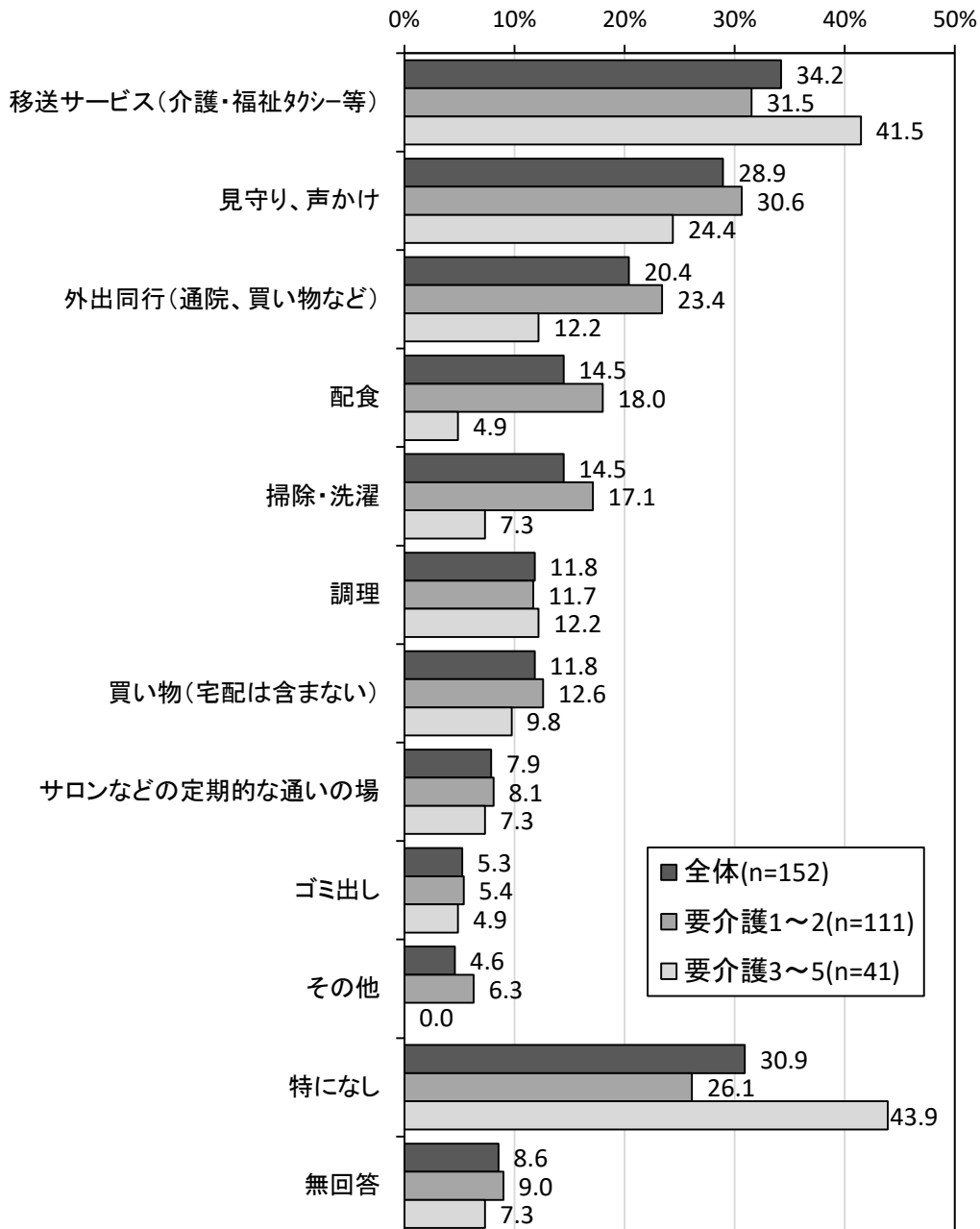
《在宅生活の継続のために充実が必要な支援・サービス／全体及び男女別》



②要介護度別

要介護度別でも全体と傾向は大きく変わりませんが、要介護3～5は「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」は要介護1～2よりも10.0ポイント高く、要介護1～2は「外出同行（通院、買い物など）」「配食」が要介護3～5よりも10.0ポイント以上高くなっています。

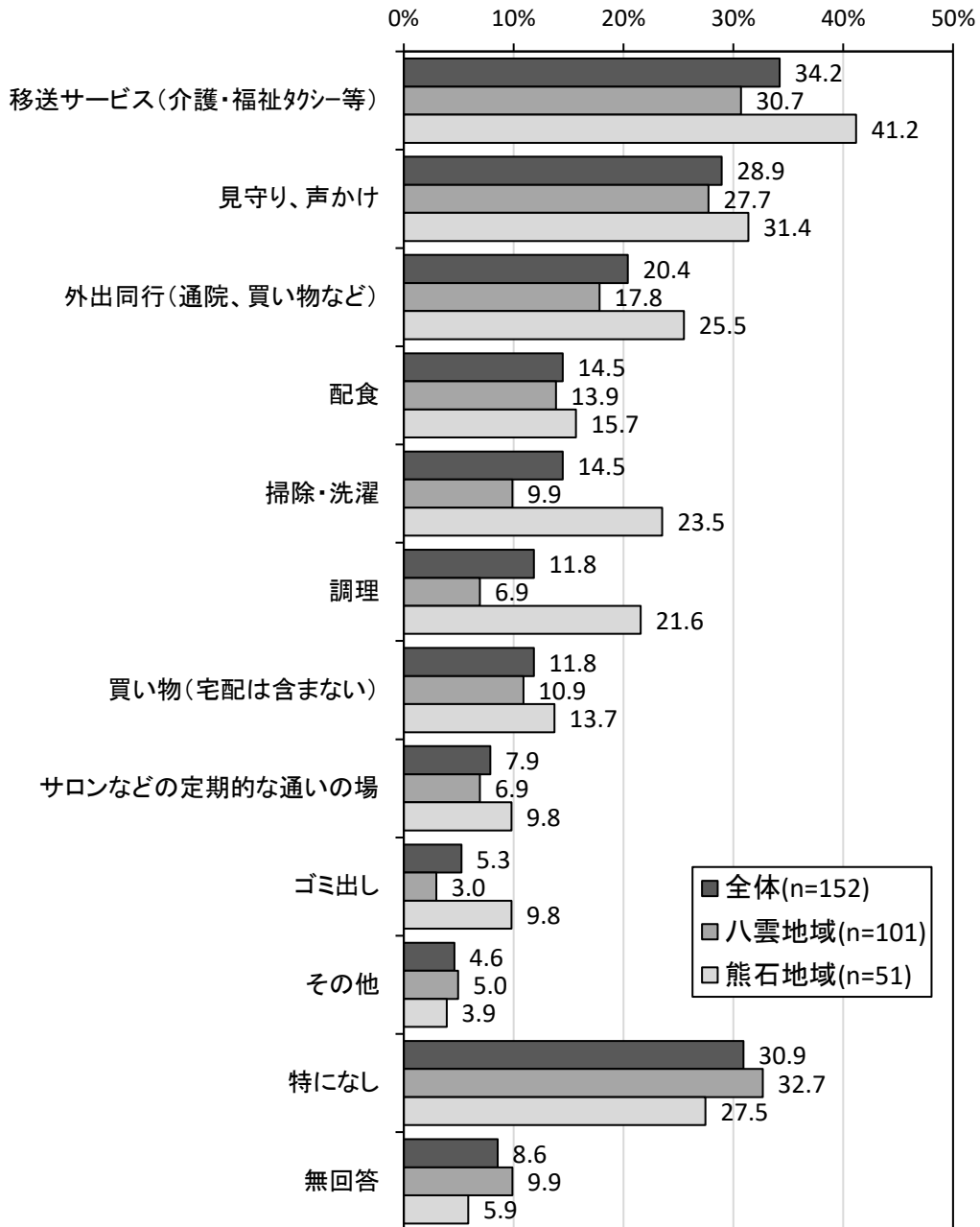
《在宅生活の継続のために充実が必要な支援・サービス／要介護度別》



③圏域別

圏域別でも全体と傾向は大きく変わりませんが、八雲地域よりも熊石地域の方がほとんどのサービスで回答の割合が多くなっています。

《在宅生活の継続のために充実が必要な支援・サービス／圏域別》



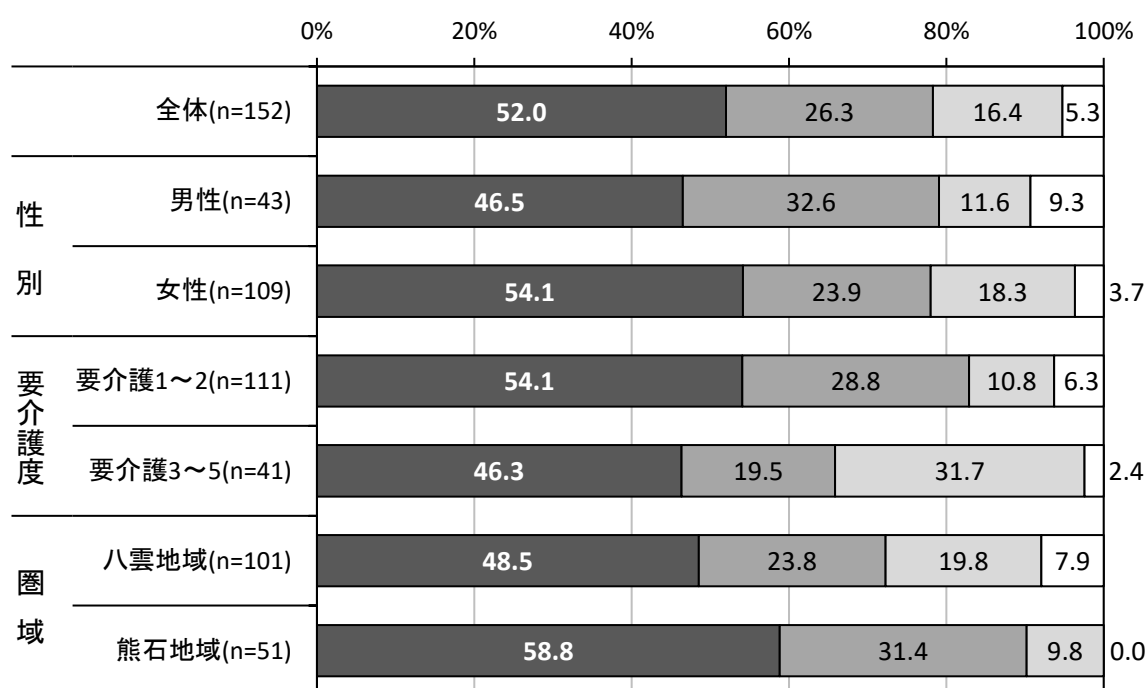
(10) 施設等への入所・入居の検討状況

全体で見ると、「入所・入居は検討していない」が 52.0%で最も多く、次いで「入所・入居を検討している」(26.3%)、「すでに入所・入居申し込みをしている」(16.4%)となっています。

男女別で見ると、女性は「入所・入居は検討していない」が男性よりも 7.6 ポイント高くなっています。

要介護度別で見ると、要介護3～5は「すでに入所・入居申し込みをしている」が要介護1～2よりも 20.9 ポイント高くなっています。

圏域別で見ると、八雲地域よりも熊石地域の方が「入所・入居は検討していない」が 10.3 ポイント高くなっています。



- 入所・入居は検討していない
- 入所・入居を検討している
- すでに入所・入居申し込みをしている
- 無回答

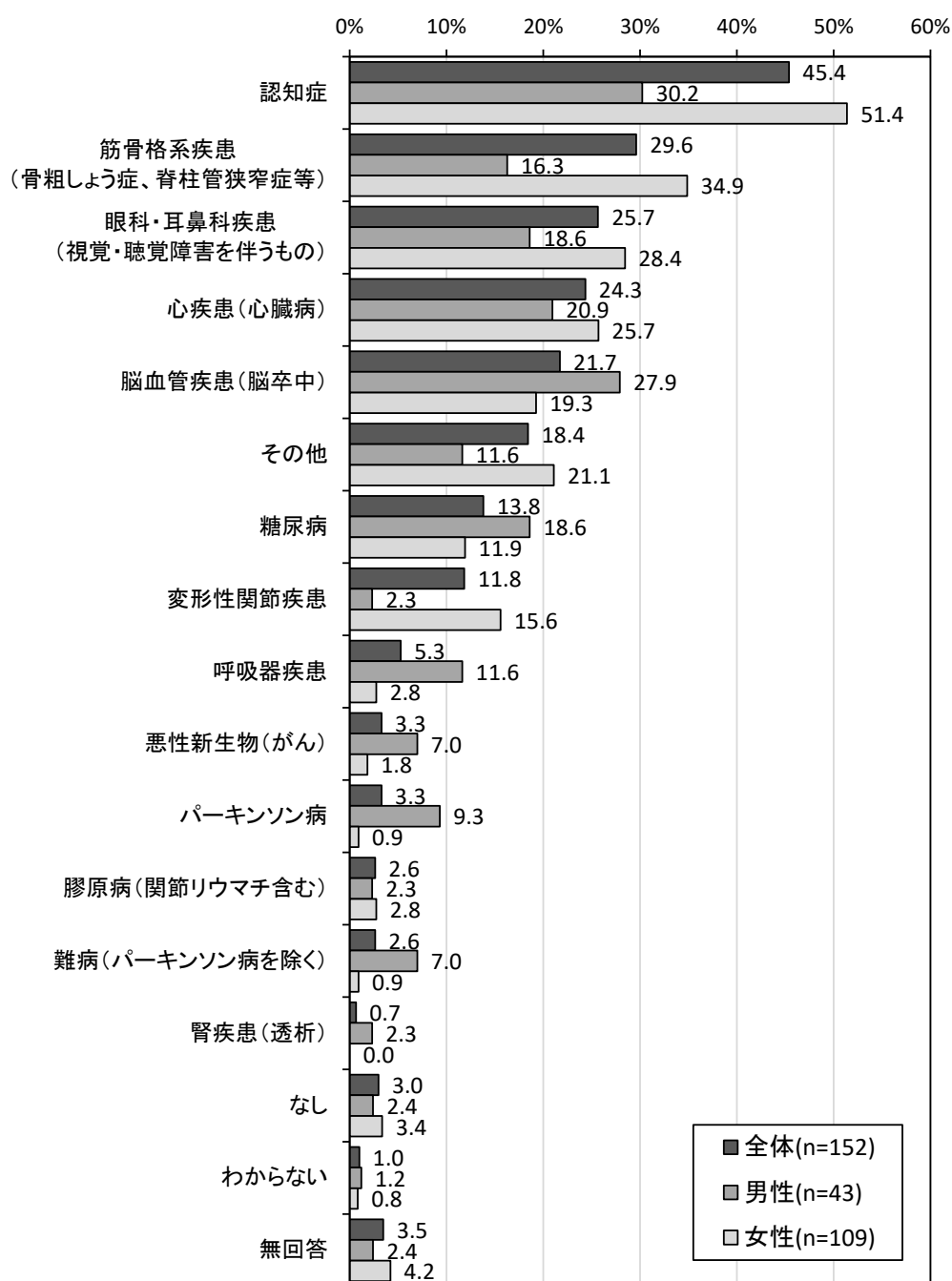
(11) 本人が抱えている傷病【複数回答】

①全体及び男女別

全体でみると、「認知症」が45.4%で最も多く、次いで「筋骨格系疾患（骨粗しょう症、脊柱管狭窄症等）」(29.6%)、「眼科・耳鼻科疾患（視覚・聴覚障害を伴うもの）」(25.7%)が続いています。

男女別でも「認知症」が最も多く、特に女性は51.4%と多くなっています。また、「認知症」に次いで、男性は「脳血管疾患（脳卒中）」(27.9%)、女性は「筋骨格系疾患（骨粗しょう症、脊柱管狭窄症等）」(34.9%)がそれぞれ続いています。

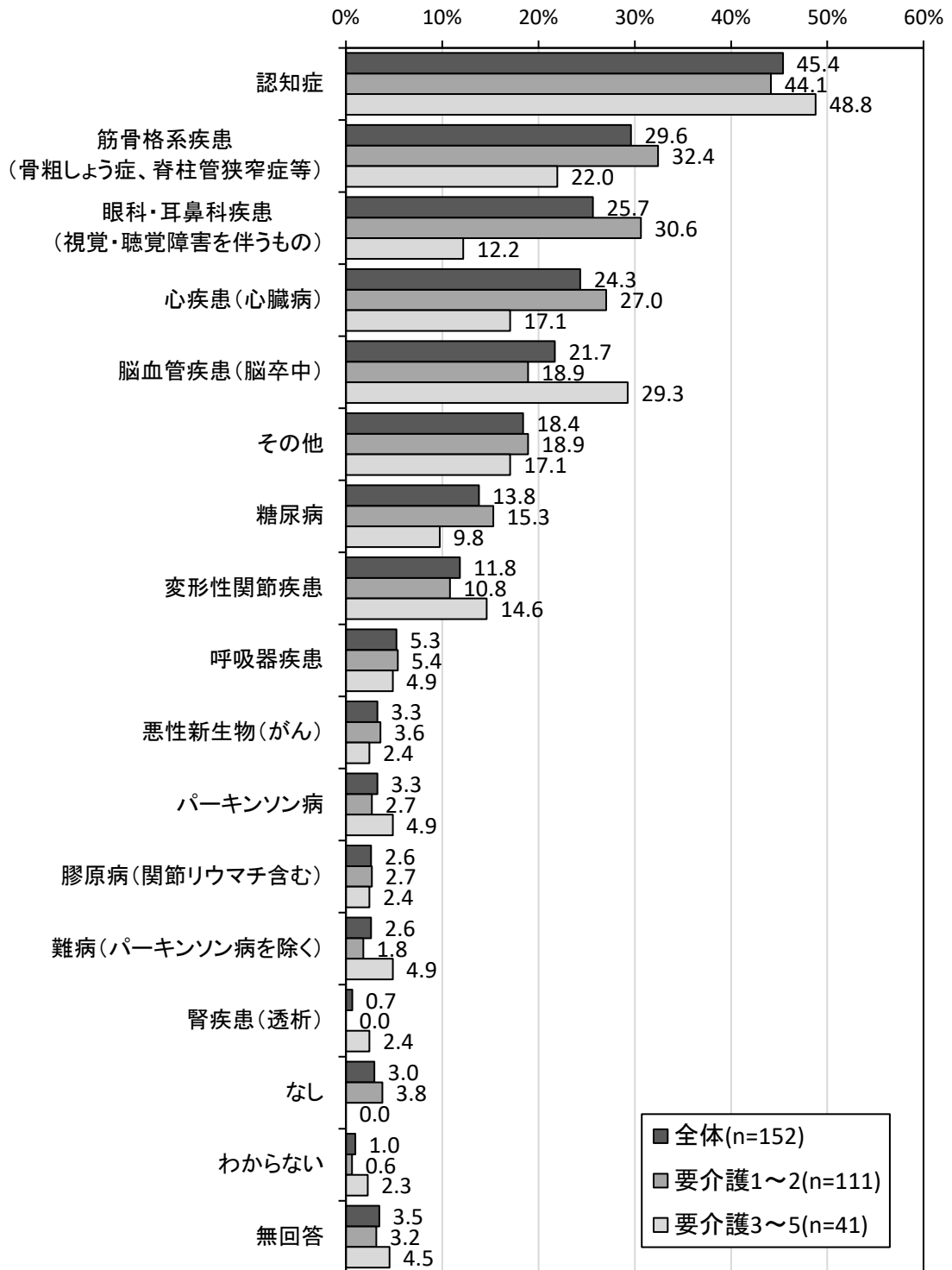
《本人が抱えている傷病／全体及び男女別》



②要介護度別

介護度別でも、要介護1～2及び要介護3～5ともに「認知症」が最も多い状況です。また、要介護3～5は「脳血管疾患（脳卒中）」が29.3%と要介護1～2と比べて10.4ポイント高くなっています。

《本人が抱えている傷病／要介護度別》

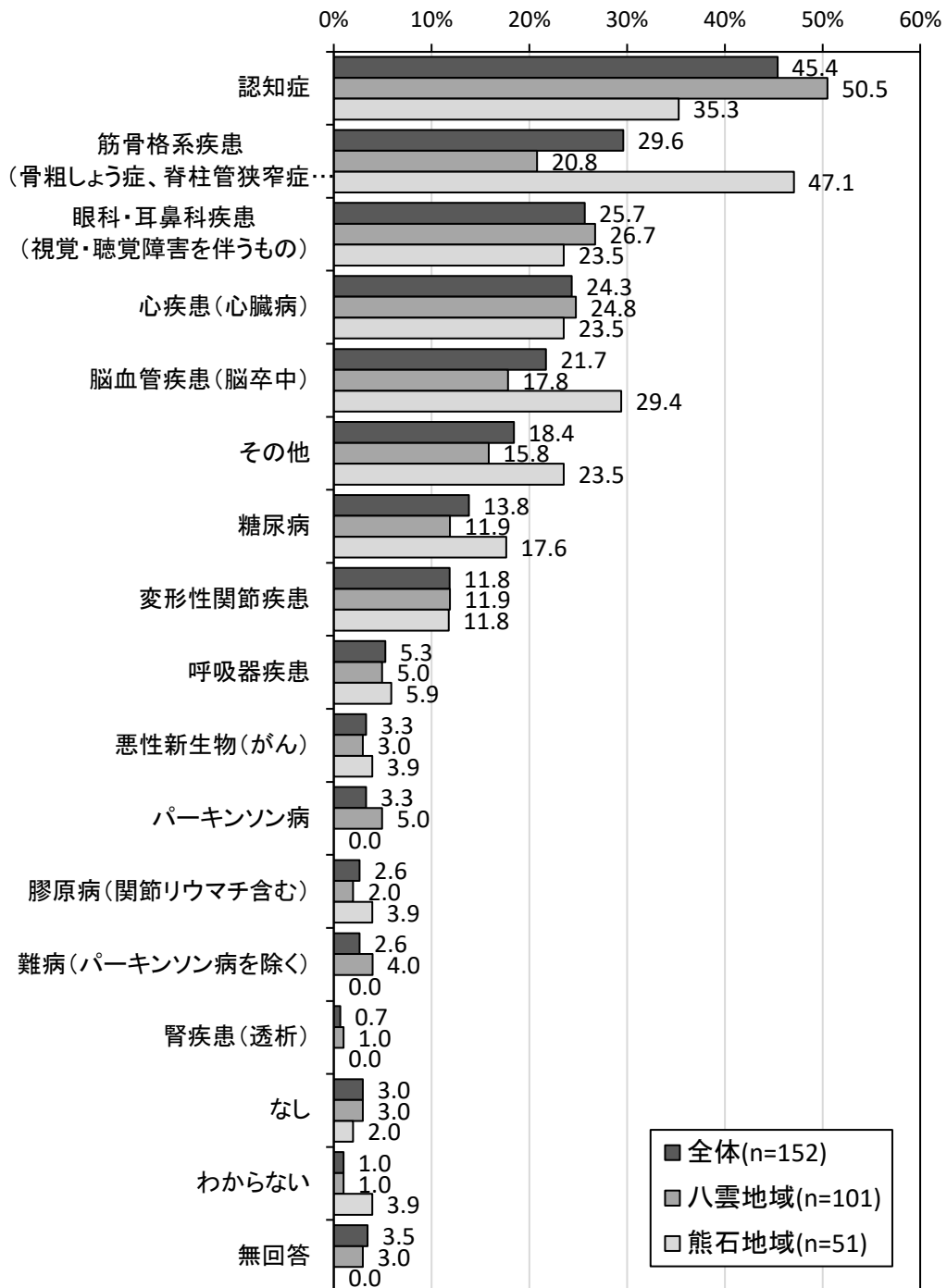


③圏域別

圏域別で見ると、八雲地域は「認知症」が50.5%で最も多く、次いで「眼科・耳鼻科疾患（視覚・聴覚障害を伴うもの）」(26.7%)、「心疾患（心臓病）」(24.8%)が続いています。

熊石地域は、「筋骨格系疾患（骨粗しょう症、脊柱管狭窄症等）」(47.1%)が最も多く、次いで、「認知症」(35.3%)、「脳血管疾患（脳卒中）」(29.4%)が続いています。

《本人が抱えている傷病／圏域別》

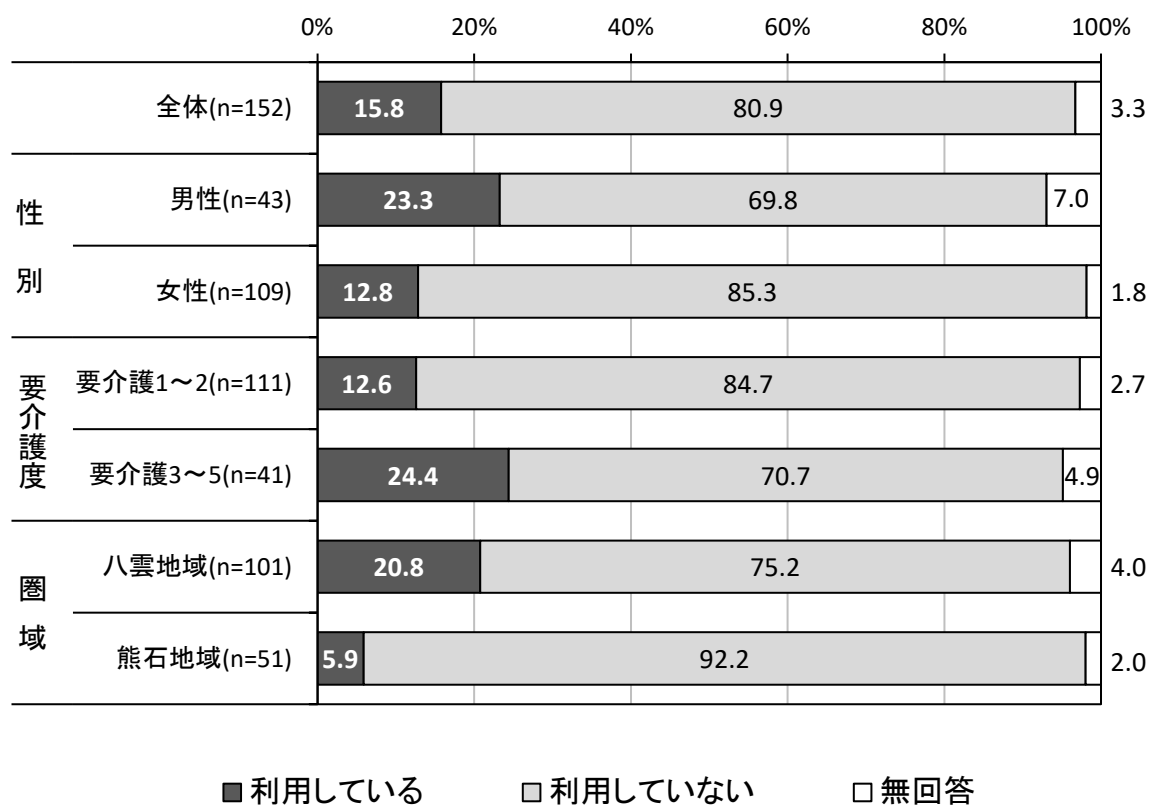


(12) 訪問診療の利用有無

全体では、「利用している」は15.8%、「利用していない」は80.9%となっています。

男女別でみると、男性は「利用している」が女性よりも10.5ポイント高く、要介護度別では要介護3～5が要介護1～2よりもその割合が11.8ポイント高くなっています。

圏域別でみると、八雲地域は「利用している」が熊石地域より14.9ポイント高くなっています。



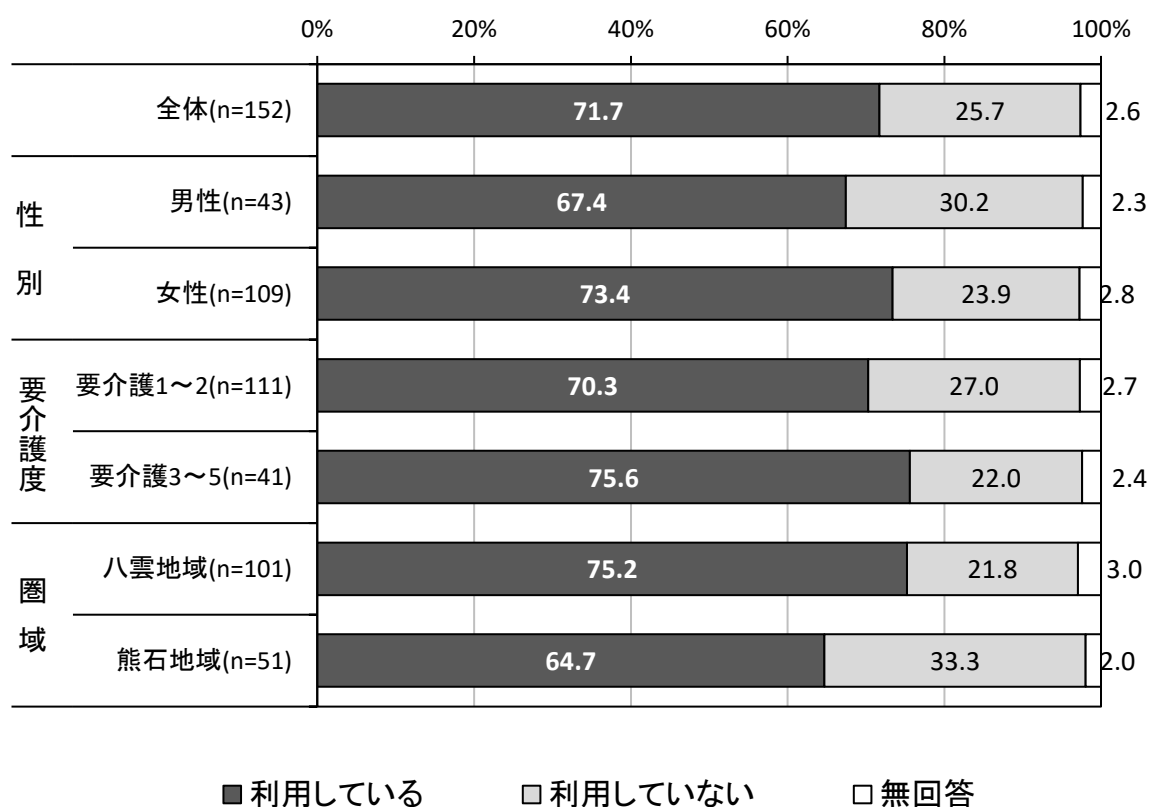
(13) 介護保険サービスの利用有無

全体では、「利用している」は71.7%、「利用していない」は25.7%となっています。

「利用している」の割合をみると、男女別では男性、要介護度別では要介護1～2、圏域別では熊石地域みると、女性は男性よりも6.0ポイント多く、なっています。

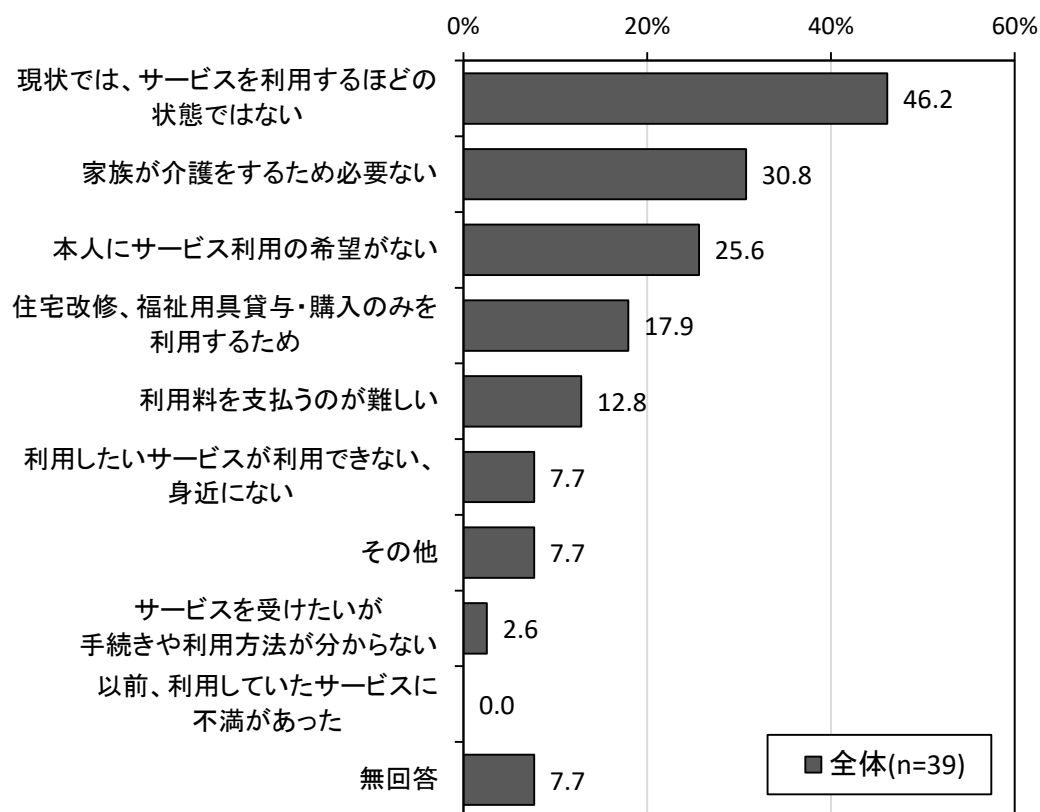
要介護度別でみると、「利用している」は要介護1～2よりも要介護3～5の方が5.3ポイント多くなっています。

圏域別でみると、「利用している」は熊石地域よりも八雲地域の方が10.5ポイント多くなっています。



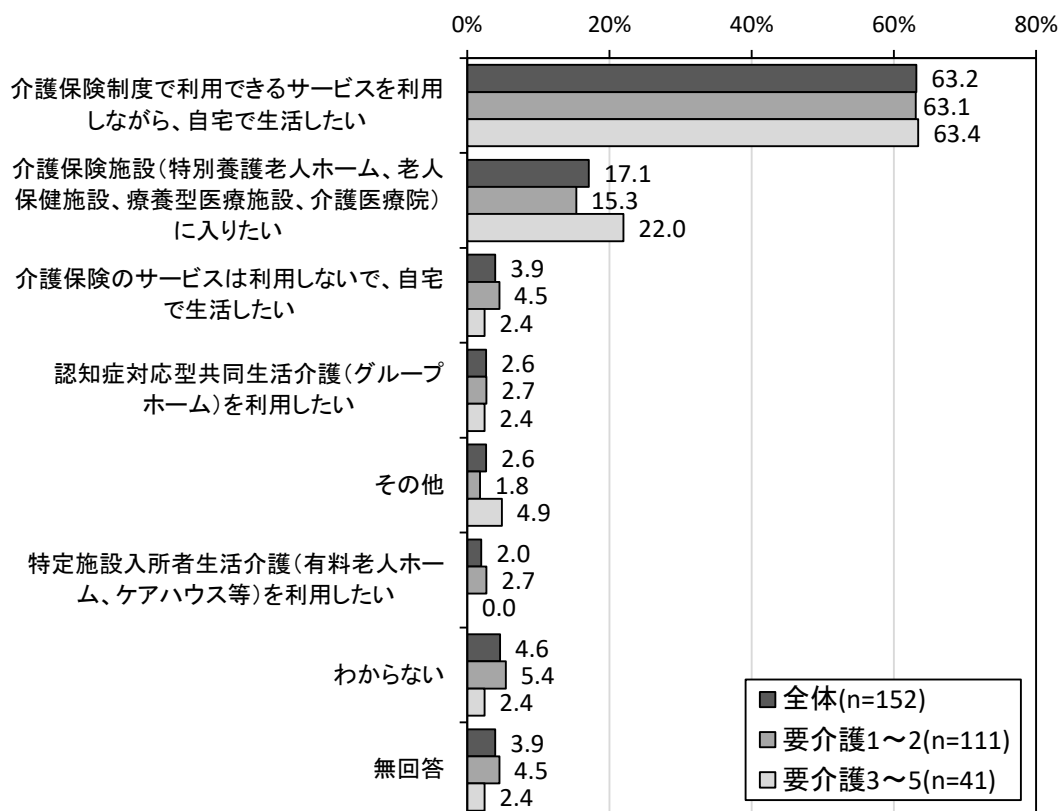
(14) 介護保険サービス未利用の理由【複数回答】

「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が46.2%で最も多く、次いで「家族が介護をするため必要ない」(30.8%)、「本人にサービス利用の希望がない」(25.6%)が続いています。



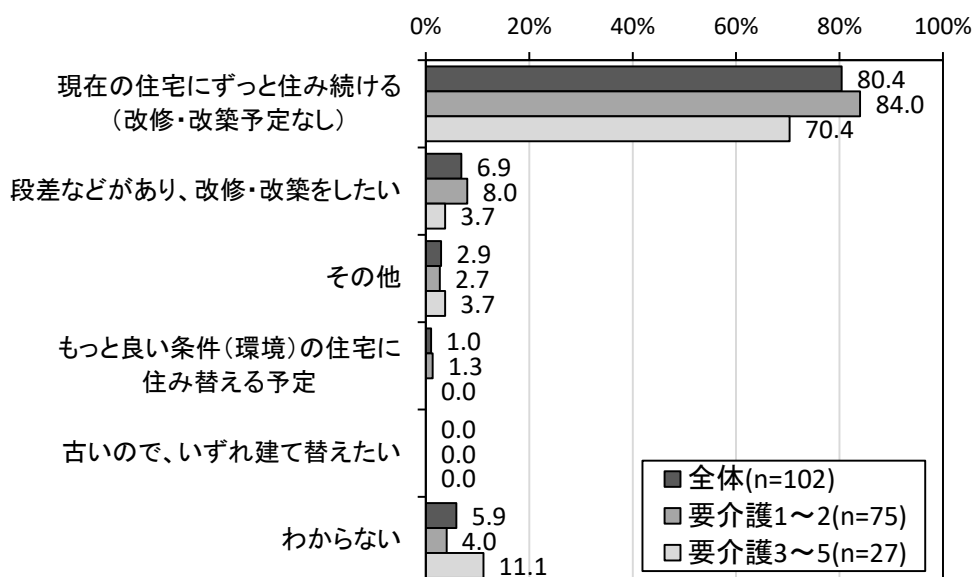
(15) 今後どのような介護を希望するか

全体でみると、「介護保険制度で利用できるサービスを利用しながら、自宅で生活したい」が63.2%で最も多く、次いで「介護保険施設（特別養護老人ホーム、老人保健施設、療養型医療施設）に入りたい」が17.1%が続いています。



(16) 在宅介護を希望する人の住まいの予定

全体及び要介護度別でも「現在の住宅にずっと住み続ける（改修・改築予定なし）」が70%以上を占めています。



3. 主な介護者の状況について

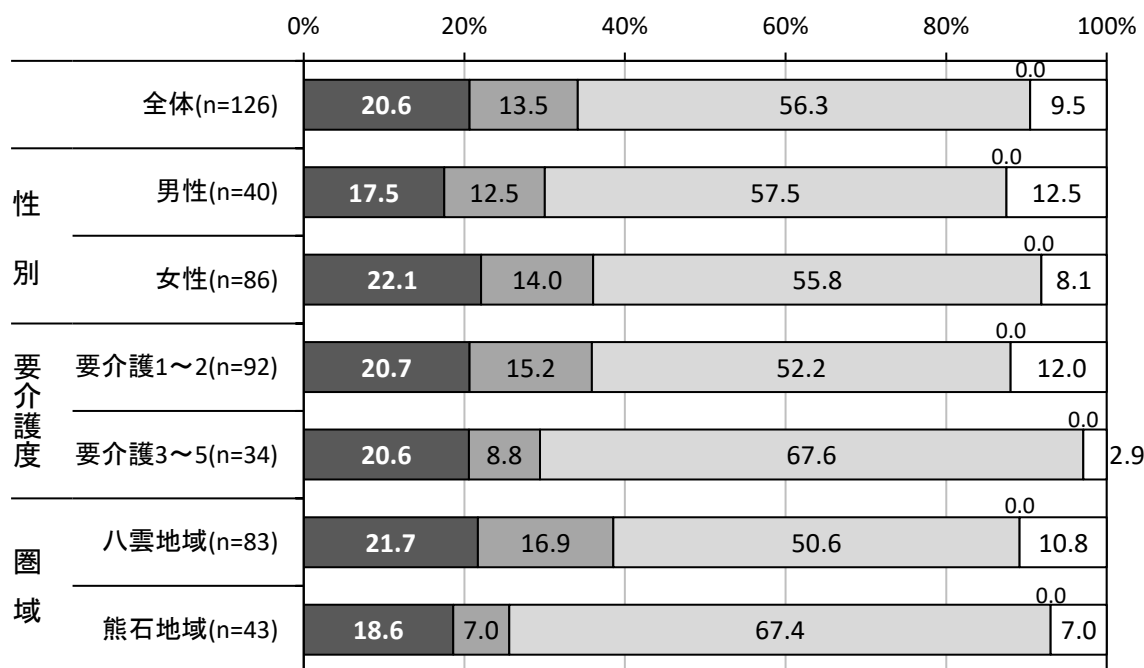
(1) 主な介護者の勤務形態

全体で見ると、「働いていない」が 56.3%で最も多く、次いで「フルタイムで働いている」(20.6%)、「パートタイムで働いている」(13.5%)が続いています。

男女別で見ると、男性の介護者よりも女性の介護者の方が就労している人の割合が多くなっています。

要介護度別に就労している人の割合をみると、要介護1～2の35.9%に対し、要介護3～5は29.4%と少なくなっています。

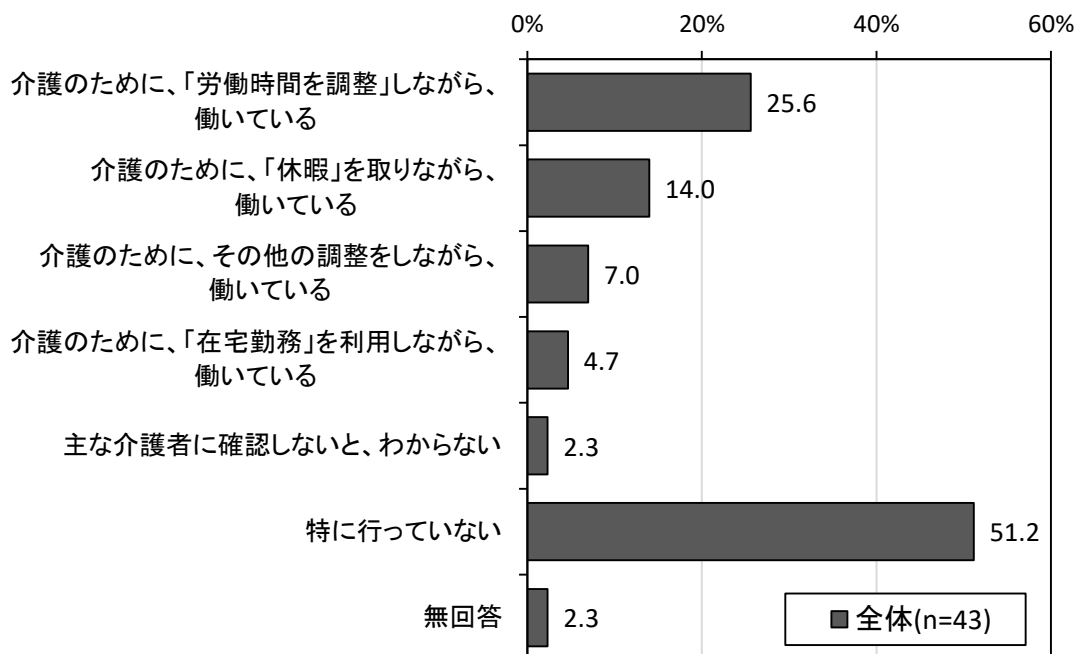
圏域別に就労している人の割合をみると、八雲地域の38.6%に対し、熊石地域は25.6%と少なくなっています。



- フルタイムで働いている
- パートタイムで働いている
- 働いていない
- 主な介護者に確認しないと、わからない
- 無回答

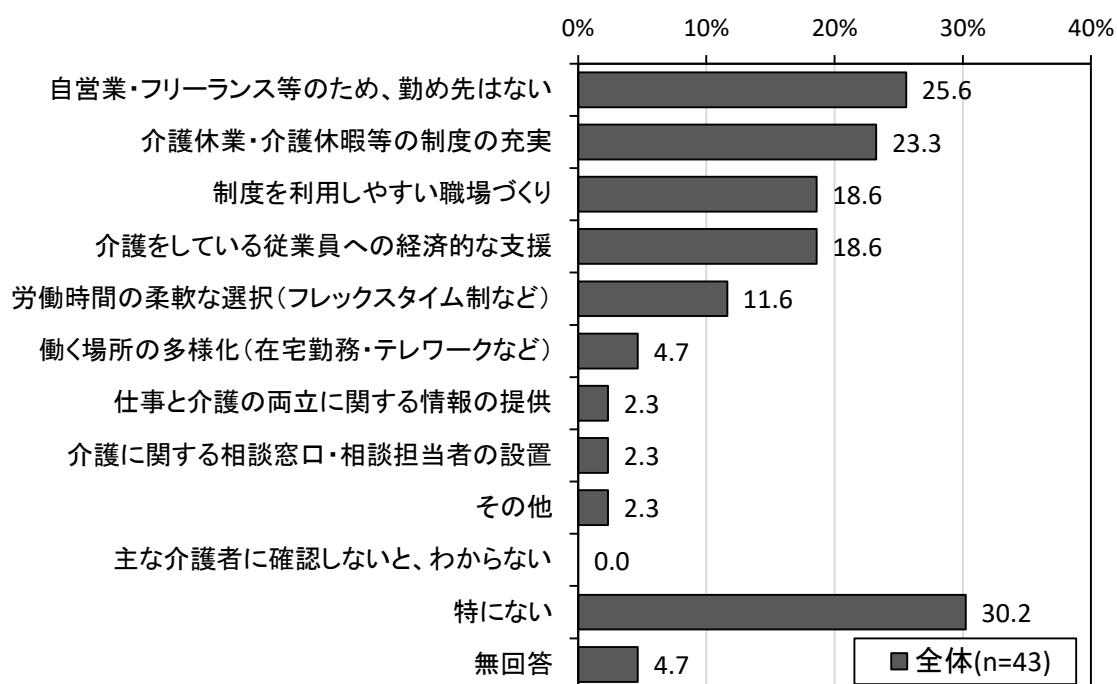
(2) 主な介護者の働き方の調整状況【複数回答】

「特に行っていない」が51.2%で最も多くなっていますが、働き方を調整している中では、「介護のために、「労働時間を調整」しながら、働いている」(25.6%)、「介護のために、「休暇」を取りながら、働いている」(14.0%)が多くなっています。



(3) 仕事と介護の両立に効果のある支援【複数回答】

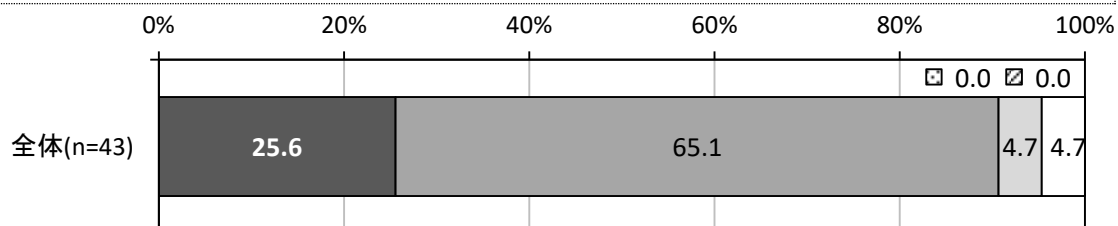
「自営業・フリーランス等のため、勤め先はない」が25.6%で最も多く、次いで「介護休業・介護休暇等の制度の充実」(23.3%)、「制度を利用しやすい職場づくり」「介護をしている従業員への経済的な支援」(ともに18.6%)が続いています。



(4) 主な介護者の就労継続可否

「問題なく、続けていける」(25.6%)及び「問題はあるが、何とか続けていける」(65.1%)の合計90.7%を占めています。

一方、「続けていくのは、やや難しい」は4.7%となっています。

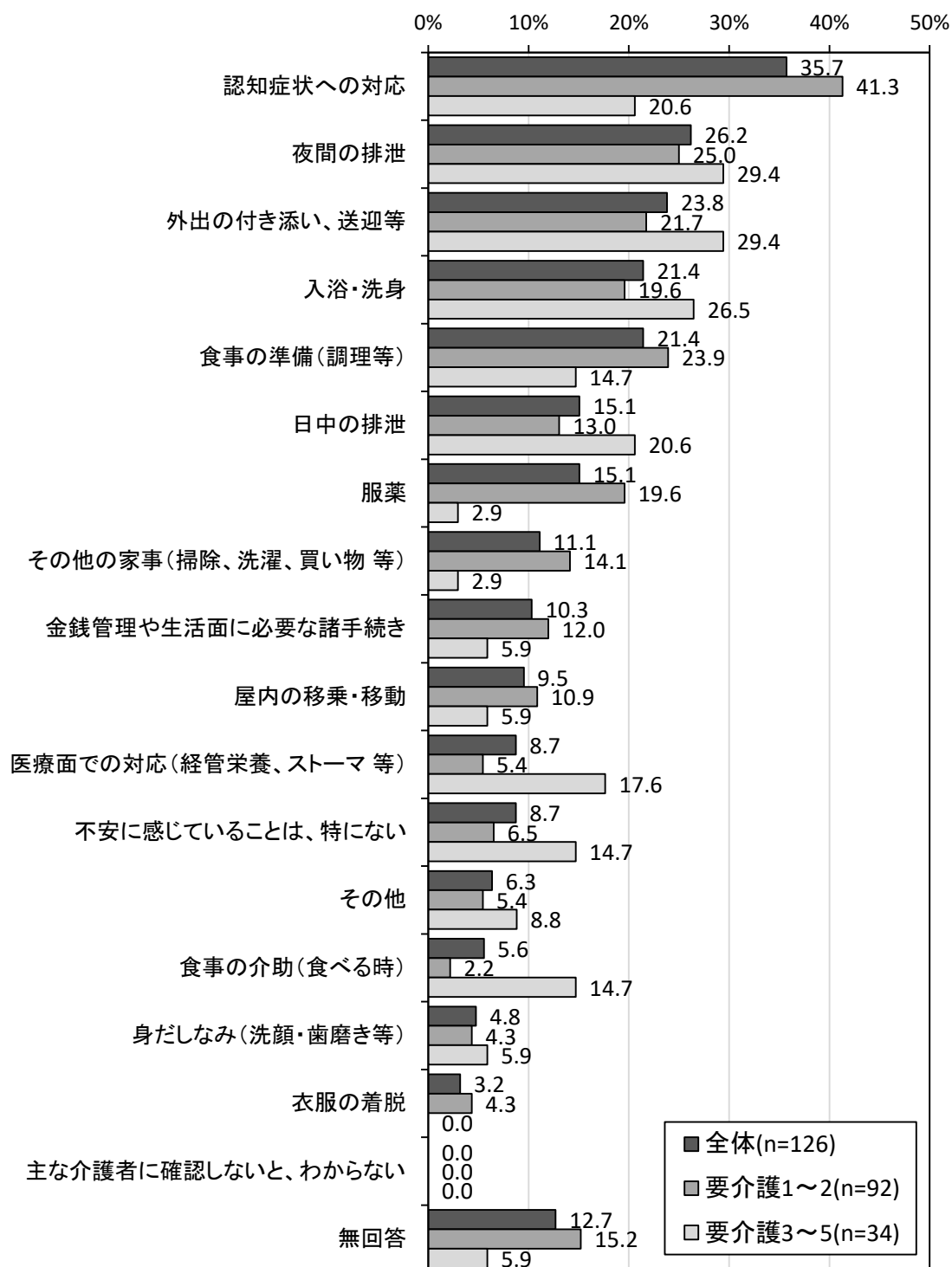


- 問題なく、続けていける
- 問題はあるが、何とか続けていける
- 続けていくのは、やや難しい
- ▣ 続けていくのは、かなり難しい
- ▣ 主な介護者に確認しないと、わからない
- 無回答

(5) 主な介護者が不安に感じる介護の内容【複数回答】

全体でみると、「認知症状への対応」が35.7%で最も多く、次いで「夜間の排泄」(26.2%)、「外出の付き添い、送迎等」(23.8%)が続いています。

要介護度別でみると、要介護1～2は「認知症状への対応」が41.3%で突出していますが、要介護3～5は「夜間の排泄」「外出の付き添い、送迎等」がともに29.4%で最も多く、次いで「入浴・洗身」(26.5%)、「認知症状への対応」「日中の排泄」(ともに20.6%)が上位回答となっています。



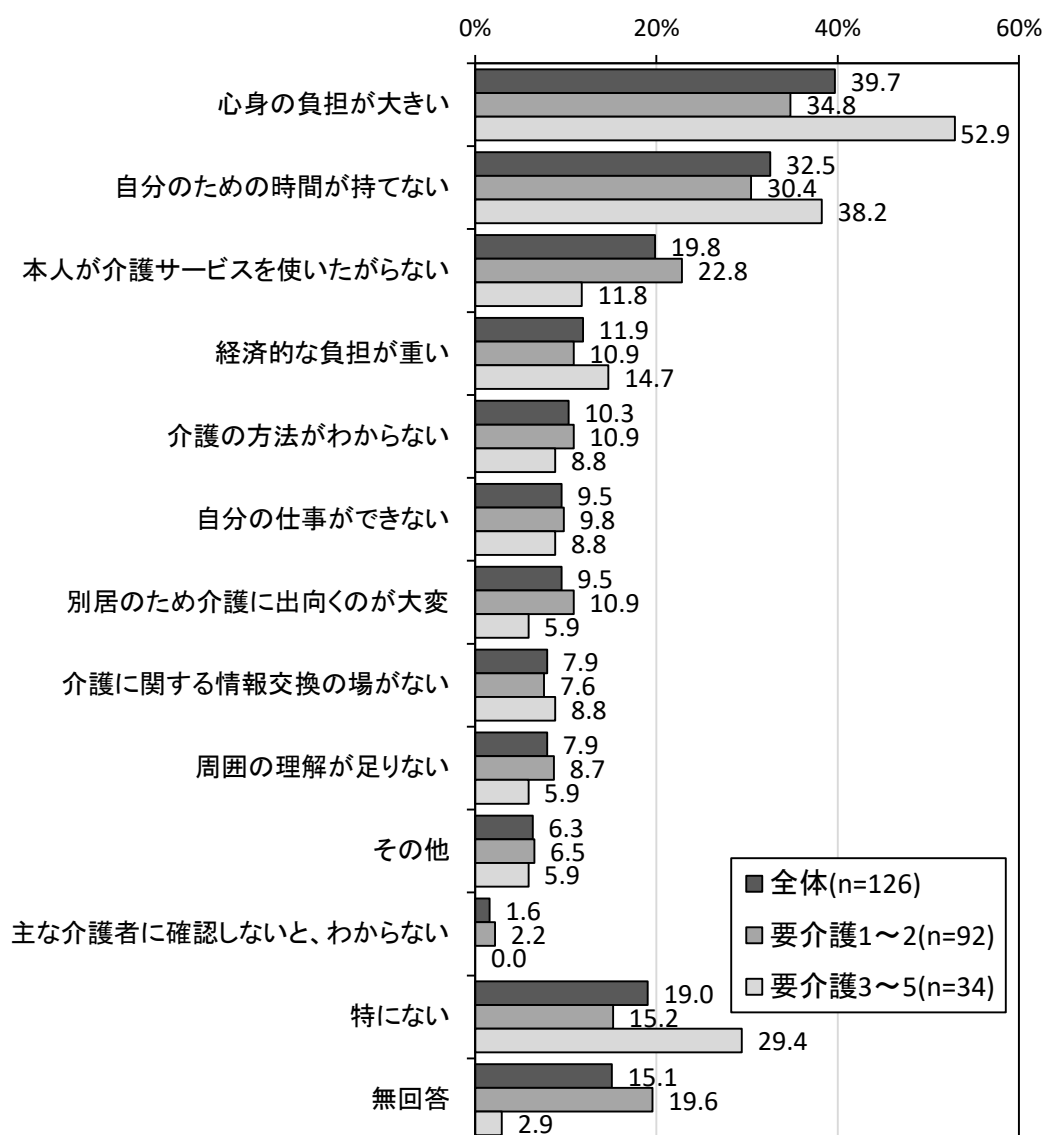
(6) 主な介護者が介護をする上で困っていること【複数回答】

①全体及び要介護度別

全体で見ると、「心身の負担が大きい」が39.7%で最も多く、次いで「自分のための時間が持てない」(32.5%)、「本人が介護サービスを使いたがらない」(19.8%)が続いています。

要介護度別で見ても全体と傾向は大きく変わりませんが、要介護3～5は「心身の負担が大きい」が52.9%で非常に多く、介護負担の大きさが回答に表れていると考えられます。

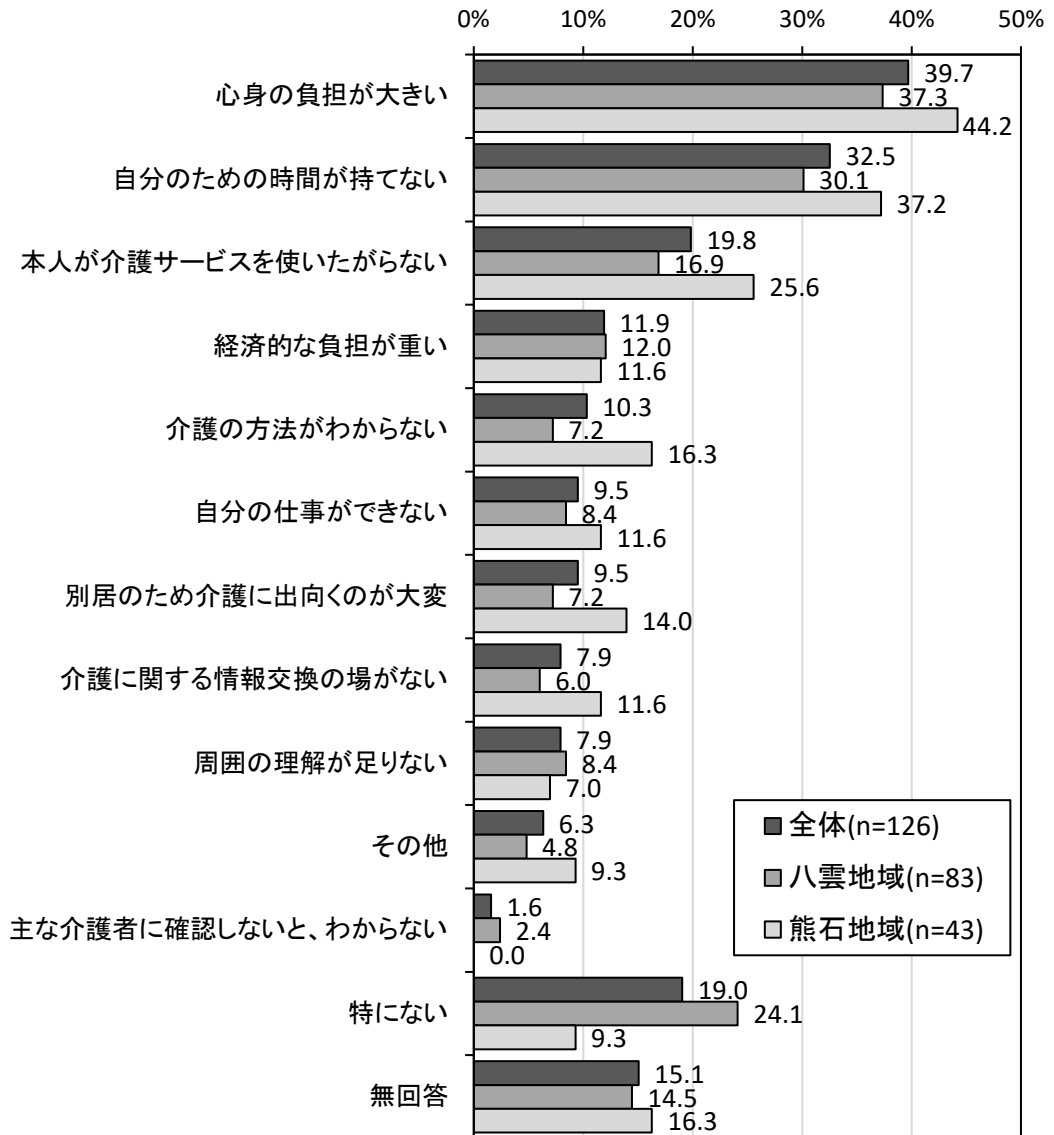
《主な介護者が介護をする上で困っていること／全体及び要介護度別》



②圏域別

圏域別でも全体と傾向は大きく変わりませんが、熊石地域は八雲地域と比べて「介護の方法がわからない」が9.1ポイント、「本人が介護サービスを使いたがらない」が8.7ポイント高くなっています。

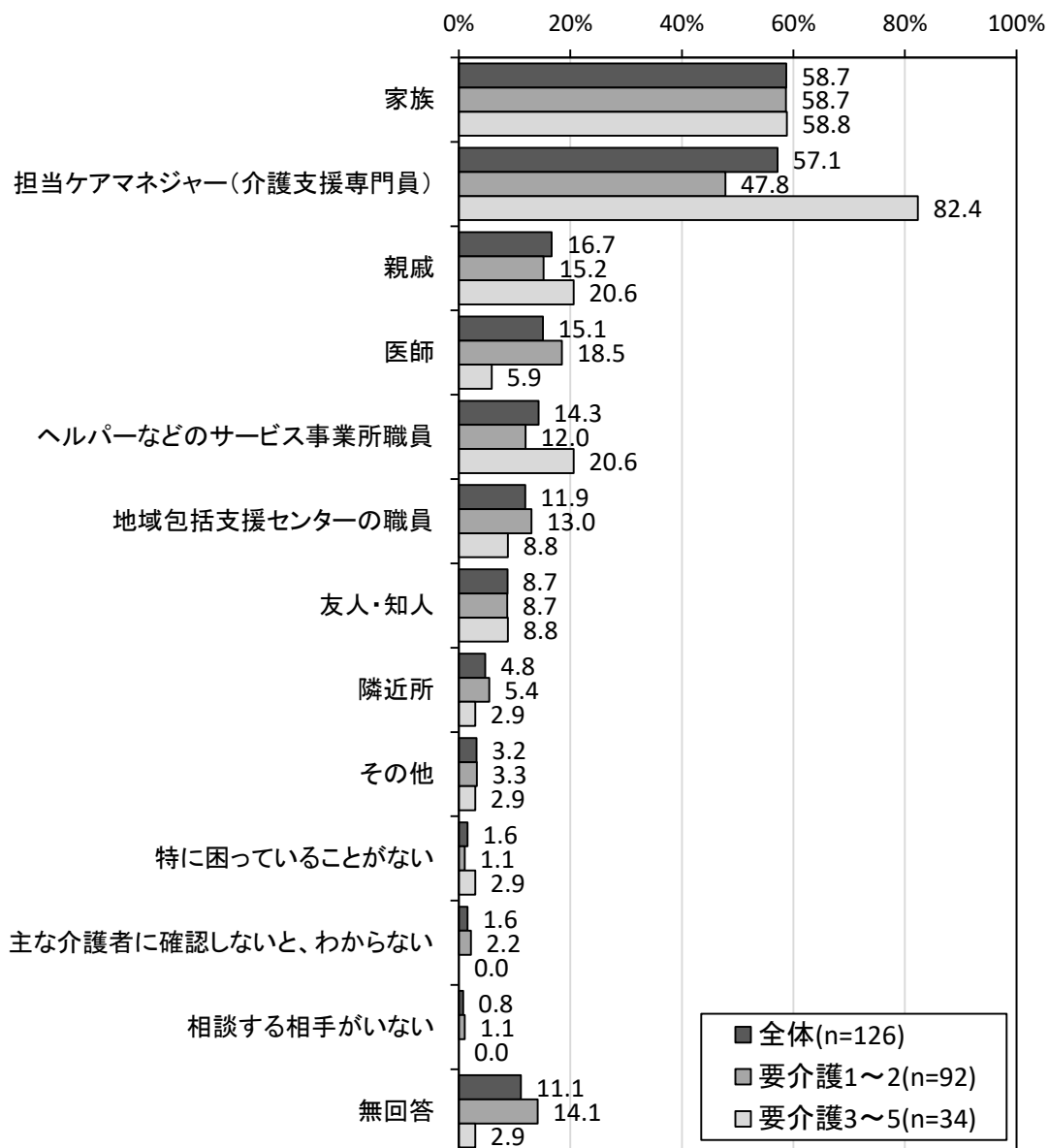
《主な介護者が介護をする上で困っていること／圏域別》



(7) 介護に困ったときの相談相手【複数回答】

全体で見ると、「家族」が 58.7%で最も多く、次いで「担当ケアマネジャー（介護支援専門員）」（57.1%）が続いています。

要介護度別で見ると、要介護3～5は「担当ケアマネジャー（介護支援専門員）」が 82.4%で、要介護1～2と比べて 34.6ポイント高くなっています。

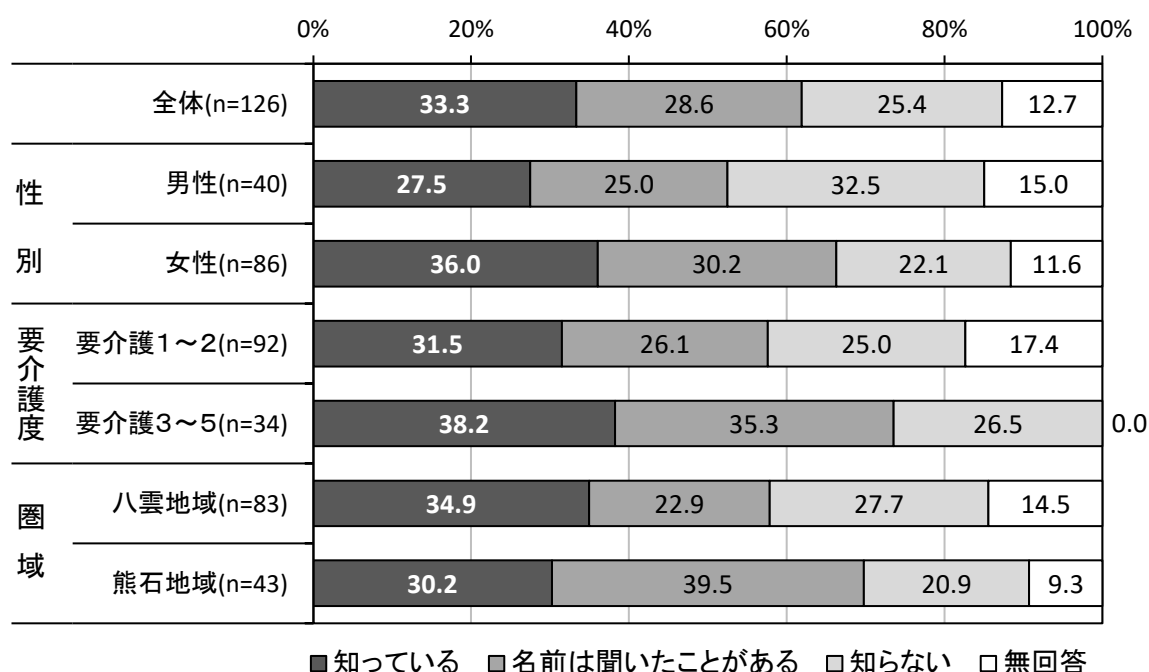


(8) 成年後見制度の認知度

全体で見ると、「知っている」は 33.3%、「名前は聞いたことがある」(28.6%)、「知らない」(25.4%)となっています。

男女別で見ると、男性よりも女性の方が「知っている」「名前は聞いたことがある」の割合が多くなっています。

要介護度別で見ると、要介護3～5の方が要介護1～2よりも「知っている」「名前は聞いたことがある」の割合が多くなっており、圏域別では熊石地域よりも八雲地域の方が「知っている」がやや多くなっています。



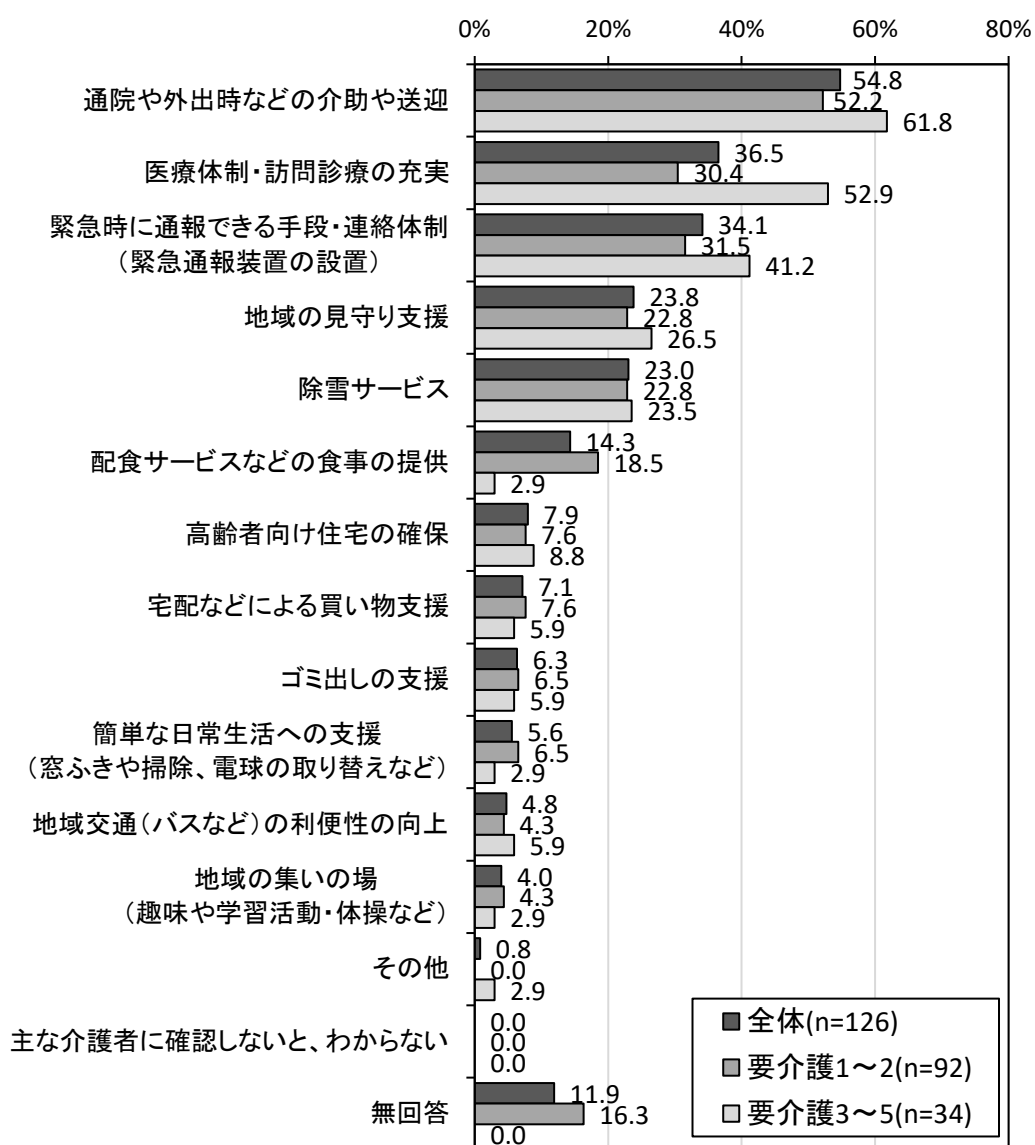
(9) 高齢者が身近な地域や自宅での生活を続けるために特に必要なこと

①全体及び要介護度別

全体で見ると、「通院や外出時などの介助や送迎」が 54.8%で最も多く、次いで「医療体制・訪問診療の充実」(36.5%)、「緊急時に通報できる手段・連絡体制(緊急通報装置の設置)」(34.1%)が続いています。

介護度別で見ると、要介護3～5は要介護1～2と比べて「医療体制・訪問診療の充実」が22.5ポイント高くなっています。

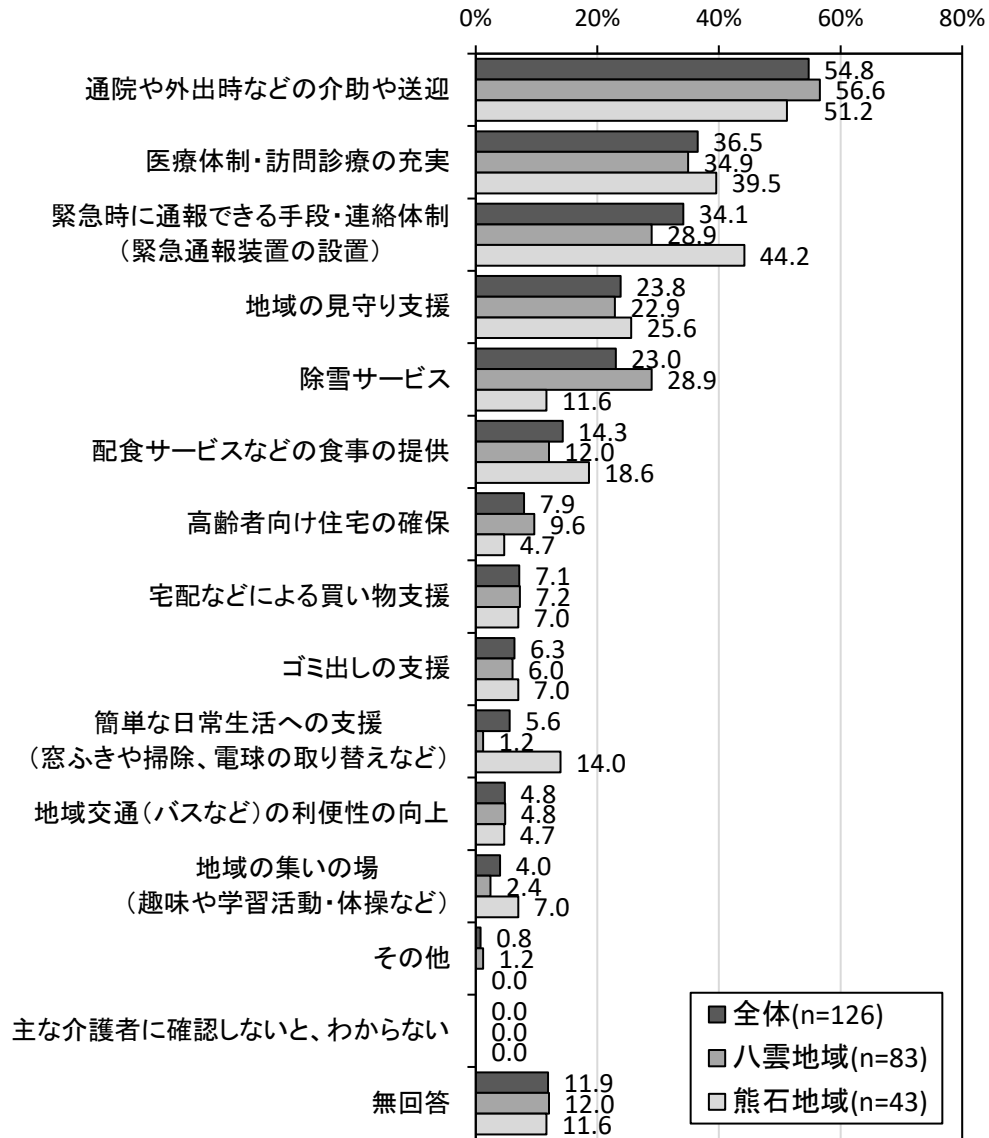
《高齢者が身近な地域や自宅での生活を続けるために特に必要なこと／全体及び要介護度別》



②圏域別

圏域別でも全体と傾向は大きく変わりませんが、熊石地域は八雲地域と比べて「緊急時に通報できる手段・連絡体制（緊急通報装置の設置）」が15.3ポイント高くなっています。

《高齢者が身近な地域や自宅での生活を続けるために特に必要なこと／圏域別》



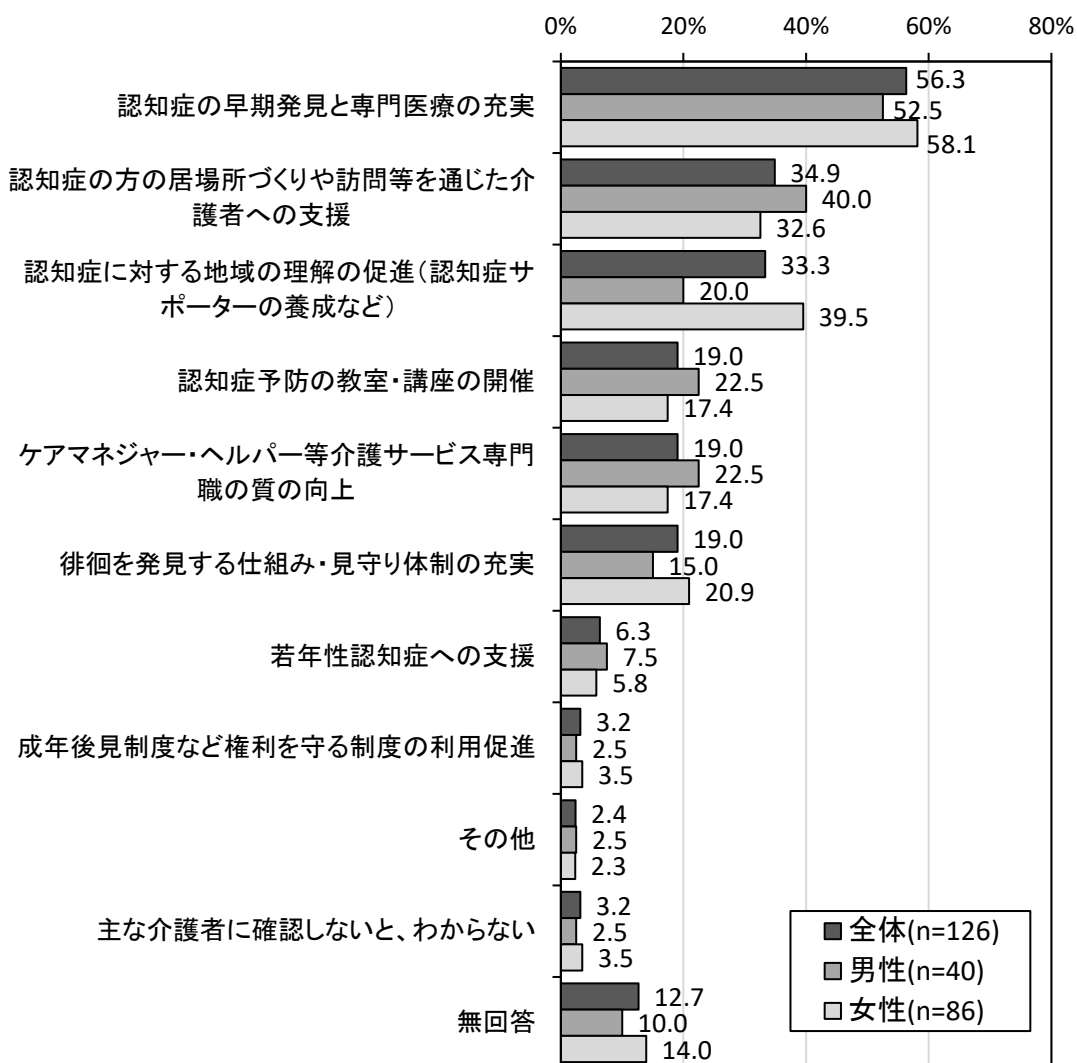
(10) 認知症対策を進める上で重点を置くべきこと

①全体及び要介護度別

全体でみると、「認知症の早期発見と専門医療の充実」が56.3%で最も多く、次いで「認知症の方の居場所づくりや訪問等を通じた介護者への支援」(34.9%)、「認知症に対する地域の理解の促進(認知症サポーターの養成など)」(33.3%)が続いています。

要介護度別でみると、要介護3～5は「認知症の方の居場所づくりや訪問等を通じた介護者への支援」(44.1%)、「認知症に対する地域の理解の促進(認知症サポーターの養成など)」(47.1%)が要介護1～2と比べて多くなっています。

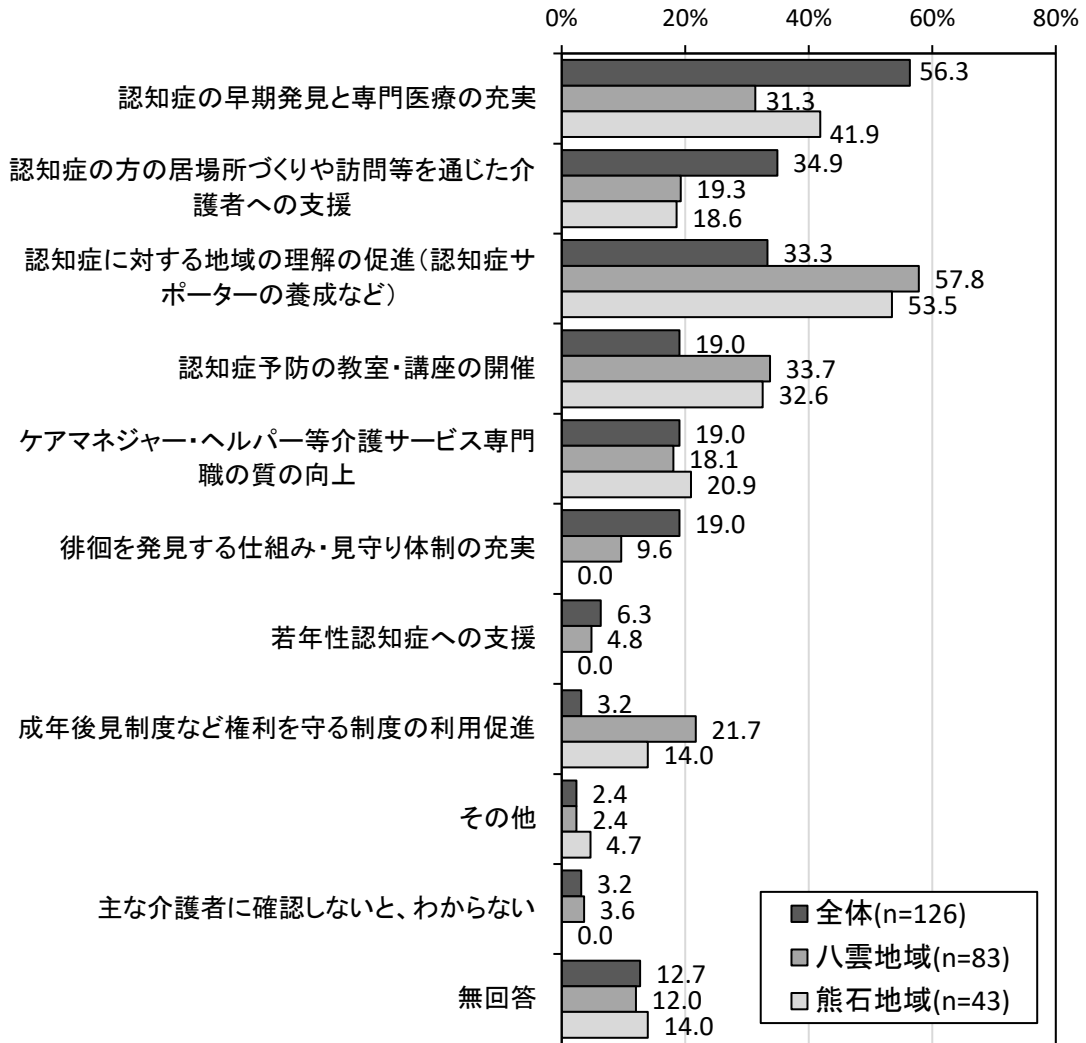
《認知症対策を進める上で重点を置くべきこと／全体及び要介護度別》



②圏域別

圏域別でも、「認知症の早期発見と専門医療の充実」が最も多く、上位回答は全体と比べて大きな差異はみられませんが、熊石地域は「認知症の方の居場所づくりや訪問等を通じた介護者への支援」(41.9%)が八雲地域と比べて多くなっています。

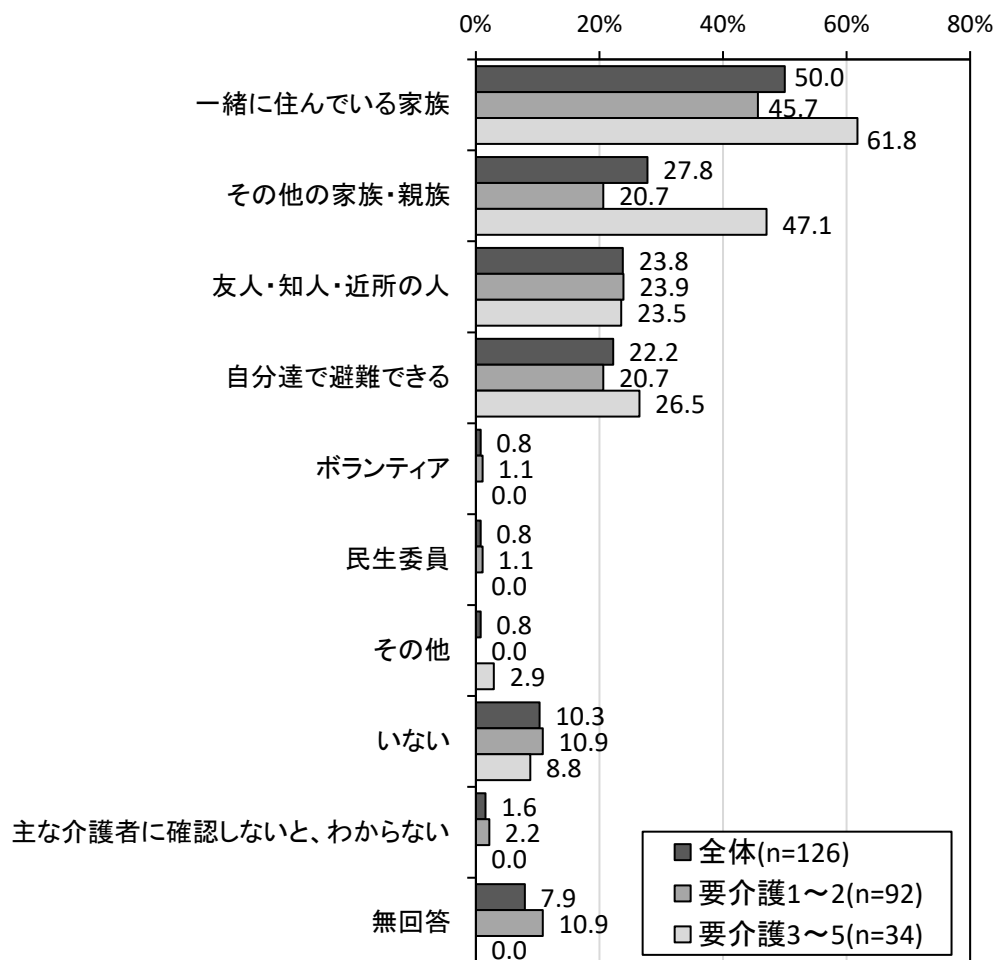
《認知症対策を進める上で重点を置くべきこと／圏域別》



(11) 災害発生時、避難する際に頼れる人がいるかどうか

全体で見ると、「一緒に住んでいる家族」が50.0%で最も多く、次いで「その他の家族・親族」(27.8%)、「友人・知人・近所の人」(23.8%)と続いています。

要介護度別にみると、全体と傾向は大きく変わりませんが、要介護3～5は「一緒に住んでいる家族」、「その他の家族・親族」が要介護1～2に比べて多くなっています。



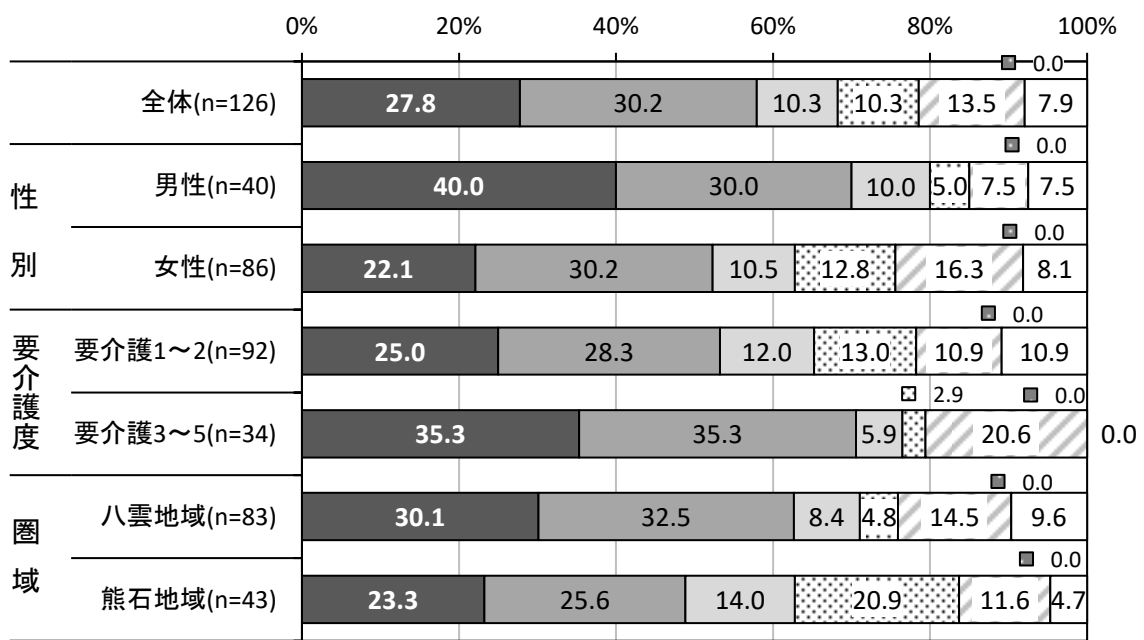
(12) 介護を受けている方にとっての町の暮らしやすさ

全体でみると、「暮らしやすいと思う」(27.8%)、「どちらかといえばそう思う」(30.2%)の合計58.0%が暮らしやすいと回答しています。

男女別に「暮らしやすいと思う」、「どちらかといえばそう思う」の合計をみると、男性は70.0%を占め、女性は52.3%で少ない状況です。

要介護度別に「暮らしやすいと思う」、「どちらかといえばそう思う」の合計をみると、要介護1～2の53.3%に対して、要介護3～5は70.6%と非常に多くなっています。

圏域別に「暮らしやすいと思う」、「どちらかといえばそう思う」の合計をみると、八雲地域は62.6%、熊石地域は48.9%で八雲地域の方が多くなっています。



- 暮らしやすいと思う
- どちらかといえばそう思わない
- わからない
- 無回答
- どちらかといえばそう思う
- 暮らしやすいとは思わない
- 主な介護者に確認しないと、わからない